



富山市都市マスタープラン

公共交通を軸とした都市の再構築による
拠点集中型のコンパクトなまちづくり

〔データ集〕

表紙の STORY

山から海までの水の恵みが育んできた本市の気候や風土・文化など、かけがえのない魅力や資産を土台に、コンパクトなまちを磨き上げることで生まれる、富山湾のように深く美しい豊かな未来社会への深化を表現しています。

データ集が担う、これまでの富山市の変化とこれからのまちの姿や課題を客観的に伝え、コンパクトなまちづくりを支える知的さをイメージし、とやまガラス工房のオリジナルカラーである越碧(こしのあお)を採用しました。



目次

序編 はじめに

I データ集の役割と構成	4
--------------	---

第1編 基礎データ

I 人口や世帯	6
---------	---

1 人口数・世帯数	6
2 人口構成	8
3 人口密度分布	10
4 人口の社会動態	16
5 他都市との比較	19

II 土地利用・施設・機能	20
---------------	----

1 都市の規模	20
2 公共交通と自動車利用	24
3 社会インフラ	29
4 都市機能	32
5 開発の動向と余地	38
6 空き家や空き地	40

III 都市経営	42
----------	----

1 産業の現状	42
2 地価の現状	44
3 財政の現状・見込み	45

IV 災害リスク	48
----------	----

1 地震起因の災害リスク	48
2 大雨起因の災害リスク	49

V	今後の変化イメージ	50
1	人口の規模や構成の変化イメージ	50
2	人口と都市規模の関係性の変化イメージ	50
3	社会インフラの管理規模の変化イメージ	51
4	その他の変化イメージ	51

第2編 市民の意識

I	富山市のまちづくりに関するアンケート調査	54
II	高校生 WEB アンケート調査	72
III	市民ワークショップ	79

第3編 地域別データ

I	概要	104
II	地域別データ	108
1	富山中央地域	108
2	富山北部地域	109
3	和合地域	110
4	呉羽地域	111
5	富山西部地域	112
6	富山南部地域	113
7	富山東部地域	114
8	水橋地域	115
9	大沢野地域	116
10	大山地域	117
11	八尾地域	118
12	婦中地域	119
13	山田地域	120
14	細入地域	121

資料

I	富山市のまちづくりに関するアンケート調査票	125
II	高校生 WEB アンケート調査票	137

序編

はじめに

I データ集の役割と構成

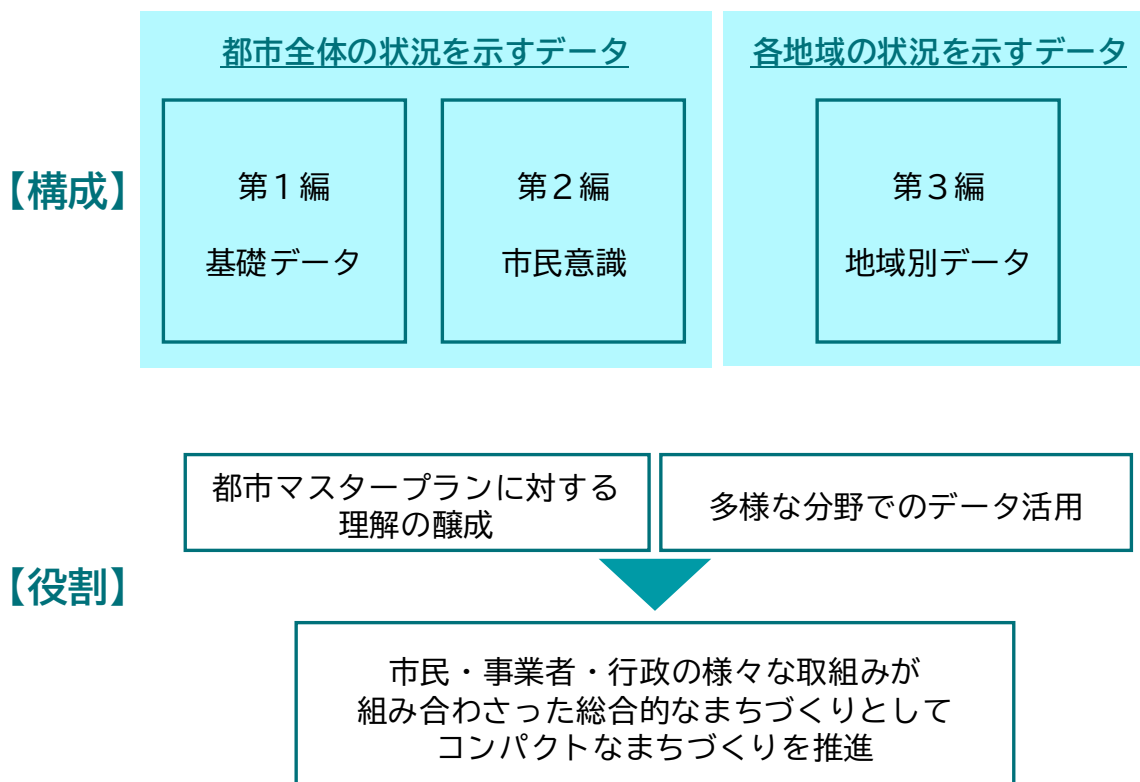
I データ集の役割と構成

本データ集は、都市マスタープランの策定の根拠として作成・加工したデータをまとめたものであり、本編に掲載している各種グラフや図の詳細を確認できるように整理しました。さらに、本市が進める「公共交通を軸とした都市の再構築による拠点集中型のコンパクトなまちづくり」では、進行管理や見直しを適切に進めるため、継続的な定量データを用いた効果検証を推進することとしており、各種データのストック集として作成しました。

都市全体の状況を示すデータについて、第1編では「基礎データ」として人口や世帯、土地利用、社会インフラなどの都市の状況把握に必要な実績データや将来推計データを示し、第2編では「市民の意識」に関して、都市マスタープランの策定に向けて実施したアンケート調査結果やワークショップの成果を掲載します。また、第3編では、本編の地域別構想に関連した各地域の状況を示す「地域別データ」として、地域別の人口や土地利用などの数値データとその比較、各地域の土地利用や施設情報などの地理情報データを掲載しております。

本データ集によって、行政だけでなく、本市のまちづくりを担う市民・事業者をはじめとした様々なステークホルダーの皆様が、都市マスタープランに対する理解を深め、その内容を共有することで、都市計画だけでなく地域コミュニティ、健康・福祉、教育、子育てなど多様な分野の計画策定や取組の検討などに利用され、市民・事業者・行政が連携した総合的な取組により、コンパクトなまちづくりが推進することを期待しています。

■データ集の役割と構成



第1編

基礎データ

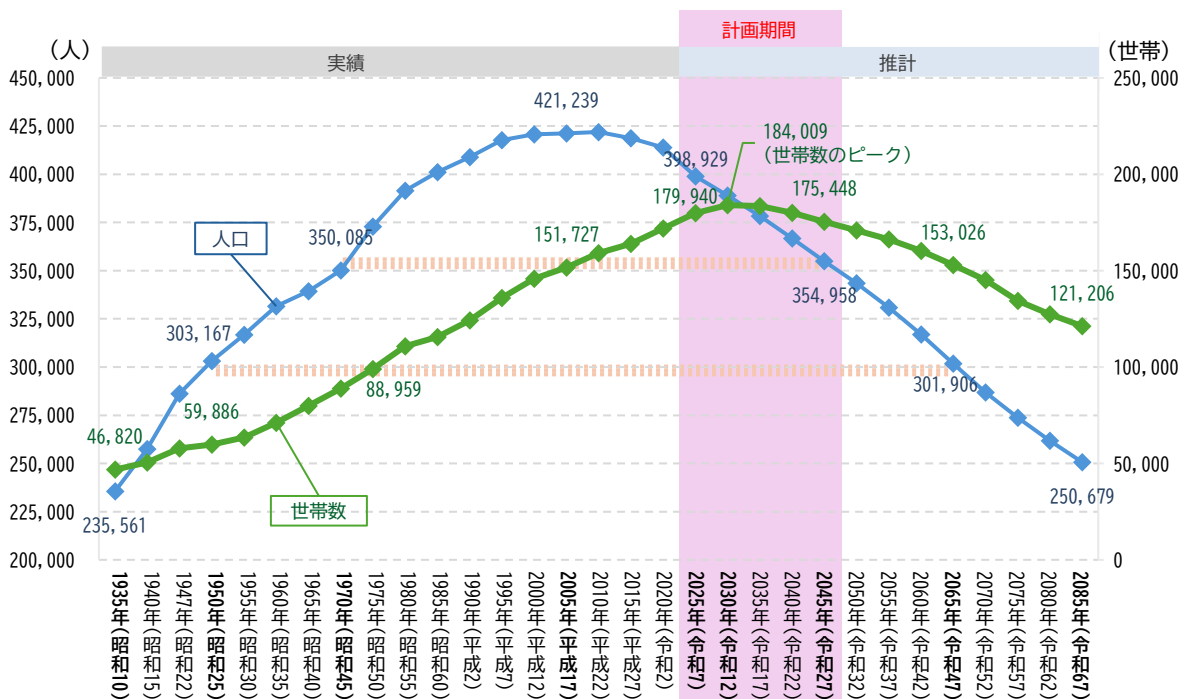
- I 人口や世帯
- II 土地利用・施設・機能
- IV 都市経営
- V 災害リスク
- VI 今後の変化イメージ

I 人口や世帯

1 人口数・世帯数

本市の人口数や世帯数の変化を示します。このグラフから、前計画期間は人口増加から人口減少への転換期でありましたが、本計画期間は加速度的な人口減少と世帯数も減少に転じる本格的な人口減少時代を迎え、20年後には1970（昭和45）年規模まで人口が減ることがわかります。

■人口と世帯数の実績と将来推計（グラフ）



出典：実績値(1935～2020年)は国勢調査、推計値(2025～2070年)は富山市将来人口推計報告書(令和7年2月)の中位推計値、推計値(2075年以降)は住民基本台帳データを基に、250mメッシュ単位で集計処理して算出

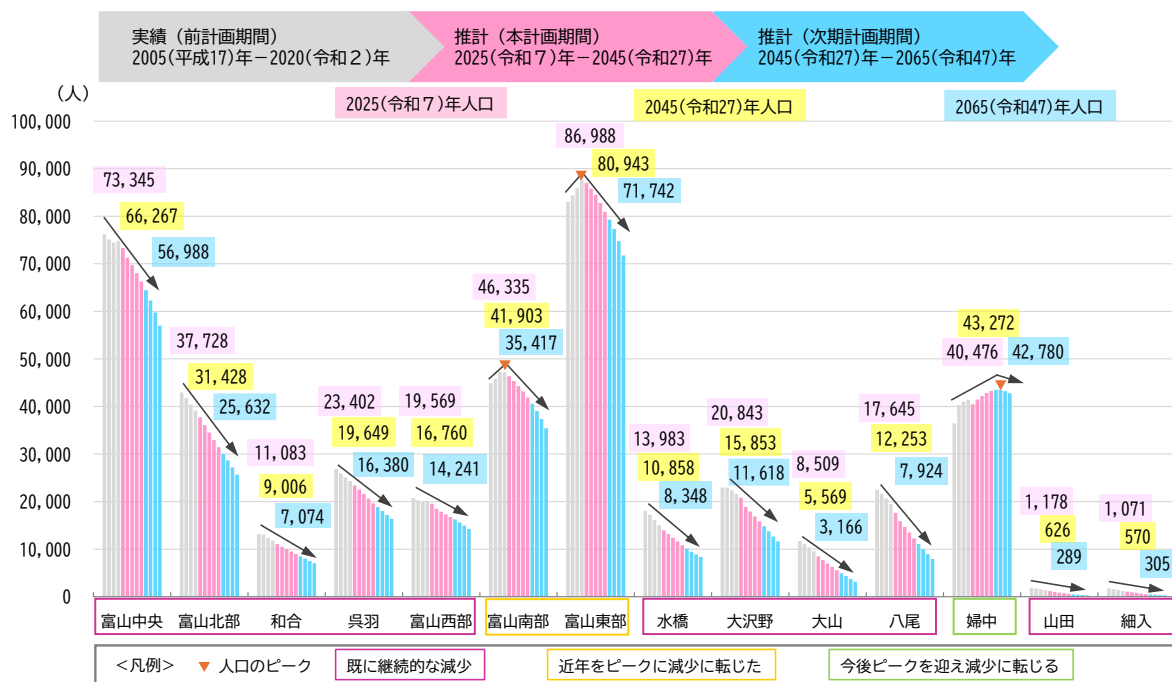
■人口と世帯数の実績と将来推計（表）

1935 (昭和 10)	1940 (昭和 15)	1947 (昭和 22)	1950 (昭和 25)	1955 (昭和 30)	1960 (昭和 35)	1965 (昭和 40)	1970 (昭和 45)
235,561	257,453	286,215	303,167	316,787	331,555	339,446	350,085
46,820	50,438	57,777	59,886	63,396	71,189	79,828	88,959
1975 (昭和 50)	1980 (昭和 55)	1985 (昭和 60)	1990 (平成 2)	1995 (平成 7)	2000 (平成 12)	2005 (平成 17)	2010 (平成 22)
372,835	391,554	401,070	408,942	417,595	420,804	421,239	421,953
99,086	110,867	115,619	124,210	135,936	145,821	151,727	159,151
2015 (平成 27)	2020 (令和 2)	2025 (令和 7)	2030 (令和 12)	2035 (令和 15)	2040 (令和 22)	2045 (令和 27)	2050 (令和 32)
418,686	413,938	398,929	389,099	378,360	366,833	354,958	343,450
163,862	171,917	179,940	184,009	183,550	180,118	175,448	170,888
2055 (令和 37)	2060 (令和 42)	2065 (令和 47)	2070 (令和 52)	2075 (令和 57)	2080 (令和 62)	2085 (令和 67)	
330,920	316,921	301,906	286,910	273,685	261,874	250,679	
166,234	160,337	153,026	145,227	134,383	127,472	121,206	

上段：年、中段：人口（人）、下段：世帯数（世帯）

また、地域別での人口変化を示します。このグラフから、今後の本格的な人口減少の状況は地域によって異なることがわかります。

■地域別の人口変化の見通し(グラフ)

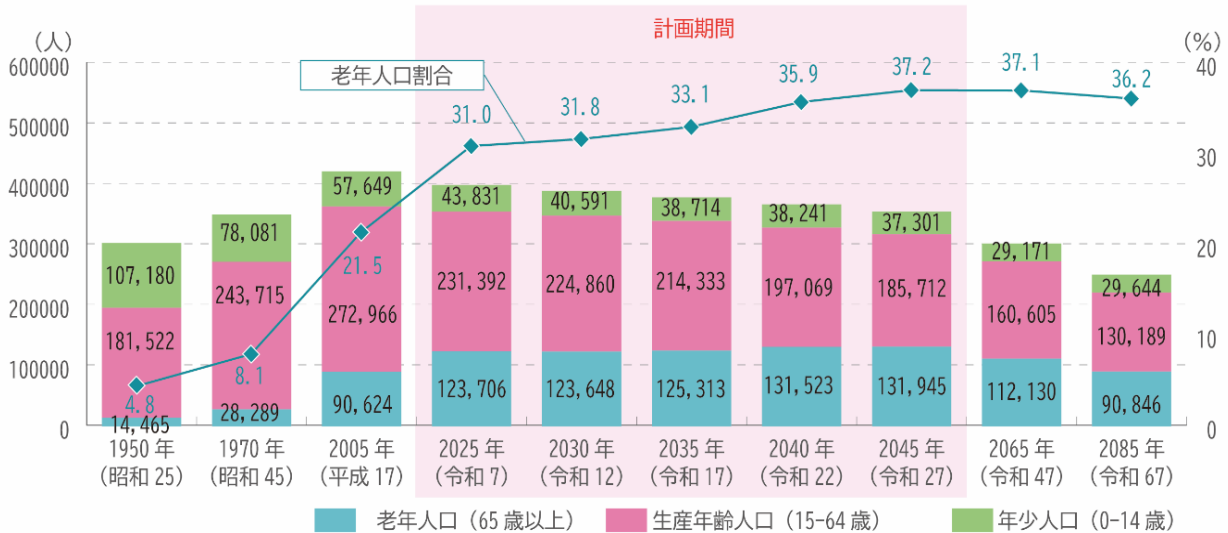


出典：実績値（1935～2020年）は国勢調査、推計値は富山市将来人口推計報告書（令和7年2月）の各設定値を活用して、住民基本台帳データを基に、250mメッシュ単位で集計処理し、各地域で按分して算出

2 人口構成

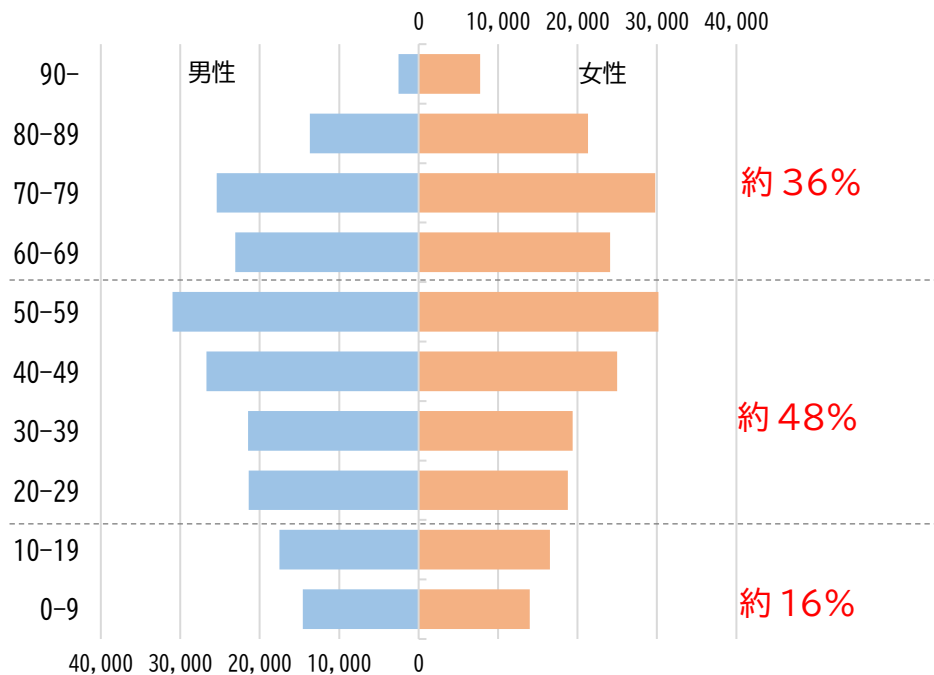
実績や推計を元に、人口の構成の変化について示します。これらのグラフから、本格的な人口減少とともに高齢化が進み、人口ピラミッドから過去の同規模の構成とくらべ、生産年齢人口や年少人口が少ない構成になることがわかります。

■年齢別人口の変化予測（グラフ）

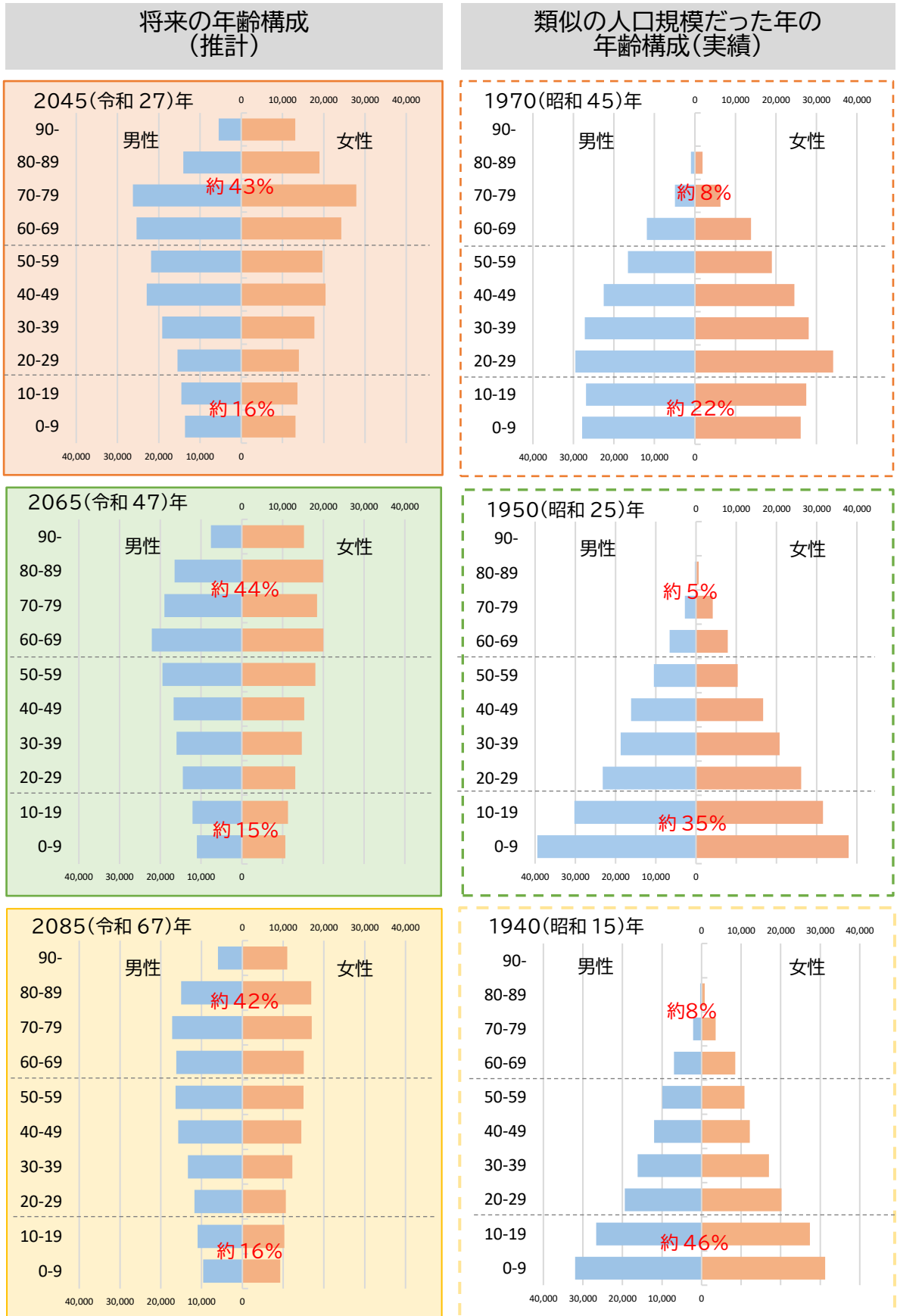


出典：実績値(1935～2020年)は国勢調査、推計値(2025～2065年)は富山市将来人口推計報告書(令和7年2月)の中位推計値、2085年は住民基本台帳データを基に、250mメッシュ単位で集計処理して算出

■現在（2025年）の人口ピラミッド（推計）



■将来の人口ピラミッド（将来推計と過去の類似規模との比較）



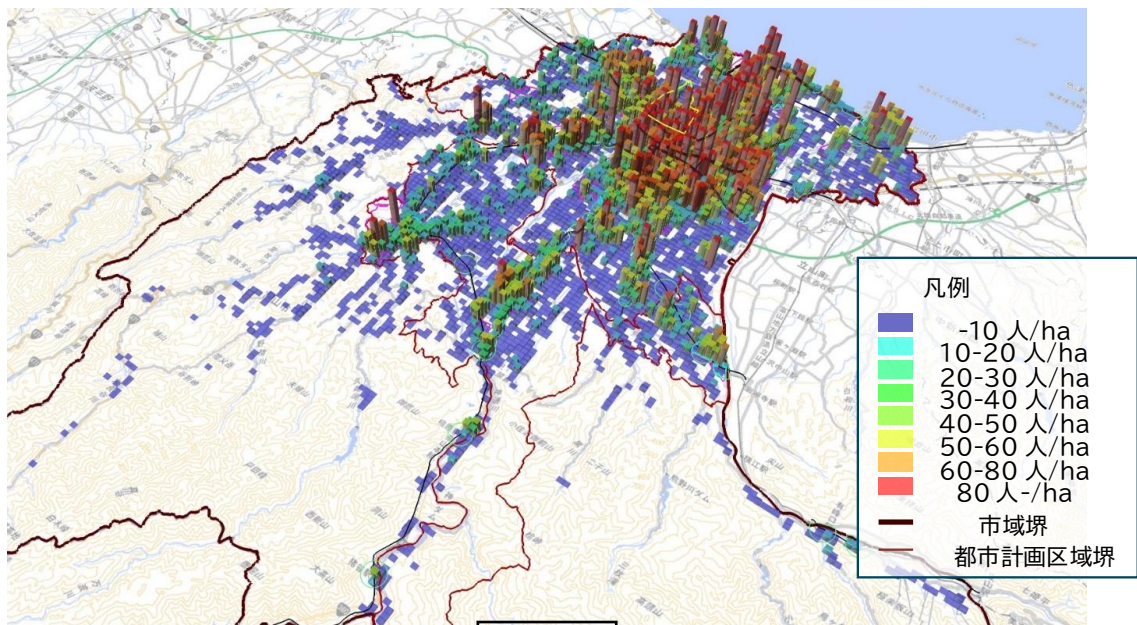
3 人口密度分布

(1) 実績

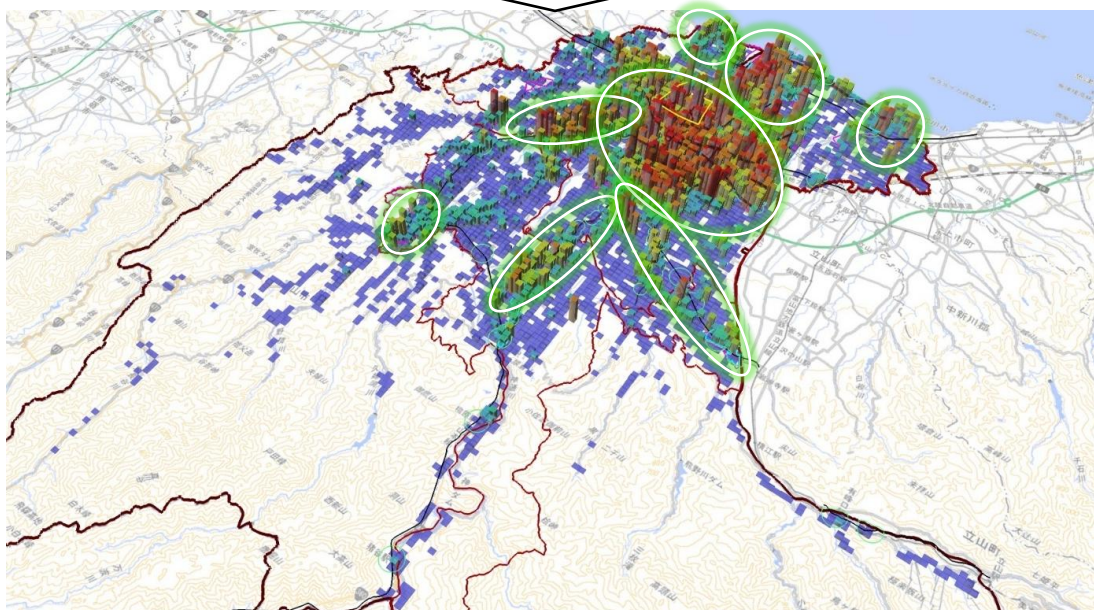
コンパクトなまちづくり開始以降の人口密度分布の変化実績を示します。この図から、市街化区域や公共交通沿線などで人口密度が高く維持されてきた傾向が確認できます。

■人口密度分布の変化（実績）

2005（平成17）年



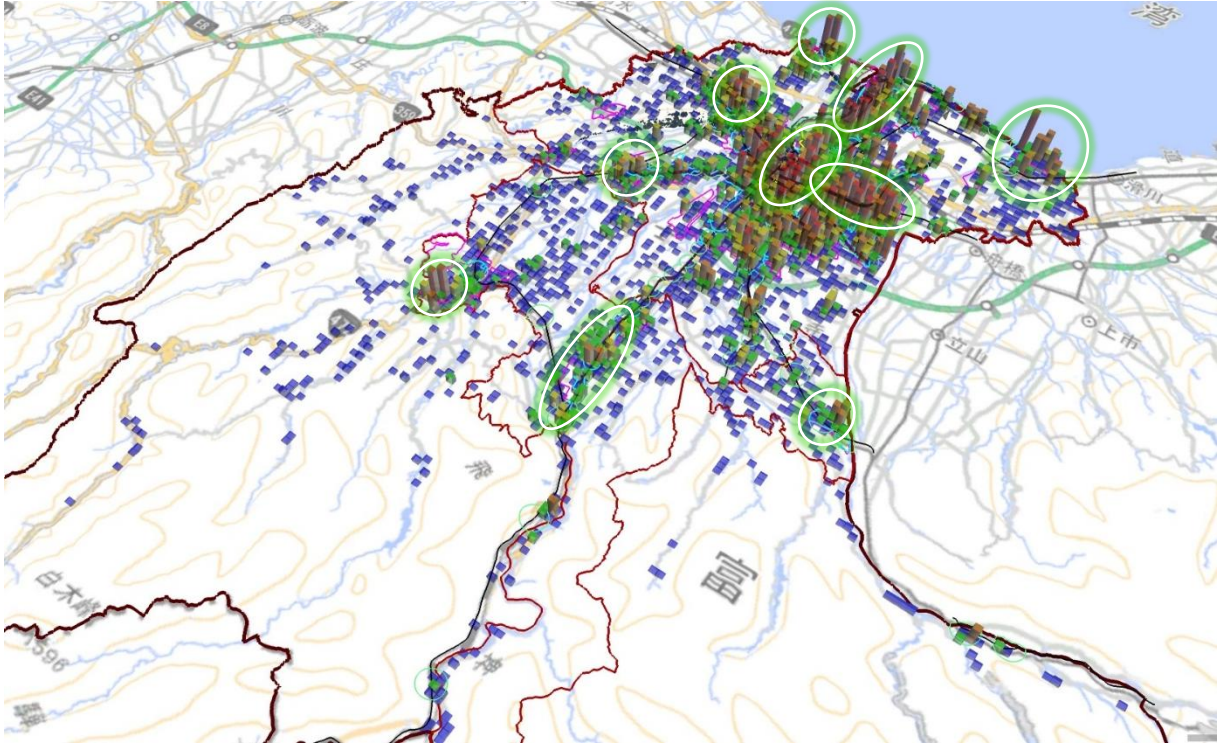
2022（令和4）年



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、250mメッシュ単位で集計処理

また、2022（令和4）年時点の独居高齢者の人口密度分布について示します。この図から、都心地区や地域生活拠点のある既成市街地、富山地方鉄道本線や富山港線など、市街地形成が早い既成市街地に多く分布していることが確認できます。

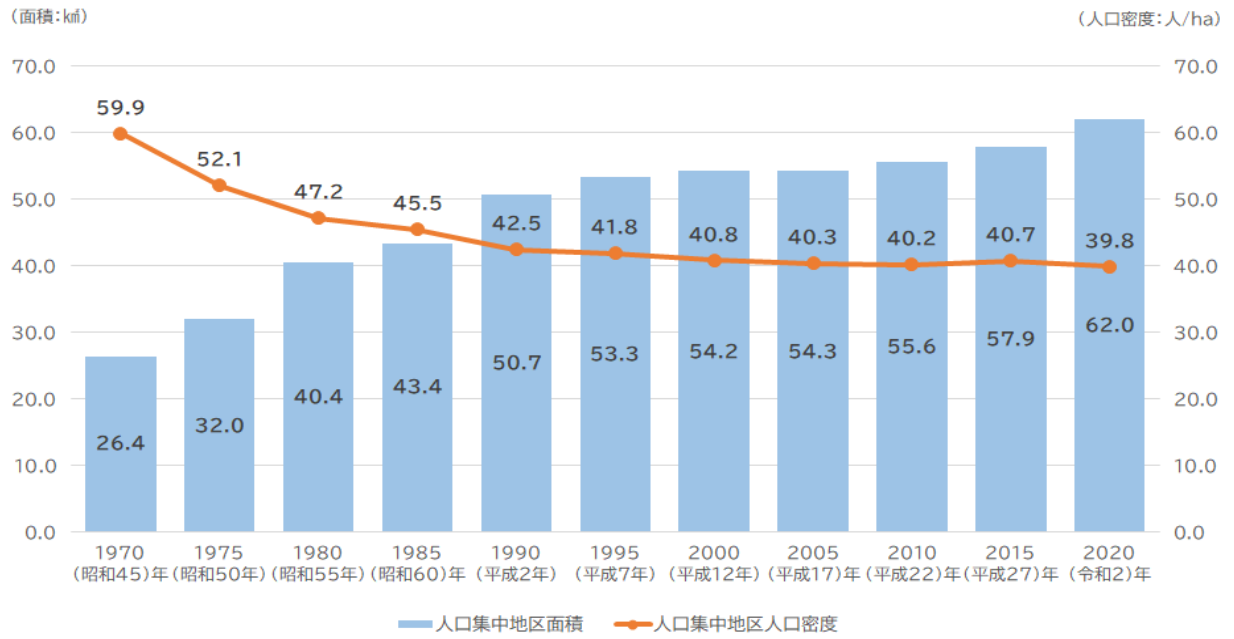
2022（令和4）年



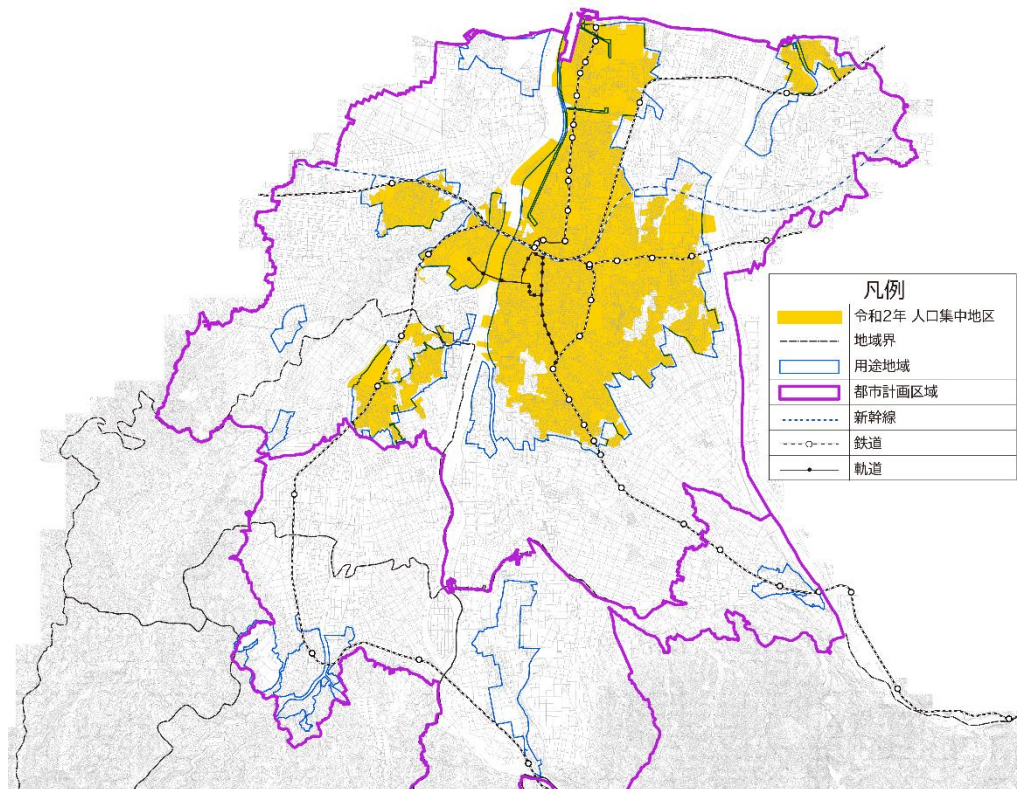
出典：住民基本台帳データ（令和4年6月時点）を基に、250mメッシュ単位で集計処理

人口集中地区（D I D）の変遷について示します。20年後の人口規模と同程度と考えられる1970（昭和45）年と比べ、現状である2020（令和2）年の人口集中地区の面積は約2倍に増加し、人口密度は約6割まで低下していることがわかります。

■人口集中地区面積の拡大と人口密度の推移

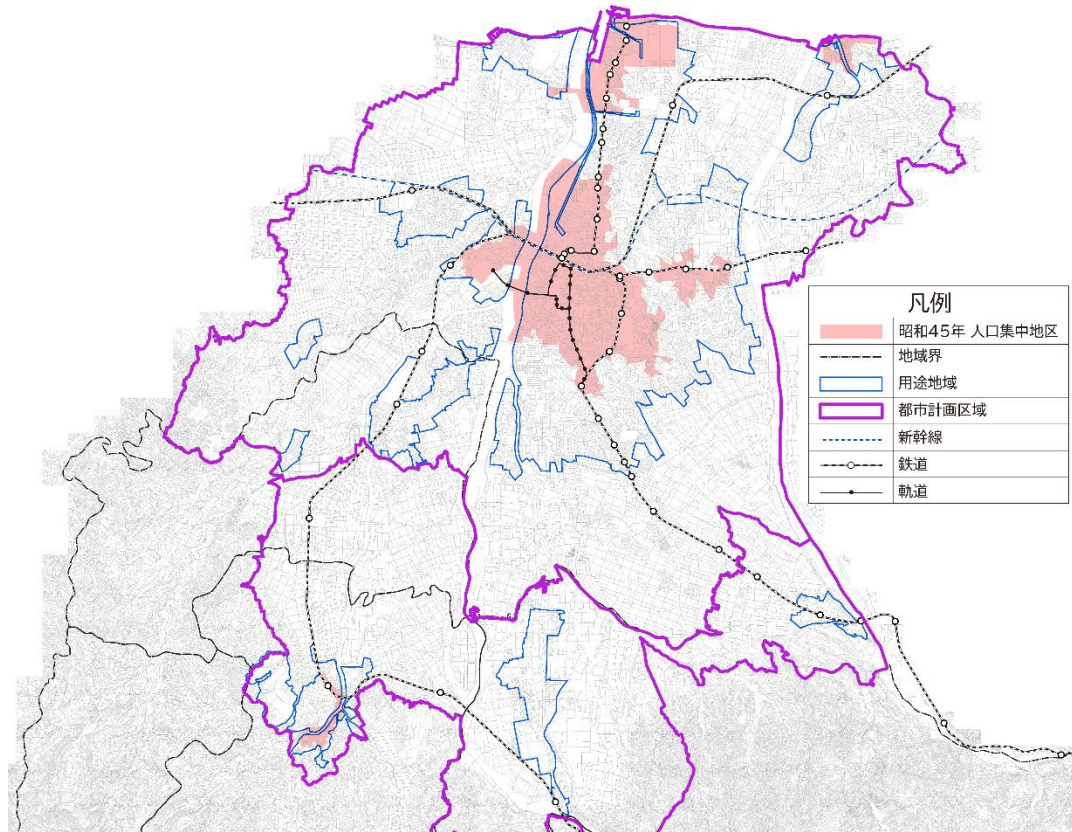


■令和2年 人口集中地区



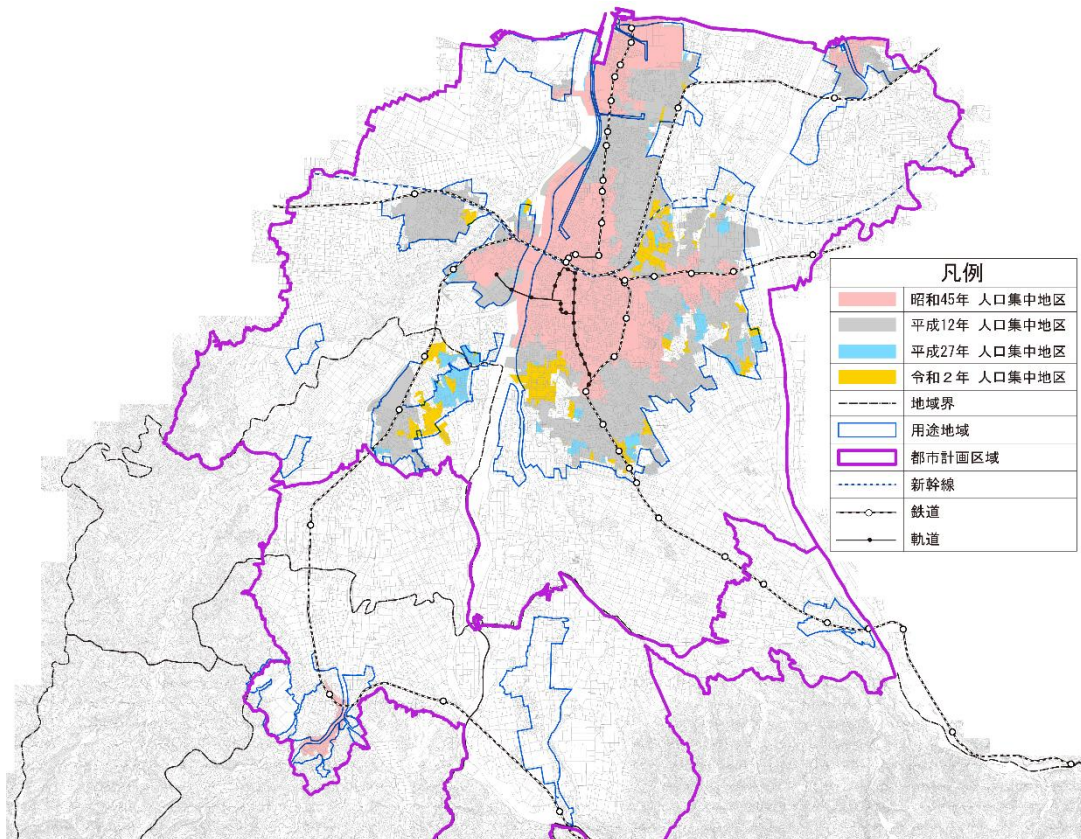
出典：国勢調査

■昭和45年 人口集中地区



出典：国勢調査

■人口集中地区の変遷

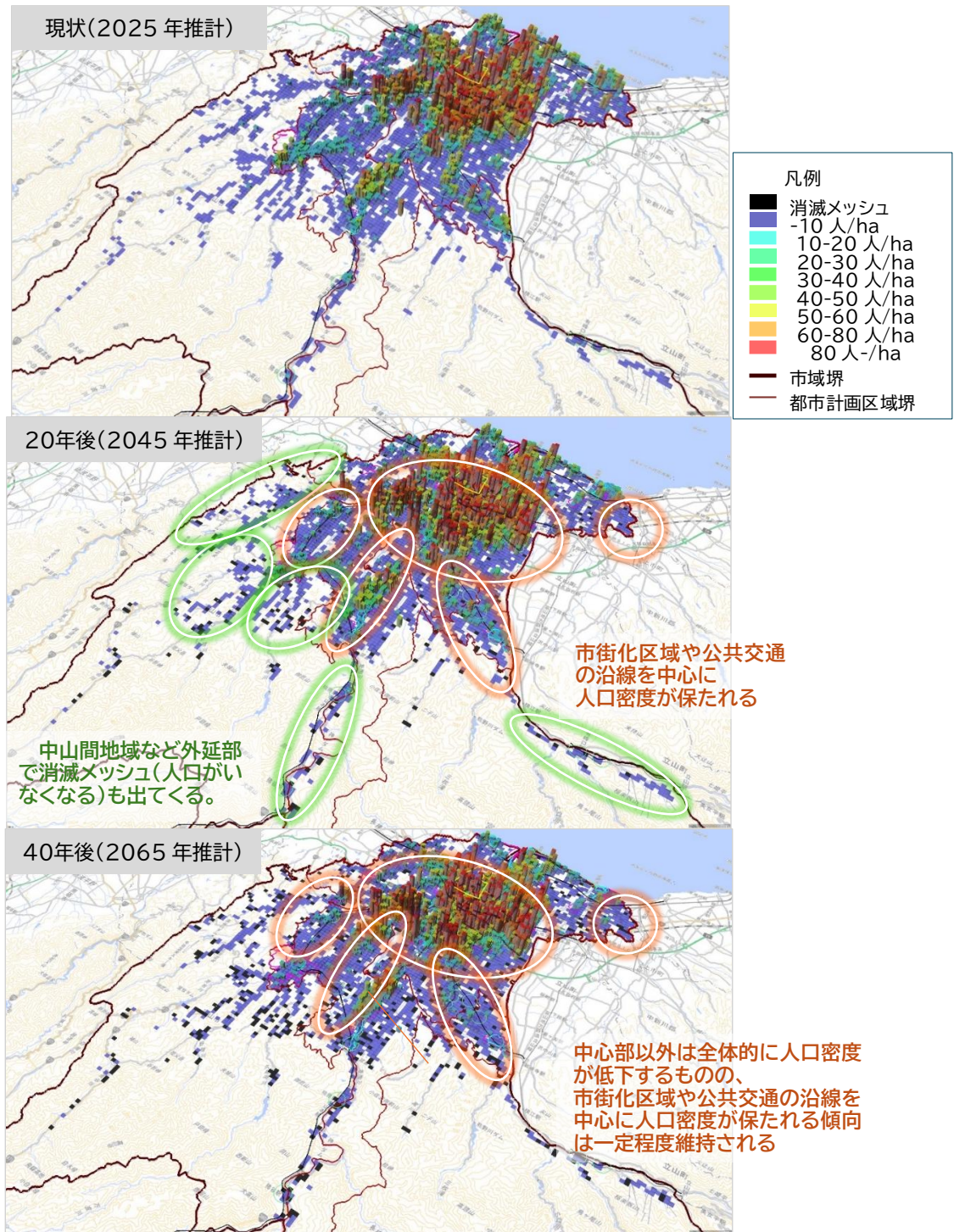


出典：国勢調査

(2) 将来予測

コンパクトなまちづくりを継続した場合での人口密度分布の将来予測を示します。20年後には縁辺部で人口がいないメッシュがあるものの、公共交通の沿線や市街化区域・用途地域を中心に人口密度が保たれ、その傾向は40年後も一定程度維持されるものと予測しています。

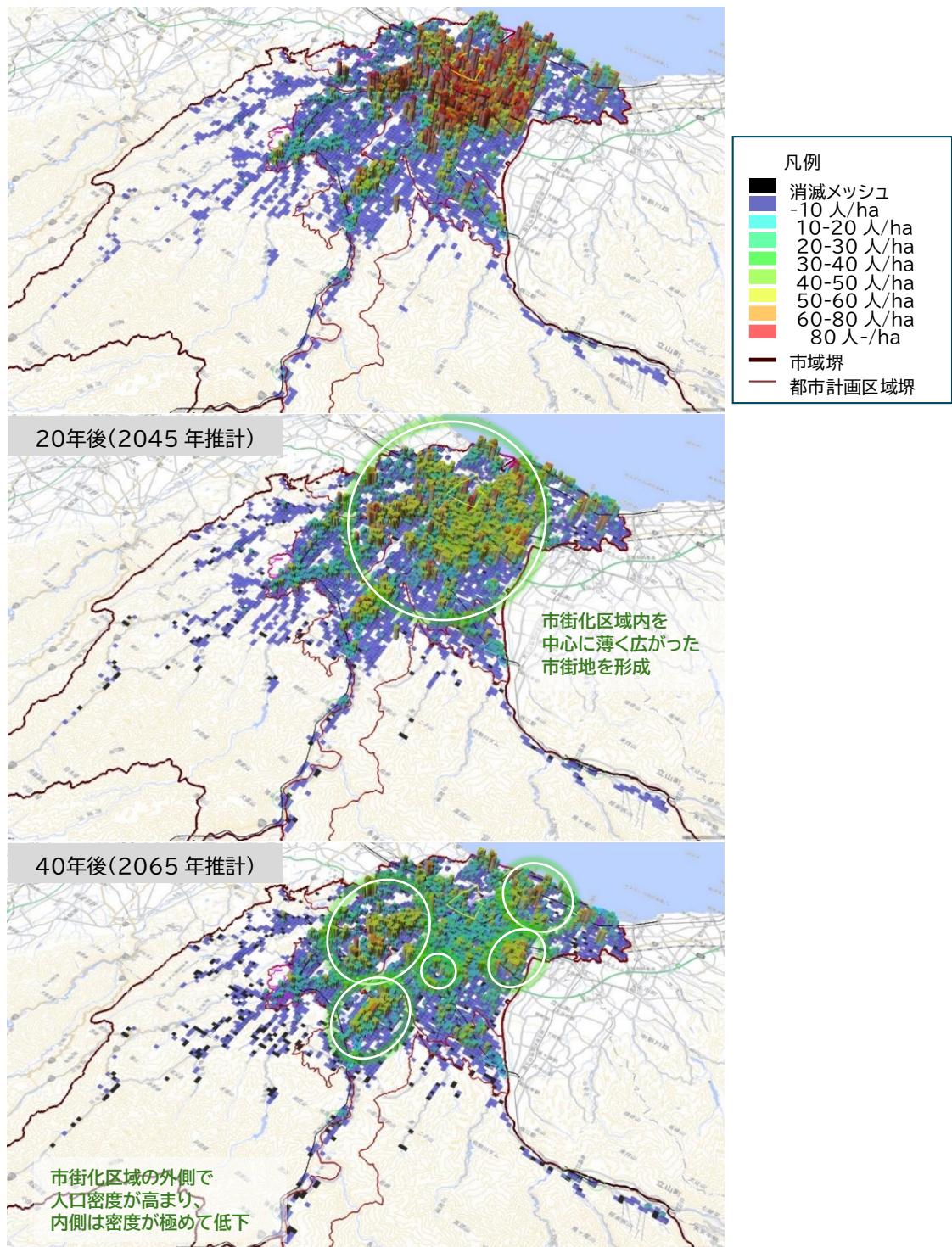
■人口密度分布の将来予測（コンパクトなまちづくりを継続）



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、公共交通の沿線を中心とした開発動向が継続した場合の将来予測を250mメッシュ単位で集計処理

一方、コンパクトなまちづくりによらず、市街地が再び拡散した場合の人口密度分布の将来予測を示します。20年後には市街化区域内を中心に薄く広がった市街地に転換し、40年後には市街化区域の外側で人口密度が高まり、都心地区などの市街地の内側は密度が極めて低下すると予測しています。

■人口密度分布の将来予測（拡散予測）



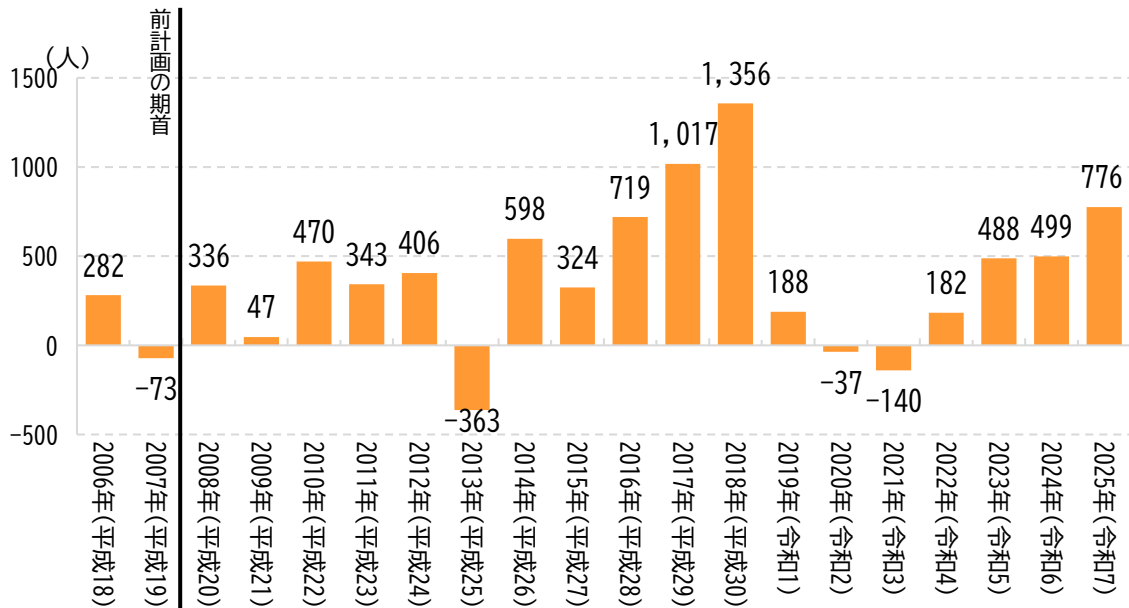
出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、各地区の開発ニーズにより残存する農地を順に宅地化した場合の将来予測を250mメッシュ単位で集計処理

4 人口の社会動態

コンパクトなまちづくりの開始以降での社会動態の変化を示します。

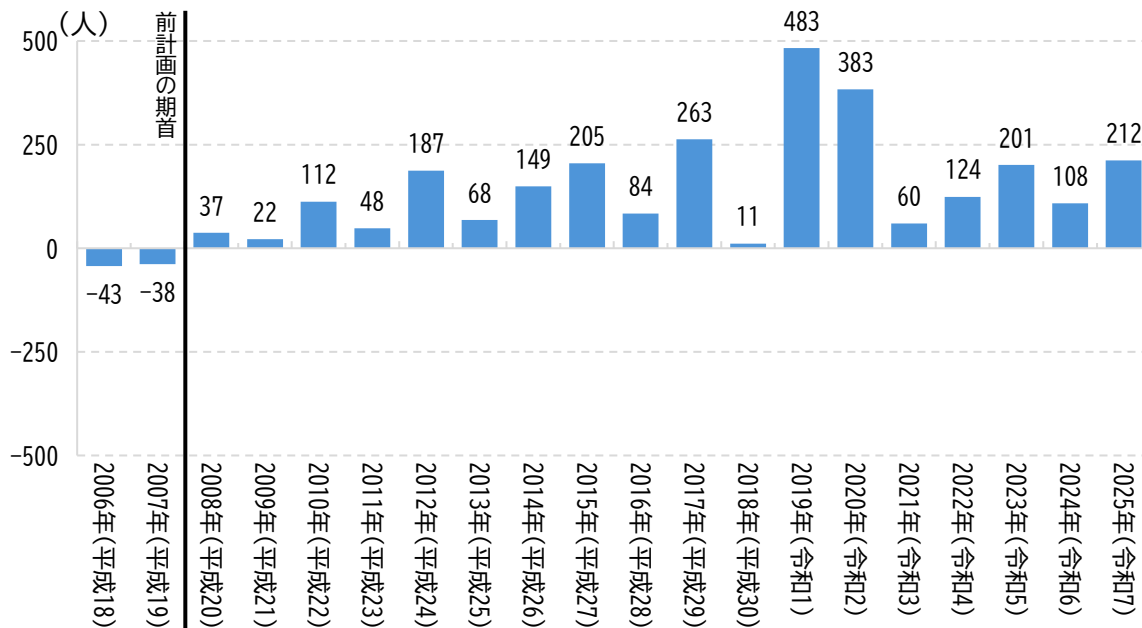
全市では社会増加の傾向となっています。また、都心地区では平成 20 年以降、公共交通沿線では平成 26 年以降で、社会増加が継続していることがわかります。

■全市の社会動態



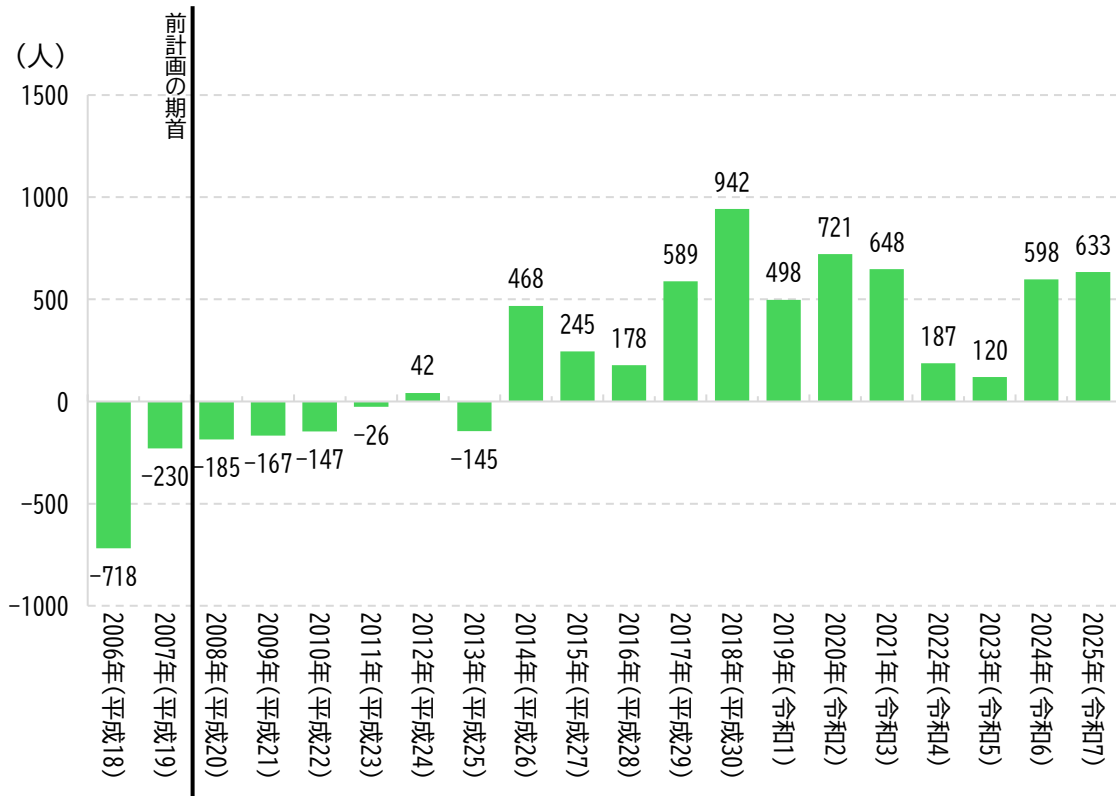
出典：富山県の人口（各年ともに前年10月1日～該当年9月30日までの値・全市）

■都心地区の社会動態



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、都心地区で集計処理

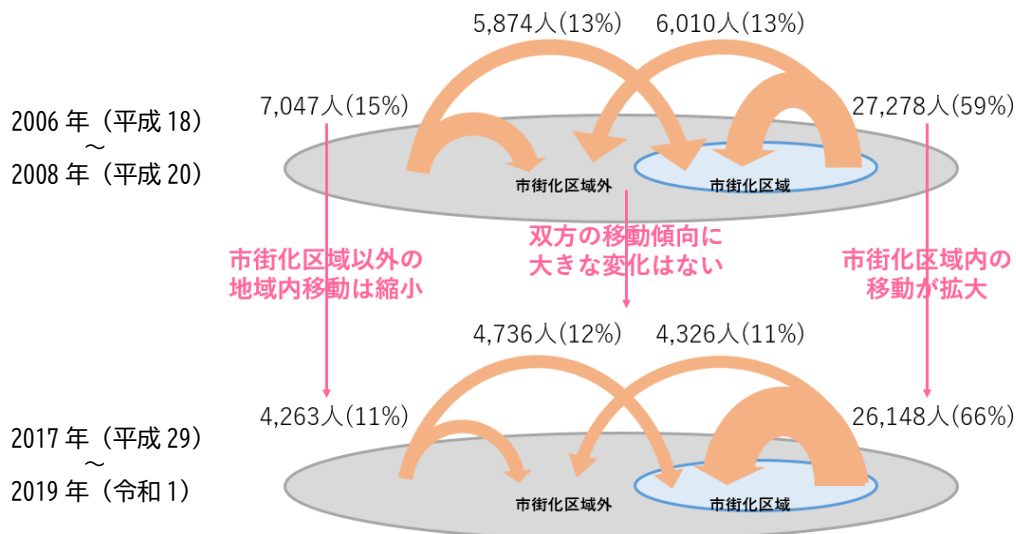
■公共交通沿線の社会動態



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、公共交通沿線地区で集計処理

区域区分に着目した人口の社会動態の傾向を示します。市街化区域とそれ以外の区域間の移動傾向に大きな変化はないものの、市街化区域内での移動が拡大し、市街化区域以外の地域内移動は縮小の傾向にあることがわかります。

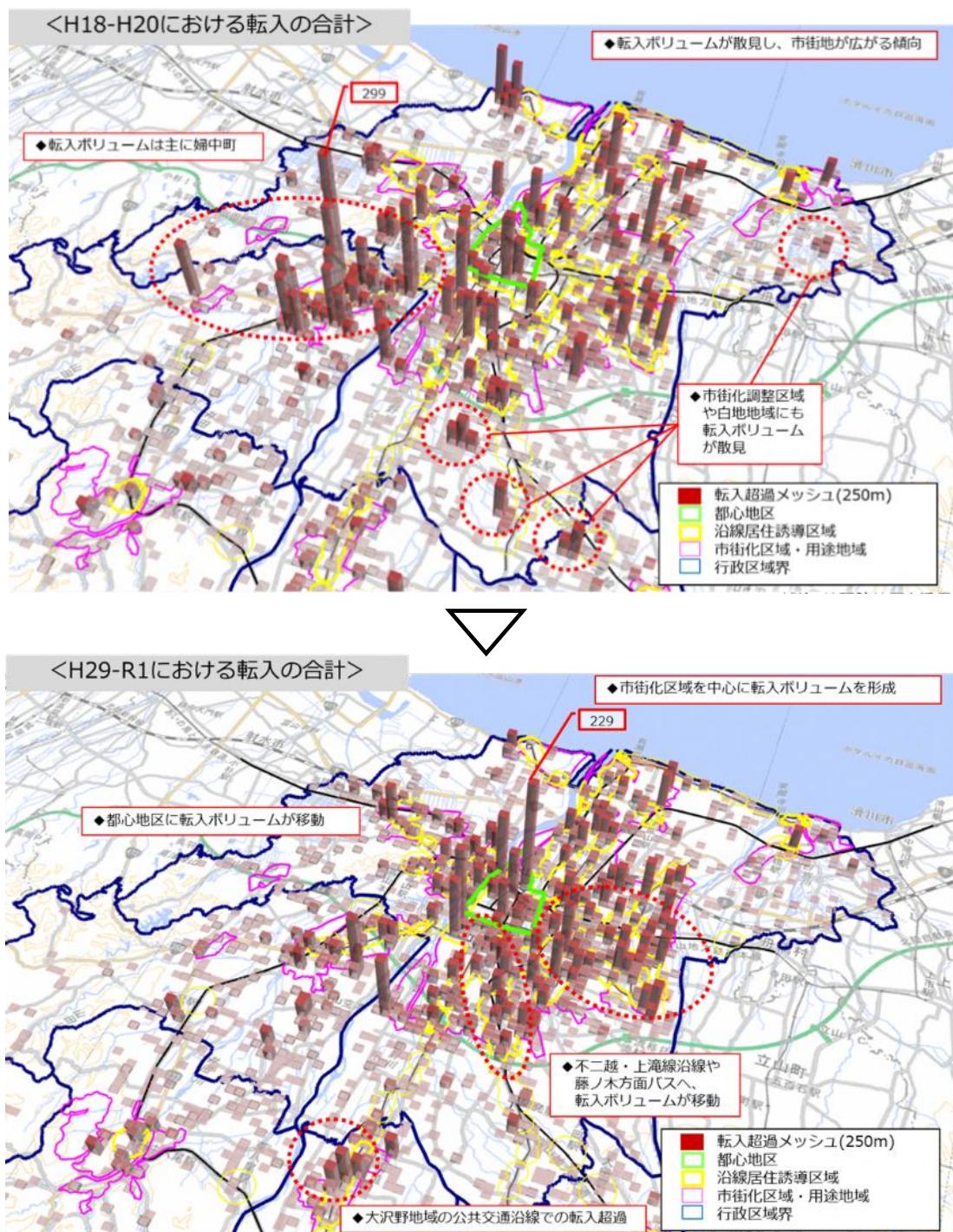
■近年の市街化区域とそれ以外の社会動態の傾向



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、集計処理

住民基本台帳データ（各年6月末日）を基に、社会転入超過エリアの変化の傾向を示します。コンパクトなまちづくりをはじめた2006（平成18）年から2008（平成20）年は、婦中地域での転入ボリュームが見られ、また市街化調整区域や白地地域にも転入ボリュームが散見していました。2017（平成29）年から2019（令和元）年になると、居住誘導を進めている都心地区や公共交通軸の沿線に転入ボリュームが移動していることがわかります。

■社会転入超過エリアの変化



出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に集計処理し、地理院地図上に表示

5 他都市との比較

人口や社会動態に関する指標について、中核市（62市）の比較を整理しました。この表から、「本市の年少人口は減少傾向にあり、偏差値も中位に推移」「高齢者人口は増加傾向にあり、中核市の中でも上位」「生産年齢人口は減少しているが、偏差値は向上し、中核市の中で上位に変化」「転入超過率が減少しているが、上位を維持しており、特に生産年齢人口の移動数は上位」であることがわかります。

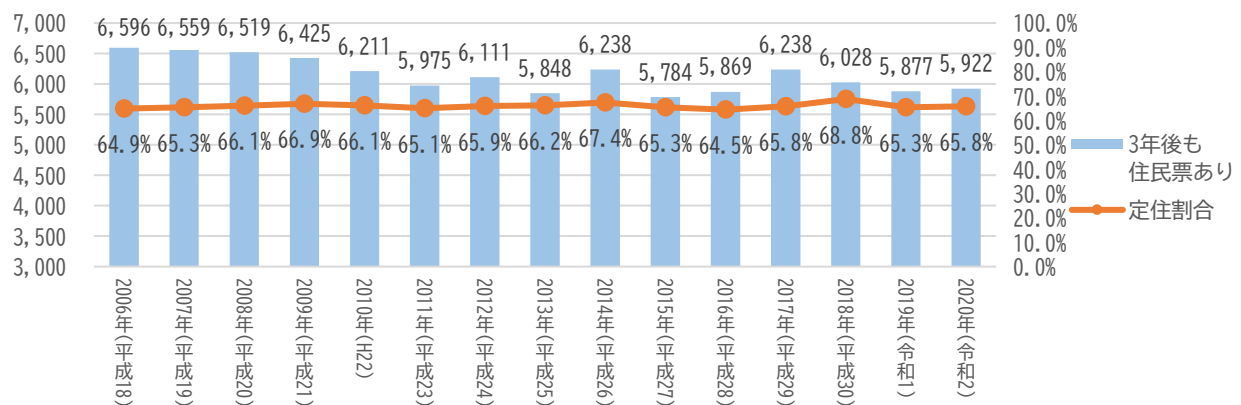
■人口に関する中核市比較

	富山市									中核市平均 (実数)	
	実数			偏差値			順位			2010	2020
	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等		
人口増減率【%】	-1.9%		—	53.1		—	18位		—	-2.9%	
年少人口増減率【%】	-13.8%		—	49.9		—	25位		—	-13.8%	
年少人口割合【%】	13.24	11.63	➡	47.0	46.2	↓	29位	26位	↑	13.53	12.01
生産年齢人口増減率【%】	-9.6%		—	57.1		—	13位		—	-12.5%	
生産年齢人口割合【%】	61.81	56.97	↓	46.4	53.4	↑	26位	14位	↑	62.44	56.25
高齢者人口増減率【%】	19.7%		—	46.4		—	28位		—	21.9%	
高齢人口割合【%】	24.32	29.66	↑	55.0	52.8	↓	11位	13位	↓	23.04	28.85
転入率【%】	2.30	2.33	➡	38.0	38.0	➡	37位	37位	➡	3.03	2.97
転出率【%】	2.14	2.34	➡	33.4	35.5	↑	41位	40位	↑	3.10	3.13
転入超過率【%】	0.16	-0.01	➡	63.5	56.0	↓	4位	14位	↓	-0.07	-0.16
生産年齢人口に対する20~40歳代の純移動数割合【%】※対象年次は2010と2015	0.007	0.011	➡	59.8	58.1	↓	7位	8位	↓	-0.0037	0.0005

出典：国勢調査、住民基本台帳人口移動報告年報

また、参考までに市外転入者の3年後定住率の推移を整理しました。このグラフから、定住率はおだやかに増加傾向であることがわかります。

■市外転入者の3年後定住率の推移



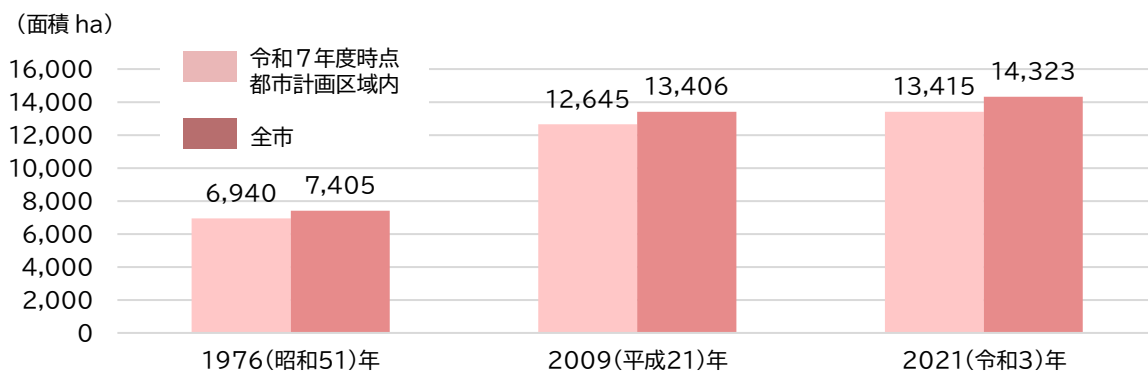
出典：住民基本台帳データ（各年6月時点）を基に、集計処理

Ⅱ 土地利用・施設・機能

1 都市の規模

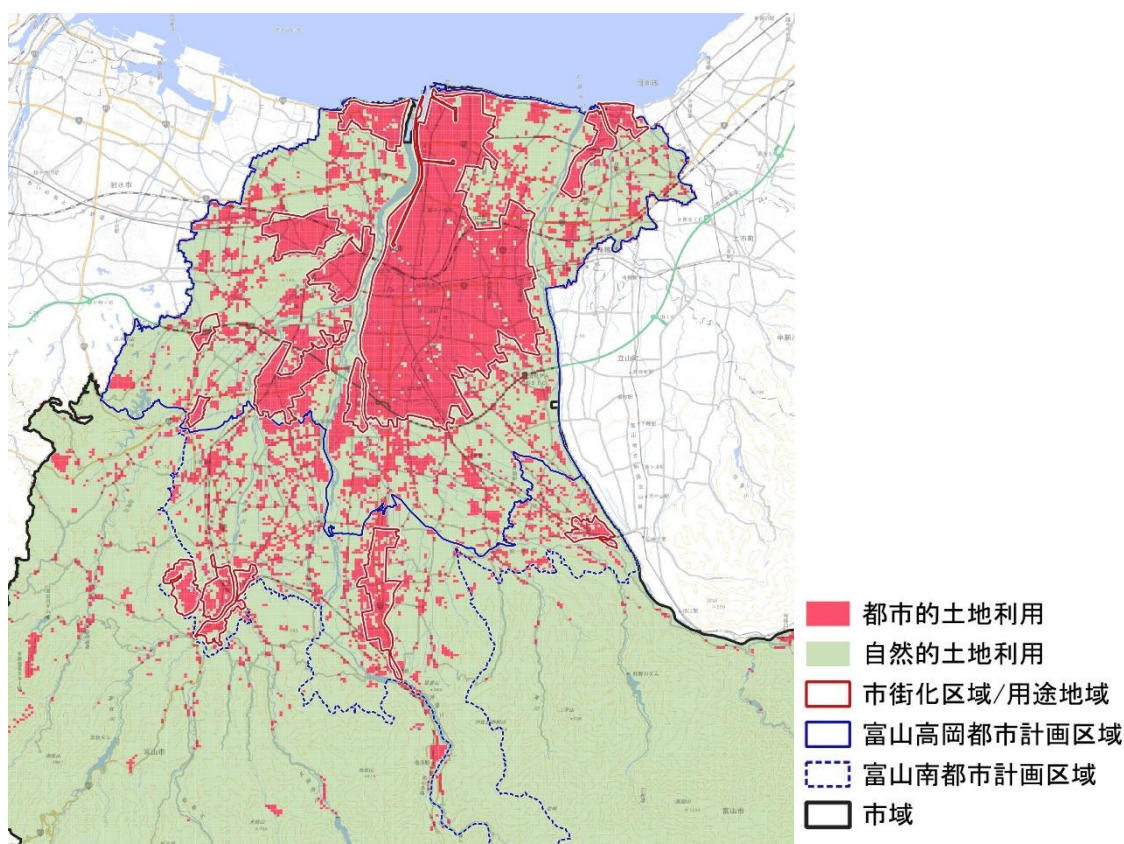
国土数値情報を基に、都市的土地利用面積の変遷を示します。都市的土地利用の面積は増加しており本計画の目標年である2045(令和27)年と同規模の人口である1970(昭和45)年頃の都市的土地利用の規模として1976(昭和51)年の面積と比較すると、現在2021(令和3)年の約1/2であったことがわかります。

■都市的土地利用面積の変遷



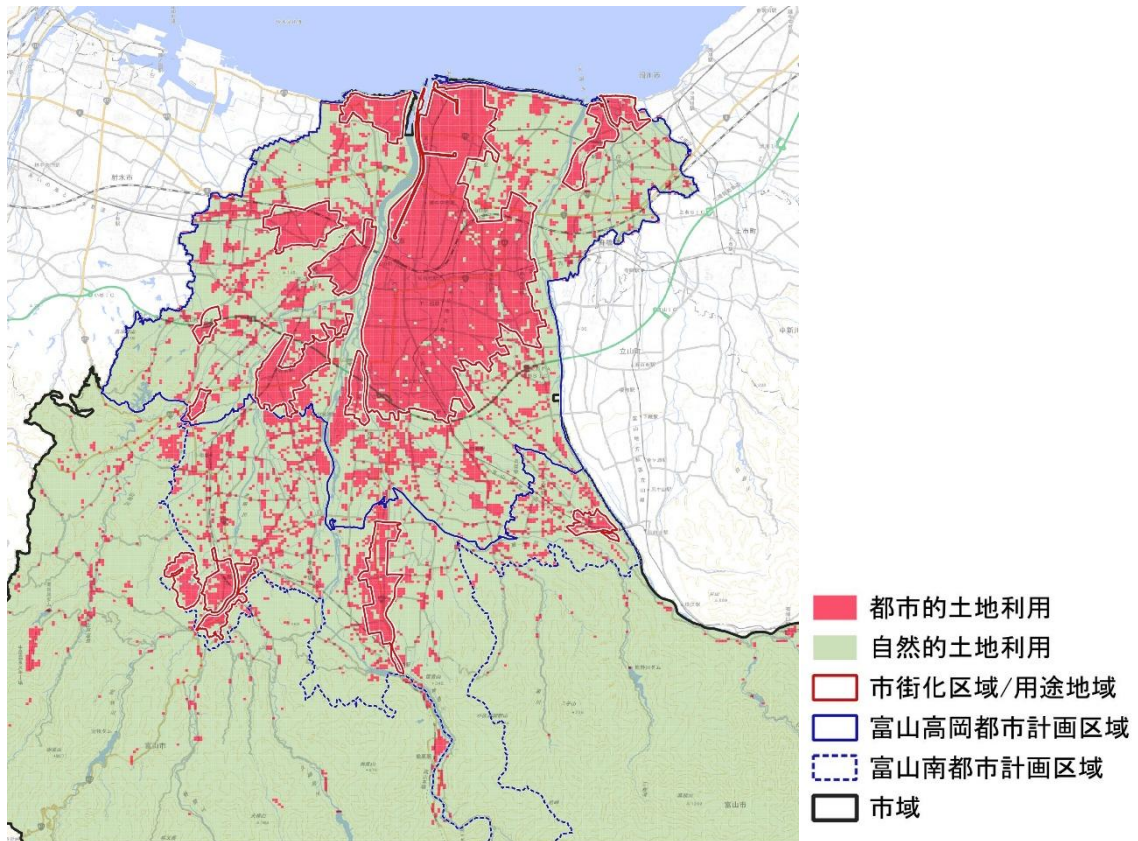
出典：国土数値情報

■現在の都市的土地利用の分布 2021(令和3)年



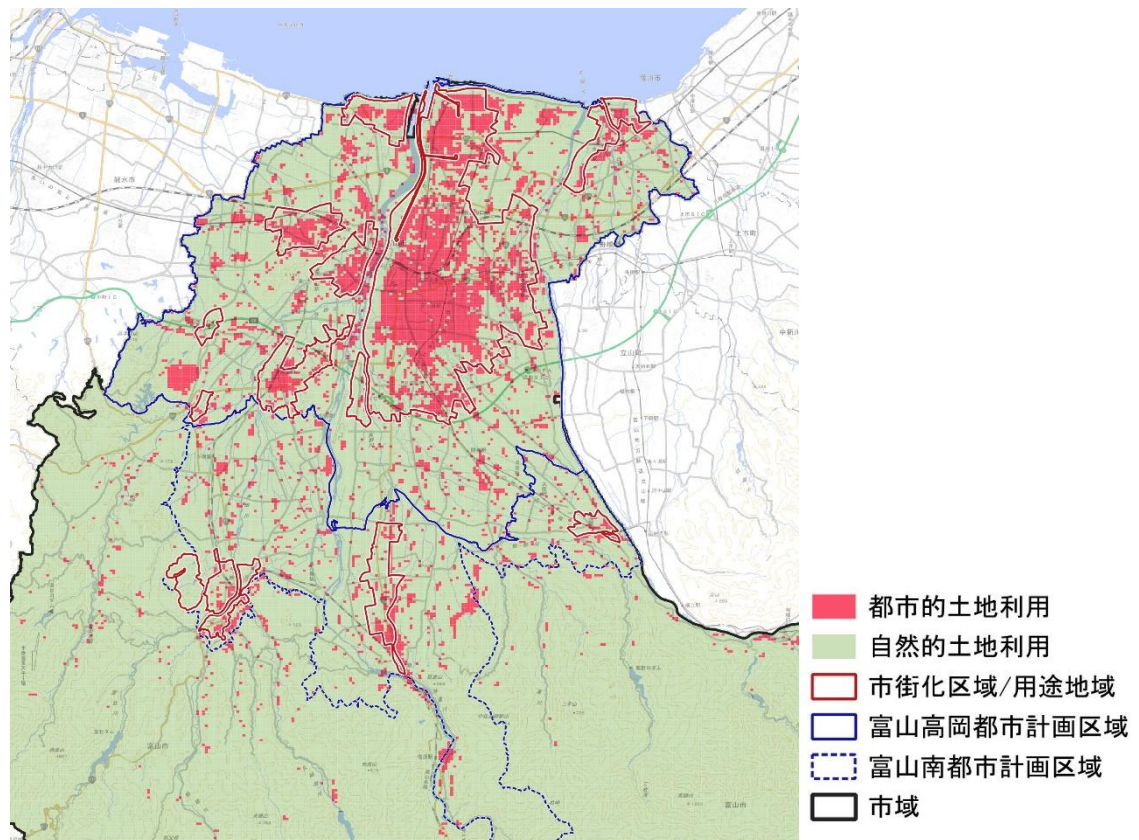
補注) 地理院タイルに国土数値情報の土地利用細分メッシュを図示

■過去の都市的土地利用の分布 2009（平成 21）年



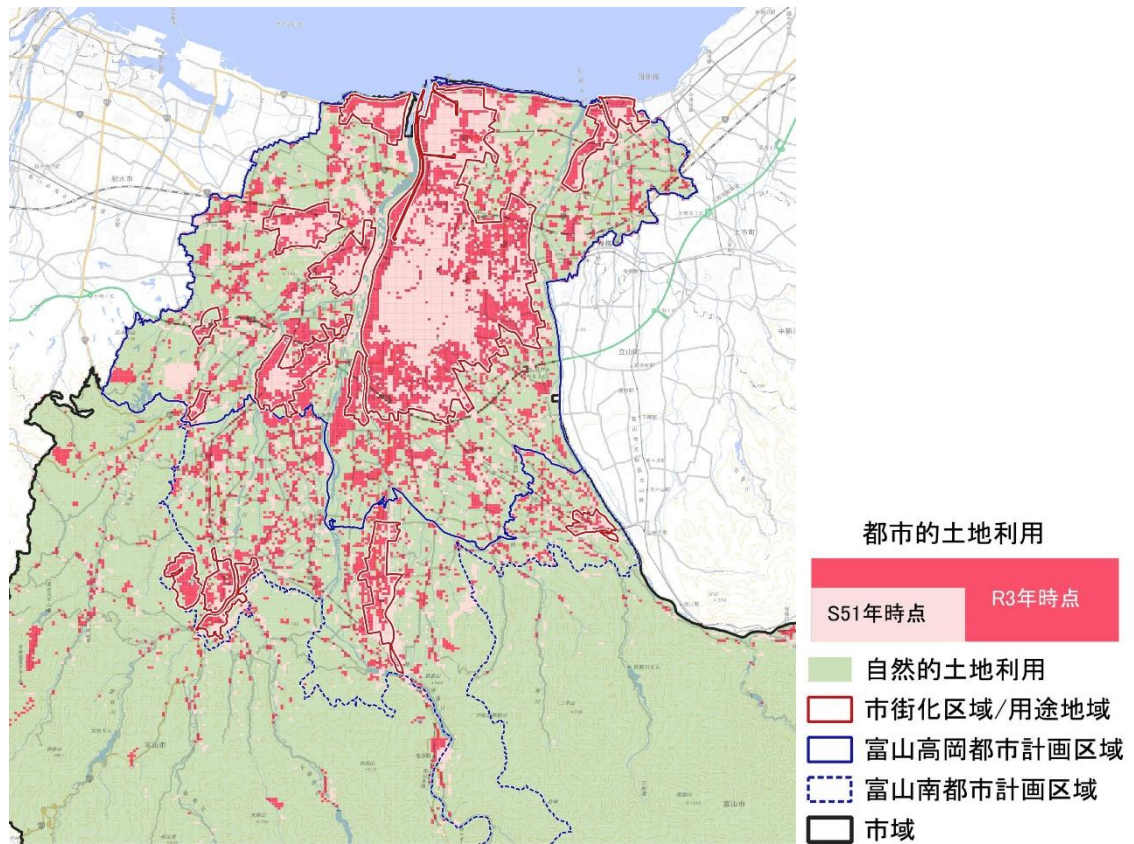
補注) 地理院タイルに国土数値情報の土地利用細分メッシュを図示

■過去の都市的土地利用の分布 1976（昭和 51）年



補注) 地理院タイルに国土数値情報の土地利用細分メッシュを図示

■都市的土地利用の拡大範囲 1976（昭和51）年→2021（令和3）年



補注) 地理院タイルに国土数値情報の土地利用細分メッシュを図示

都市の規模に関する指標について中核市（62市）の比較を整理しました。

この表から、本市は「市域や可住地面積が最も広く、市街地が拡散しやすい地形的な特徴」があり、人口密度の観点では「可住地人口密度が低く、市街地の拡散に対する圧力の高まりも懸念」「市街化区域人口密度は改善傾向にあるものの、運用指針で定める40人/haより低い」ことがわかります。また「DID人口密度は減少し、中核市の中でも下位で推移」していることもわかります。

さらに、社会動態でも整理したように都心地区や公共交通沿線での社会増加が継続していることなどから、「市街化区域人口の増減率は上位に位置し、中核市の中では市街化区域内に抑制できている」「DID人口密度の増減率は上位に位置し、中核市の中では拡大を抑制できている」ことが推察されます。

■都市の規模に関する中核市比較

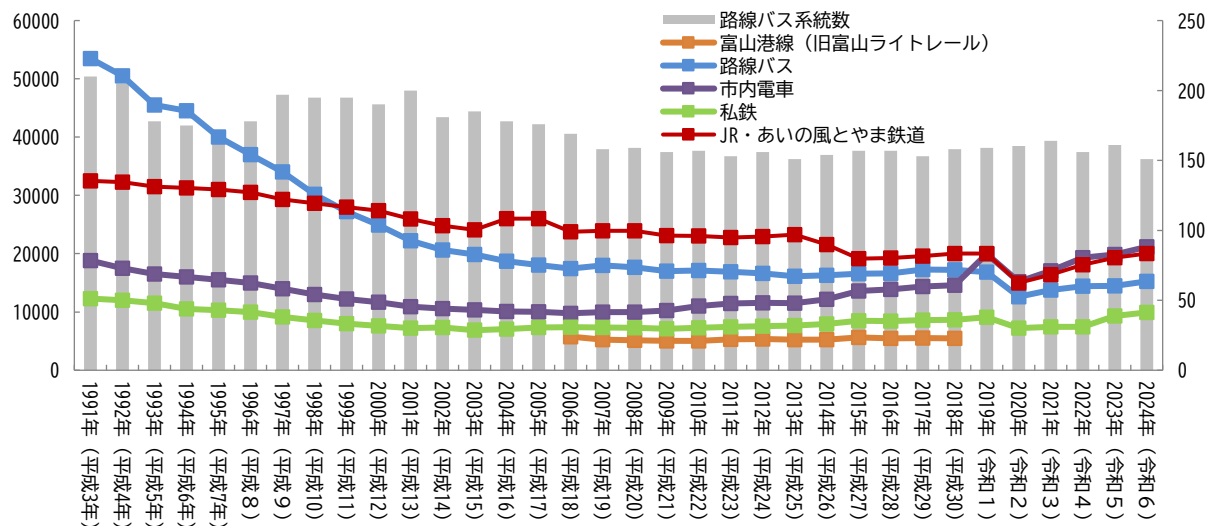
	富山市									中核市平均 (実数)	
	実数			偏差値			順位			2010	2020
	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等		
行政区域面積【ha】	124,185	124,174	↓	74.9	74.9	→	1位	1位	→	54,825	54,837
可住地面積【ha】	47,387	47,073	↓	81.4	80.9	↓	1位	1位	→	22,931	23,061
可住地面積割合【%】	38.16	37.91	→	44.3	44.1	→	29位	28位	↑	49.0	49.4
可住地人口密度【人/ha】	8.90	8.79	→	42.3	42.3	→	41位	41位	→	17.8	17.2
可住地人口密度増減率【%】	-0.65%		—	45.4		—	37位		—	0.59%	
市街化区域面積【ha】	278,731	283,908	↑	49.2	50.8	↑	19位	19位	→	286,274	275,916
市街化区域面積割合【%】	5.85	5.93	→	43.0	42.9	→	36位	35位	↑	15.4	15.3
市街化区域人口密度【人/ha】	38.37	38.55	→	43.2	43.9	↑	36位	34位	↑	47.4	46.6
市街化区域人口割合【%】	66.06	68.59	→	40.8	42.9	↑	36位	36位	→	80.3	79.5
市街化区域人口増減率【%】	0.47%		—	56.2		—	13位		—	-1.76%	
DID面積【km ² 】	55.56	61.96	↑	54.5	56.4	↑	11位	11位	→	48.1	50.6
DID面積割合【%】	4.47	4.99	→	44.2	44.1	→	36位	36位	→	13.1	13.5
DID人口密度【人/ha】	40.18	39.84	→	38.1	40.2	↑	38位	37位	↑	51.7	49.1
DID人口比率【%】	52.91	59.63	↑	36.8	40.9	↑	37位	33位	↑	68.5	70.4
DID人口密度増減率【%】	-0.85%		—	61.2		—	6位		—	-5.02%	

出典：国勢調査、都市計画現況調査、住民基本台帳人口移動報告年報

2 公共交通と自動車利用

公共交通の利用者数について示します。減少が続いていた公共交通の利用者数は、市内電車が増加の傾向にあるとともに全体として下げ止まりの傾向が見られます。

■公共交通利用数の推移



出典：富山市統計書

※富山港線 (旧富山ライトレール) は2019年度に市内電車に統合

公共交通の利用に関する指標について中核市 (62市) での比較を整理します。この表から、本市は「通勤・通学時に公共交通を利用する割合は上昇し、中核市平均と比べても優位に変化」していることがわかります。一方で、「通勤・通学時に自動車を利用する割合は、中核市全体が減少傾向にある中、上位で推移」「基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率は低く、中核市でも下位となっている」ことがわかります。

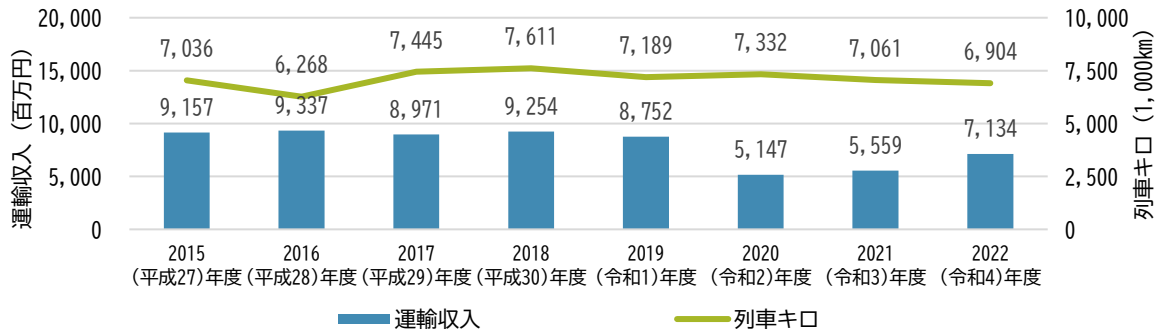
■公共交通利用に関する中核市比較

	富山市									中核市平均 (実数)	
	実数			偏差値			順位			2010	2020
	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等	2010	2020	増減等		
通勤・通学時の鉄道・電車利用割合【%】	3.3%	3.8%	➡	51.8	52.8	⬆	16位	16位	➡	3.3%	3.0%
通勤・通学時の乗合バス利用割合【%】	1.7%	1.6%	➡	44.5	44.8	➡	27位	28位	⬇	3.4%	4.0%
通勤・通学時の自家用車利用割合【%】	72.4%	73.7%	➡	64.0	62.1	⬇	2位	5位	⬇	63.4%	59.7%
基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率【%】	—	49.9%	—	—	42.2	—	—	32位	—	—	59%

出典：国勢調査

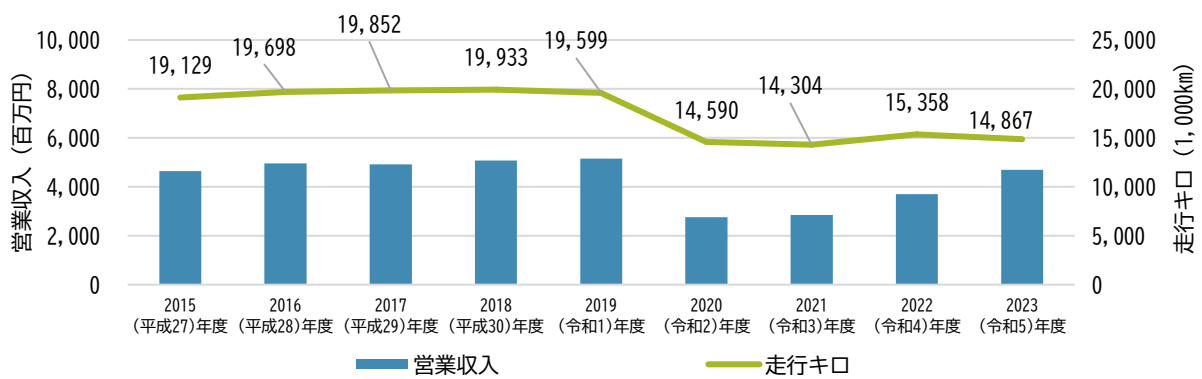
公共交通の運行収入の状況について示します。このグラフから、鉄軌道は一定程度の水準で維持されているものの、バスについては収入がコロナ前の水準には戻っておらず、走行の規模は減少傾向にあることがわかります。

■鉄軌道（JRを除く）の運輸収入の状況



出典：富山県地域交通戦略（令和6年2月）

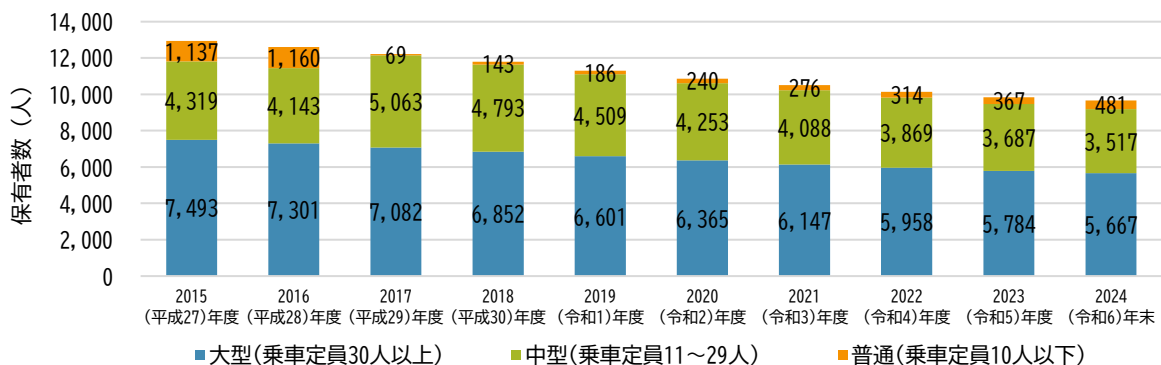
■富山県内のバスの営業収入の状況



出典：数字で見るとやまの運輸（北陸信越運輸局富山運輸支局、令和6年度版）

人材としての運転手の状況を示す指標として、富山県におけるバスなどの運転が可能な第二種免許の推移を示します。このグラフから保有者数が減少傾向にあることがわかります。

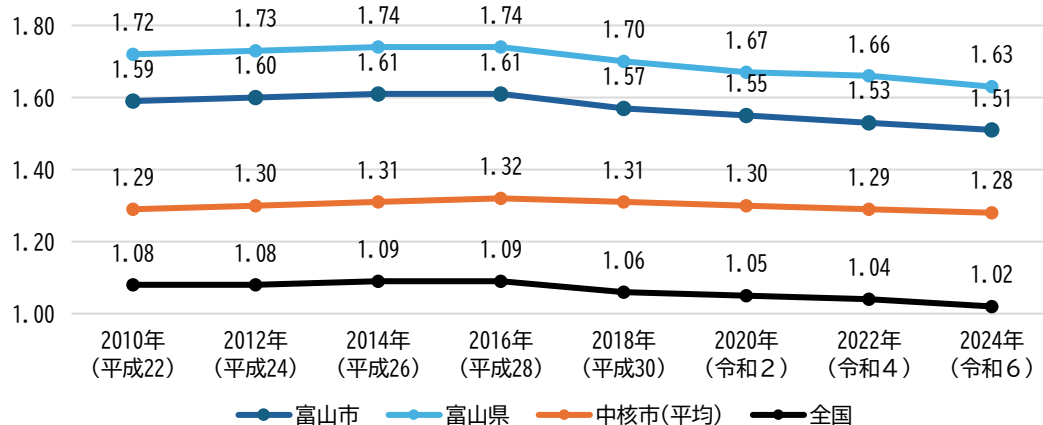
■バス等の運転が可能な第二種免許の保有者数の推移



出典：運転免許統計（警察庁、令和6年版）

世帯あたりの自動車保有台数の推移について示します。このグラフから、本市では県全体と同様に減少傾向にあるものの、中核市平均と比べ高い傾向が続いていることがわかります。

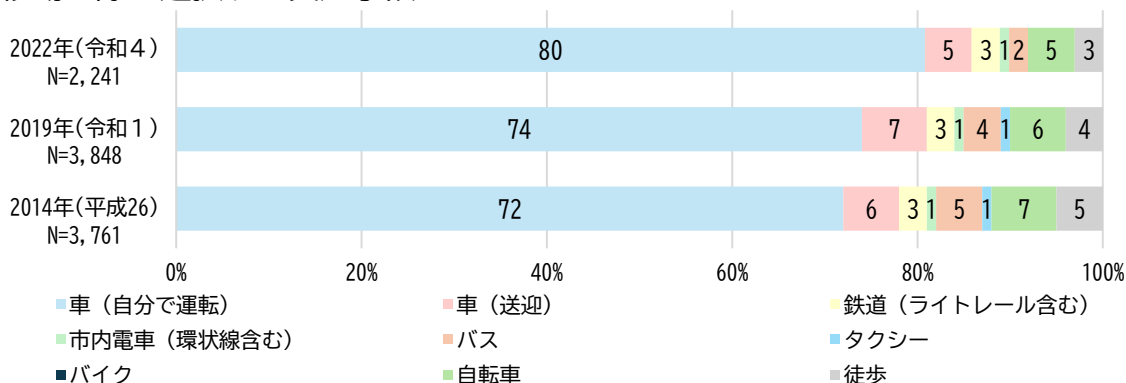
■世帯あたりの自動車保有台数の推移



出典：地域経済総覧（令和6年）

移動の際に選択する交通手段について示します。このグラフから、自家用車での移動を主体とする市民の割合は約8割と増加の傾向にあることがわかります。

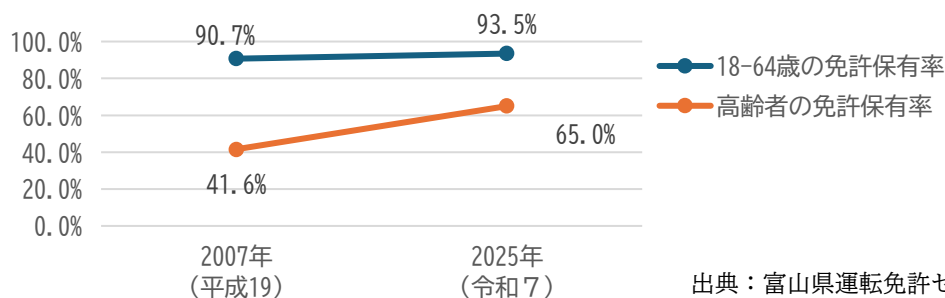
■移動の際に選択する交通手段



出典：富山市の公共交通に関する市民意識調査

免許保有者率の推移を示します。このグラフから、免許保有率全体は微増で、高齢者の免許保有率が大きく上昇していることがわかります。

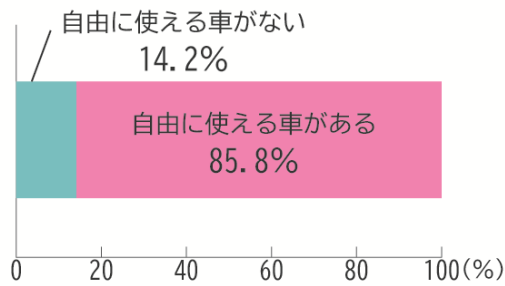
■自動車免許保有者率の推移



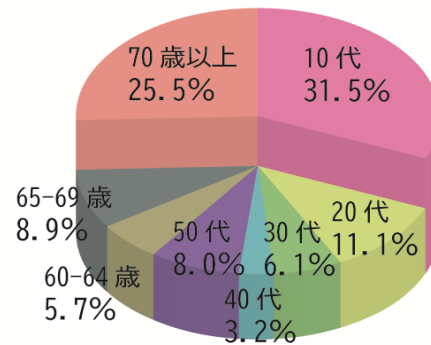
出典：富山県運転免許センター

車を自由に使えない人の割合と年代を示します。このグラフから、自動車を自由に使えない市民（免許のない人、免許を持っているが自由に使える車を持たない人）は、全体の約14%を占めており、その多くは、65歳以上の高齢者や18歳未満などの若年層であることがわかります。

■車を自由に使えない人の割合



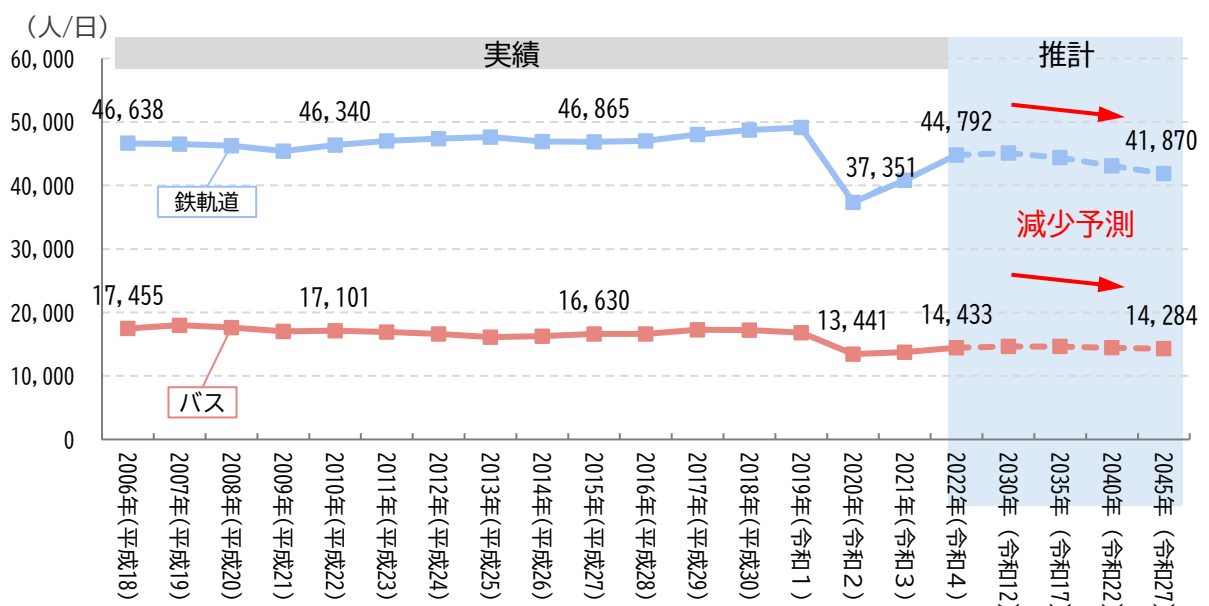
■車を自由に使えない人の年代



出典：富山市のまちづくりに関するアンケート調査（令和5年度）

公共交通利用者の実績と将来推計について示します。推計値は、各沿線の徒歩で利用している範囲の総人口の増減より算出した概算推計値として算出し、バスについて運行頻度の高い幹線バス路線の人口推移に基づき算出しています。このグラフから、人口が減少する中、公共交通利用者数は横ばいで推移してきましたが、新型コロナの流行による減少もあり、同水準まで回復していないことがわかります。また、今後は、生産年齢人口の減少などに伴う公共交通利用者の減少が見込まれ、公共交通の持続可能性が脅かされるものと推察されます。

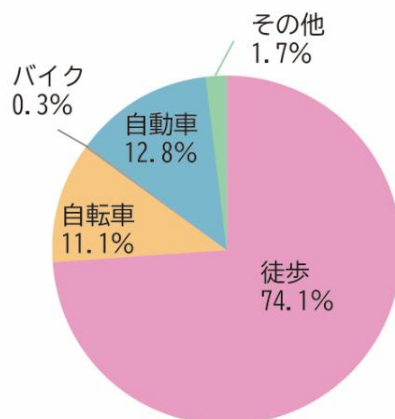
■公共交通利用者数の実績と将来推計



出典：富山市統計書、※各路線の徒歩で利用している範囲の総人口の増減より算出した概算推計値
※バスについて運行頻度の高い幹線バス路線の人口推移に基づき算出

次に公共交通へのアクセス手段を示します。このグラフから、公共交通の利用者の7割以上が自宅から徒歩で駅やバス停にアクセスしていることがわかります。

■公共交通へのアクセス手段



出典：富山市公共交通の利用実態調査（令和元年度）

公共交通に徒歩でアクセスしている人の居住地や範囲について示します。

実際に徒歩で公共交通にアクセスしている人の居住地は、駅やバス停から約 600m～800mの範囲であり、居住を推進する地区として設定する徒歩圏（バス停 300m、鉄軌道 500m）よりも広い範囲となっています。

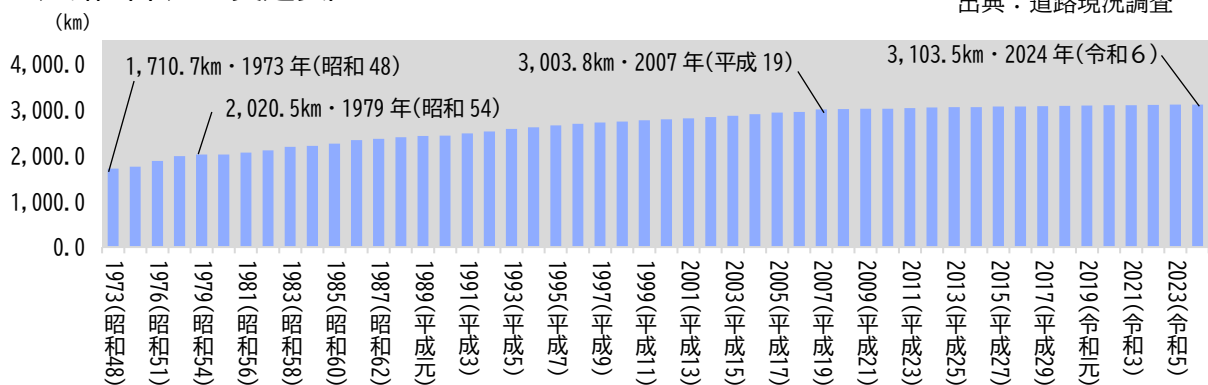
■公共交通を徒歩で利用している範囲（令和元年度）

番号	種別	徒歩で利用している範囲 (駅やバス停からの距離)	歩行時間 (推定)
1	あいの風とやま鉄道線	790m	14分
2	地鉄本線	700m	12分
3	地鉄不二越・上滝線	590m	10分30秒
4	地鉄立山線	700m	12分
5	JR高山本線	750m	13分
6	市内軌道線	600m	10分30秒
7	富山港線	600m	10分30秒
	バス路線	600m	10分30秒

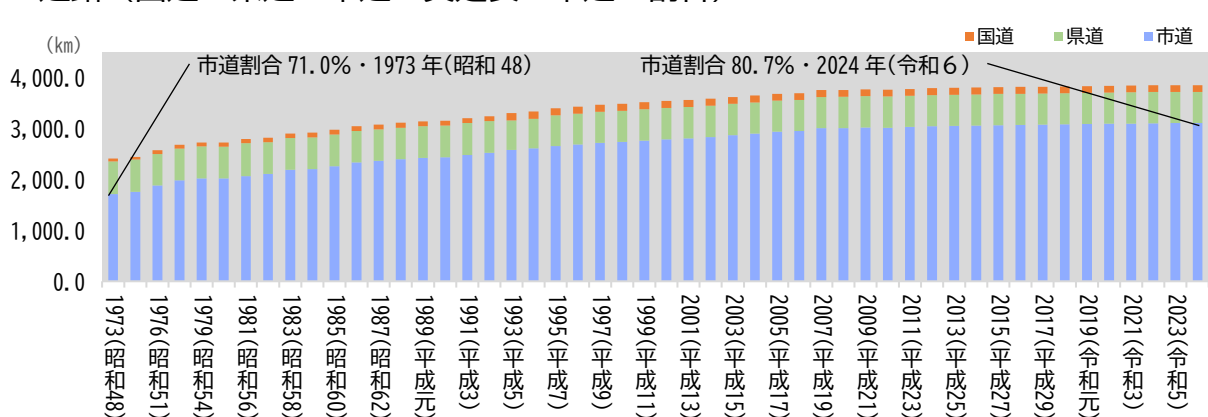
3 社会インフラ

本市の社会インフラ（道路・公園・上下水道）の状況について示します。本計画の目標年である2045（令和27）年と同規模の人口である1970（昭和45）年頃の各社会インフラと比較すると、道路（市道）は約1.8倍で道路全体に占める市道の割合は約8割まで高まっていることがわかります。また、市道橋は約3.5倍、公園箇所数は約13倍、上水道の管路は約53倍、下水道の管路は約21倍の管理規模となっていることがわかります。

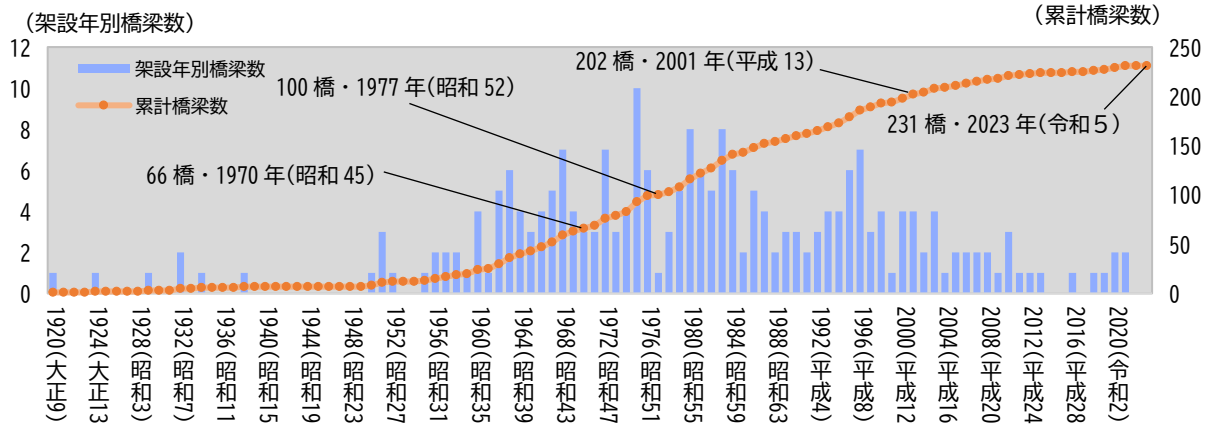
■道路（市道の実延長）



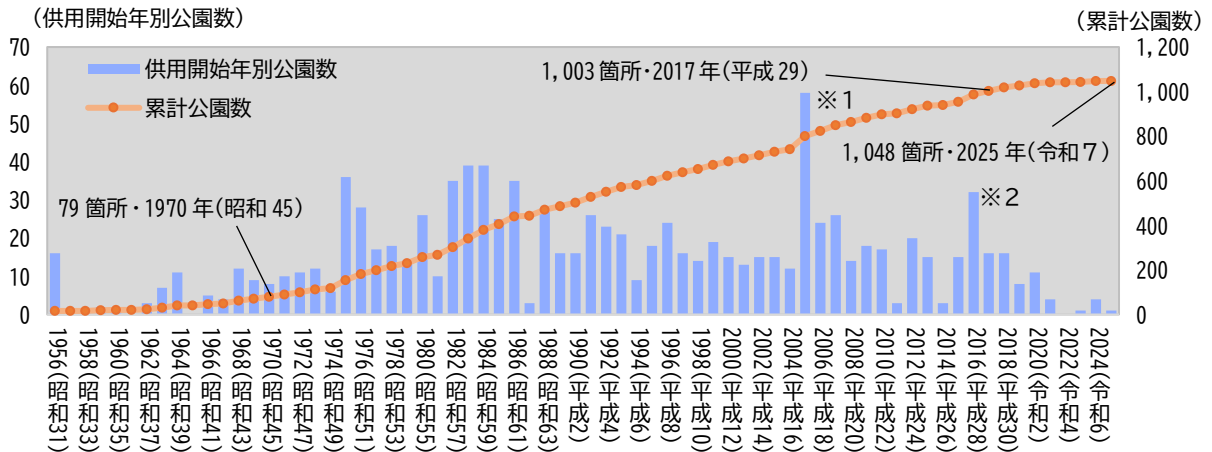
■道路（国道・県道・市道の実延長と市道の割合）



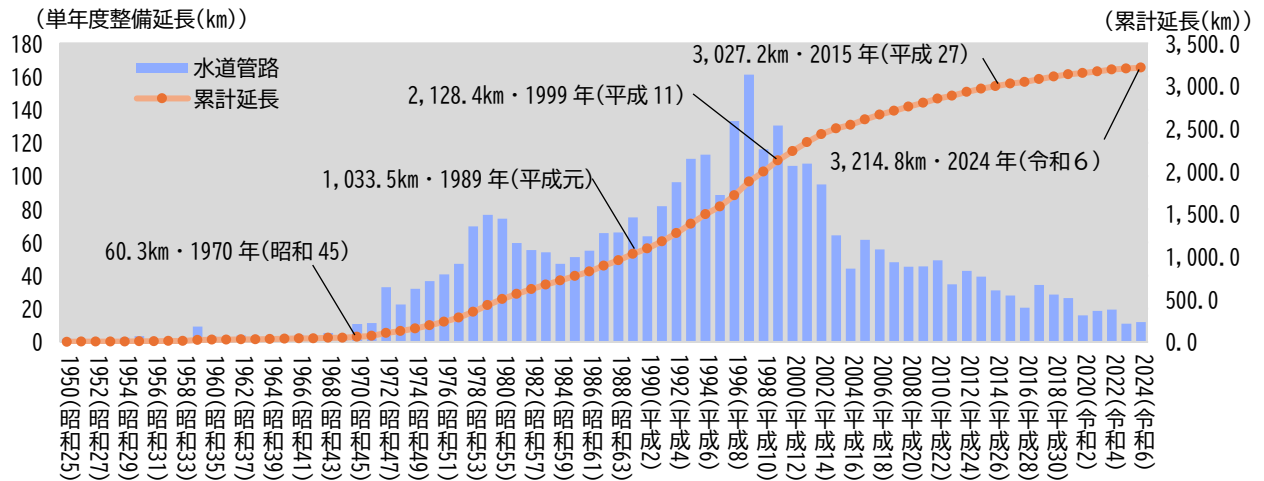
■橋梁（市道橋）※橋長15m以上の橋りょうで架設年が明らかな231橋（令和7年）



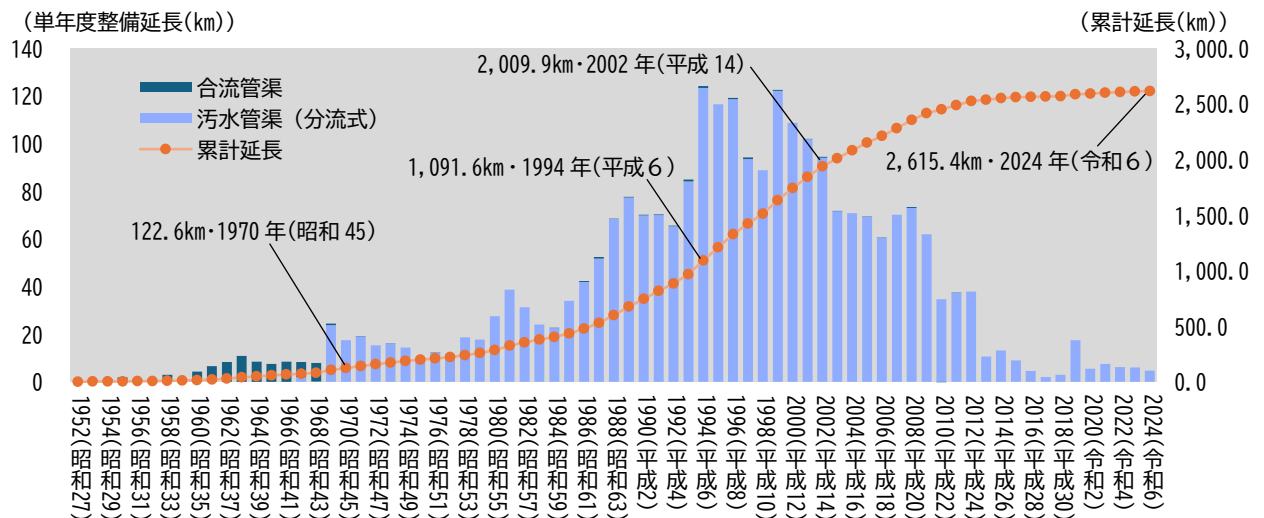
■公園（市管理）



■水道

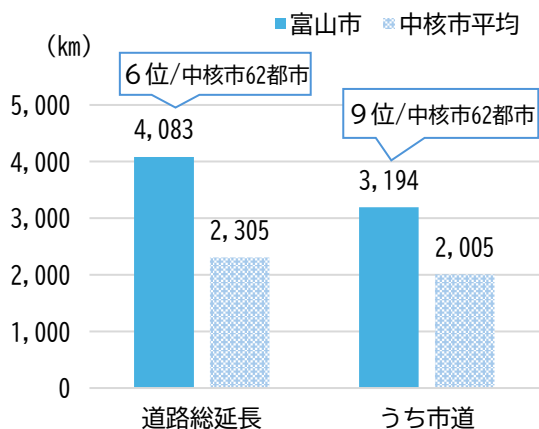


■下水道（污水管きよ）

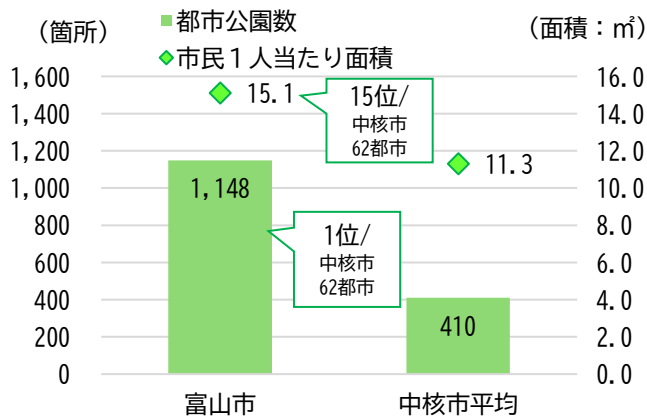


社会インフラ規模の中核市平均との比較について示します。道路は、国道・県道・市道の合計延長の規模は中核市の中で6位、市道延長の規模は中核市の中で9位となっています。公園の数は中核市の中で1位であり、市民1人当たり面積は15位となっています。

■道路の比較



■公園の比較

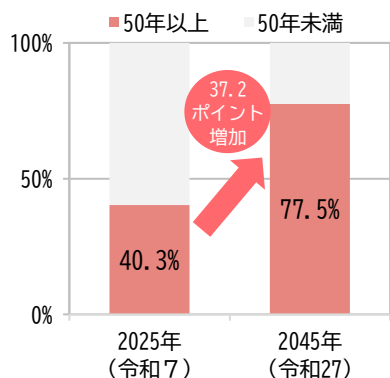


出典：都市要覧（令和7年度）と中核市市長会資料

2026（令和7）年と目標年となる2045（令和27）年での社会インフラの耐用年数を迎える割合の変化^{注）}について示します。

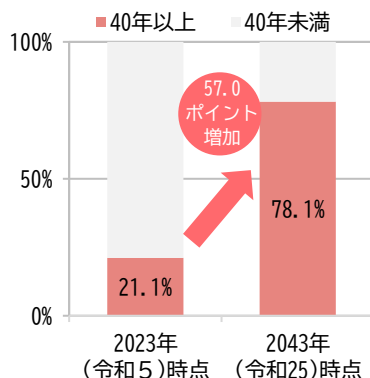
橋梁は今後20年で約8割が建設から50年を迎えます。水道管は今後20年で約8割が法定耐用年数の40年を迎えます。下水道管は今後20年で約4割が耐用年数の約50年を迎えます。どの社会インフラも多くが今後20年で大規模な老朽化対策（修繕や更新）が必要になるものと考えられます。

■建設から50年を迎える橋梁



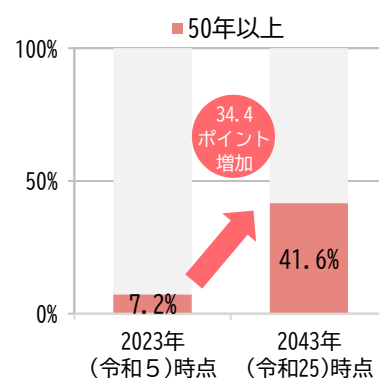
橋長15m以上の橋りょうで架設年が明らかな231橋(R7)

■法定耐用年数40年を迎える水道管



水道管延長3,214.8km(R6末時点)

■標準耐用年数約50年を迎える下水道管



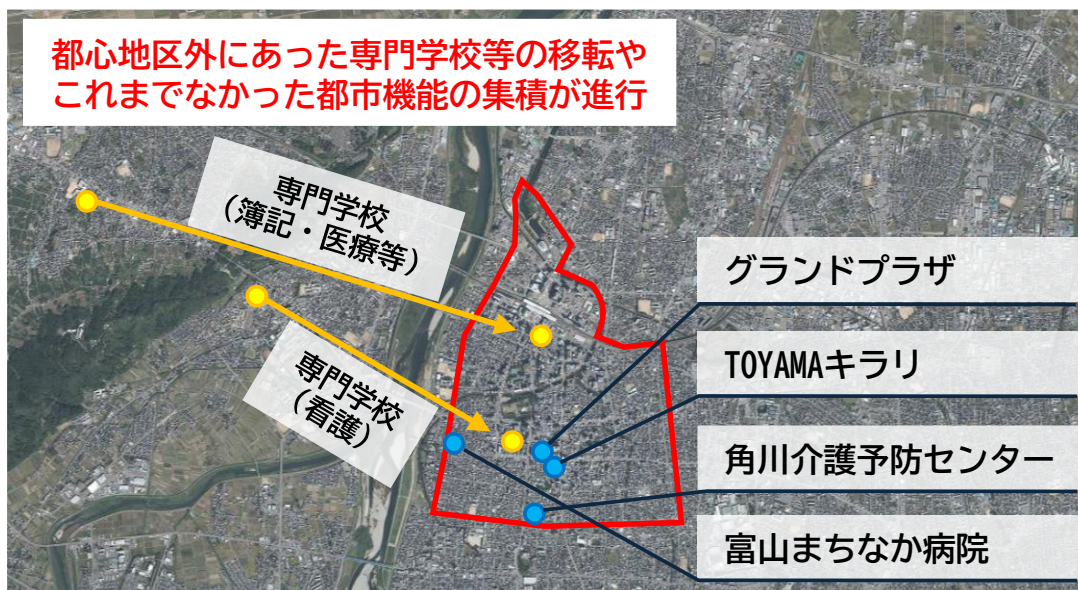
汚水管延長2,615.4km(R6末時点)

注)現時点の社会インフラの更新を行わなかった場合の試算

4 都市機能

都市機能の集積状況について示します。都心地区では、コンパクトなまちづくりの推進により、都心地区外にあった専門学校等の移転やこれまでになかった都市機能の集積が進行しました。また再開発などにより新たな商業施設が立地しました。

■都心地区における主な都市機能の集積



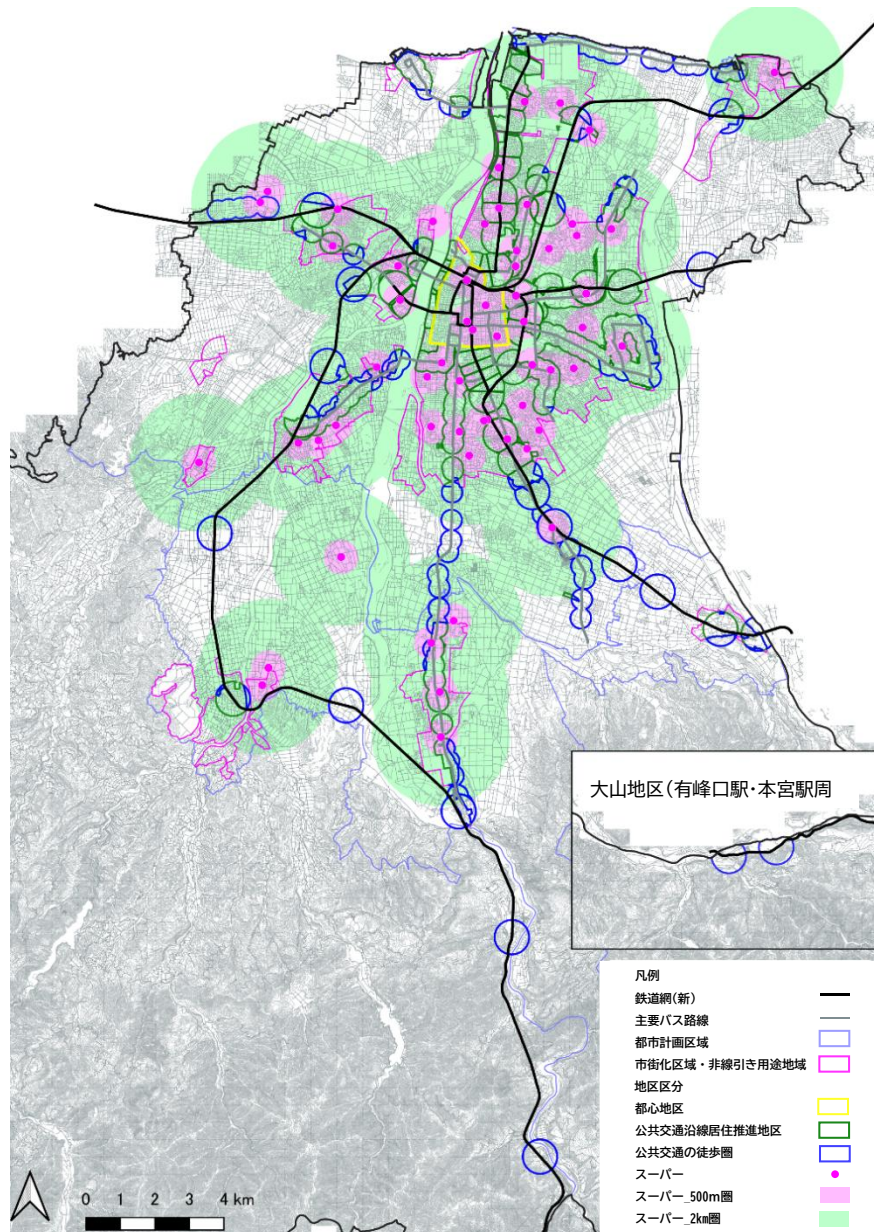
郊外部の地域生活拠点においても機能の更新が進みました。また、富山市立地適正化計画に基づく、「富山市都市機能立地促進事業補助金」による立地支援により、これまで買い物機能が不足していた拠点での立地が実現しました。

■郊外部の地域生活拠点における機能更新や買い物機能の立地



2023（令和5）年時点の商業機能（スーパー）の立地状況と住民基本台帳データより徒歩圏の人口、商圈の人口について示します。

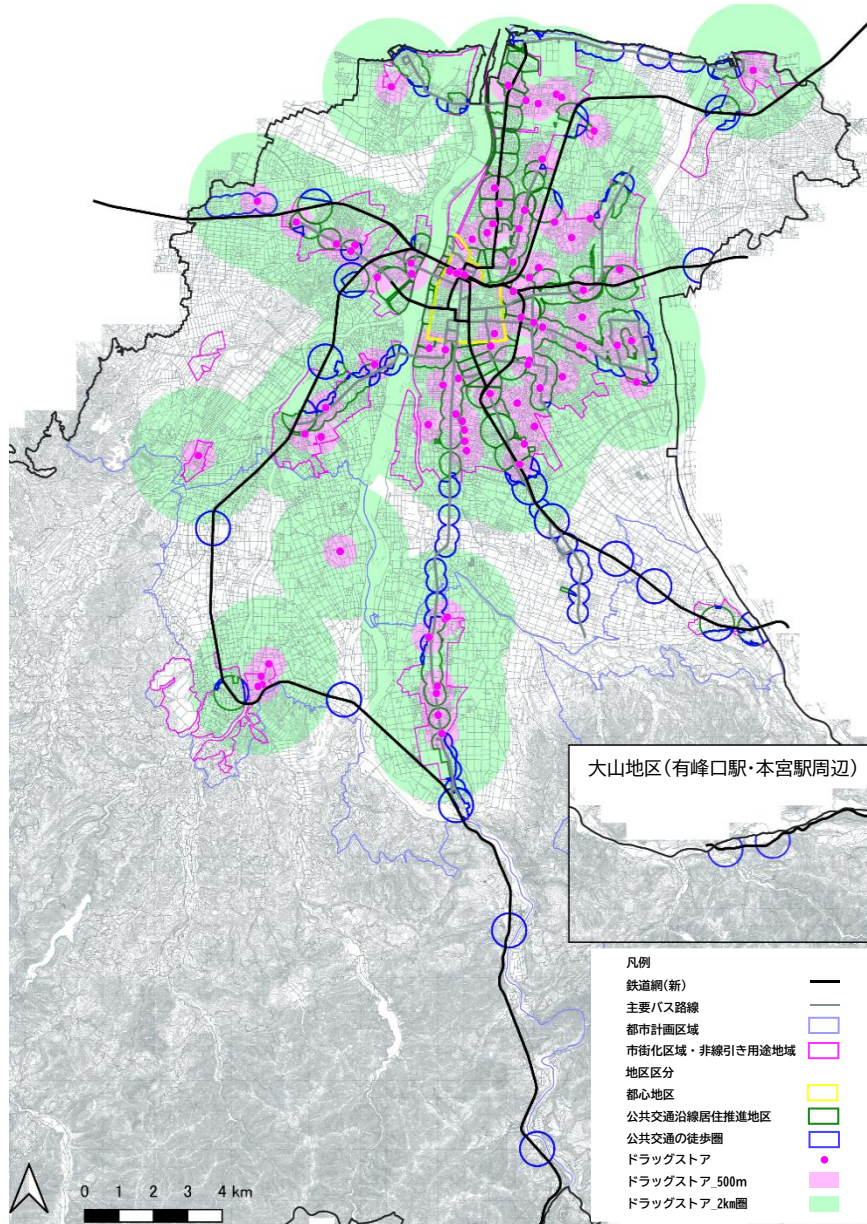
■商業機能(スーパー)の立地状況と圏域



- ▶ 立地総数（2023(令和5)年）
 - 全市：59 店舗（用途地域内：52 店舗・88%、用途地域外：7 店舗・12%）
 - 公共交通の徒歩圏：27 店舗・46%（うち公共交通の便利な圏域：25 店舗・42%）
- ▶ 機能の徒歩圏（500m）人口（2023(令和5)年）
 - 全市：33.5%（用途地域内：31.9%、用途地域外：1.5%）
 - 公共交通の徒歩圏：18.8%（同徒歩圏人口の約42%）
 - 公共交通の便利な圏域：18.2%（同地域人口の約45%）
- ▶ 商圈（2 km）の人口（2023(令和5)年）
 - 全市：87.1%（用途地域内：69.8%、用途地域外：17.3%）
 - 公共交通の徒歩圏：42.0%（同徒歩圏人口の約95%）
 - 公共交通の便利な圏域：39.0%（同地域人口の約98%）

2023（令和5）年時点の商業機能（ドラッグストア：インターネット検索等より抽出）の立地状況と住民基本台帳データより徒歩圏の人口、商圈の人口について示します。

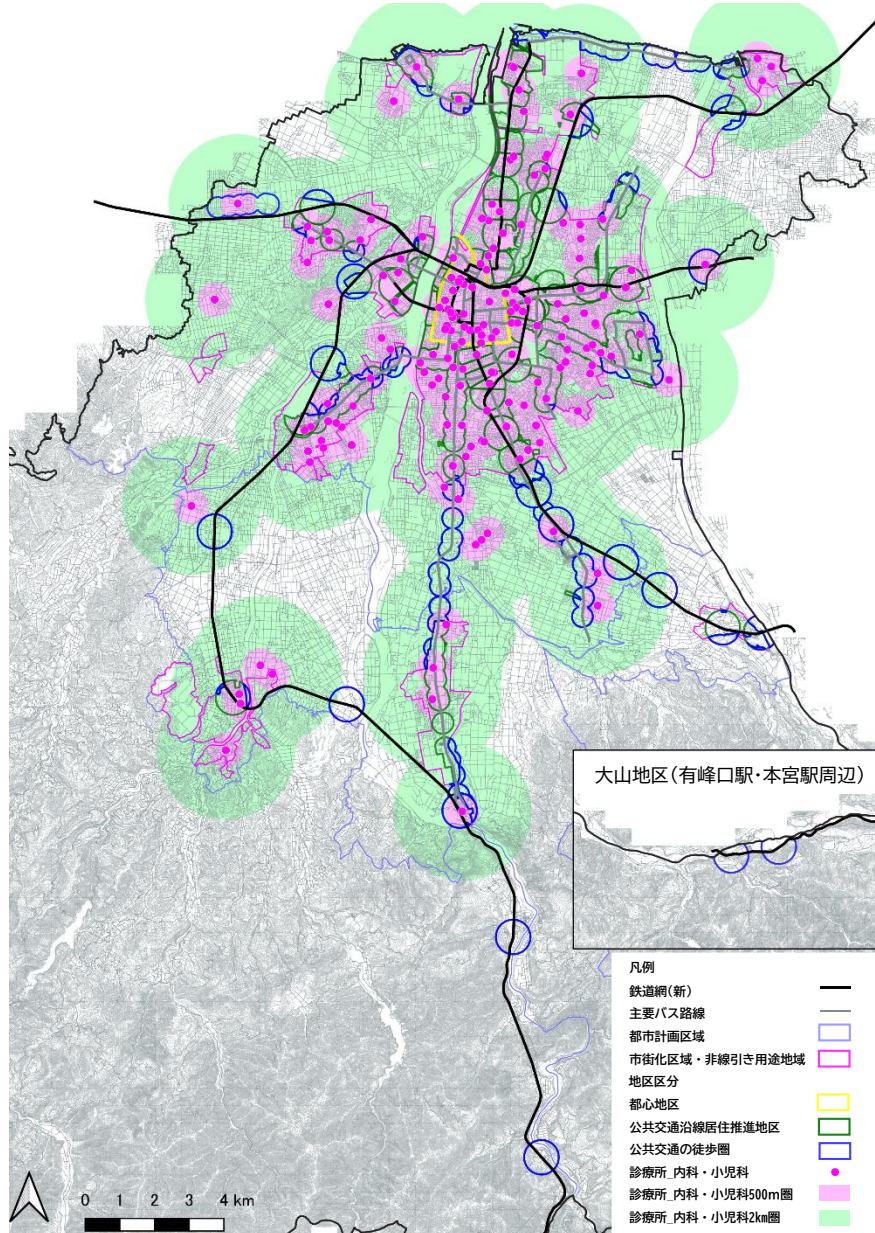
■商業機能(ドラッグストア)の立地状況と圏域



- ▶ 立地総数（2023(令和5)年）
 - 全市：84 店舗（用途地域内：80 店舗・95%、用途地域外：4 店舗・5%）
 - 公共交通の徒歩圏：47 店舗（うち公共交通の便利な圏域：46 店舗）
- ▶ 機能の徒歩圏（500m）人口（2023(令和5)年）
 - 全市：39.2%（用途地域内：37.2%、用途地域外：2.0%）
 - 公共交通の徒歩圏：23.2%（同徒歩圏人口の約 52%）
 - 公共交通の便利な圏域：22.4%（同地域人口の約 56%）
- ▶ 商圈（2 km）の人口（2023(令和5)年）
 - 全市：88.1%（用途地域内：71.0%、用途地域外：17.1%）
 - 公共交通の徒歩圏：42.2%（同徒歩圏人口の 95%）
 - 公共交通の便利な圏域：39.6%（同地域の約 99%）

2023（令和5）年時点の医療機能（内科・小児科：「とやま医療情報ガイド」より抽出）の立地状況と住民基本台帳データより徒歩圏の人口について示します。

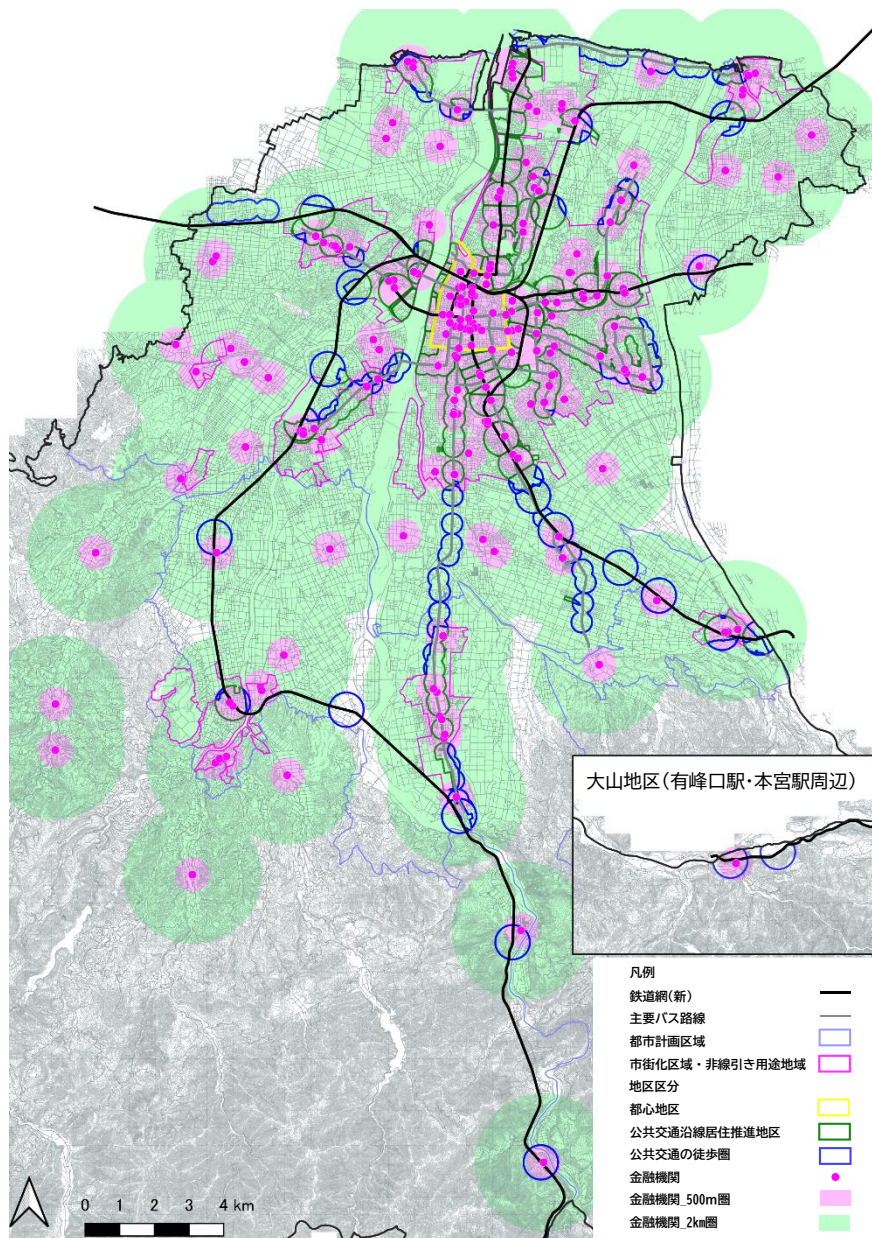
■医療機能の立地状況と圏域



- ▶ 立地総数（2023(令和5)年）
 - 全市：178 施設（用途地域内：152 施設・85%、用途地域外：26 施設・15%）
 - 公共交通の徒歩圏：115 施設・65%（うち公共交通の便利な圏域：107 施設・60%）
- ▶ 機能の徒歩圏（500m）人口（2023(令和5)年）
 - 全市：58.0%（用途地域内：52.6%、用途地域外：5.4%）
 - 公共交通の徒歩圏：33.2%（同徒歩圏人口の75%）
 - 公共交通の便利な地域：31.6%（同地域人口の79%）

2023（令和5）年時点の金融機能（銀行、郵便局、JAなど：「iタウンページ」より抽出）の立地状況と住民基本台帳データより徒歩圏の人口について示します。

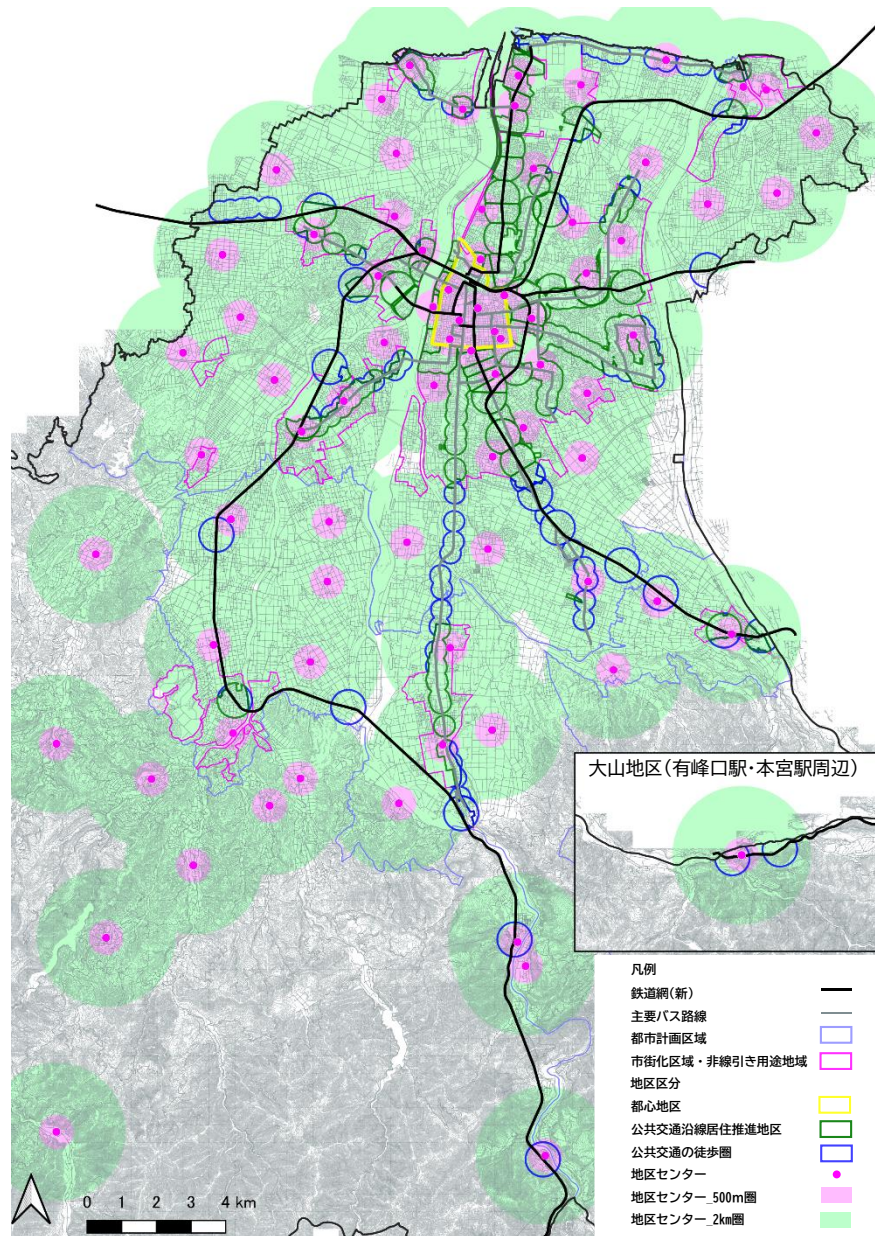
■金融機能の立地状況と圏域



- ▶ 立地総数（2023(令和5)年）
 - 全市：236 店舗(用途地域内：197 店舗・83%、用途地域外：39 店舗・17%)
 - 公共交通の徒歩圏：171 店舗・72%（うち公共交通の便利な圏域：163 店舗・69%）
- ▶ 機能の徒歩圏（500m）人口（2023(令和5)年）
 - 全市：52.8%（用途地域内：46.2%、用途地域外：6.7%）
 - 公共交通の徒歩圏：33.1%（同徒歩圏人口の75%）
 - 公共交通の便利な地域：31.5%（同地域人口の79%）

2023（令和5）年時点の行政サービス機能（庁舎、地区センター）の立地状況と住民基本台帳データより徒歩圏の人口について示します。

■行政サービス機能の立地状況と圏域

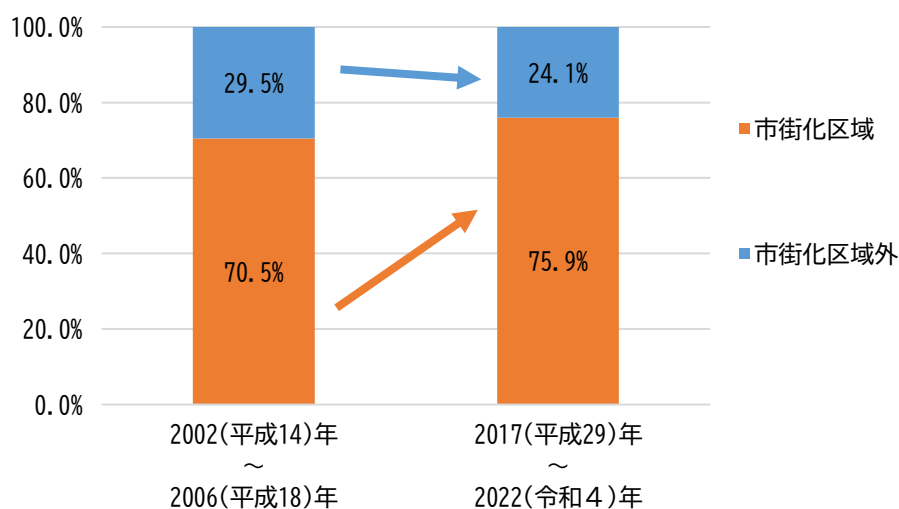


- ▶ 立地総数（2023(令和5)年）
 - 全市：79 箇所(用途地域内：38 箇所・48%、用途地域外：41 箇所・52%)
 - 公共交通の徒歩圏：31 箇所・39%（うち公共交通の便利な圏域：25 箇所・32%）
- ▶ 機能の徒歩圏（500m）人口（2023(令和5)年）
 - 全市：30.8%（用途地域内：26.0%、用途地域外：4.7%）
 - 公共交通の徒歩圏：17.1%（同徒歩圏人口の39%）
 - 公共交通の便利な地域：16.3%（同地域人口の41%）
- ▶ 施設圏域（2 km）の人口（2023(令和5)年）
 - 全市：98.9%（用途地域内：72.2%、用途地域外：26.8%）
 - 公共交通の徒歩圏：44.1%（同徒歩圏人口の100%）
 - 公共交通の便利な地域：40.0%（同地域人口の100%）

5 開発の動向と余地

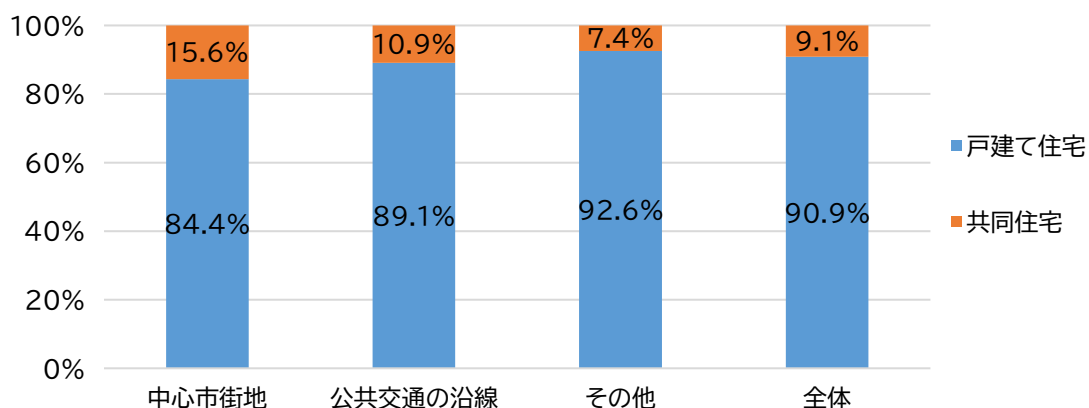
開発の動向として、コンパクトなまちづくりの前（2002（平成14）年～2006（平成18）年）後（2017（平成29）年～2022（令和4）年）における市街化区域内外別での開発面積割合の変化を示します。このグラフから、市街化区域内での開発の割合が増えていることがわかります。

■市街化区域内外別での開発面積割合の変化



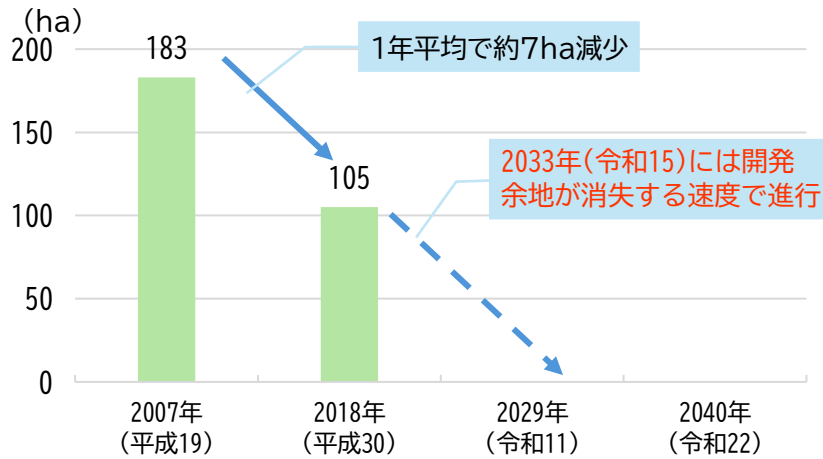
住宅供給の動向として近年（2018（平成30）年～2022（令和4）年）の新築住宅の種類別での着工件数割合を示します。このグラフから、中心市街地では他の地域に比べ、共同住宅の割合が高いことがわかります。

■新築住宅の種類別での着工件数割合



公共交通の沿線にあり開発余地となっているまとまった農地（3,000 m²以上）の推移を示します。このグラフから、年間で約7ha減少しており、2033（令和15）年には、開発余地が消滅する速度で公共交通の沿線の土地利用が進んでいることがわかります。

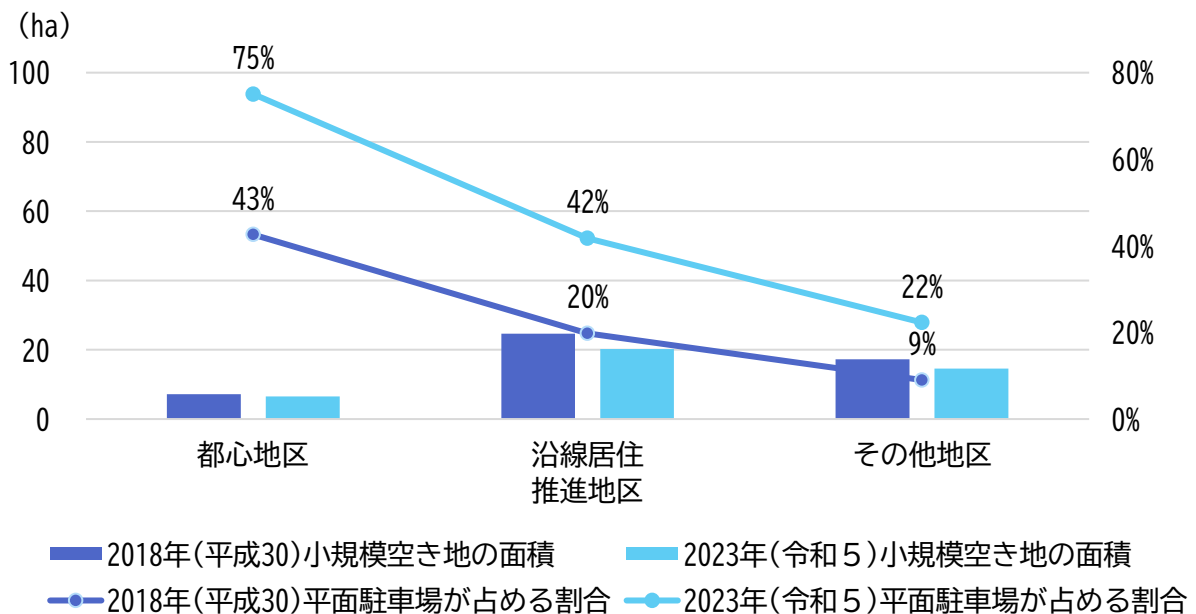
■公共交通の沿線にあるまとまった農地(3,000 m²以上)の推移



出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

既成市街地に残る一般的な宅地規模（200 m²未満）の低未利用地の変化を示します。このグラフから、既成市街地の中には小規模な空き地が多く残されたままとなり、その多くが住宅として使われず、平面駐車場に転換する傾向にあることがわかります。

■低未利用地の変化(200 m²未満)

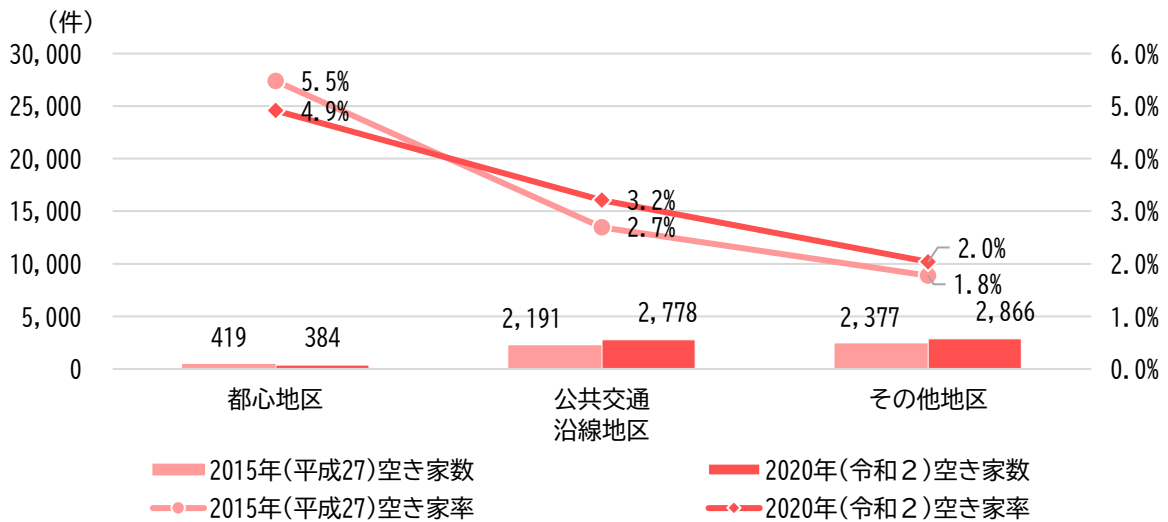


出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

6 空き家や空き地

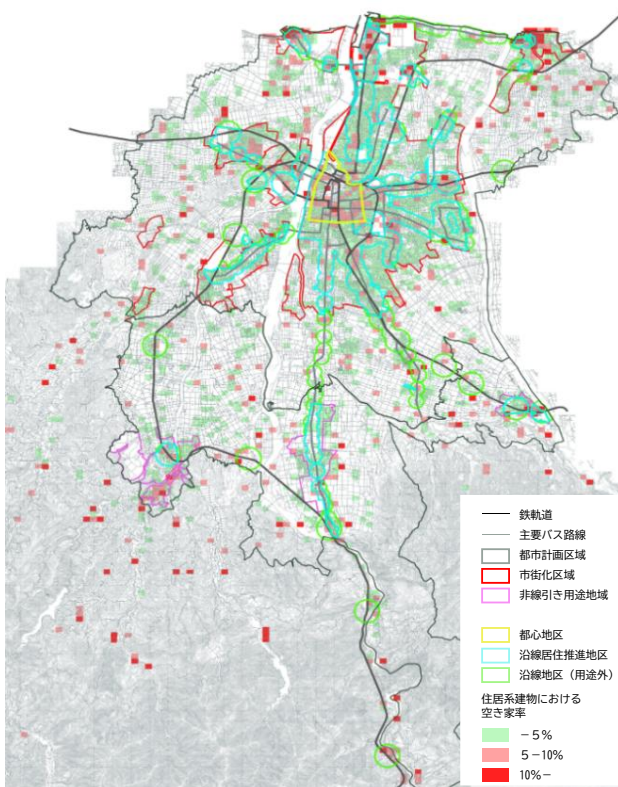
空き家の変化と空き家率の状況を示します。また、将来空き家となる可能性がある単身高齢者世帯の分布を示します。

■空き家の変化

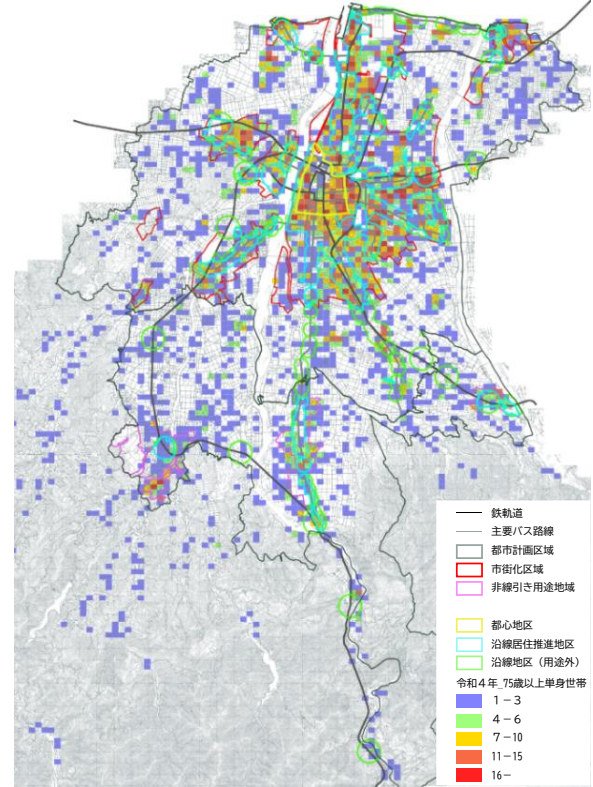


出典：富山市空き家調査（平成27年、令和2年）※空き家に建物利用現況を重ね合わせた住居系用途のみ対象に集計

■空き家率の状況



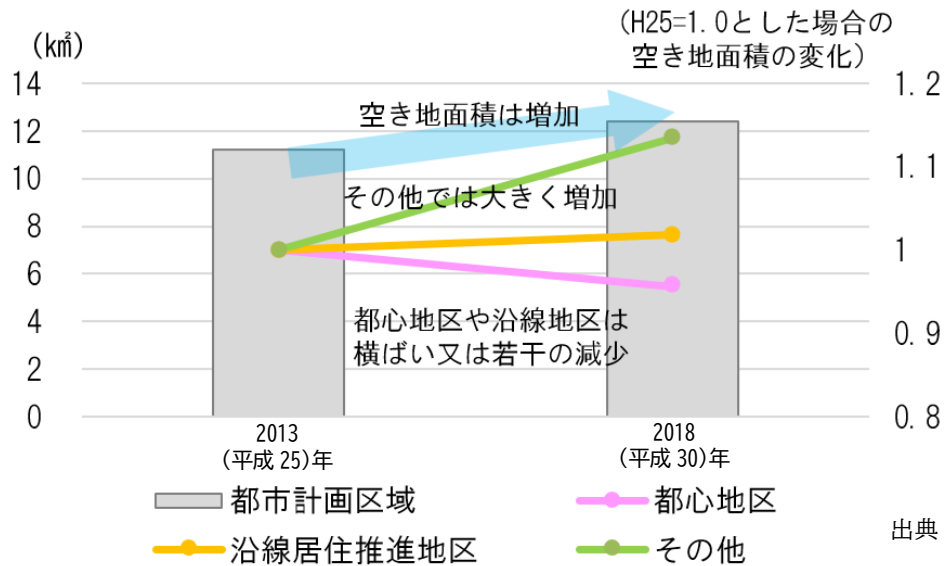
■75歳以上高齢者（独居）の現状分布



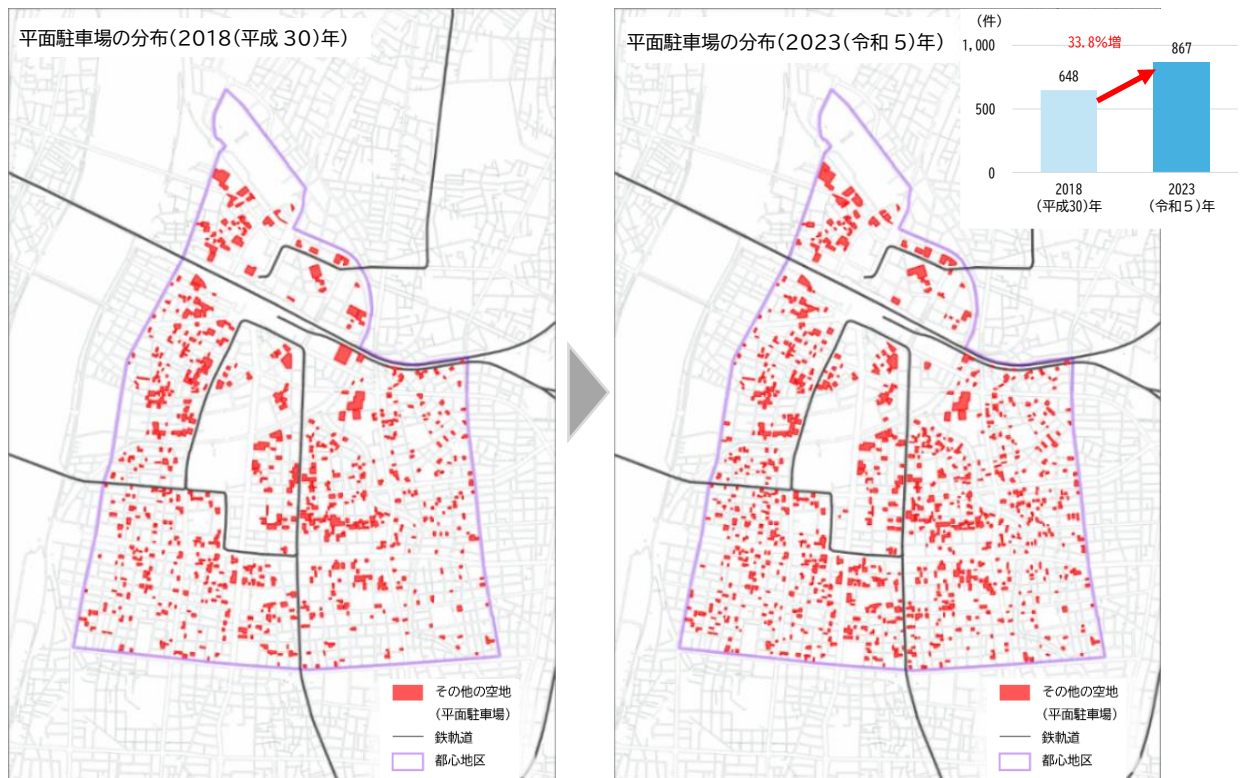
出典：スマートシティの実現に向けた都市的指標調査（令和4年）

低未利用地（空き地や平面駐車場）の変化や都心地区の平面駐車場の変化について示します。都心地区や沿線居住推進地区以外では、低未利用地の面積が大きく増加していることが分かります。また、都心地区において平面駐車場の件数が増加していることが分かります。

■低未利用地の変化



■都心地区における平面駐車場の分布の変化



Ⅲ 都市経営

1 産業の現状

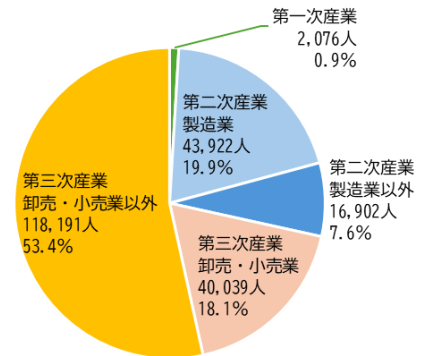
市内総生産の産業別構成比、産業別従事者数の割合を示します。この表やグラフから、第二次産業は総生産の3割以上と全国構成比よりも多い傾向にあり、第三次産業は総生産の約6割を占めていることがわかります。

■市内総生産（名目）の産業別構成比（2021年度）

産業分類	金額（千円）	構成比	全国構成比
第一次産業	8,318,717	0.4%	0.9%
第二次産業	763,757,620	34.7%	27.1%
（うち製造業）	632,860,916	28.8%	21.5%
第三次産業	1,426,652,601	64.9%	72.0%
計（市内総生産）	2,198,728,938	—	—

出典：富山市資料、県民経済計算（富山県）

■産業別従事者数の割合



出典：経済センサス活動調査（令和3年）

経済に関する指標について、中核市（62市）における比較を示します。この表から、本市は「地域経済循環率は中核市の中でも上位に位置し、2011年度に比べて上昇」「中核市の中でも工業系用途地域を広く設定している」「本市の地域経済の重要な役割を担う第二次産業の付加価値額は、増加しているものの、順位に大きな変化はない」「卸売業、小売業の付加価値額は増加し、中核市でも上位に変化」「第三次産業となる各種サービス業の付加価値額が増加し、中核市でも上位に大きく変化した分野もある」ことがわかります。

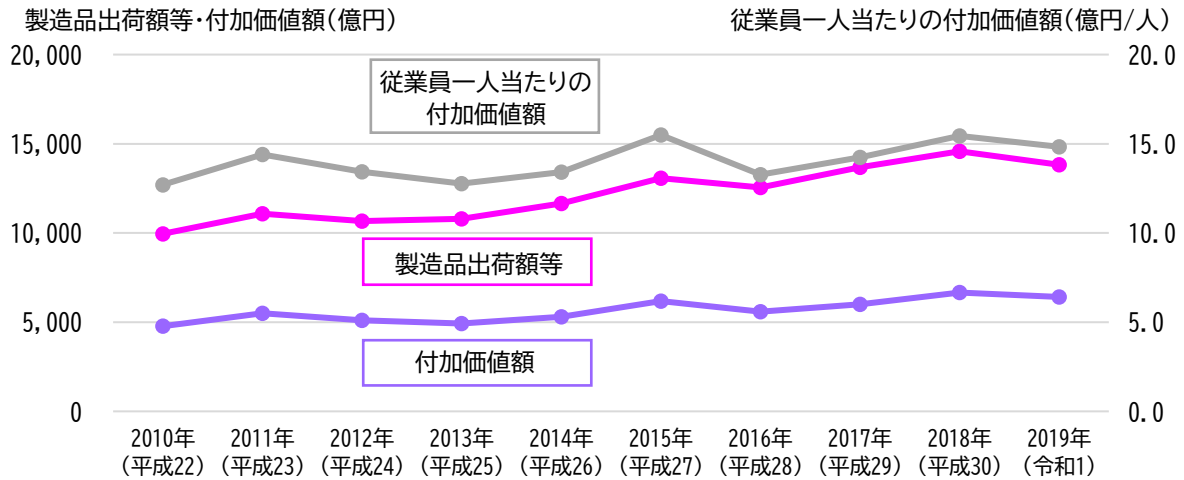
■指標の中核市比較：地域経済に関する指標

	富山市							中核市平均 (実数)		
	実数			中核市における偏差値		中核市における順位		2011	直近の データ年次	
	2011	直近の データ年次	増減等	直近の データ年次	偏差値の 2011時点から の増減値	直近の データ年次	2011時点 からの順 位の変化			
地域経済循環率【%】	106.2	108.8	➡	57.5	0.7	8位	4位↑	99.50	99.70	
工業系用途地域面積割合【%】	28.4	28.5	➡	57.7	0.0	8位	変化なし	22.50	22.60	
付 加 価 値 額 【 百 万 円 】 の 一 人 当 た り の 額	建設業	4.5	5.9	➡	57.3	▲3.2	9位	3位↓	3.91	5.34
	製造業	5.3	6.8	➡	53.8	▲2.6	8位	2位↑	4.55	5.94
	電気・ガス・熱供給・水道業	16.1	23.0	↑	57.6	0.3	9位	1位↑	11.30	18.18
	情報通信業	5.6	7.0	➡	49.4	4.2	17位	14位↑	6.38	7.12
	運輸業、郵便業	5.4	4.3	➡	43.8	▲28.1	28位	26位↓	3.94	4.77
	卸売業、小売業	4.0	5.4	➡	59.1	3.6	8位	6位↑	3.75	4.63
	金融業、保険業	9.0	9.7	➡	49.0	0.8	20位	1位↑	9.31	9.86
	不動産業、物品賃貸業	5.1	6.0	➡	73.8	9.9	1位	2位↑	4.09	4.61
	学術研究、専門・技術サービス業	5.5	7.6	➡	66.0	9.0	3位	2位↑	4.46	5.38
	宿泊業、飲食サービス業	1.6	2.5	➡	74.2	7.8	2位	1位↑	1.35	1.75
	生活関連サービス業、娯楽業	3.1	4.9	➡	74.3	10.1	2位	3位↑	2.42	2.75
	教育、学習支援業	2.9	3.8	➡	54.1	7.7	9位	17位↑	3.08	3.50
	医療、福祉	4.2	4.3	➡	60.8	7.3	4位	10位↑	4.01	3.90
複合サービス事業	4.44	4.96	➡	50.2	▲1.1	18位	5位↓	4.29	4.93	

出典：経済センサス及び RESAS（地域経済分析システム）

製造業における製造品出荷額などと付加価値額の推移を示します。

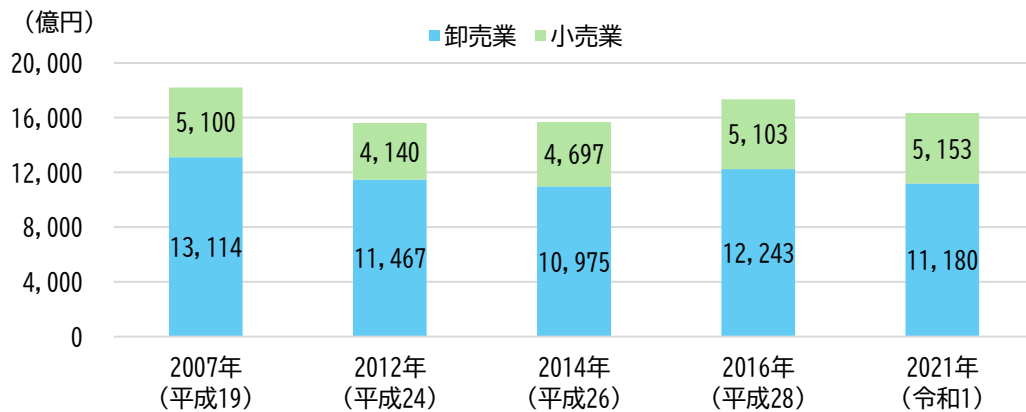
■製造業における製造品出荷額と付加価値額の推移



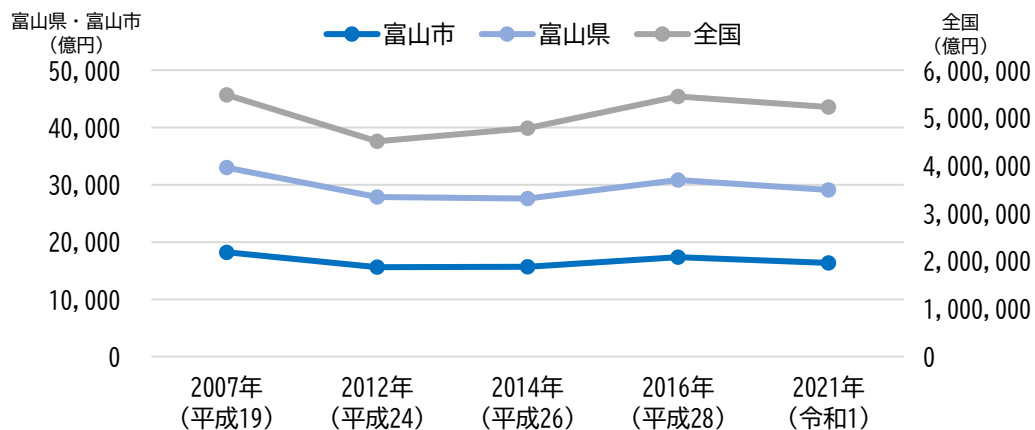
出典：工業統計調査及び経済センサス

卸売・小売業別の年間商品販売額の本市の推移と県や全国との比較を示します。

■卸売・小売業別の年間商品販売額の推移（富山市）



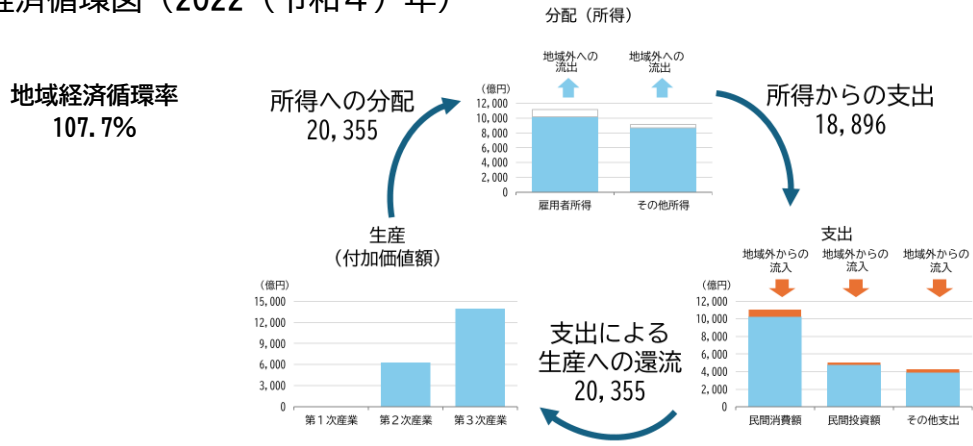
■卸売・小売業別の年間商品販売額の推移の比較（全国・富山県・富山市）



出典：商業統計調査及び経済センサス

生産・分配・支出の関係を示す地域経済循環率を示します。本市の経済は地域経済循環率が100%を超え、地域外から消費、投資を獲得できていると考えられます。

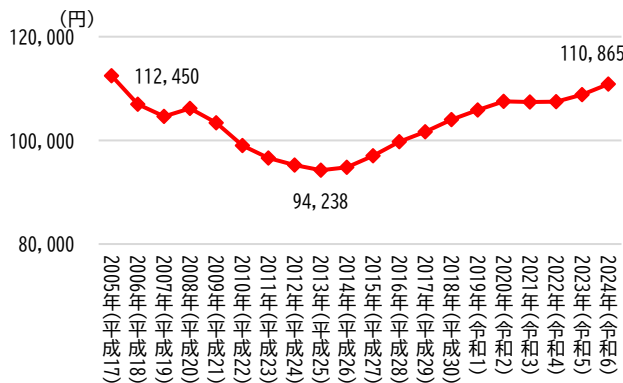
■地域経済循環図（2022（令和4）年）



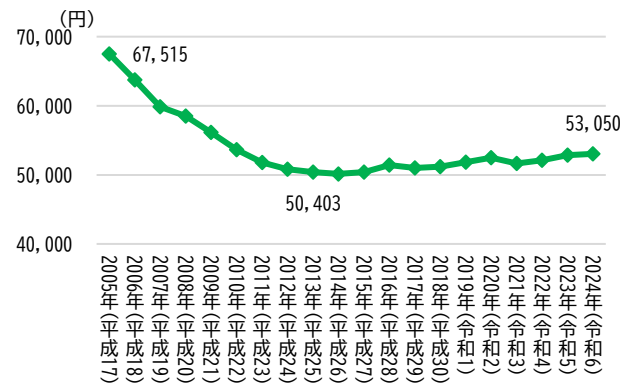
2 地価の現状

都心地区と居住誘導区域（前計画における沿線居住推進地区）の平均地価（工業系用途以外で連続調査が行われた地点の平均）の推移と2005（平成17）年比の推移を示します。

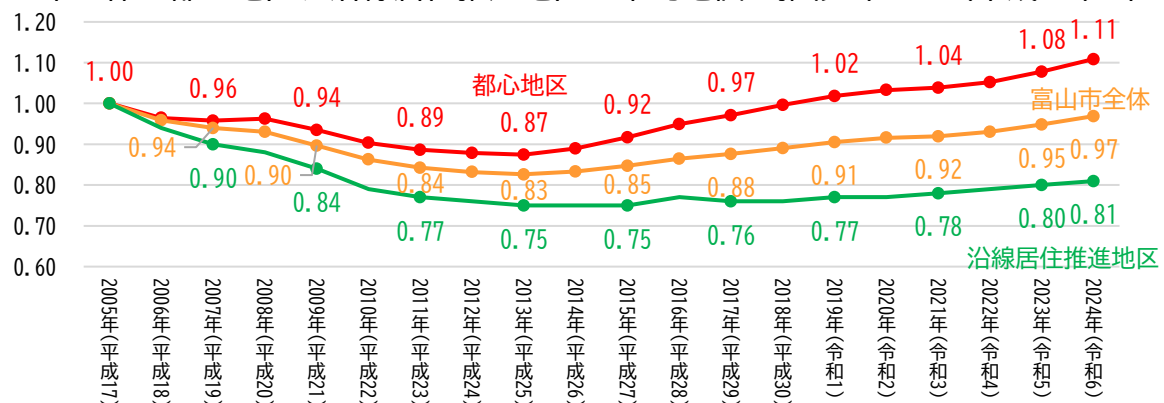
■都心地区の平均地価の推移



■居住誘導区域の平均地価の推移



■市全体と都心地区、沿線居住推進地区の平均地価の推移（2005（平成17）年比）



出典：地価公示

3 財政の現状・見込み

2012（平成24）年以降の固定資産税と都市計画税の推移を示します。

■固定資産税・都市計画税の推移

都心地区（中心市街地）

（単位：千円）

	固定資産税	都市計画税	合計
平成24年度	4,782,978	920,163	5,703,141
平成25年度	4,817,768	926,070	5,743,838
平成26年度	4,839,661	929,845	5,769,506
平成27年度	4,774,427	918,832	5,693,259
平成28年度	4,873,546	1,123,964	5,997,510
平成29年度	4,949,822	1,140,571	6,090,393
平成30年度	4,927,487	1,137,301	6,064,788
平成31年度	5,006,811	1,155,561	6,162,372
令和2年度	5,130,253	1,182,727	6,312,980
令和3年度 ※2)	4,880,926	1,128,938	6,009,864
令和4年度	5,185,915	1,197,418	6,383,333
令和5年度	5,337,894	1,231,440	6,569,334
令和6年度	5,355,316	1,237,445	6,592,761
令和7年度	5,432,259	1,255,033	6,687,292
差し引き (R7-H24)	559,281	334,870	984,151
率 (%) (R7/H24)	113.5%	136.3%	117.2%

（※1）4月当初の課税標準額に税率を掛け算出した額（免税点未滿や減免等を含む）

市域全体

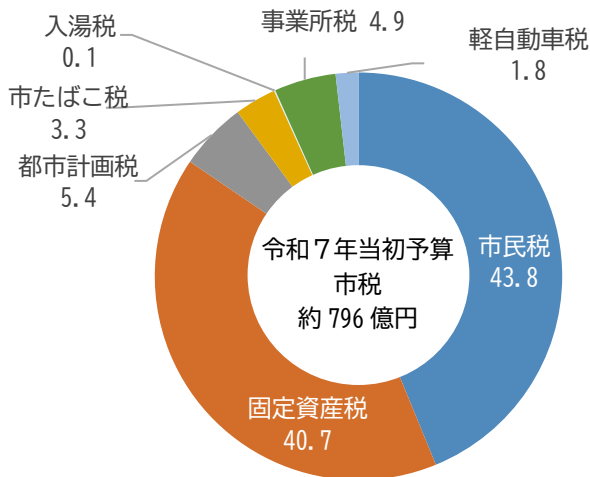
（単位：千円）

	固定資産税 (償却資産含む)	都市計画税	合計
平成24年度	28,728,653	3,165,910	31,894,563
平成25年度	29,003,963	3,198,231	32,202,194
平成26年度	29,317,127	3,244,354	32,561,481
平成27年度	29,069,634	3,206,402	32,276,036
平成28年度	30,048,113	3,913,318	33,961,431
平成29年度	31,012,591	3,981,281	34,993,872
平成30年度	31,056,581	3,961,534	35,018,115
平成31年度	31,537,809	4,033,186	35,570,995
令和2年度	31,885,590	4,116,466	36,002,056
令和3年度 ※2)	31,375,152	4,068,484	35,443,636
令和4年度	31,860,561	4,150,588	36,011,149
令和5年度	32,363,791	4,244,087	36,607,878
令和6年度	32,349,920	4,246,317	36,596,237
令和7年度	33,000,396	4,307,267	37,307,663
差し引き (R7-H24)	4,271,743	1,141,357	5,413,100
率 (%) (R7/H24)	114.8%	136.0%	116.9%

（※2）新型コロナウイルス感染症緊急経済対策(中小事業者等に対する軽減措置)適用後の額

本市の財政的な特徴である「税の還流」を示すエリア別での税収の内訳と地域別でみた税収及び投資的経費の内訳を示します。

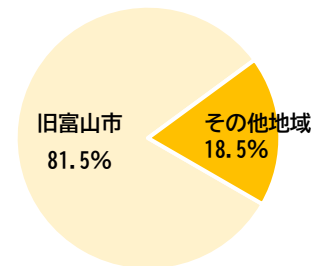
■市税の内訳及びエリア別でみた 固定資産税・都市計画税の内訳



エリア	面積比	固定資産税 + 都市計画税
市街化区域	5.8%	76.1%
うち中心市街地	0.4%	22.8%
上記以外	94.2%	23.9%

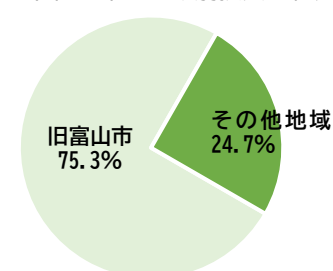
■地域別でみた税収及び 投資的経費の内訳

<平成25～令和6年の地域別税収（推計）>



（※）市外法人所有の償却資産やたばこ税など、地域が定まらない税収は除外して積算

<平成17～令和5年の地域別投資的経費（推計）>



（※）広域事業などは除外して積算

財政に関する指標について、中核市（62市）での比較を示します。この表から、本市は「1人あたりの税収は増加し、中核市の中でも上位を保持」「1人あたりの民生費や扶助費は低位で推移」「経常収支比率は中核市の中でも中位で推移」していることがわかります。一方、「1人あたりの普通建設事業費や投資的経費は増加傾向で中核市の中でも上位で推移」していることがわかります。

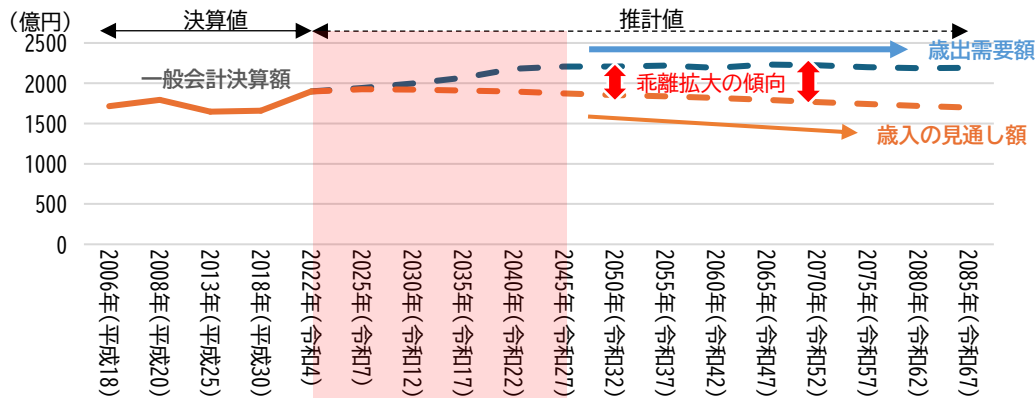
■指標の中核市比較：財政に関する指標

		富山市									中核市平均 (実数)	
		実数			偏差値			順位			2010	2021
		2010	2021	増減等	2010	2021	増減等	2010	2021	増減等		
歳入 (千円)	1人あたり歳入額	398.2	483.9	↑	49.7	44.3	↓	18位	31位	↓	399.7	514
	1人あたり地方税額	163.6	180.0	↑	59.7	63.1	↑	9位	4位	↑	143.2	153
	1人あたり個人市民税	51.6	59.9	↑	57.2	58.4	↑	10位	8位	↑	47.0	54
	1人あたり法人市民税	18.3	17.7	→	65.8	70.8	↑	3位	1位	↑	13.3	12
	1人あたり固定資産税	70.7	74.1	↑	56.9	60.0	↑	9位	7位	↑	63.9	64
歳出 (千円)	1人あたり歳出額	390.2	470.6	↑	50.2	45.4	↓	18位	28位	↓	389.2	494
	1人あたり民生費	164.7	167.0	→	38.3	37.9	→	39位	39位	→	196.9	203
	1人あたり土木費	59.8	60.7	→	59.6	58.8	↓	6位	9位	↓	48.0	49
	1人あたり教育費	67.8	68.8	→	68.0	68.4	→	4位	4位	→	47.5	49
	1人あたり維持補修費	5.9	8.1	→	56.5	54.9	↓	8位	9位	↓	4.4	6
	1人あたり扶助費	62.8	112.3	↑	38.9	38.4	↓	37位	37位	→	86.4	145
	1人あたり普通建設事業費	64.2	81.0	↑	54.8	65.6	↑	14位	5位	↑	55.5	54
	1人あたり投資的経費	64.5	81.2	↑	54.7	64.4	↑	14位	5位	↑	56.0	57
歳出 (%)	民生費割合	42.20	35.49	↓	37.1	38.1	↑	39位	39位	→	50.9	41.2
	土木費割合	15.33	12.89	→	57.8	61.0	↑	8位	6位	↑	12.5	10.1
	教育費割合	17.38	14.61	→	64.8	67.9	↑	5位	5位	→	12.4	10.0
	維持補修費割合	1.51	1.71	→	56.6	56.2	→	8位	9位	↓	1.1	1.2
	扶助費割合	16.10	23.86	↑	36.9	38.4	↑	37位	36位	↑	22.2	29.5
	普通建設事業費割合	16.46	17.21	→	56.0	67.7	↑	13位	4位	↑	14.2	11.1
	投資的経費割合	16.53	17.25	→	55.9	66.7	↑	14位	4位	↑	14.3	11.5
(%)	経常収支比率	87.10	86.70	→	48.4	46.4	↓	24位	25位	↓	87.7	87.9
—	財政力指数	0.79	0.81	→	52.3	53.5	↑	15位	13位	↑	0.7	0.8
(%)	実質公債費比率	13.40	7.50	↓	56.9	53.1	↓	7位	19位	↓	11.1	6.5

出典：市町村決算状況調

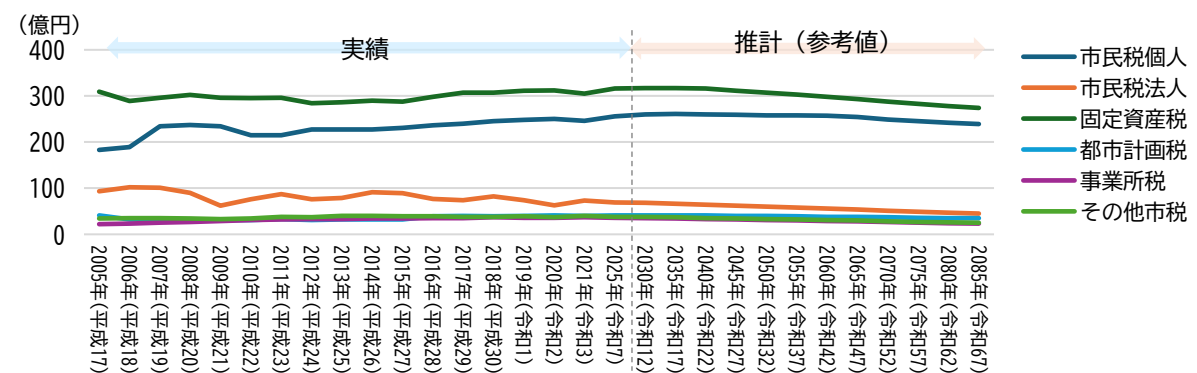
人口推計や高齢化などを踏まえた歳入（税収）と歳出需要額の見通しとその乖離状況を示します。ただし、歳出や歳入の傾向を把握するため、本計画策定において独自推計で算出した参考値であり、財政計画の根拠となる正式な推計ではありません。この推計結果から、歳出需要額に対し十分な歳入が確保できない懸念が考えられます。

■一般会計予算の推移予測

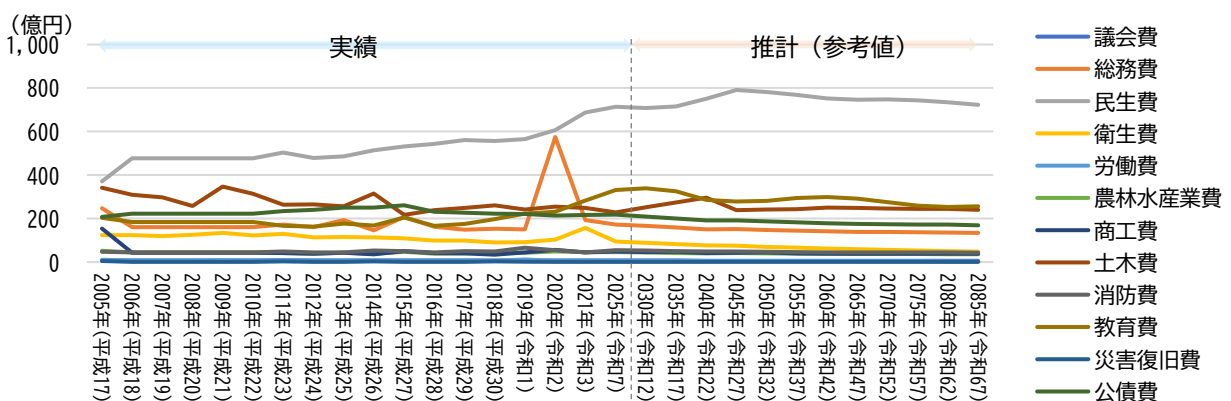


データ出典：2022年までは市町村別決算状況調、2025年以降は富山市都市計画課による独自推計結果であり、歳入や歳出の傾向を把握するための参考値（財政計画などの根拠となる正式な推計ではない）
 推計方法：＜歳入＞市税（市民税個人【15歳以上人口に比例、賃金構造を加味】、市民税法人・事業所税・その他市税【15歳以上人口×定数（15歳以上人口当たり直近3カ年平均）】、固定資産税・都市計画税【土地・家屋のみ、家屋は世帯数に比例】）、地方譲与税【直近3カ年平均一定】、地方交付税、その他交付金、分担金・負担金、使用料、手数料など（人口×定数）、国庫支出金【R3実績値一定】、都道府県支出金・その他収入【直3カ年平均一定】＜歳出＞議会費、総務費、農林水産業費、商工費、土木費、消防費、災害復旧費、公債費【直近3カ年平均一定。ただし、農林水産業費、商工費、土木費は修繕・更新費用の見通しを加味】、民生費【高齢化率に従う】、衛生費【人口×定数（人口当たり直近3カ年平均）】、労働費【15歳以上人口×定数（15歳以上人口当たり直近3カ年平均）】、教育費【年少人口割合に従

■人口減少の推移を踏まえた歳入（税収）の見通し



■高齢化や社会インフラの老朽化など踏まえた歳出需要額の見通し

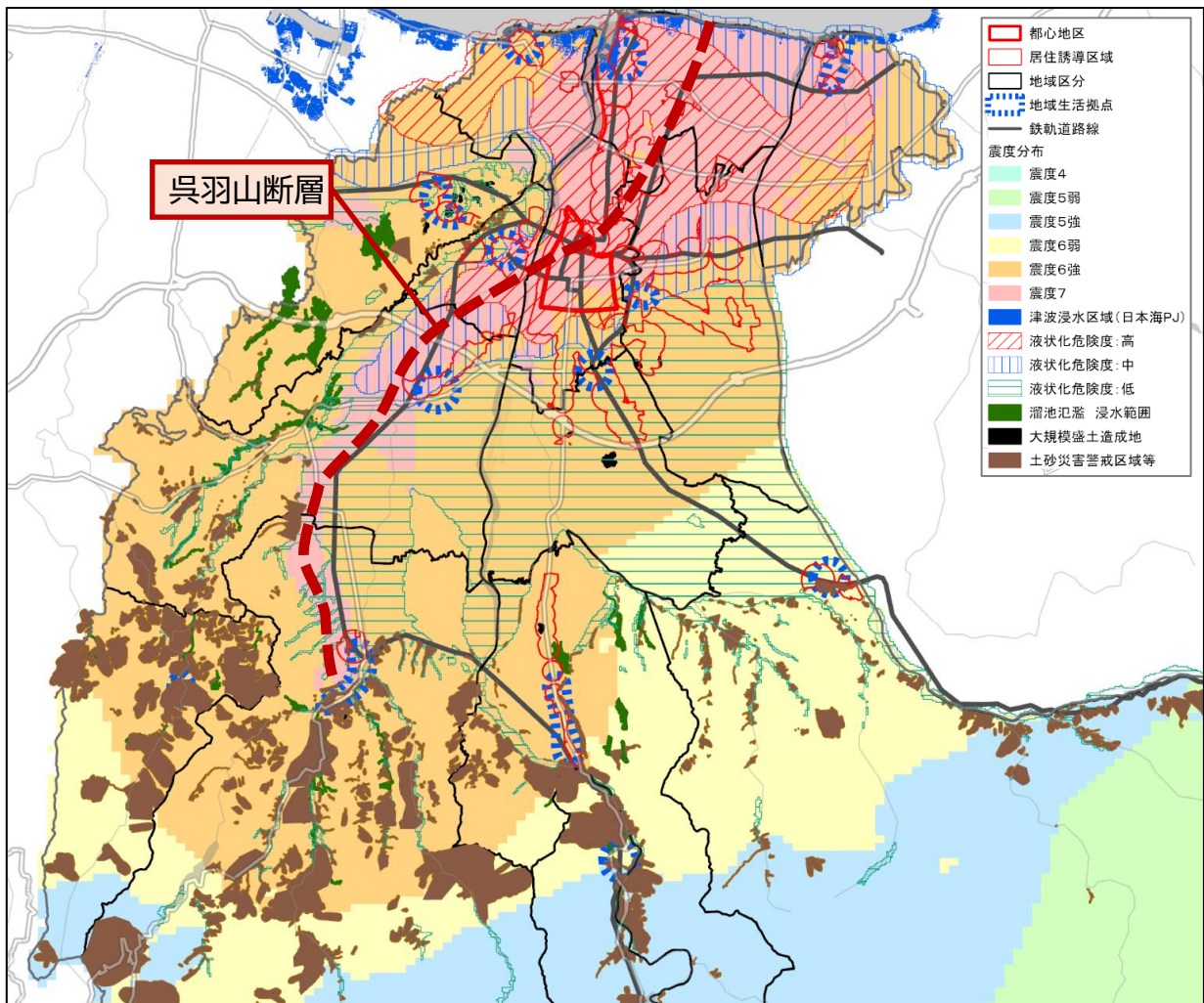


IV 災害リスク

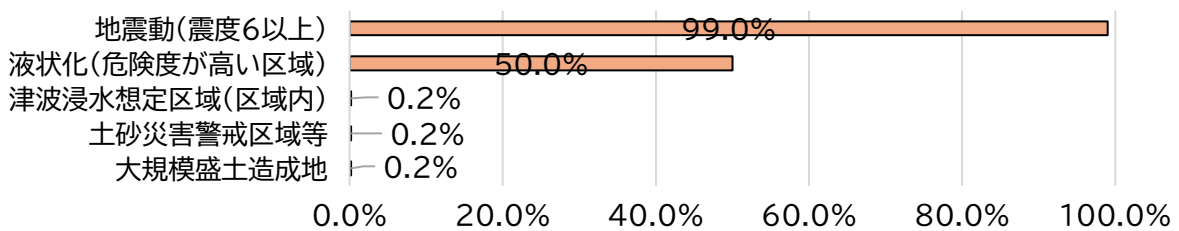
1 地震起因の災害リスク

地震起因の災害リスク（呉羽山断層による揺れ、液状化、津波、土砂災害、ため池氾濫）の分布を示します。平野部の全てで震度6以上の揺れが予測され、市民の99%が影響を受けるものと予想されます。また、液状化についても沿岸部を中心に危険度高となっており、市民の半数が影響を受けるものと予想されます。

■地震（呉羽山断層）に起因する災害リスクの分布



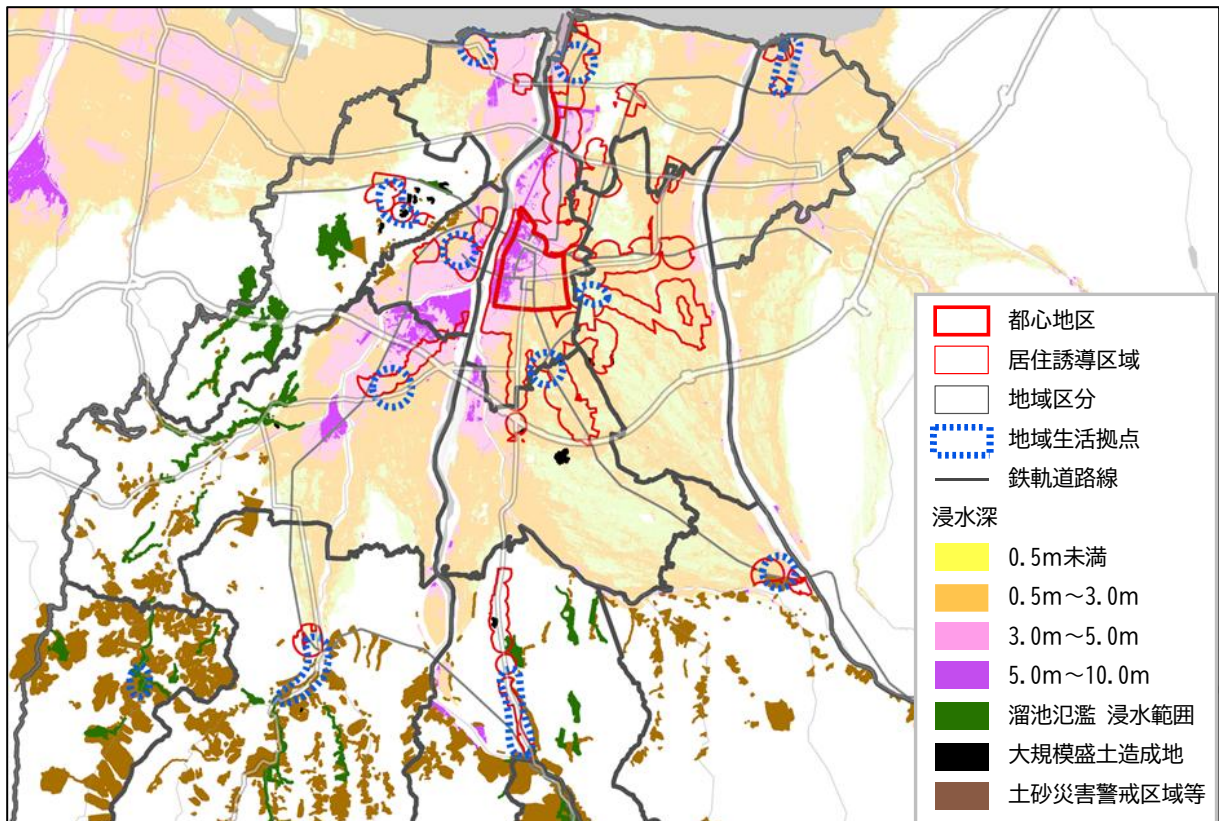
全人口（居住地）に占める割合（令和4年度）



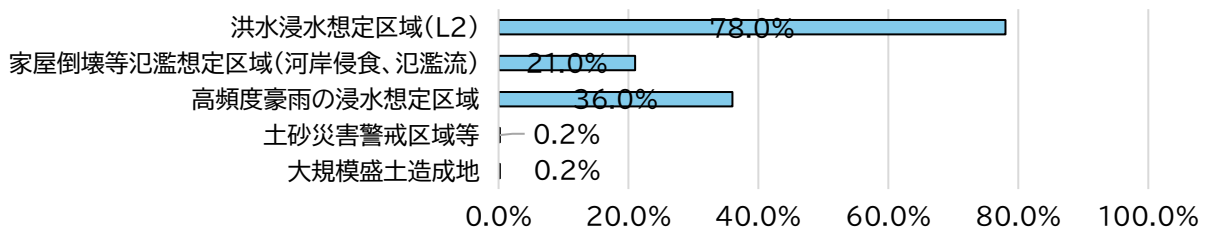
2 大雨起因の災害リスク

大雨起因の災害リスク（想定最大規模（概ね 1000 年に一度程度想定される最大規模の降雨量）の雨による洪水浸水、土砂災害、ため池氾濫）の分布を示します。平野部の多くが浸水の影響を受け、市民の約 8 割が影響を受けるものと予想され、特に洪水により家屋などの倒壊の恐れがある家屋倒壊等氾濫想定区域は市民の約 2 割が影響を受けるものと予想されます。

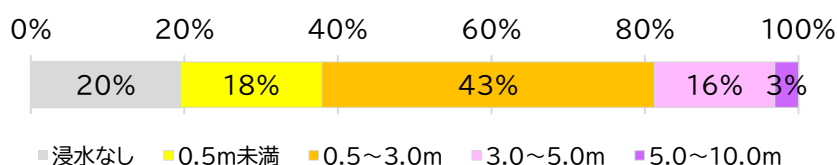
■大雨に起因する災害リスク（想定最大規模の洪水による浸水想定区域）



全人口（居住地）に占める割合（令和4年度）



浸水想定深別の人口割合(市全域、想定最大)(令和4年度)

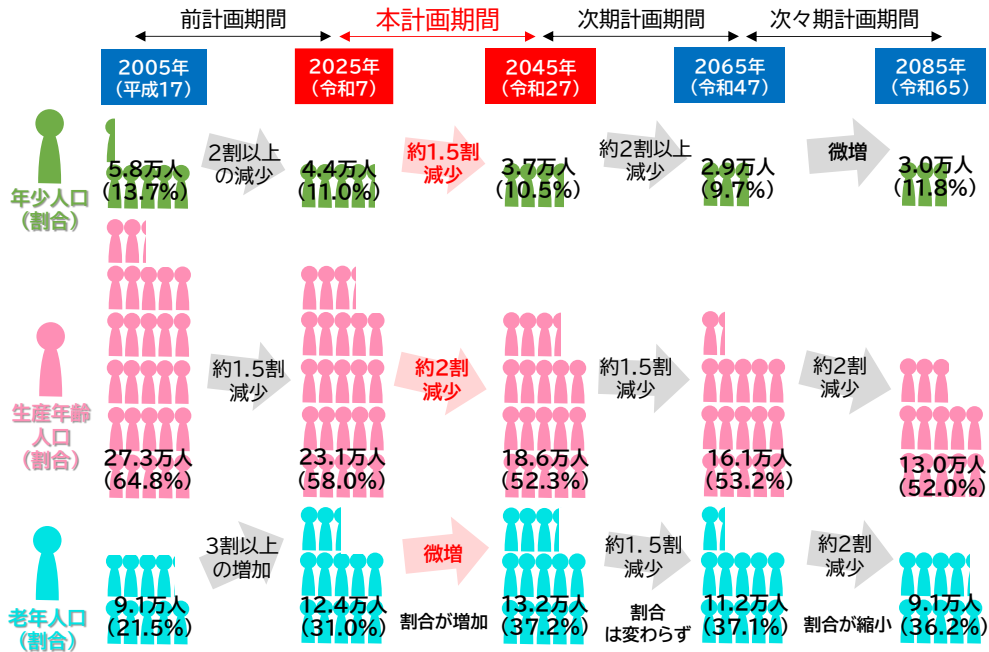


V 今後の変化イメージ

1 人口の規模や構成の変化イメージ

人口や世帯数の将来推計を踏まえ、人口の規模や構成の変化イメージを示します。

■人口の規模や構成

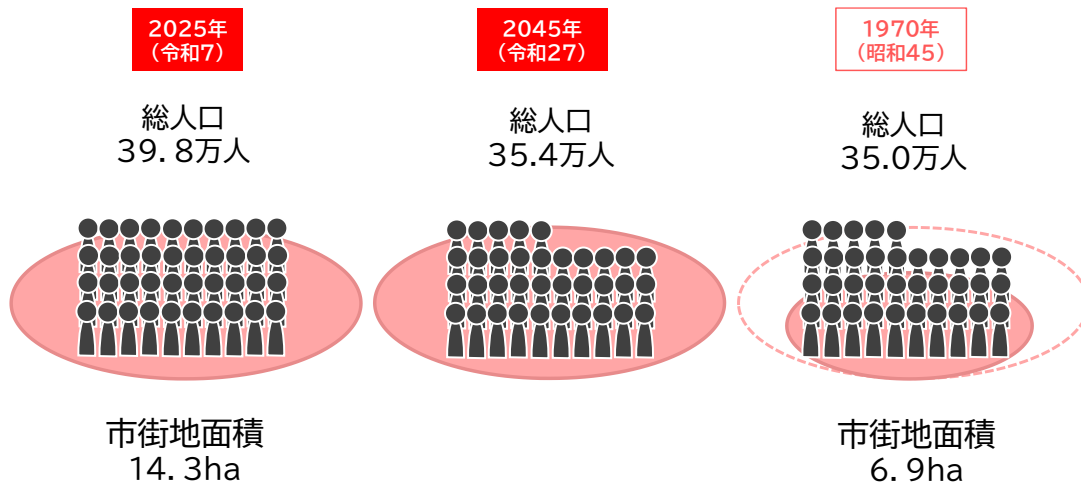


出典：実績値（2005年）は国勢調査、推計値（2025年～2065年）は富山市将来人口推計報告書（令和7年2月）の中間推計値、2085年は住民基本台帳データを基に、250mメッシュ単位で集計処理して算出

2 人口と都市規模の関係性の変化イメージ

人口推計の結果と都市的土地利用の変化を踏まえた人口と都市規模の関係性の変化イメージを示します。

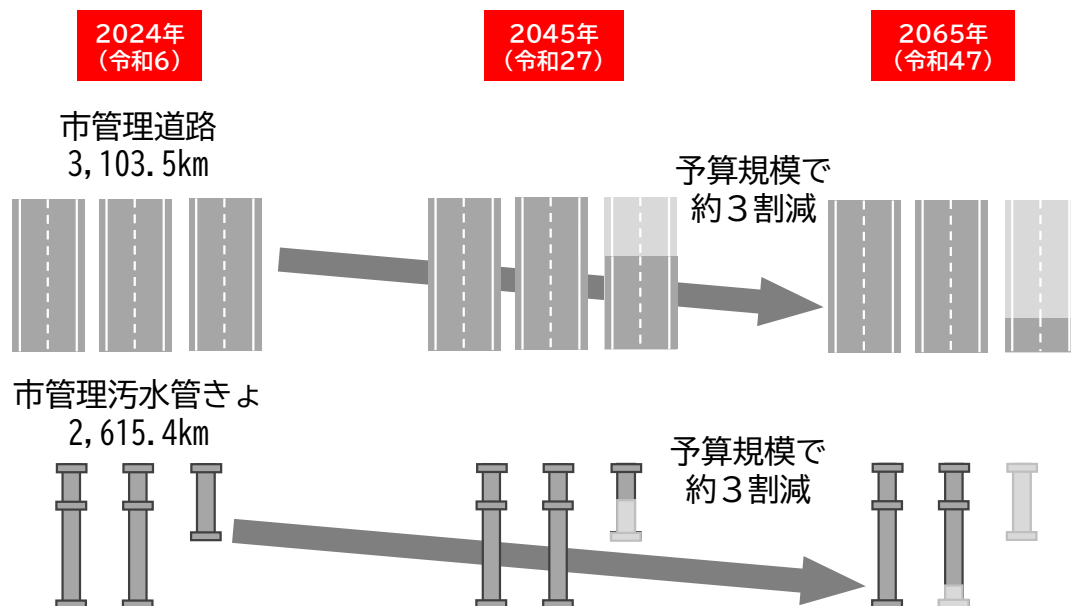
■人口と都市規模の関係性



3 社会インフラの管理規模の変化イメージ

歳入の見通しから参考値として算出した社会インフラの推計では、2024（令和6）年から2065（令和47）年の約40年間で社会インフラ管理の予算規模が3割減となる見通しです。このことを踏まえた将来の変化イメージを示します。

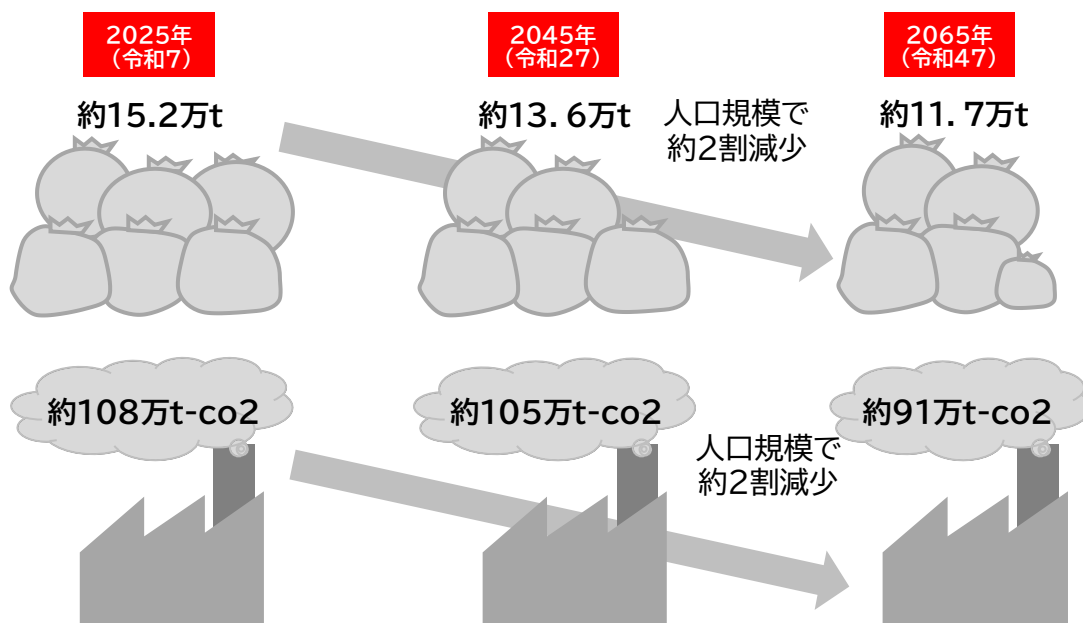
■ 予算規模を踏まえた道路や下水道の管理規模の変化イメージ



4 その他の変化イメージ

人口推計結果を踏まえ、ごみの量やCO₂の排出量の変化イメージを示します。

■ 人口推計結果を踏まえたごみの量やCO₂の排出量の変化イメージ



第2編

市民の意識

- I 富山市のまちづくりに関する
アンケート調査
- II 高校生WEBアンケート調査
- III 市民ワークショップ

I 富山市のまちづくりに関するアンケート調査

1 調査内容

(1)調査方法等

- 調査対象：富山市在住 18 歳以上の市民
- 配布数：6,000
- 抽出方法：住民基本台帳の地域別年齢別人口割合を考慮し、無作為抽出（地域別・年齢階層別に配布数を割り振り）
- 調査方法：郵送配布及び郵送改修（同封の返信用封筒を使用）により実施
- 調査期間：令和 6 年 1 月 12 日（金）～ 1 月 31 日（水）

(2)調査の目的

- コンパクトなまちづくりに対する市民評価の確認
- 市民の生活行動の内容や範囲の把握（地域生活圏同士のつながり等の確認）
- 地域生活拠点の機能や役割のニーズ把握
- 市民のまちづくりに対する意識の把握

(3)回答数

- 回収数：2,408 件
- 回収率：40.1%

(4)集計方法

- ・調査票の配布にあたり、地域別集計によって各地域の回答傾向を把握するために、各地域における必要なサンプル（標本）数を設定し、地域無作為抽出を実施しました。
- ・そのため、富山市全体の回答結果としては、実際の人口の構成比に対して、特定の地域の属性に意見の偏りが生じていることが予想されます。そこで、本調査では、アンケート回答数の地域別構成比を全市（令和 5 年 10 月末住民基本台帳人口）の地域別人口構成比に割り戻すウエイトバック集計による補正を行いました。
- ・ウエイトバック集計とは、回収されたサンプル（標本）を母集団の構成に合わせて集計する方法であり、例えば、アンケートの回答者が特定の属性（例：年齢、地域など）に偏っている場合に、属性ごとにウエイト（重み）を調整して、全体の回答がより公平になるようにするものです。

表 地域別アンケート回収構成比と母集団構成比

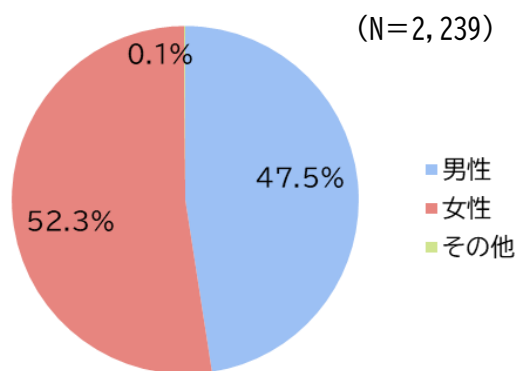
設問		回収されたサンプル		母集団	
		回答数	構成比	人口	構成比
1	富山中央	202	9.1%	57,045	18.6%
2	富山北部	152	6.8%	28,854	9.4%
3	和合	162	7.3%	8,507	2.8%
4	呉羽	168	7.5%	17,933	5.8%
5	富山西部	182	8.2%	15,357	5.0%
6	富山南部	185	8.3%	35,603	11.6%
7	富山東部	174	7.8%	63,787	20.8%
8	水橋	175	7.9%	10,766	3.5%
9	大沢野	186	8.4%	15,973	5.2%
10	大山	159	7.1%	6,785	2.2%
11	八尾	187	8.4%	13,795	4.5%
12	婦中	195	8.8%	30,733	10.0%
13	山田	99	4.4%	825	0.3%
14	細入	115	5.2%	838	0.3%
	無回答	67		—	—

- ・単純集計結果について、母数となるN値はアンケートの有効回収数として集計を行っています。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。そのため、回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・単純集計結果は、全市の地域別人口構成比に合わせて集計しなおしたウエイトバック集計値を掲載します。
- ・回答者の属性別集計結果は、全市の地域別人口構成比に合わせて集計しなおしたウエイトバック集計値のみを掲載します。

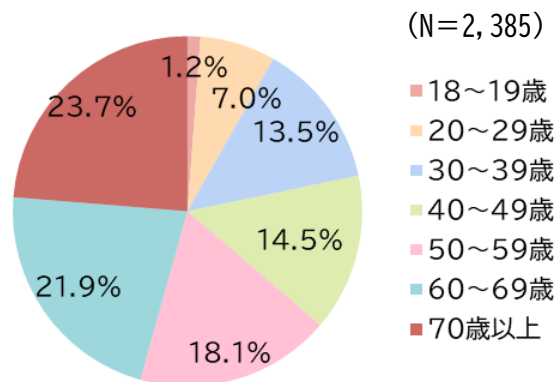
2 集計結果

(1)回答者の属性

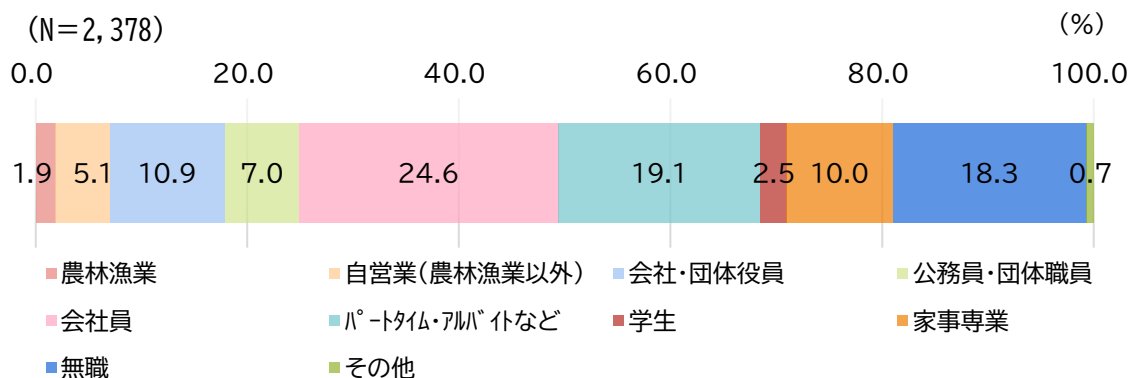
【問1-1 性別】



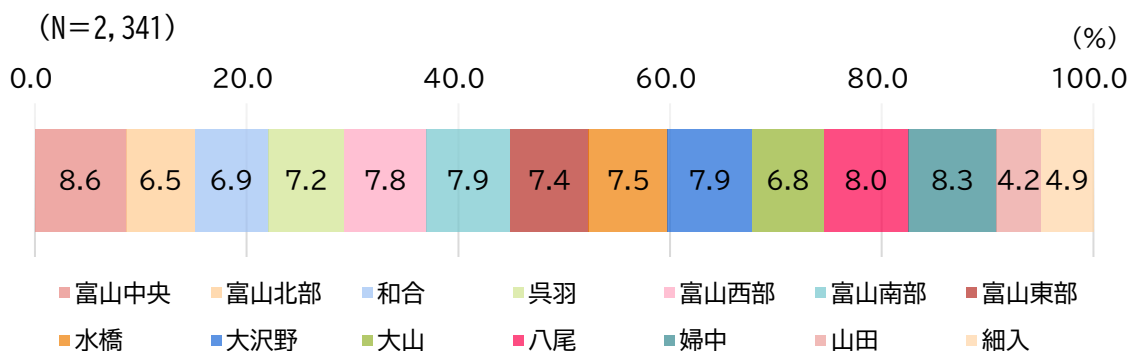
【問1-2 年齢】



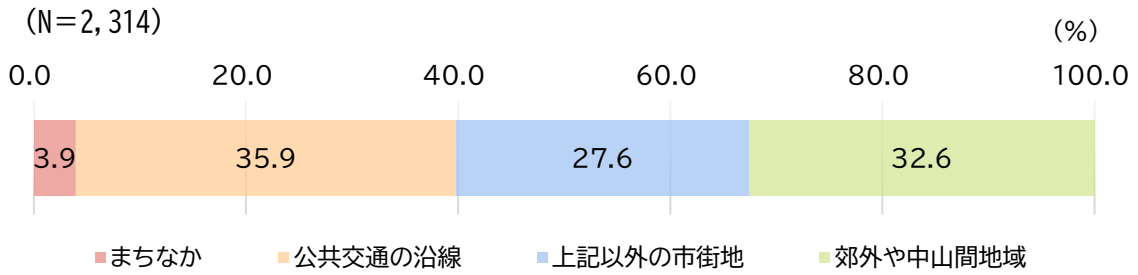
【問1-3 職業】



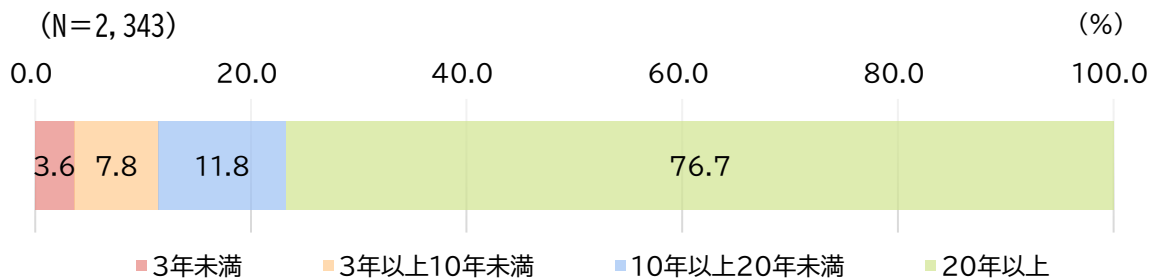
【問1-4 居住地域】



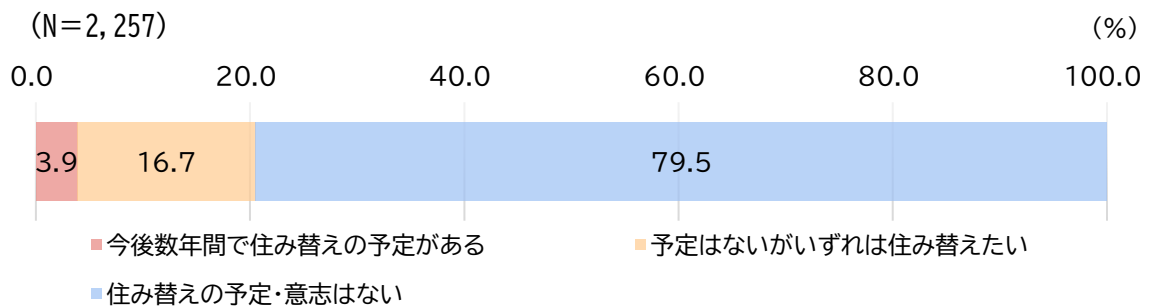
【問1-5 居住エリア】



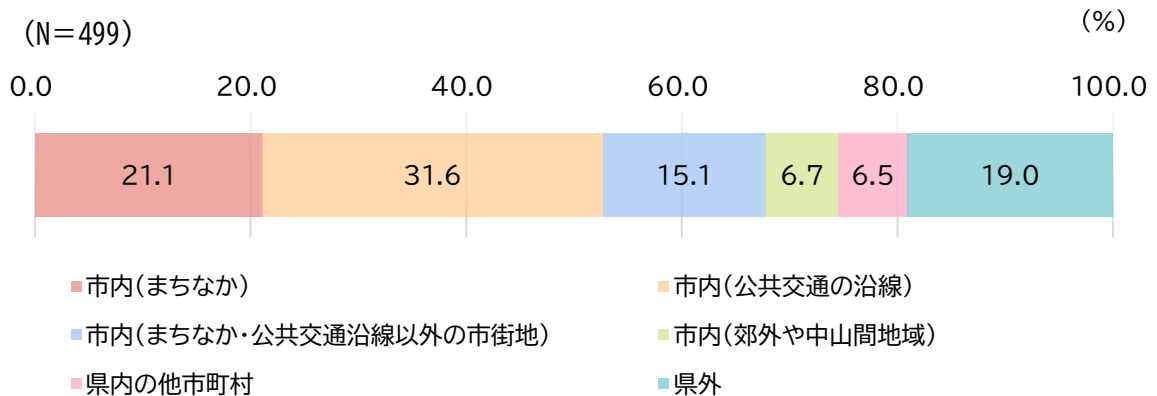
【問1-6 富山市(合併前の市町村を含む)での居住総年数】



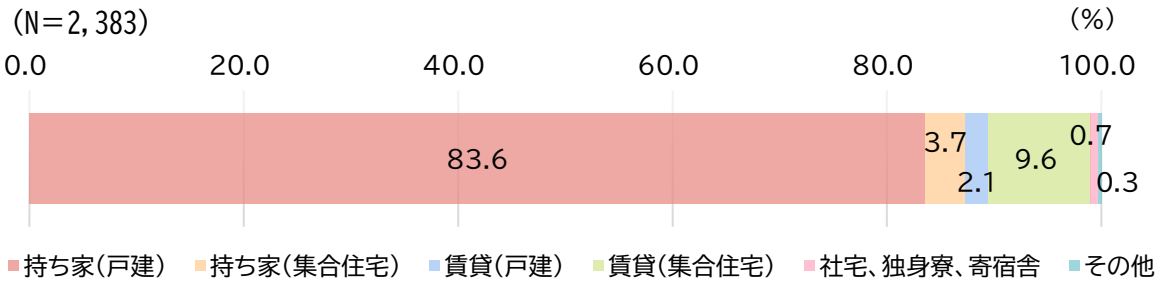
【問1-7 ①居留意向】



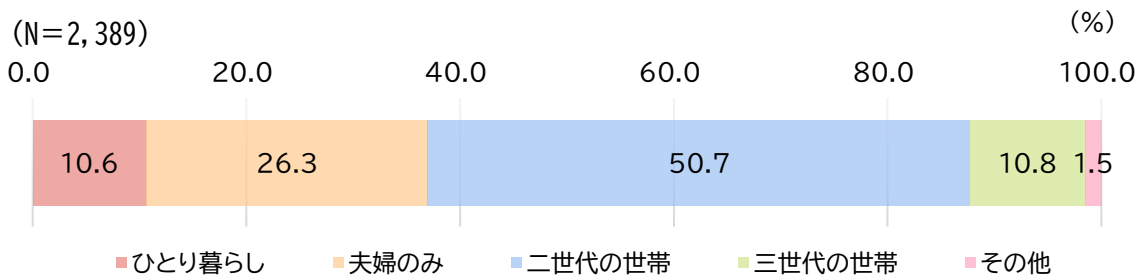
【問1-7 ②住み替え予定地・希望地】



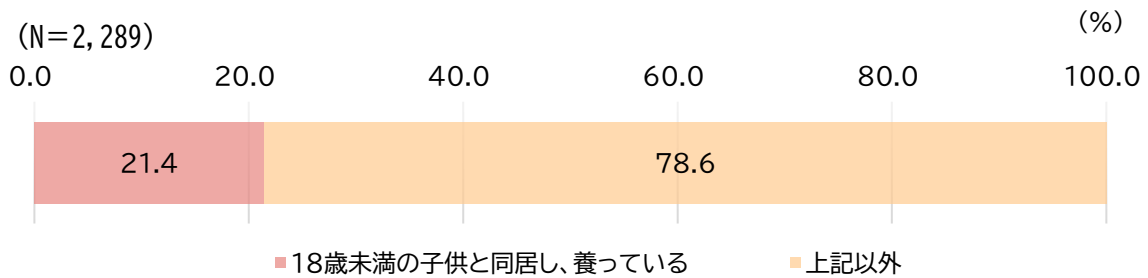
【問1-8 住居形態】



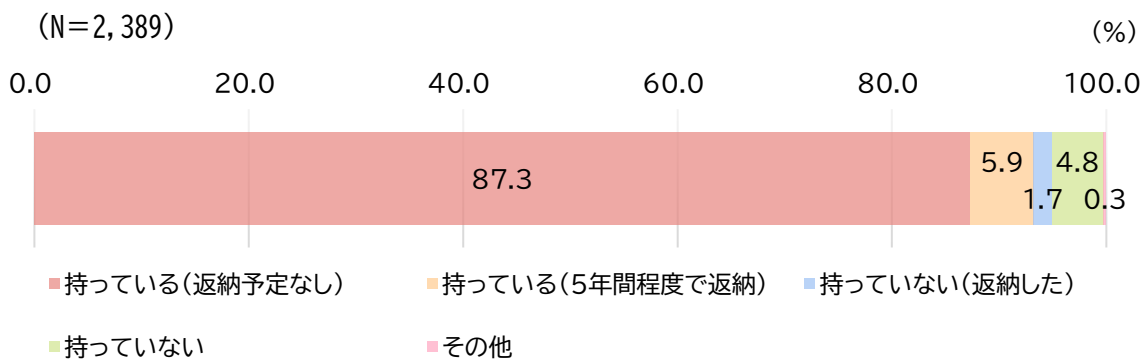
【問1-9 世帯構成】



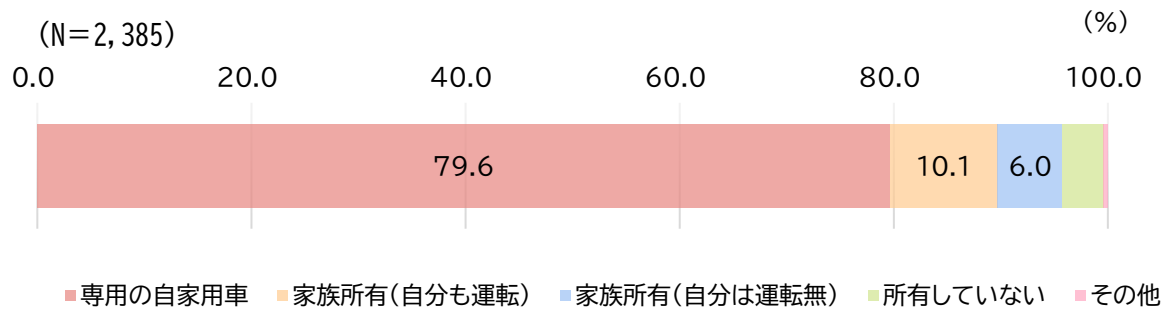
【問1-10 子育て状況】



【問1-11 運転免許証の所有状況】

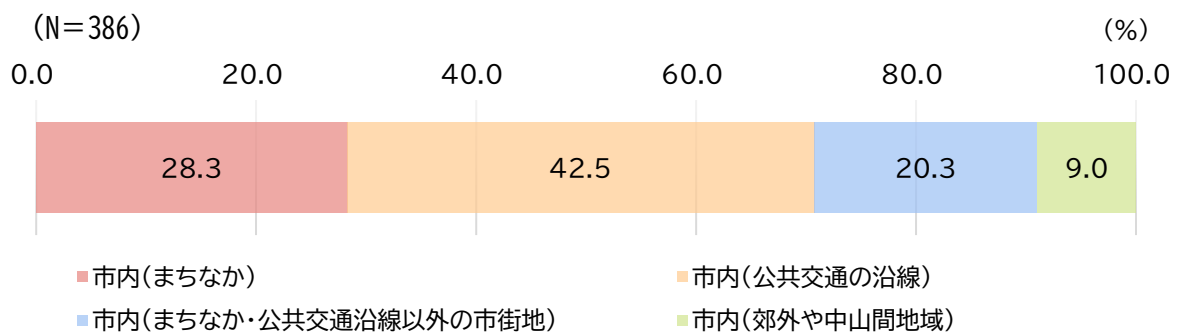


【問1-12 自家用車の所有状況】



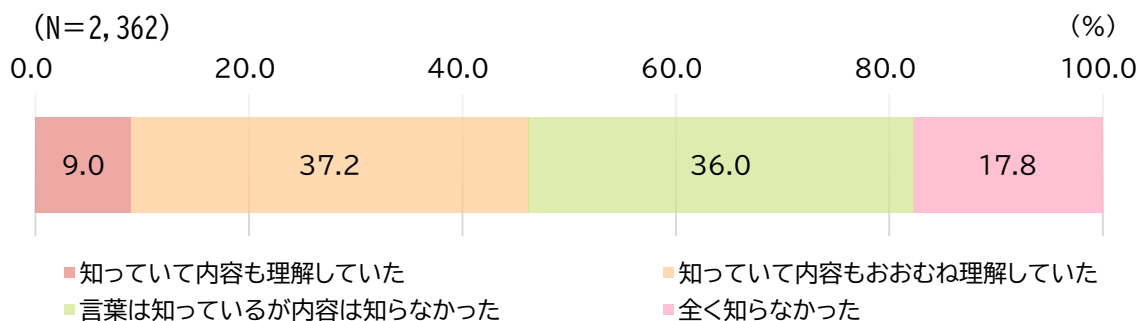
【分析 居住地選択(市内)に関する意識】

・市内で住み替えする場合には、7割以上の市民がまちなかや公共交通の沿線を選択する傾向にあります。



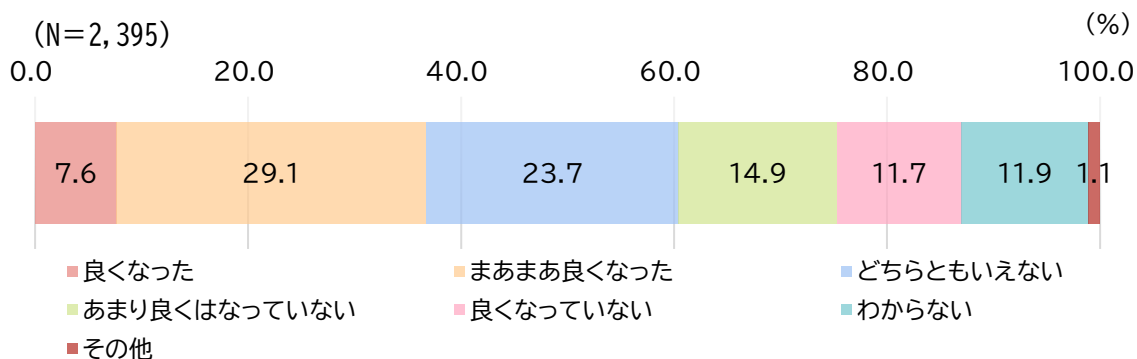
(2)コンパクトなまちづくりに対する市民評価

【問2-1 コンパクトなまちづくりの認知度】

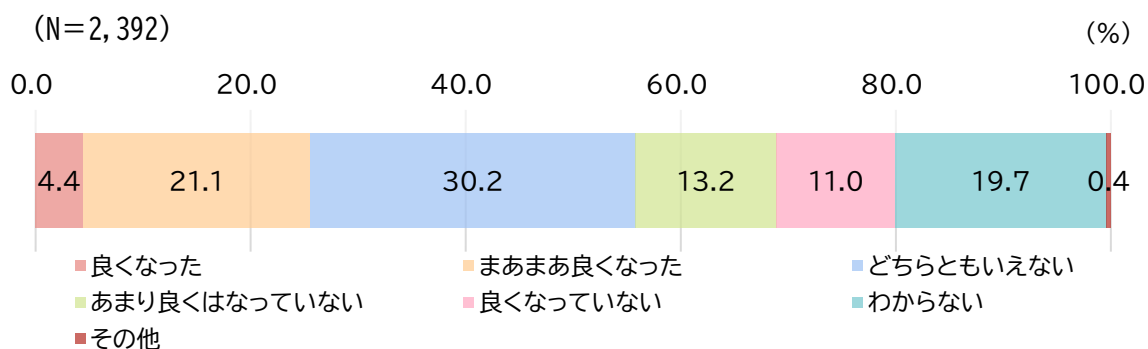


【問2-2 コンパクトなまちづくりの目標の評価】

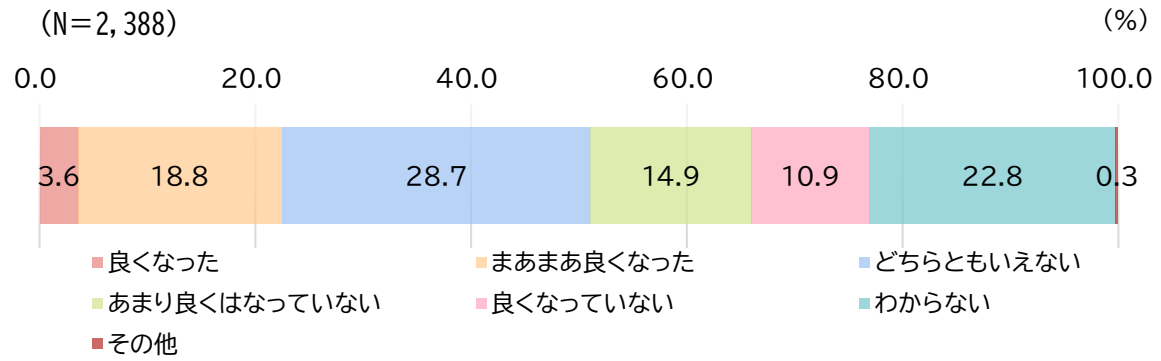
目標① 車を自由に使えない人も安心・快適に暮らすことができるまちづくり



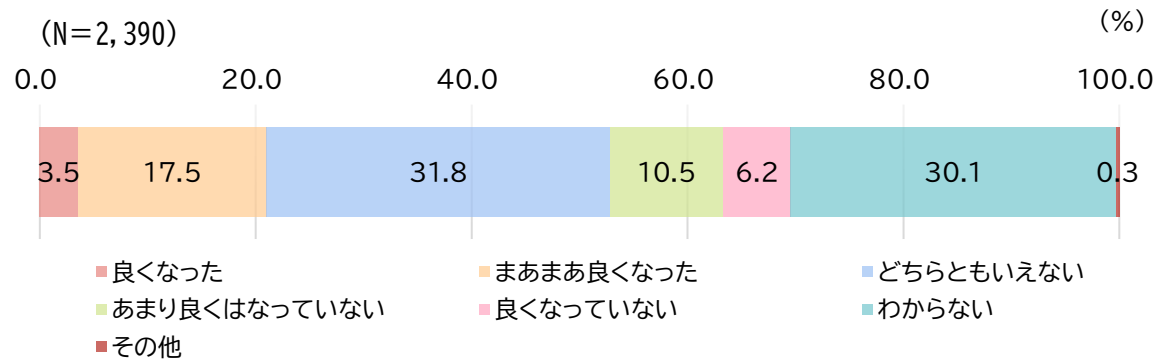
目標② 郊外での居住やまちなかでの居住など多様な住まい方を選択できるまちづくり



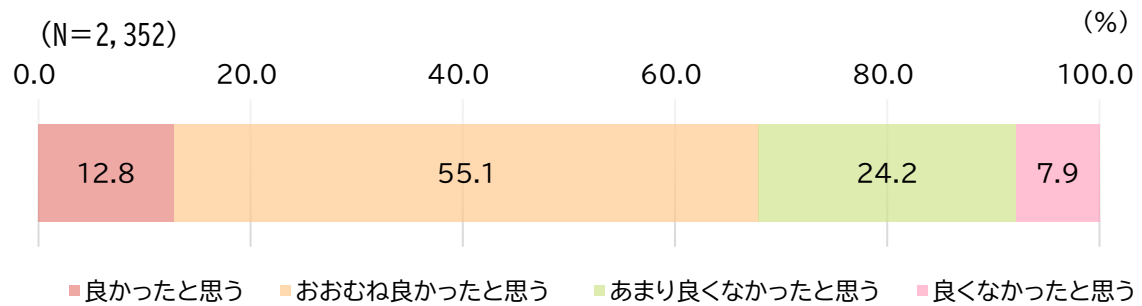
目標③ 地域ごとの拠点育成による拠点集中型のまちづくり



目標④ 川上から川下までの豊かな自然を守り、育てるまちづくり

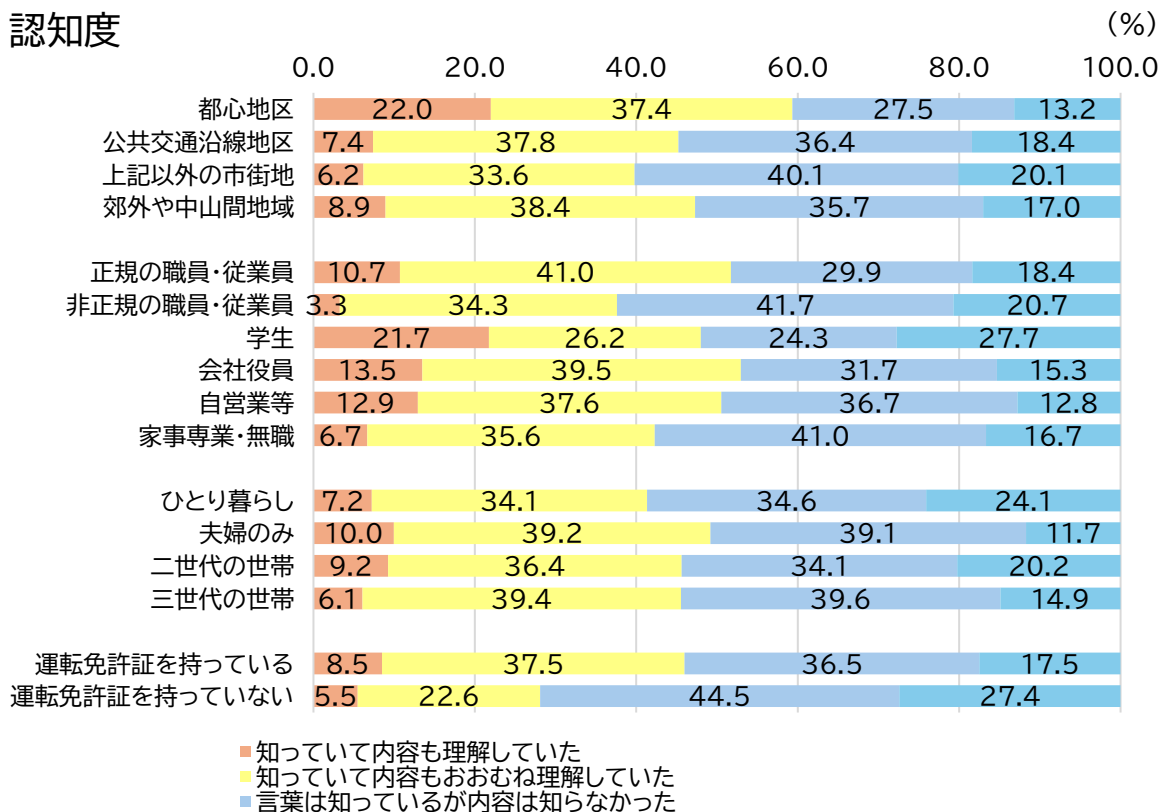


【問2-3 コンパクトなまちづくりに取組んできたことの評価】

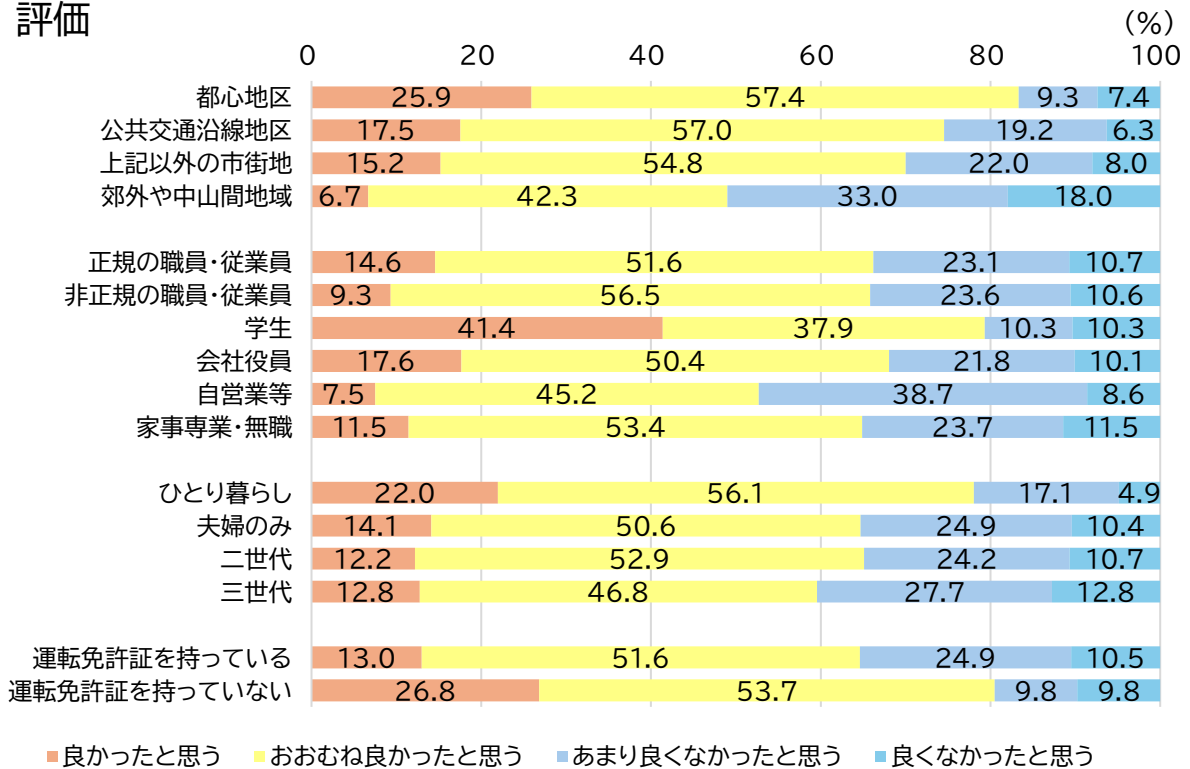


【分析_コンパクトなまちづくりに関する認知度と評価】

- ・地域別では、認知度に差はないですが、評価は、都心地区で8割以上と高く、公共交通沿線（7割強）、それ以外の市街地（7割）、郊外や中山間地域（5割弱）の順で評価が低くなる傾向です。
- ・職業別では、学生の評価は高いですが、認知度及び評価についての職業差はほとんどみられません。
- ・家族構成別にみると、認知度は一定程度あるものの、評価はひとり暮らし世帯で高くなる一方、世代が増えるにつれて低くなる傾向です。
- ・運転免許証保有別では、非保有者の方が評価は高く、約8割が高評価です。
- ・コンパクトなまちづくりの認知度の属性による差異はあまりみられませんが、評価は、都心地区の市民、学生、免許非保有者が高い傾向にあり、市民の実感としても目標としていた「車を自由に使えない人も安心・快適に暮らすことができるまちづくり」につながっているものと考えられます。
- ・また、5割強が低い評価である郊外や中山間地域などの市民は、自分の居住地域との関連性が見いだせないものと考えられるため、コンパクトなまちづくりによる今後のライフスタイルイメージをしっかりと発信することが必要です。

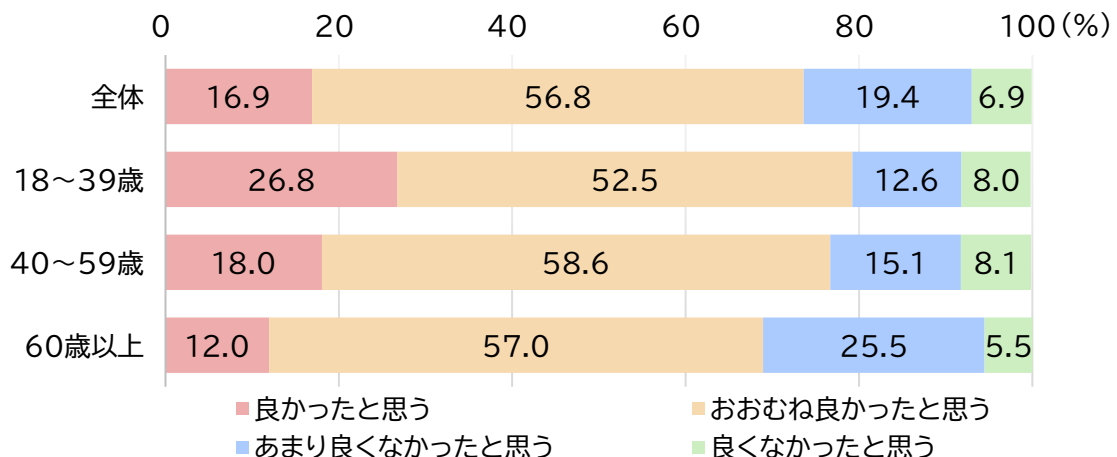


評価



【分析_コンパクトなまちづくりの年齢別市民評価】

- ・コンパクトなまちづくりという言葉を知っている市民は8割近いですが、内容の理解は4割程度であり、言葉は浸透しているが、その必要性などが伝わっていない市民もいると考えられます。
- ・本市のコンパクトなまちづくりに対する市民の評価は、全体で7割が良かったと評価し、若い世代では8割近くが評価していることから、人口減少に対応した次世代につなぐまちづくりを進めるため、引き続きコンパクトなまちづくりに取り組むことが必要です。

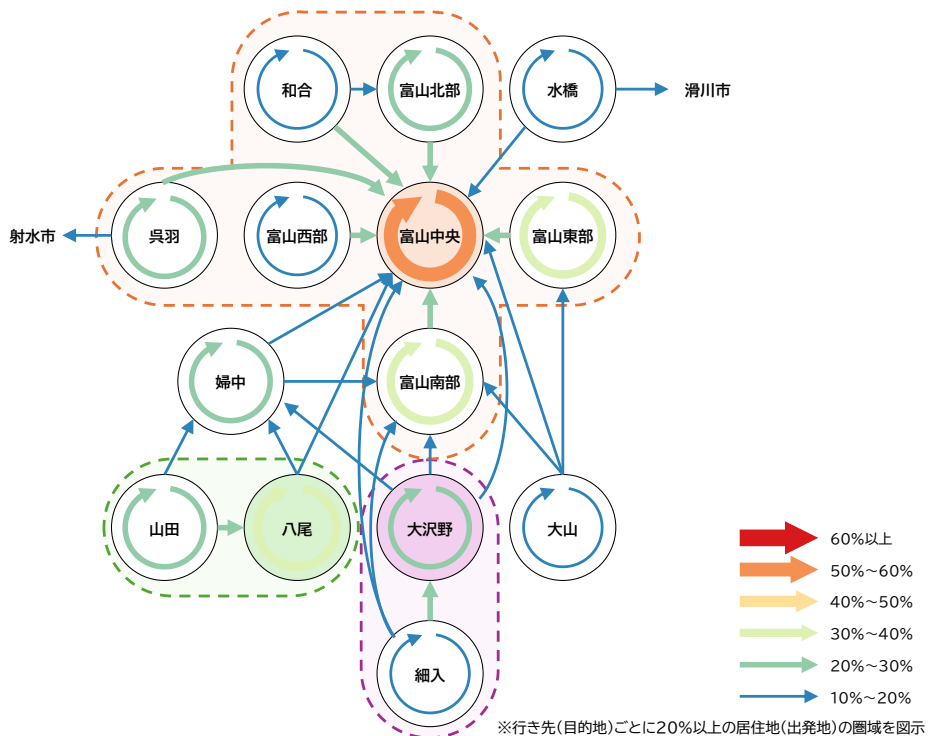


※本市が進めるコンパクトなまちづくりを知っていて、内容を理解されている方の評価

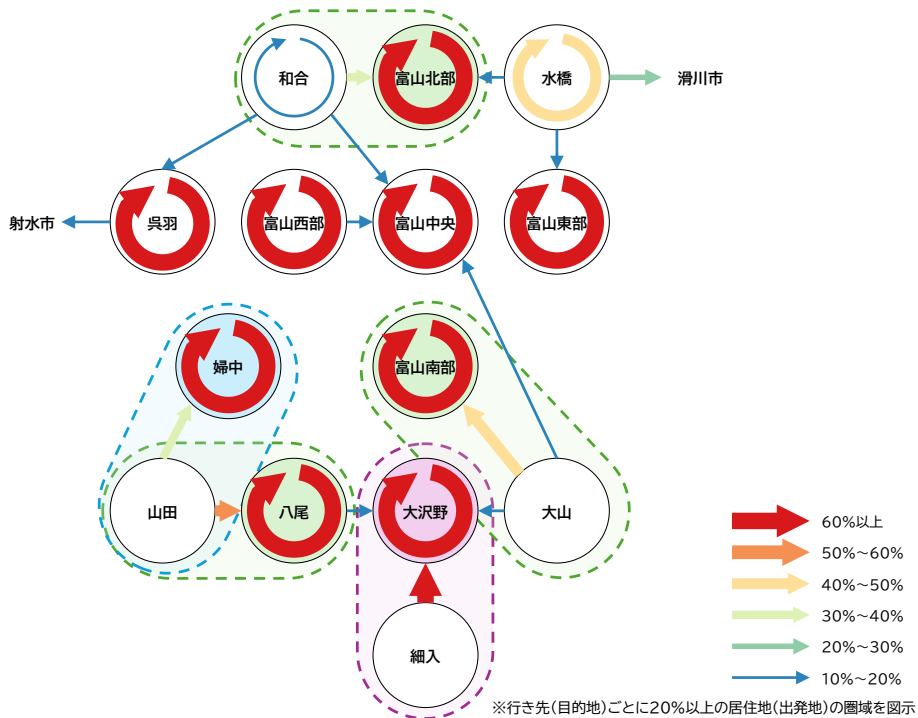
(3) 日常の生活や行動について

【問3-1 ①通勤・通学】

・ほとんどの地域は、主に富山駅などがある富山中央との移動があります。

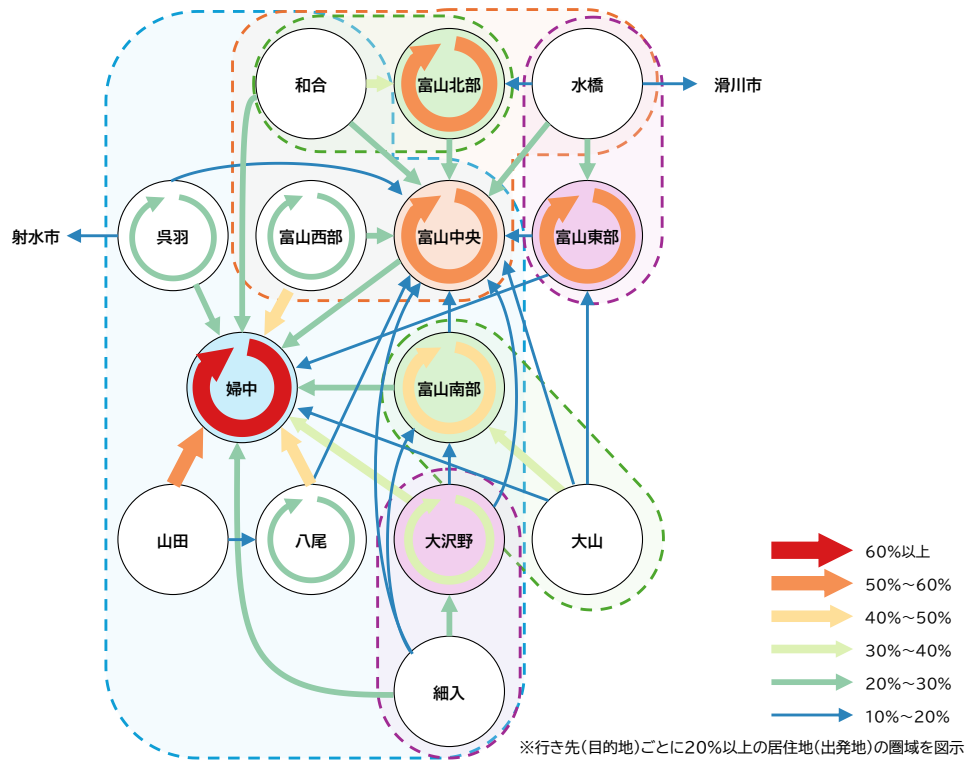


【問3-1 ②日常的な食料品等の買い物(例:最もよく利用するスーパー)】

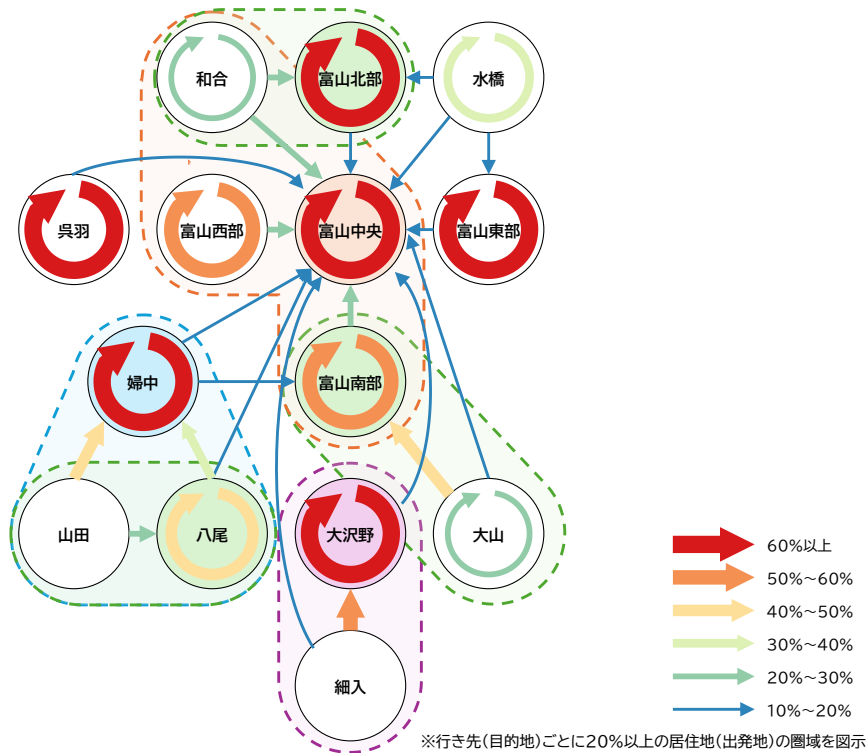


【問3-1 ③衣類や雑貨等の買い物(例:最もよく利用する衣料品店や本屋)】

・大規模集客施設がある婦中地域では、周辺の多くの地域から移動があります。

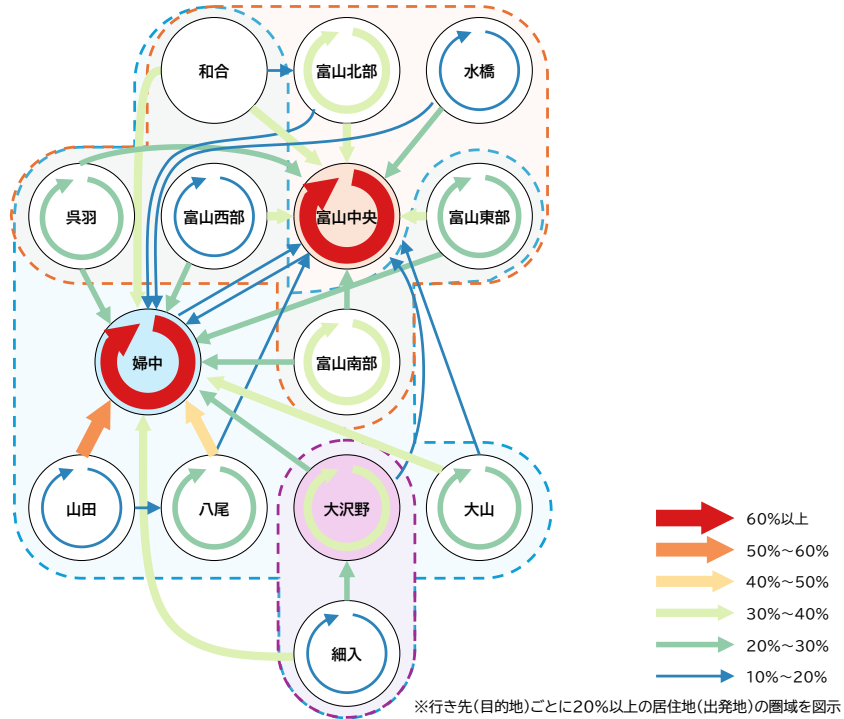


【問3-1 ④通院(例:体調不良の際にいつも行く内科)】



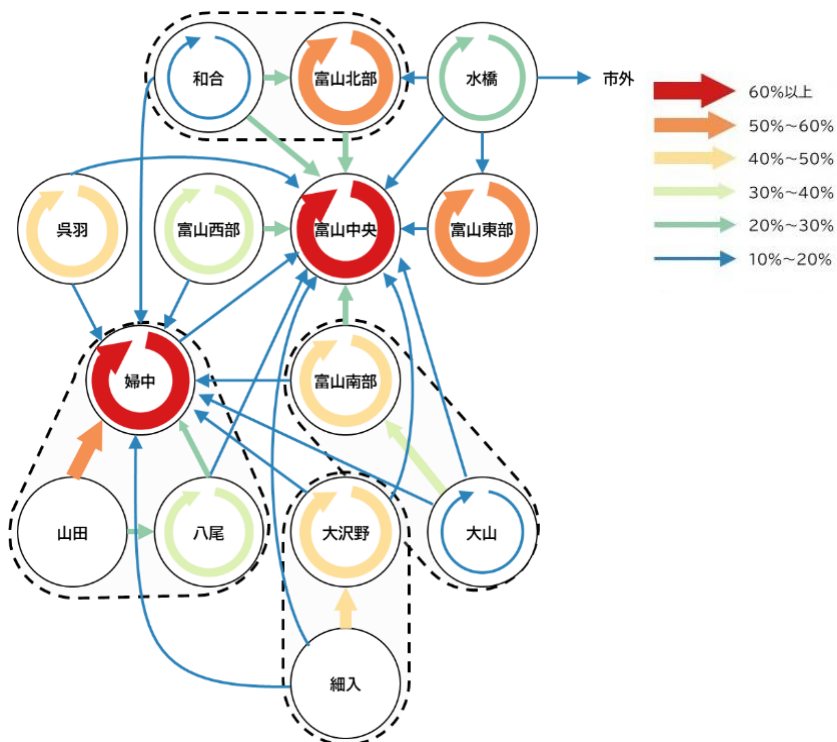
【問3-1 ⑤文化やスポーツの活動】

(例:休日によく利用する図書館や映画館等の文化施設や運動施設)

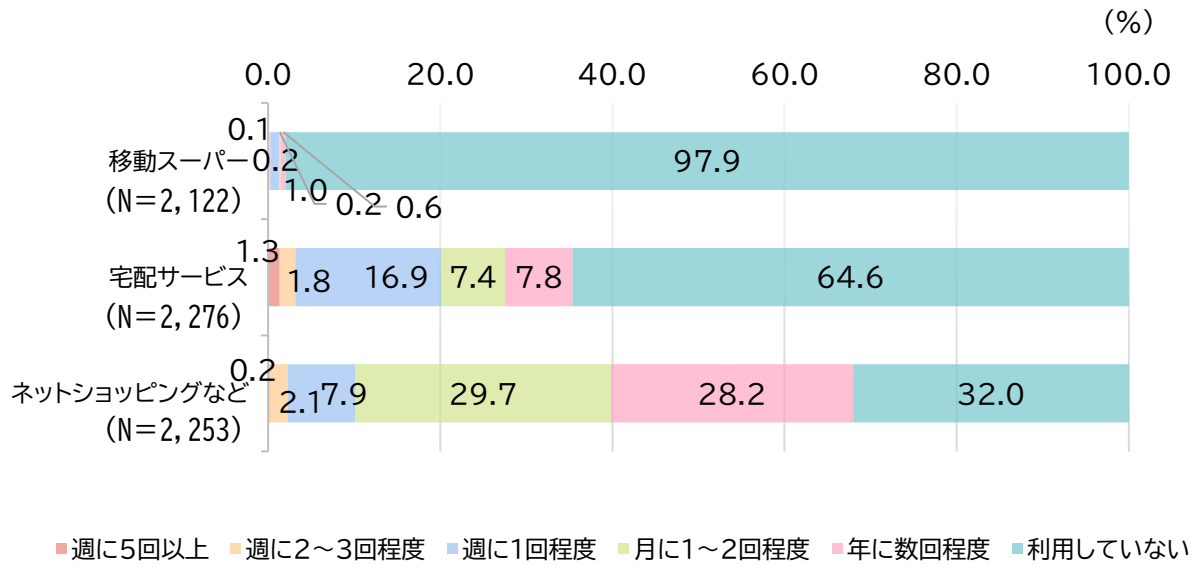


【分析_地域間の移動(全目的)】

- ・市民生活において密接につながっている地域間移動は、「細入・大沢野」「婦中・八尾・山田」「大山・富山南部」「和合・富山北部」がまとまったエリアとなっています。

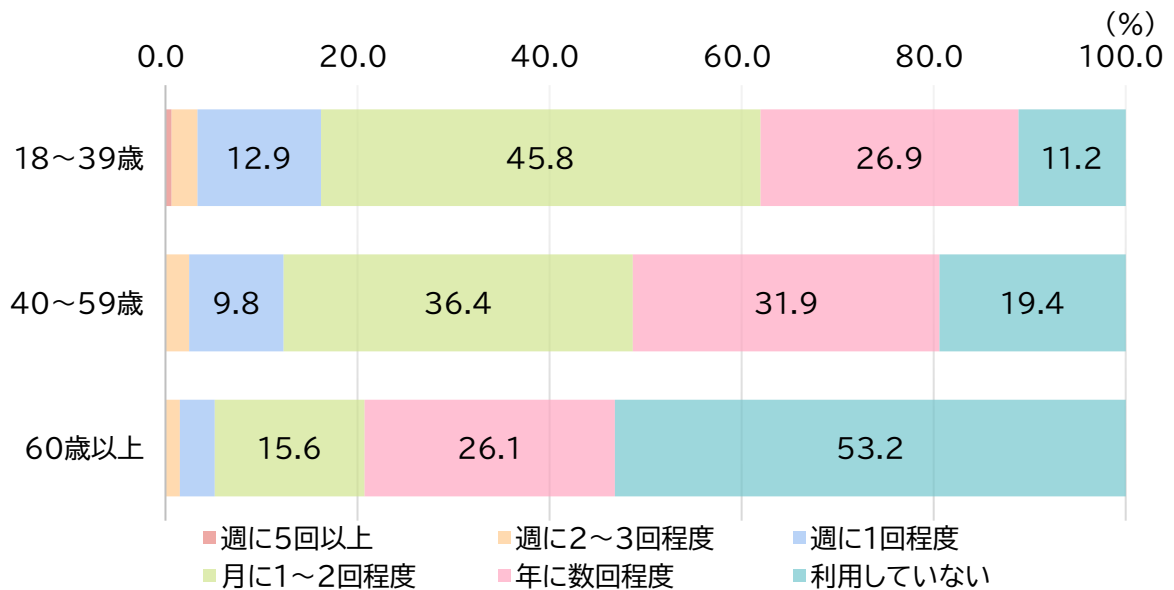


【問3-2 実店舗以外のサービスの利用状況】

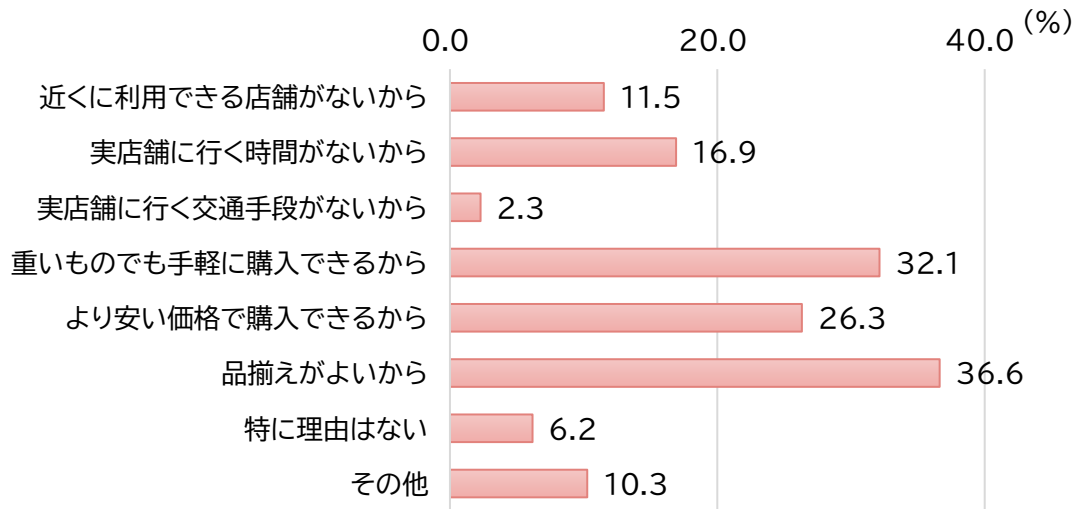


【分析_ネットショッピングの年齢別頻度】

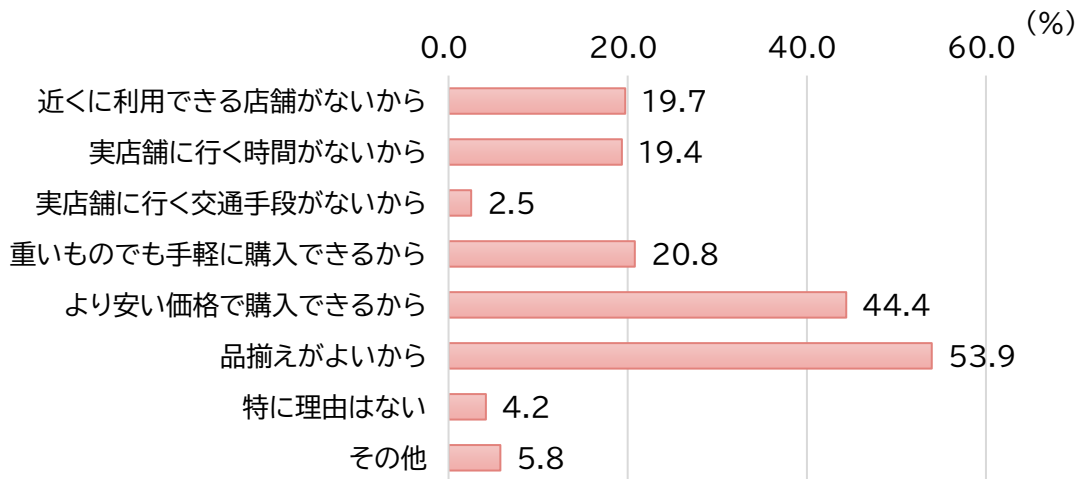
- ・日常的な買い物は、実店舗での買い物が主流であり、ネットショッピングは豊富な品揃えから実店舗で購入できないものを補完的に買う手段として利用されていることが考えられます。
- ・インターネットの普及などにより、実店舗以外のサービスを利用する市民も増え、特にネットショッピングは7割近くの市民が利用しており、若い世代では9割近くとなっています。



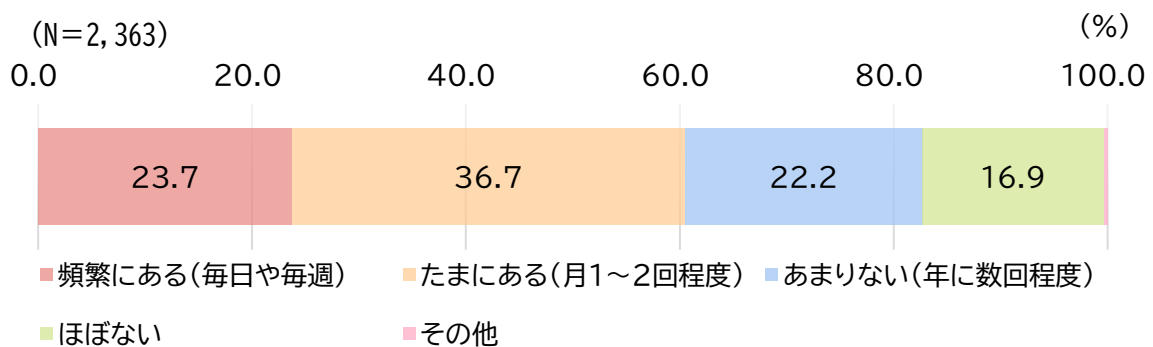
【問3-3 食料品や日用品などの買い物で実店舗以外のサービスを利用する理由】



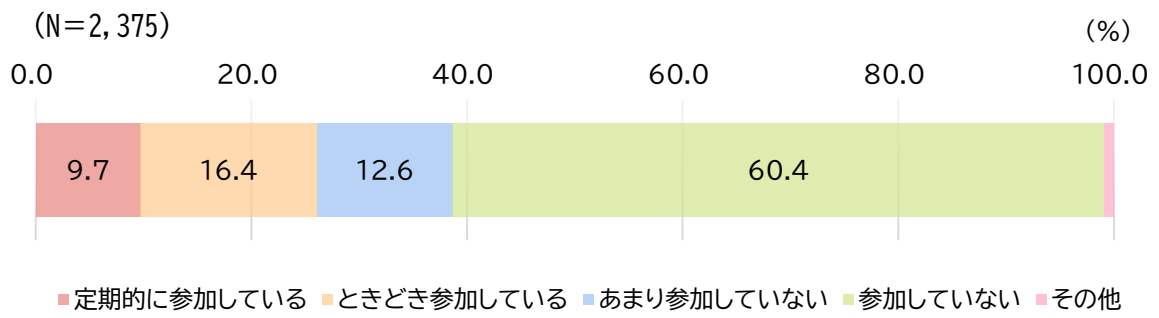
【問3-4 衣類や本雑貨などの買い物で実店舗以外のサービスを利用する理由】



【問3-5 友人や知人と直接会って挨拶や会話をする機会】



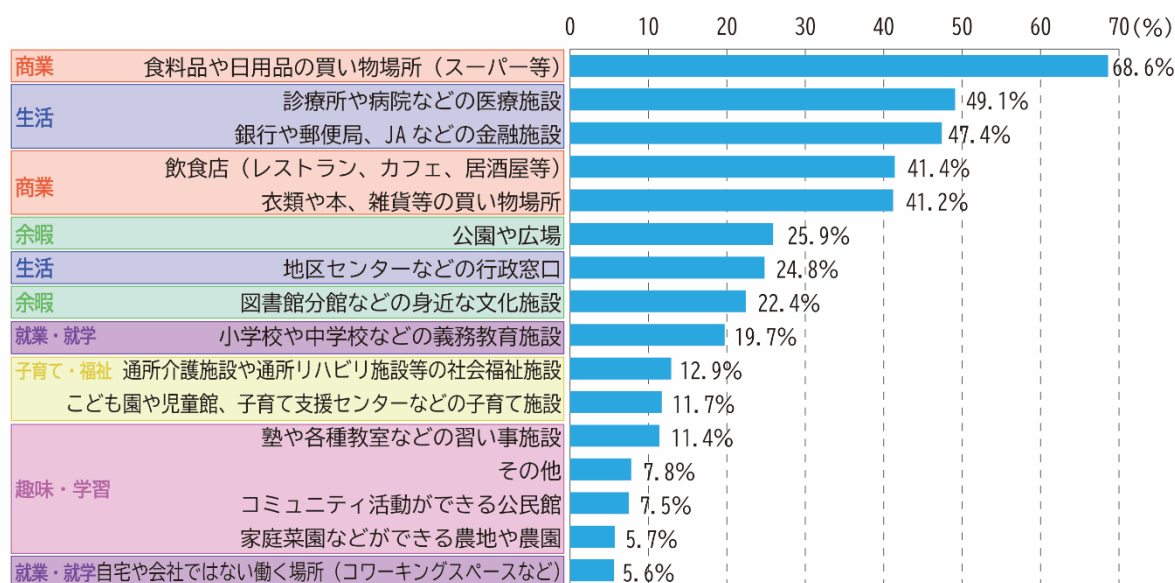
【問3-6 現在のコミュニティ活動への参加】



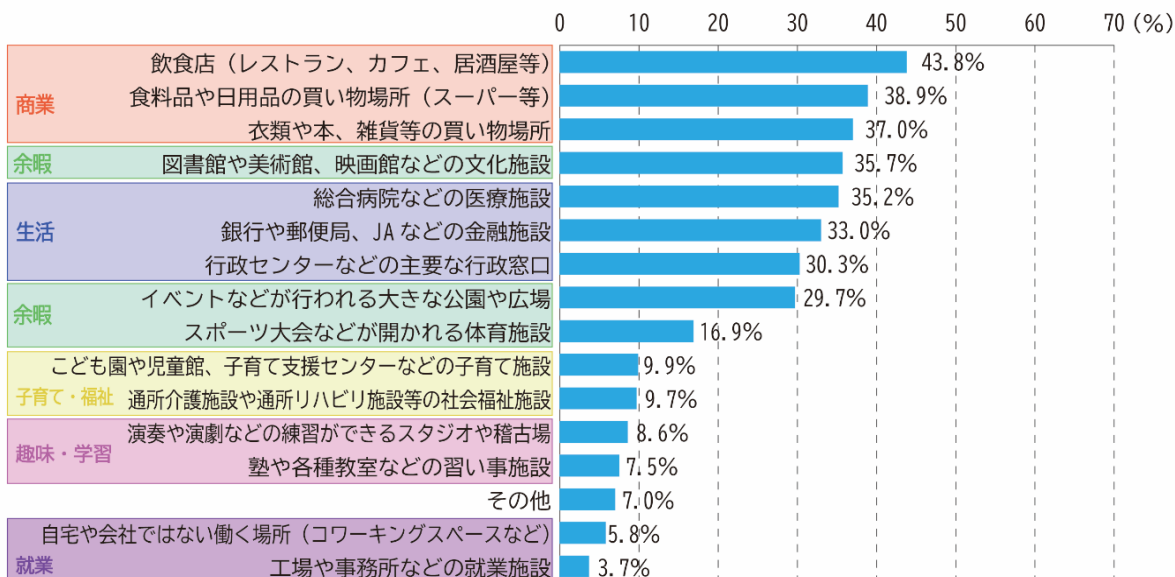
(4)生活に必要な施設や機能について

- ・徒歩圏にほしい施設や機能は、市民の日常生活に必要な「日用品の買い物場所」を筆頭に、「医療施設」「金融施設」「飲食店」「衣類や本、雑貨等の買い物場所」のニーズが高くなっています。一方、「働く場所」や「介護施設」「習い事施設」などのニーズはそれほど高くなく、必要に応じて移動することを想定しているものと考えられます。
- ・まちなかや拠点に対しては、「日用品の買い物場所」や「飲食店」「総合病院」「衣類や日用品の買い物場所」に加え、「大きな広場や公園」「文化施設」「行政窓口」など多様な施設や機能のニーズが見られます。

【問4-1 住まいの徒歩圏にあってほしいもの】

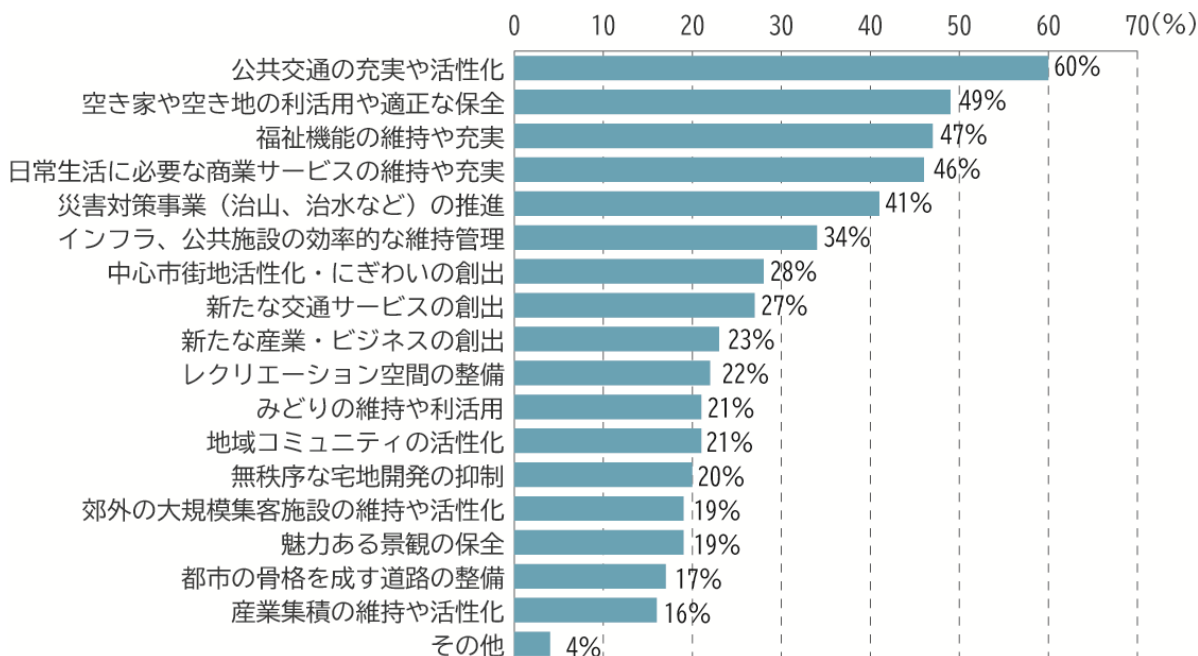


【問4-2 まちなかや拠点にあってほしいもの】

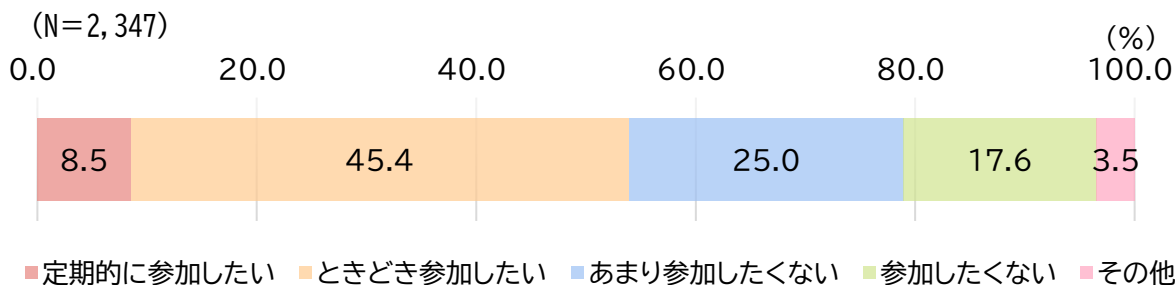


(5)富山市のこれからのまちづくりについて

【問5-1 これからのまちづくりで特に取り組むべきこと】

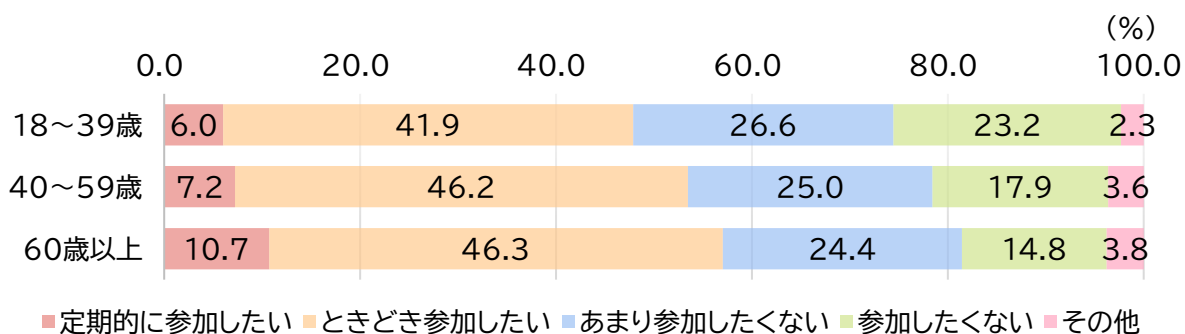


【問5-2 これからのコミュニティ活動への参加】



【分析_コミュニティ活動への年代別参加意識】

・コミュニティ活動に対する参加意識について、現状は3割程度ですが、今後の人口減少時代を見据えた場合、半数以上の方が参加をしたいとの前向きな意見が得られています。



Ⅱ 高校生WEBアンケート調査

1 調査内容

(1)調査方法等

- 調査対象：市内の高校（公立、私立）に通う高校3年生
- 配布数：約3,800
- 調査方法：各高校へのチラシ配布によるWEBアンケート方式にて実施
- 調査期間：令和6年9月2日（月）～9月20日（金）

(2)調査の目的

- 次世代のまちづくりを担う高校生を対象に、まちづくりに対する評価や意見、地域の魅力（資源）などを調査

(3)回答数

- 回収数：1,811件
- 回収率：47.7%

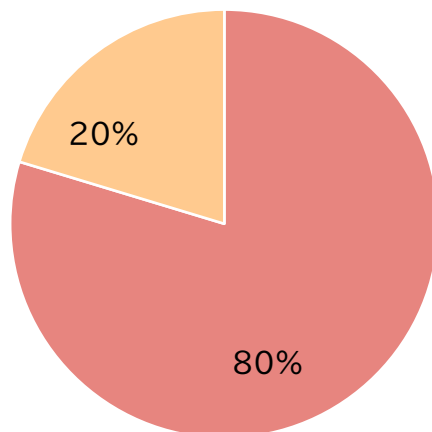
(4)集計方法

- ・調査結果は、単純集計によるものである。

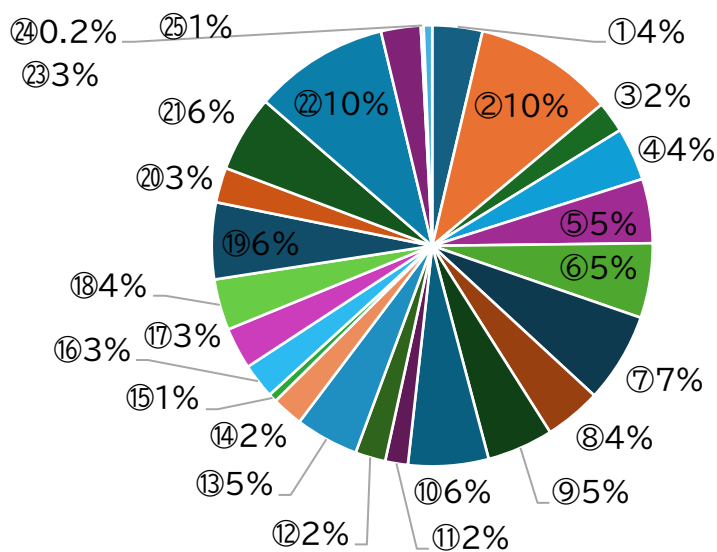
2 集計結果

(1)回答者の属性

【問1 居住地及び地域(中学校区)】



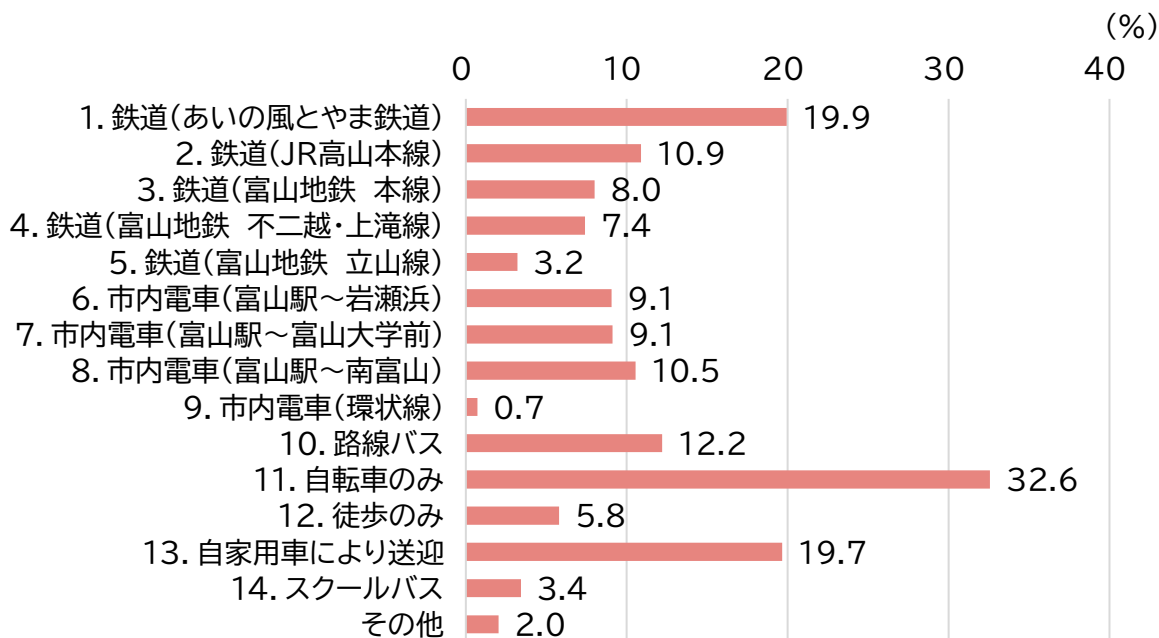
■ 1. 富山市内に住んでいる ■ 2. 富山市外に住んでいる



- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| ■ ①芝園 | ■ ②堀川 | ■ ③東部 | ■ ④西部 | ■ ⑤南部 | ■ ⑥北部 | ■ ⑦新庄 |
| ■ ⑧岩瀬 | ■ ⑨山室 | ■ ⑩奥田 | ■ ⑪大泉 | ■ ⑫月岡 | ■ ⑬呉羽 | ■ ⑭水橋 |
| ■ ⑮三成 | ■ ⑯和合 | ■ ⑰興南 | ■ ⑱藤ノ木 | ■ ⑲大沢野 | ■ ⑳上滝 | ■ ㉑八尾 |
| ■ ㉒速星 | ■ ㉓城山 | ■ ㉔山田 | ■ ㉕榆原 | | | |

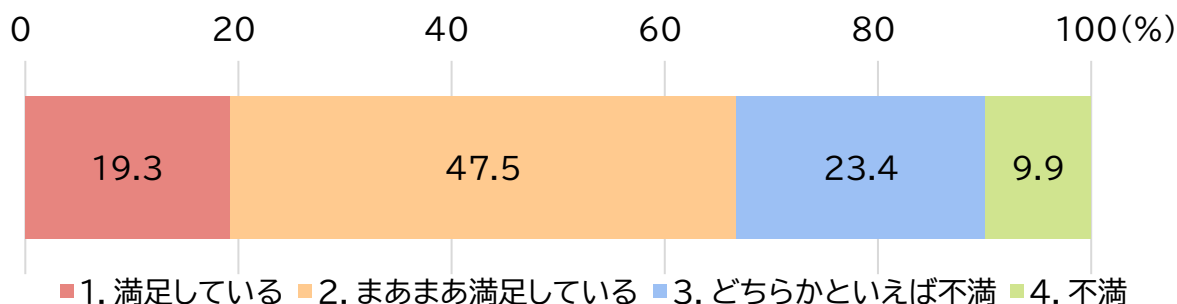
【問2 通学での主な交通手段】

・公共交通では、あいの風とやま鉄道が 19.9%で最も高く、次いで路線バスやJR高山本線、市内電車が多い傾向にあります。



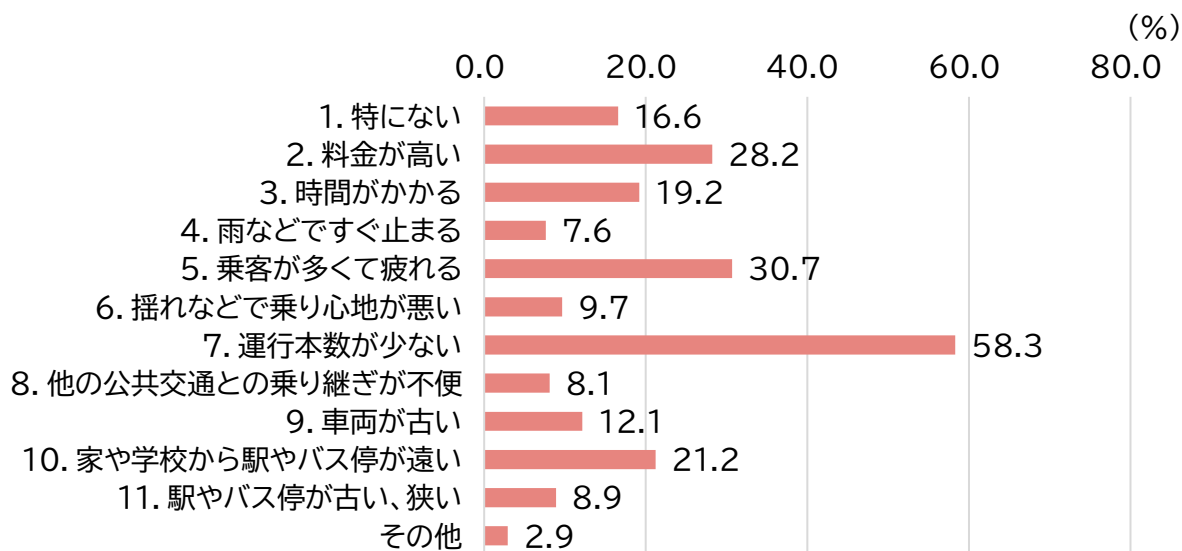
【問3 現在の公共交通の満足度】

・現在の公共交通について、7割の高校生が概ね満足と回答しています。



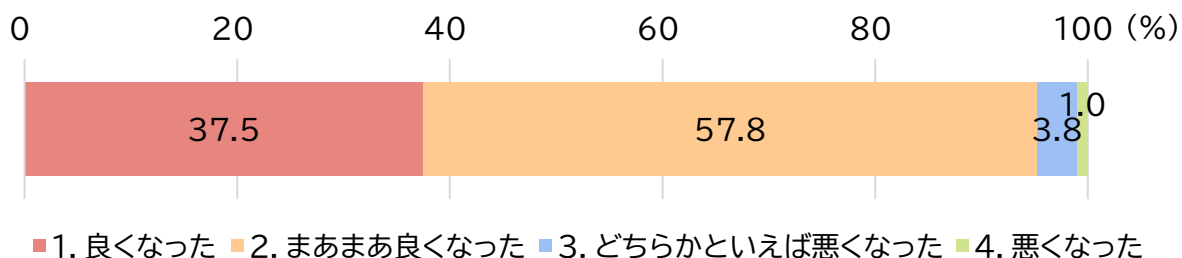
【問4 現在の公共交通の問題点】

・現在の公共交通について、運行本数や乗車料金などに対する不満を感じています。



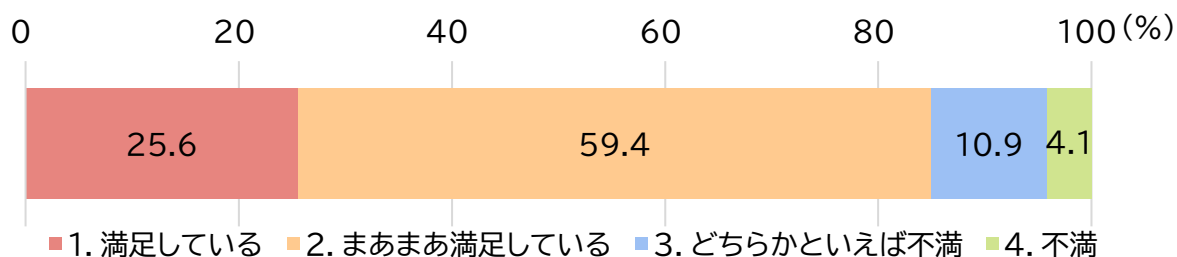
【問5 中心市街地は昔に比べて良くなったと思うか】

・中心市街地については、昔に比べて良くなったが37.5%、まあまあ良くなったが57.8%であり、9割が改善を評価しています。



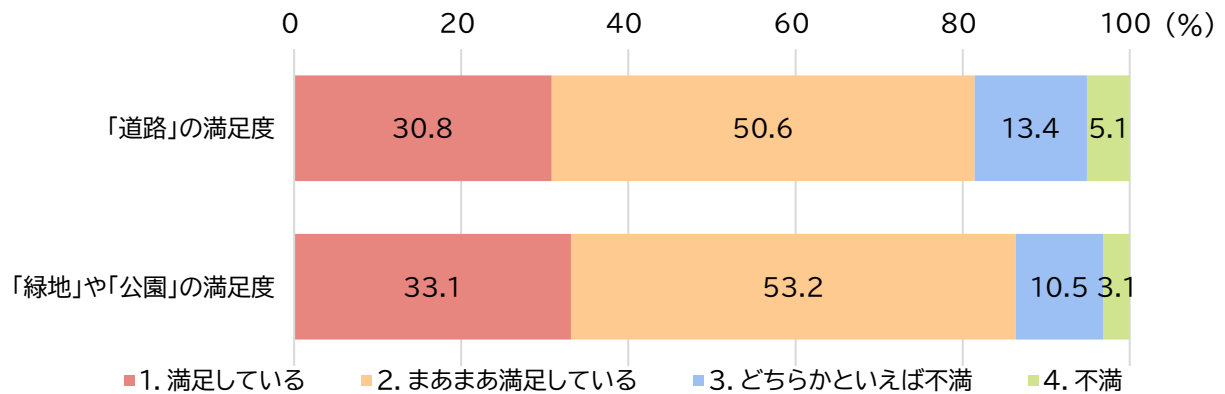
【問6 中心市街地の現状の満足度】

・中心市街地の現状について、8割以上の高校生が概ね満足しています。



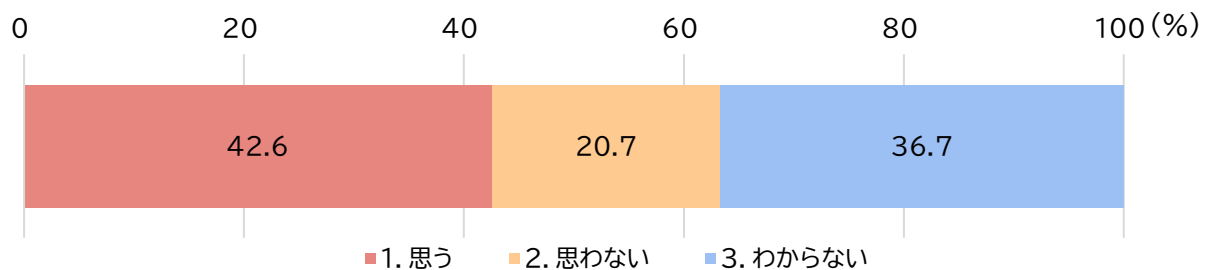
【問7 住んでいる地域の環境(道路、緑地、公園)の満足度】

・現在の地域環境（インフラ）について、8割以上の高校生が概ね満足と回答しています。



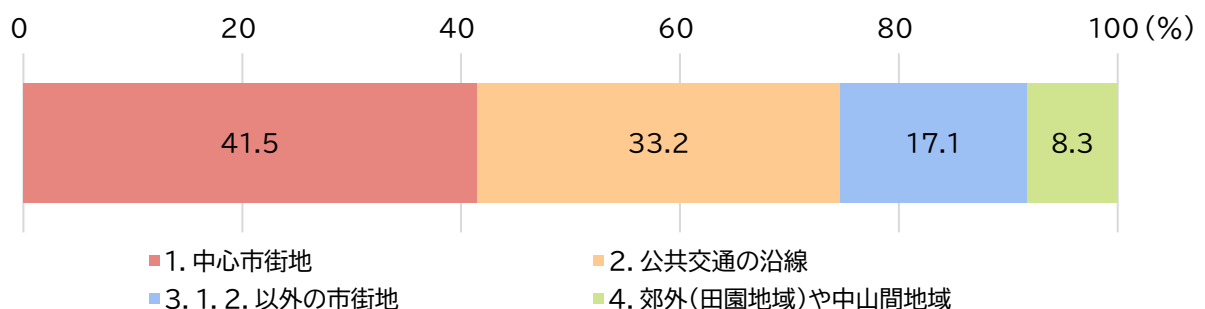
【問8 富山市に住みたい(住み続けたいと思うか)】

・将来の居留意向について、4割の高校生が住みたい(住み続けたい)と思う一方、2割の高校生が思わないと回答しています。



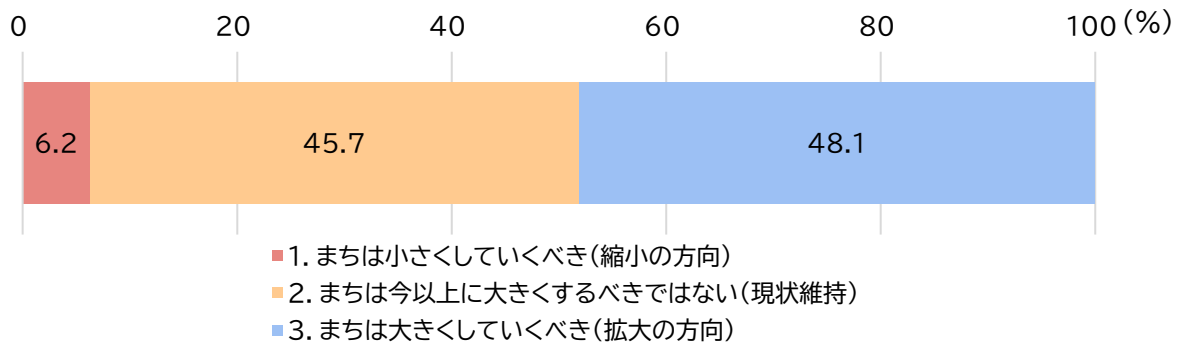
【問9 富山市に住む場合にはどのような場所に住みたいか】

・富山市に住む場合の居住地希望について、7割以上の高校生が中心市街地と公共交通の沿線を回答しています。



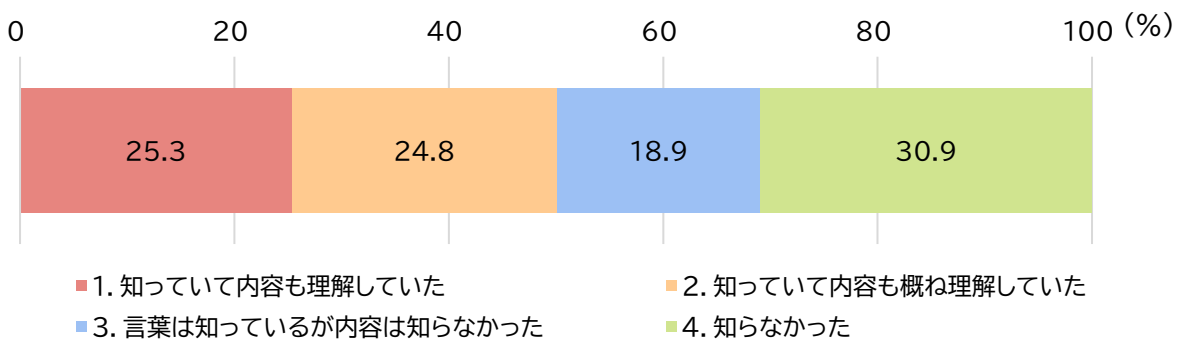
【問10 これまで富山市は、人口の増加に伴い、中心部から郊外部へまち(住宅地や商業地)が徐々に拡大してきました。今後どのようになるべきだと思いますか？】

・今後のまちについて、縮小と現状維持をあわせて約半数となっています。



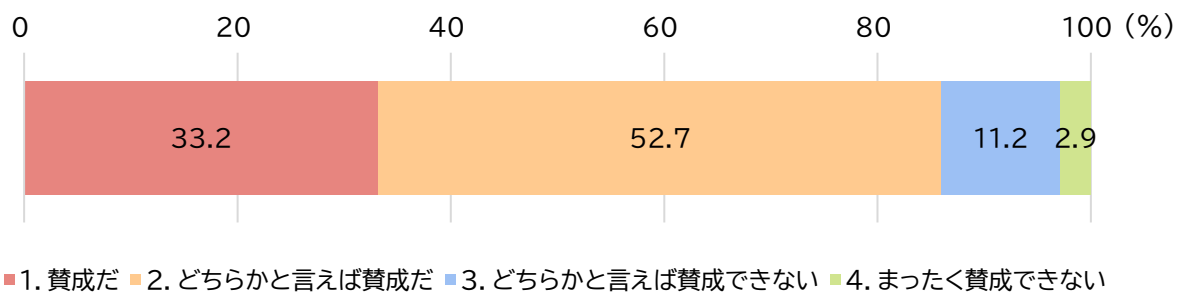
【問11 コンパクトなまちづくりの認知度】

・コンパクトなまちづくりについて、「(概ね) 内容も理解していた」は 50.1%、「言葉は知っていた」は 69.0%であり、市民アンケート調査に比べ低い傾向です。



【問12 コンパクトなまちづくりの評価】

・コンパクトなまちづくりについて、「賛成」と「どちらかと言えば賛成」をあわせて 85.9%であり、8割以上の方が取組を評価しています。



Ⅲ 市民ワークショップ

1 ワークショップの概要

(1)目的

地域の魅力創出、課題解決にあたっては行政だけでなく、地域住民等と協働し進めていく必要があり、市民に広く今後の社会情勢の変化やまちづくりを情報発信するとともに、各地域の魅力等に関する、地域住民との意見交換を行い、その意見を地域別構想に反映させることを目的に、ワークショップを実施しました。

(2)実施方法

日常生活のつながりや地形条件から14の地域生活圏を区分してワークショップを開催し、住民や学生などの提案をグループワーク形式で整理しました。また、市民ワークショップの開催前に参加予定の学生によるワークショップを実施し、多様な視点からの意見やアイデアを議論しました。

【事前学生ワークショップ(令和6年8月9日)】

～大学生の視点で富山市の様々な地域の魅力を調査し、将来に向けた

取組のアイデアを考えよう～

- ・富山大学、富山国際大学、富山県立大学の学生が参加し、これからの社会情勢の変化や本市のまちづくり方針や取組を学ぶとともに、本市の14地域を「うみ」「やま」「まち」に分けて、「都市の魅力」や「魅力を活かすための取組や改善点」の提案等を行いました。

【市民ワークショップ(令和6年9月～12月)】

～第1回 地域の魅力を考えよう～

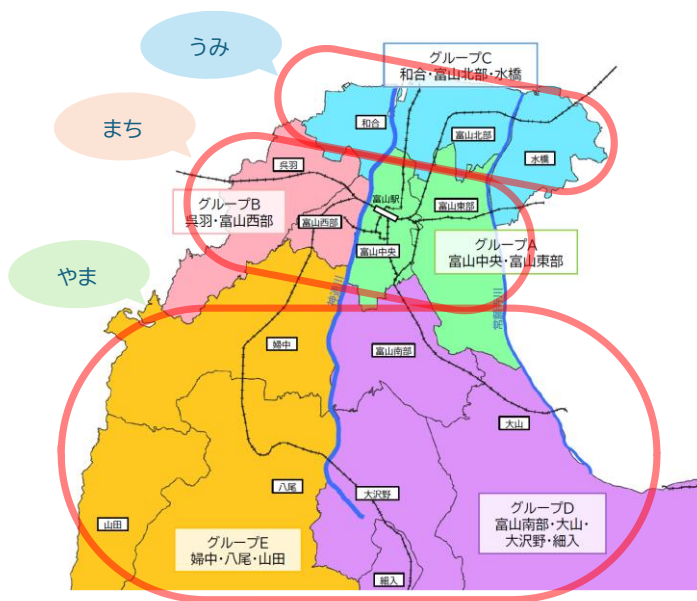
- ・自治振興会や各種団体等の地域関係者、学生が参加し、これからの社会情勢の変化や本市のまちづくり方針等の理解を深めるとともに、地域生活圏の特徴、魅力、改善点について意見交換し、「これからのまちづくりに活かせる魅力」を整理しました。

～第2回 地域のイチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデアを考えよう～

- ・第1回の成果を確認しながら、地域ごとに「地域のイチオシの魅力」を選び、「その魅力を活かすアイデア」や「アイデアを実現するために、自分や地域ができること」を整理しました。また、ワークショップ終了後には、ワークショップの成果や効果の確認などを目的に、アンケート調査を実施しました。

○ワークショップの単位(エリア)

市民ワークショップの単位 (生活圏グループ)	学生ワークショップの単位 (エリア)
Aグループ. 富山中央・富山東部	まち
Bグループ. 呉羽・富山西部	
Cグループ. 和合・富山北部・水橋	うみ
Dグループ. 富山南部・大山・大沢野・細入	やま
Eグループ. 婦中・八尾・山田	



○ワークショップの参加者

【事前学生ワークショップ】

地域区分		開催日	参加人数
うみ	和合・富山北部・水橋	R6.8.9	24名
まち	富山中央・富山東部・富山西部・呉羽		
やま	富山南部・大山・大沢野・細入・婦中・八尾・山田		

【市民ワークショップ(第1回、第2回)】

地域区分		第1回		第2回	
A	富山中央・富山東部	R6.10.5	28名	R6.11.30	25名
B	富山西部・呉羽	R6.10.6	12名	R6.11.30	16名
C	和合・富山北部・水橋	R6.10.5	22名	R6.11.24	20名
D	富山南部・大山・大沢野・細入	R6.9.29	21名	R6.12.1	19名
E	婦中・八尾・山田	R6.9.29	23名	R6.12.1	17名
		計	106名	計	97名

2 ワークショップのまとめ

(1)事前学生ワークショップ

○まち(富山中央、富山東部)グループ

No.	グループの推し	視点(友人と過ごせる、アクセス性、景観、利用可能時間、料金、安全・安心、など)	
		推しポイント	改善案
	<p>イベントができる場所が多いところ 例えば... 市民プラザ、城址公園 環水公園、大手モール 富山駅、グランドプラザ</p>	<p>にぎわい</p> <ul style="list-style-type: none"> 集客が見込める。 雨が降っても使えるところもある。 グランドプラザとか... キッチンカーで富山のご飯を食べてもらえる。 人が立ち止まるきっかけに。(賑わい創出) 交通手段多い。 全ての世代を対象にしたイベントができる。 活気が出る。 可能性広がる。 	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> アヴィレのエリアを増やすべき。 駐車場代高い。 <p>システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代に配慮したまちに。 トイレ・授乳室 遊べる場所・全天候型 簡単にイベントを開催できる仕組みをつくる。 いつでもどんなイベントがあるかネットで分かったらうれしい。 シャッター街を少なくしてお店を入れる。 <p>施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ライブ会場を作る。 目的地となりうる場所を増やして回遊性を高める。 隣接する商店街をもっと活性化させる。
	<p>交通手段が多い あいの風とやま鉄道、市電、バス、地铁、アヴィレ、車、タクシー、新幹線</p>	<p>利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の移動困らない。 市電が安い。 デザインが良い。 活動領域が広がる。 使い分けできる。 価格、時間、乗換など。 まちがコンパクトなので最悪歩けばいい。 通勤・通学がしやすい。 道がまっすぐで運転しやすい。 運動不足解消につながる。 富山駅からのアクセスに困らない。 	<p>多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> 市電のバリアフリー化 外国人向けの標識などを増やすべき。 アヴィレをやめて全国共通のものに変える。 システムの構築 ex)アプリと連動 [空き状況の確認] <p>利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> あいの風とやま鉄道の本数を増やす。 値段が高い バスの本数が少ない。 運転手が不足してる。 自動運転 給料を上げる など 中心地以外行きづらい。
	<p>働く場所が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市に住むことにつながる。 オフィスが増えるため充実する。 活気が出る。 人が集まりやすい。 できることが増える。 子育て世代が集まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 働く女性が県外に流れていくのを防ぐ。 イベント会社や美容系の会社を立ちあげる。 今空いているテナントなどにお店を入れることで、さらに雇用を増やし人を来させる。 若い人が働きたいと思える場所を増やす。
	<p>お店が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人は集まる。 街が活性化する。 欲しいものが手に入りやすい。 出かけるきっかけになり生活が充実。 経済がまわる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生向けのお店を増やす。チェーン店など。 車利用増加。 看板によって景観が悪化。

○まち(富山西部、呉羽)グループ

No.	グループの推し	視点(友人と過ごせる、アクセス性、景観、利用可能時間、料金、安全・安心、など)		
		推しポイント	改善案	
1	呉羽山 (シンボル) のある生活 #呉羽丘陵フットパス #立山×市街地 (一望できる景色) #呉羽活断層 #食	景色 (写真スポット) リラックススポット? ・呉羽丘陵フットパス 歩きながら景色を楽しめる! ・立山と市街地が一望! ・夜景がきれい。 マニア ・化石が採れる!	食 ・ <u>呉羽梨</u> が甘くてすごくおいしい。 (看板よく見かける。) →アルバイトできる。 ・ <u>くれは紅茶</u> カフェインレスで飲みやすい。 ・ <u>羽根屋</u> がおいしい。	・夜が暗くて危ない。 (五福から歩いてはいけない。) ・車じゃないと行きにくい。 ・呉羽のコミュニティバスが山を越えない。 ・災害のリスクがある。 ・呉羽とって思いつく“食”があまりない、知らない人が多い。
2	富山のアイデンティティ #芸術文化施設 #体験 (文化の)	施設 大規模な施設は市内にない。 ・ <u>水墨画</u> に特化した美術館を味わえる。 ・ <u>ガラス</u> づくりの体験ができる。 ・民俗民芸村に古い住宅が残っていて味わえる。 ・家族、 <u>世代を超えて一緒に楽しめる場所</u> がある。 ex)ファミリーパーク、ガラス工房、美術館		・奥まったところにある。 ・施設に何があるかわからない。 ・車じゃないと行きにくい。 ・8号線の混雑がひどい。
3	新たなつながりが生まれるかも?! #再発掘の宝庫 #移動 (モビリティ)	東側 ・中心部で自転車の乗り捨てができて便利! ・自転車置き場が結構あって便利。	西側 ・平坦な駐車場が多くて便利。	・山を越えると自転車をのりすてできるステーションがない。 ・ <u>Luup (電動スクーター)</u> があればいいかも ・呉羽山を越えるのが大変(ハードル)。 ・呉羽のコミュニティバスが山を越えない。
4	自然の魅力	・紅葉、桜がきれい。(五百羅漢) ・花や木、景色を見る場があり、 <u>四季の変化</u> が楽しめる。(北代の公園) ・土木学会で賞をとるくらいきれいな橋。(富山大橋) ・富山の花火		・知らない人多い。 → 情報発信
5	行きたいけど行きにくい ・カフェ ・飲食 ・隠れ家のような店	・オシャレなカフェがたくさん <u>クレオン (呉音)</u> ・隈研吾デザイン空間 <u>青い丘</u> ・自家製ベーコンと景色 Komako Anno ・ハンバーグ定食&パンケーキおいしい。		・車がないと行けない。 → 公共交通を整備する。
6	学生街 ・若者が集まる街	・立山と電車と橋の3つが見える。 ・運動ができ、自然が感じられる。 ・基幹災害拠点病院		・市電とバスの乗り換え。 ・雨天時に子供遊べない。 ・飲食店少ない。

○うみ(和合、富山北部、水橋)グループ

No.	グループの推し	視点(友人と過ごせる、アクセス性、景観、利用可能時間、料金、安全・安心、など)	
		推しポイント	改善案
	うみ	<ul style="list-style-type: none"> 岩瀬浜 <ul style="list-style-type: none"> ・10時~23時まで長く遊べる。 ・岩瀬浜は駅から210円近い、利用しやすい。 サイクリング <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ ・バーベキュー 子連れが楽しめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほたるいか ・タヤけがきれい。 海と山が両方見れる。(山に雪が残っているときがおススメ) 展望台 <ul style="list-style-type: none"> ・海と岩瀬のまちを一望。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ・シャワーの設備が充実していない。 カナル会館 <ul style="list-style-type: none"> ・少し暗くて入りづらい。 トンビに食べ物とられる。 周りに食事できるところが少ない。 カフェも 船での横移動ができれば楽しいかも。 観光資源開発の可能性あり。 <ul style="list-style-type: none"> ・フライボート、バナナボートなど。 グランピング <ul style="list-style-type: none"> ・つり、バーベキュー ・夕焼け ・あったら楽しいかも?
	まち	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ公園 <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・ラグビー ・ソフトボール ・テニス 色々できる。 富山市民球場アルペンスタジアム <ul style="list-style-type: none"> ・試合観戦 バスケット、遊具無料 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場広い。 ・ボールレンタル可だった気がする。 駅のまわり充実 <ul style="list-style-type: none"> ・カフェがある。(市電通りに) ・自分の町が好き人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供に優しく(移動・飲食・遊び) 車がないと行きづらい。(子供向けなのに) 小さい公園の遊具撤去。→子供の遊び場 減 あいの風とやま鉄道 東富山~水橋間に駅があってもいいのでは? <ul style="list-style-type: none"> ・浜黒崎海岸 ・リハビリセンターの近く ライトレールの混雑 <ul style="list-style-type: none"> ・朝と夕方 ・東西の移動が困難
	歴史	<ul style="list-style-type: none"> 岩瀬 <ul style="list-style-type: none"> ・森家と馬場家 ・入場料1か所100円 ・どちらもまわると180円 酒造 <ul style="list-style-type: none"> ・榎田酒造 ・富美菊酒造 大塚屋 <ul style="list-style-type: none"> ・三角どら焼き ・おいしい ・食べ歩きできる。 内山邸 <ul style="list-style-type: none"> ・フォトジェニック ・結婚式の前撮り まちなみが統一されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・きれい。 ・電線地中化されてる。 ・落ち着いた雰囲気 富岩運河クルーズ <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの歴史 	<ul style="list-style-type: none"> 子供向けではない。 若い人には少し高い。 終わる時間が早い。
	自然	<ul style="list-style-type: none"> きれいな田んぼ 立山 水がきれい。 海産物おいしい。 四季を楽しめる。桜、海水浴、雪etc 温泉 	<ul style="list-style-type: none"> 後継者の育成 景観の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・看板 ・電柱 とか

○やま(富山南部、大山、大沢野、細入)グループ

No.	グループの推し	視点(友人と過ごせる、アクセス性、景観、利用可能時間、料金、安全・安心、など)		
		推しポイント	改善案	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ますの寿シミュリアム ・イタイイタイ病資料館 ・カターレ(県総) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ますの寿し作れる。 ・富山市で一番充実している+イベントも。雨の日も楽しめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史やスポーツを体感できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットを巡る時に交通機関だと厳しい。 ・周遊バス ・カーシェア(観光客用の車、地域の人の車) <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人だけが知るオススメスポットがわかる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・パンダパンダ ・いその ・島田食堂 	<ul style="list-style-type: none"> 価格帯がそんなに高くない <ul style="list-style-type: none"> 若者にうけそう ・変わり種など種類が多い。(パン屋) ・お肉(さがりetc)を買ってグランピングとか? ・ゲンコツ大の唐揚げ 		<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店が充実しているが、娯楽施設が少ない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・割山森林公園「天湖森」 ・雅楽倶 ・大沢野ウェルネスリゾート「ウィンディ」 ・楽今日館 ・神通峡 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年6月にオープンしたグランピング施設 ・高級な感じ <ul style="list-style-type: none"> 大人の方や外国人層をターゲットにできる。 ・温泉を楽しめる。(ex. ウォータープール、肌に良い) ・四季雄大 		<ul style="list-style-type: none"> ・体験、食事、宿泊がセットになった、クーポンや観光ルートを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・セットにすることで観光商品として売り出しやすい。 →観光客の滞在時間が長くなる。 →観光客がまちを周遊する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・風の城 ・寺家公園 ・石仏の森 ・八百羅漢 ・常西用水ブロムナード ・本宮砂防堰堤 ・亀谷温泉 白樺の湯 ・スキー場 ・恐竜 ・日本百名山 ・百間滑 ・龍神の滝 ・有峰森林文化村 ・立山山麓家族旅行村 ・アルペンルート 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・遺産のエリア ・ダイナミック、雄大、大地、学び ・リフレッシュ、四季を楽しめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自然頼りで天気に左右される。 ・自然関係の資源が多い。 <ul style="list-style-type: none"> →他のエリアと比べ、誰でも行けるかと言われると... ・ラーケーションの導入 <ul style="list-style-type: none"> →新たな観光客層(修学旅行、子供連れ、親子)

○やま(八尾、婦中、山田)グループ

No.	グループの推し	視点(友人と過ごせる、アクセス性、景観、利用可能時間、料金、安全・安心、など)	
		推しポイント	改善案
1	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾の街並み ・ファボーレ ・対岸 (空港方面) 生活・文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・高台の住民 ・見晴らし良い。 ・石畳の道 ・歴史ある街並み ・丘の上の街 ・神秘的 ・欲しいものが何でもそろろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅からのアクセスが悪いので車を利用しがち。 ・どこに行くにも富山駅を経由しないといけない。 ・速星・八尾の駅前で「シクロシティ」とあると便利かも。 ・砺波平野から婦中、八尾へのバスを作る。 ・砺波→速星→JR特急ひだ(名古屋方面につながる。) ・電車の乗り方講座
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自然 アウトドア、果物、虫(蛍・カブトムシ) 自然・アクティビティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫と触れ合うことができる。 ・蛍が見れる。 ≡水がきれい。 ・ぶどう、スイカなど果物が豊富 ・街から遠く離れた温泉 ・キャンプ場 ・アウトドアが楽しめる。 謎の ・廃トンネル ・暗闇トンネル 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスはあるが最終の時間が早い。(→ほたるが見れない。) ・知名度upの政策 ・婦中ぶどう、婦中ワイン ・ブランド化 ・知名度があまり無いので、核となるスポットを作る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・工場 三菱ふそうバス、日産化学、東亜薬品 etc 工場 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中へバスを作っている。 ・硫酸やアンモニアを作っている。 ・駅から距離が近い。 ・薬のまちとやま 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅近だが出入り口の反対側 ・反対側からも駅に行けたら便利。 ・婦中鶴坂・速星の反対側の改札口をつくる。 ・通勤に使ってもらえるよう要望を工場の人に聞く。 ・工場をめぐるツアーをする。 ・地元民にも工場を知ってもらうための施設をつくる。 ・バス博物館をつくる。

(2)市民ワークショップ

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

1. 富山中央地域

<地域の魅力>

環水公園と富岩運河

・水辺と一体的な環境、桜並木など

小中学校、高校が立地する文教地区

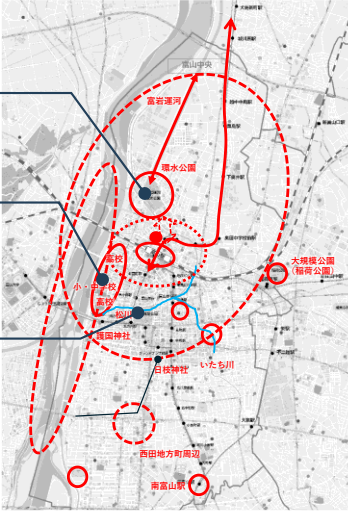
・魅力ある学校により転入者増

富山城址公園周辺

・薬都の歴史を感じられる

都心で歴史文化を感じる豊かな暮らし

・春は松川の桜、夏は神通川の花火
・日枝神社の山王まつり、護国神社の
のみの市などの伝統行事



生活利便性が高い

・医療、高齢者施設が充実

施設が集積

・観光スポットやイベントスペースがコンパクトにまとまる

豊かな水の恵み

・桜並木や緑地は四季を感じられる

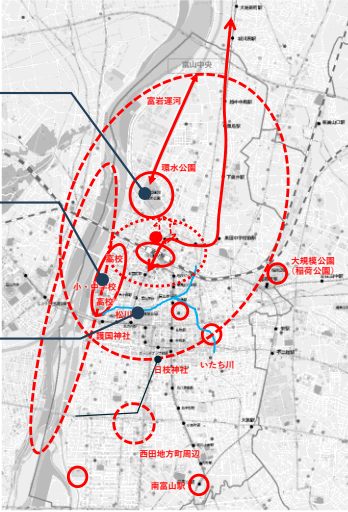
まちなかの公共交通充実

・市内電車は一律料金
・路面電車はまちなかの景観要素

<地域のイチオシの魅力>

中心市街地の多様な機能集積

・環水公園、オーバードホール、
グランドプラザ、富山城、松川、
美術館、商業施設の集積
・公共交通結節点で利便性が良い



中心部ににぎわい、誇り

・海産物を提供する飲食店立地
・チンドンの発祥
・水が豊か(延命地蔵の水など)
・立山連峰の眺望
・きれいで整っているまちなか

住みやすさ・歩いて暮らせる

・都市機能や公共交通の集積が
あり、歩いてくらせるまち
・教育環境が充実
・まちなかに大きな公園など自然
環境がある ⇒ 人が集まる

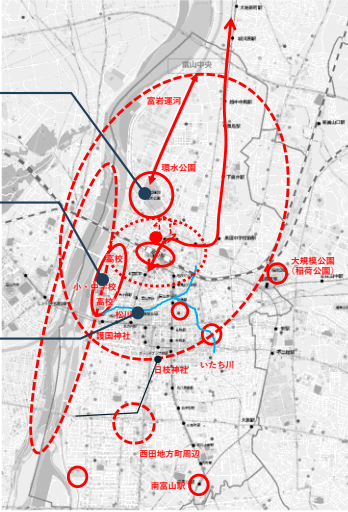
<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

施設の活用

・地下道、旧八人町小学校跡地
・河川の親水空間の創出
使いやすい公共交通

・歩行空間の整備、使いやすい
シェアサイクル、電車の利用促進
富山ならではの体験

・かぶら寿司づくりやます寿司食べ
比べ体験
**市民がイベント等を企画・提案
できる環境づくり**
⇒市民コンベンなど



駅周辺の賑わいを創出

・大規模、高頻度のイベント実施
・照明を活用した空間演出
・観光資源の周遊コースの設定
・総合案内所の拡充
市内の観光の促進

・定期観光バスやます寿司巡り、
ウォーキングマップや寿司横丁整備
・「富山を歩く＝オシャレ」の推進
魅力の保存

・桜、延命地蔵の水

意見交換、交流機会の創出

・子供向けイベントの実施
・マンション住民の町内会参
加
健康寿命の延伸

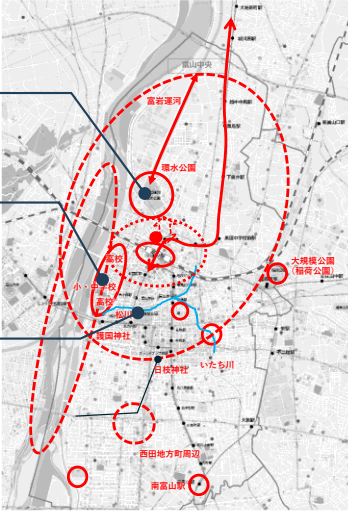
・とほ活アプリの活用
・歩きやすい歩道の整備
・自動車利用からの転換
学生も暮らしやすくする

・行きやすい飲食店を増やす

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

自分が得意な活動の推進

積極的にまちに出て、イベントに
参加し、交流する
・学生エキスポのような取り組み
協議会の立ち上げ(駅周辺)



地域の魅力を知って発信

・観光客へ積極的に声かける
雰囲気づくり
ごみ拾いなどの清掃活動

公共交通の利用

住民間で情報交換
SNS等による情報発信

・高齢者向けの電子回覧板も
活用

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

おしゃれ、スマート、ハッピー /

若い女性が
住みやすいまち /

歩ける、歩きたくなるまち
=安全、楽しい、住み続けたいまち

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

2. 富山北部地域

<地域の魅力>

岩瀬のまちなみ

・森家・馬場家など、歴史的建築の岩瀬の街並みはアクセスのよい観光スポット

公共交通・富岩水上ライン

・3つの鉄道線やフィーダーバスがあり交通の利便性が高い
・東富山駅は東口新設により利便性向上
・富岩運河は特徴的な観光資源

海・山・川・田園の風景と景色

・富山湾、立山連峰、神通川、常願寺川、豊かな田園風景の要素を様々な組み合わせで見ることができるスポットが点在。立山連峰を楽しめるベストスポット。

豊田小学校周辺

・機能が集積し、生活が便利
・災害発生時には、避難拠点として利用


岩瀬漁港

・地域に産業が根付いている。
・新鮮な海産物が獲れ、白エビ、ほたるいかなど特産品が豊富。

レジャー施設・富山湾岸サイクリングコース

・海水浴やキャンプなどができる
・眺めが良い

銭湯・温泉の集積(萩の湯、日方江温泉)

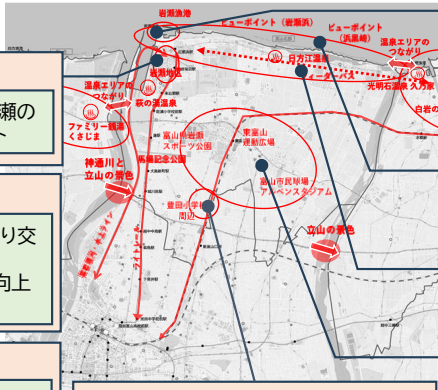
・海沿いに温泉施設が複数あるのは珍しく、地下水が豊富な証拠。 

東富山駅周辺のスポーツ施設の集積

・市民のスポーツ、レクリエーションの場

安全安心で住みやすい住環境

・中心部に近く、地域のつながりも強い



<地域のイチオシの魅力>

<観光>

・海の観光資源
(浜、漁港、海産物)
・岩瀬を中心とした歴史文化資源
(街並景観、酒造、街道、祭、奴踊りなど)
・複数あり、観光スポットをつなぐ公共交通

<生活>

・公共交通の利便性の良さ
・住みやすさ

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・海の資源を活かした季節を通じた多様な催しの実施
→海の家での名産品の活用、ビアガーデン、釣り体験イベント
・食と温泉セットで売り出す
→健康増進に役立つなど
・観光客にとって使いやすい地図の作成
→シンプルに見やすいまち歩きマップなど
・文化継承に向けた取組みの推進
→イベントで披露

・公共交通による横のつながりを構築
→デマンドバスの導入、自動運転、パーソナルモビリティの活用
・防災性・安全性を向上させる
→防災対策、安全な避難所の設置、電柱表記、バリアフリーの推進
・既存施設や、空き地・空き家の活用
→統廃合で空く学校を活用
→空き地や空き家を居住やイベント利用
・働く場を作る→工場、企業の立地誘致
・地域をきれいに保つ

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

・清掃活動
・設備を維持する活動
・SNSで発信

・新規居住者をイベントに誘う
→イベントの参加を促して、コミュニティのつながりを形成
・地域活動の計画・実施(安全、防災活動など)
→一緒に計画、活動
・清掃活動

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

海を五感で楽しみ 住み良い街

3. 和合地域

<地域の魅力>

ブランド米を育む豊かでどのかな田園環境

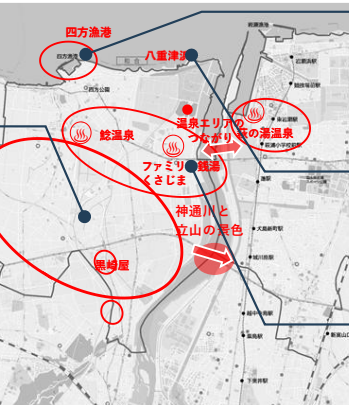
- ・昔ながらの四方の風景で、富山の米どころ、ブランド米(八町米)の産地。
- ・きれいな田園風景を創出し、周辺には古民家カフェも立地。豊かな緑がある。

海・山・川・田園の風景と景色

- ・富山湾、立山連峰、神通川、豊かな農地の風景の要素を様々な組み合わせで見ることができるスポットが点在。立山連峰を楽しめるベストスポット。

安心安全で住みやすい住環境

- ・市の中心部に近く、国道等幹線道路が地域を横断しており東西の移動もしやすい。



魅力がないことが魅力

- ・子育て世代には住みやすく、よいまち

四方漁港

- ・地域に産業が根付いている。
- ・新鮮な海産物が獲れ、白エビ、ほたるいかなど特産品が豊富。

八重津浜

- ・立山や新湊大橋が見える。

銭湯・温泉の集積(鯉温泉) 湯の箇所

- ・昔ながらのこじんまりとした温泉で、古きよきの雰囲気。地下水が豊富な証拠。
- ・赤湯が楽しめ、味がある。

地域固有の祭り

- ・地域のつながりを強めている。
- ・獅子舞、納涼祭 四方子供曳山祭り

<地域のイチオシの魅力>

海の資源

- ・景観
- ・海浜公園
- ・海産物、農産物

住みやすさ

- ・治安が比較的良い
- ・交通利便性(東西方向の車移動)
- ・市街化されきれっていない住環境

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

回遊できる仕組づくり

- ・海上を活用。
- ・遊覧船の運行と漁港めぐり

新しい名物「和」をつくる

- ・海産物とブランド米のコラボ

海を活かしたイベント開催

- ・スポーツイベント、音楽フェスなどの開催

海浜公園のトライアルパーク化

- ・新規起業の場づくり。
- ・ケータリング、カフェ など

人口維持に向けた取組

- ・拡大を伴う開発はNG。(いまの市街地環境を維持)
- ・空き家、空き地活用。
- ⇒リノベーション
- ⇒建て替え、新しい利活用(若者の定住につながる賃貸集合住宅など)
- ・空家活用に向けたPR(空家バンク)

回遊ルートの開発(都心を介さない移動ルート)

- ⇒四方から五福方面をつなぐ移動手段

地域内の移動環境の充実

- ⇒デマンド運行、自動運転化、社会実験の実施

公共交通の充実

- ・フィーダーバス充実
- ⇒本数の充実、ルート延伸(地域内へ)
- ⇒おでかけ定期的改善(LRTの乗り換えの配慮)
- ⇒蓮町の乗り換え環境の改善(待合空間の充実)

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

地域で話し合う場をつくる

- ・情報発信やPRに取り組む
- ・新しい取り組みの準備や受け入れ(社会実験など)
- ・お店、温泉との協力体制づくり

若い世代が参加のできる組織

- ・「ゆるいルール」でのつながり
- ⇒小学校の統合がきっかけになるかもしれない
- ⇒外国の方々とのつながりも考えられる

住民のITスキルを高める

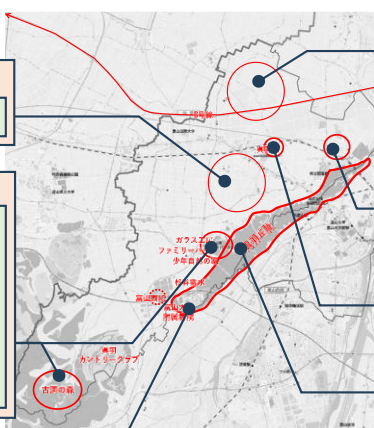
- ・これからの生活、まちづくりに欠かせないスキル
- ・お年寄りが活用できるように

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

住みやすい 来やすい 遊びやすい
~WAI WAIでGO GO~

4. 呉羽地域

<地域の魅力>



四季折々に採れる豊かな農産物

- ・呉羽梨が有名で、リンゴやブドウも生育

平野部の田園風景

- ・圃場整備がされ、大規模な農地が多い。お米が中心で法人化した農家も多い
- ・商工会や農協がイベントを実施

呉羽丘陵周辺の文化・体験施設等の集積

- ・幹線道路沿いにおしゃれな飲食店立地
- ・体験施設や観光名所が多い
- ・ガラス工房のワークショップはインバウンド需要が高く、人気
- ・ファミリーパークでは夜イベントも実施
- ・少年自然の家では、小学生が宿泊で自然学習
- ・古洞の森(リニューアル予定)

自然豊かなウォーキングコース

- ・ウォーキングやジョギングができ、健康増進につながる。富山マラソンのコース

呉羽駅と駅周辺

- ・富山駅まで1駅で新幹線の利便性が良い
- ・北側は新たな住宅地、商業施設も立地。
- ・桐朋学園周辺は若者が多く、学びの機会

生活に密着したコミュニティバス

- ・運賃は一律100円で地域住民の足
- ・呉羽駅を拠点に1時間で周遊

富山大学付属病院

- ・医学部があり、先端医療が受けられる。

呉羽丘陵地・呉羽山の豊かな自然

- ・多目的広場、都市緑化植物園など大きな公園があり、子供がのびのび遊べる。
- ・立山一望や四季折々の豊かな自然があり、市街地の景色も良い。
- ・フットパスが整備され、散歩できる

<地域のイチオシの魅力>

<食>

- ・呉羽梨(花のじゅうたん)
- ・八町米
- ・果樹がたくさん採れるほか、人参、玉ねぎなどの高付加価値作物

<自然・体験>

- ・呉羽丘陵の豊かな自然環境、景色
- ・文化施設の集積、様々な体験が可能
- 民俗民芸村や遺跡等歴史・文化施設
- フットパス、ファミリーパーク
- 桐朋学園、ガラス工房

<暮らし>

- ・カフェや公園が多い
- ・駅を中心に商業等機能がコンパクトに集まり住みやすい生活圏が形成

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・地産地消

- 飲食店で地域の農産物を使用
- ・直売所や道の駅整備**
- 梨を活かした新商品の開発
- 食を体験できるイベントの開催(マルシェや朝市を月一実施)
- 施設間で連携したイベント
- ・梨街道、薬草ロードの活用**

・農家や若者が参加しやすい夜開催のイベント(自然、文化×食)

- 若い人も触れ合えることができ、来街者も楽しめる
- ・情報発信**
- SNS等の活用
- ・施設間の周遊環境の整備**
- 周遊バス、レンタサイクル
- 既存のコミュニティバスとの連携

・滞留できる場の整備

- 子供を遊ばせながら休める場として、公園内へのカフェや休憩施設の整備
- ・公共交通の充実**
- コミュニティバスのルート再編
- 五福方面へのアクセス強化

・道路環境の改善

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

- ・担い手確保による農地の保全、管理活動
- ・消費の選択行動(地元食材の購入)

- ・外の人を受け入れる地域づくり(企画、発信、連携)
- 地域のお祭り等のイベントの情報発信(SNS活用)
- 各地域の「ふるさとづくり推進協議会」や学生との連携

- ・話し合いの場への参加
- 住民同士、地域の学生を交えながら実施

・公共交通を利用して盛り上げる

・小中学生への地域の歴史、文化学習の実施

→講師参加や地域歴史クラブの発足などによる機会づくり

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

クレハ

学生のエネルギーあふれるまち
呉羽丘陵を核に自然・文化・音・食のまち / 富山のへそ 花のじゅうたんが広がる908

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

5. 富山西部地域

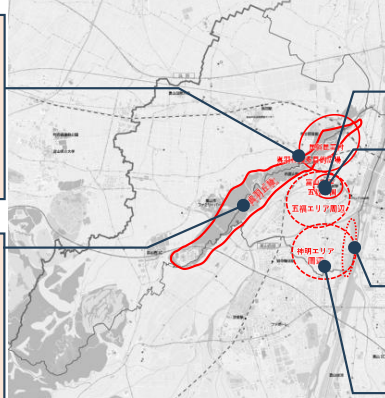
<地域の魅力>

呉羽丘陵周辺の文化、体験施設等の集積

- ・民俗民芸館、五百羅漢、古墳など、文化、体験施設等が集積。
- お茶や絵付け体験が外国人に人気
- 合掌造りの建物展示や、加賀前田家遺産など歴史文化を学べる社会学習の場

呉羽丘陵の豊かな自然

- ・多目的広場、都市緑化植物園など大きな公園があり、子供がのびのび遊べる
- ・立山一望や四季折々の豊かな自然があり、市街地の景色も良い。
- ・果樹や農業が盛んで呉羽梨が有名。
- ・フットパスがあり、散歩できる。
- ・少年自然の家では、小学生が宿泊しながら、自然学習などを行っている。



五福公園

- ・大学に隣接しており部活で利用されるなど活気がある。
- ・スポーツ施設や子供向け遊具が充実している。

富山大学

- ・学生がいて人目があるので治安が良い。
- ・交通利便性が高い

自然豊かなウォーキングコース

- ・自然の中でウォーキングやジョギングができ、健康増進につながる

近郊農業の中心地、豊かな農産物

- ・小規模農地も多く、米だけでなく野菜も栽培している

学生、子育て世代が生活しやすい街

- ・商業施設や医療施設が充実

<地域のイチオシの魅力>

住む

- ・都心との交通利便性
- ・生活利便施設が充実
- ・農地、自然と触れ合える(五福公園など)

観る

- ・自然 (呉羽丘陵)
- ・景色 (立山、田園風景など)
- ・文化施設(民芸村など)

学ぶ

- ・学生の街 (大学、専門学校、高校など)
- ・地域の歴史もある

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・空き地の活用

- ・体験イベントの実施 (歴史文化や農業体験など)
- ・歩くイベントの実施
- ・情報発信

- ・地域の人による地域授業の実施 ⇒アーカイブ化
- ・地域での食事の推進 ⇒学生が地域に入るきっかけづくり(イベント開催など)

- ・学生と地域が交わるイベント実施 ⇒ あらゆる世代が参加

・公共交通の充実

- ⇒高山本線の新駅設置
- ⇒地域内を縦断する公共交通(バス)の整備
- ⇒婦中など郊外商業エリアへの交通の確保(子供や高齢者の足)
- ⇒ラストワンマイルのアクセス充実(自転車、キックボード、自動運転等)

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

- ・公共交通や自転車利用、積極的に歩く
- ・コミュニティバスを支援

- ・学生や観光客を巻き込んだ情報発信(SNSなど)、老人クラブでの情報発信
- ・学生と地域のつながりや若い力の活用老人クラブと連携したSNS使い方講座の開催など

- ・農を取り入れた生活の提供 (地産地消、空き家を活用して居住の推進など)
- ・地元農家による農業体験イベントの実施

- ・地域住民が積極的に地域の歴史等を情報提供
- ・学生が地域活動に参加、手伝い

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

住む、観る、学ぶを磨きあげ、住みたい、行きたい、伝えたい まち 富山西部

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

6. 富山南部地域

<地域の魅力>

交通ネットワークの充実

・富山IC、富山空港、南富山駅、国道41号線の交通の要所になっている。卸売市場にも近接。

暮らしの利便性が高い

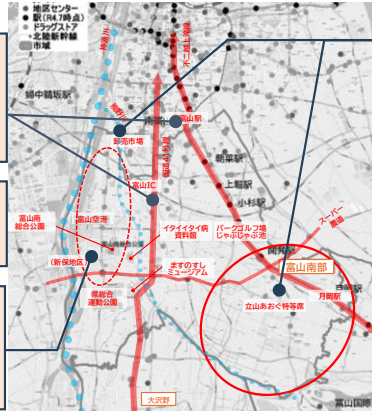
・医療・高齢者施設が充実。

高齢者等がいそいそと過ごせる環境

・富山県総合運動公園や富山南総合公園、パークゴルフ場やじゃぶじゃぶ池など身近に健康増進施設がある。

地域の伝統文化

・獅子舞やお祭りなどの行事がある



豊かな子育て環境

・子育て環境が充実し、人口増加

豊かな自然、自然景観

・熊野川では川遊びができ、川沿いの用水路はゲンジボタルの生息地
・立山連峰の眺め、「立山をあおぐ特等席」選定地点がある。
・桜並木や新緑、田植えや稲刈りの生産活動など四季を感じられる。

豊かな田園地帯の農の恵み

・農業体験の場

地域でつながり交流できる環境

・自治体行事への参加者が多い。
・地域のイベントが多い。
・コミュニティによる地域内の河川や神社の掃除の実施。

<地域のイチオシの魅力>

<集客施設の立地>

・空港、運動公園、防災センター、健康パーク、能楽堂など

<豊かな自然>

・農地、立山の景色

<住みやすい>

・コミュニティの繋がり、子育てしやすい環境、交通アクセスの良さ

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・催しを開催する
→既存施設の活用や近隣地域と協力

・農を活かしたまちづくりの推進
→農業体験、食育の推進、地産地消のライフスタイルの啓蒙

・東西の交通アクセスの改善
→高齢者や子供の足の確保
(コミュニティバス、オンデマンドタクシー、シャトルバス)

・立山の景観スポットの整備
→安全に安心して見ることができ、誰にもわかりやすい場所

・多世代交流の推進
→祭(獅子舞や神輿など)は今のままの維持が難しいなら形を変えても継続する。

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

・子供を中心に関わる人で情報、意見交換

・意識して公共交通を使う
・自ら公共交通の良さを知り、発信する

・写真スポットを見つけて紹介
→既存施設等を活用して看板設置、SNSなどで情報発信

・自ら活かせるものを見つける(地域を知る)
・地域間で情報、意見交換する

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

自然とコミュニティが活きる、全世代が元気に暮らせるまち

7. 富山東部地域

<地域の魅力>

城東ふれあい公園

・多機能であり、市民の憩いの場

幅広い教育機関が集積、子育て環境が良い

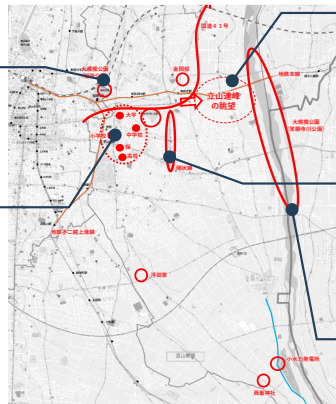
・保育園～大学まで地域内に立地
・子育てに便利で教育環境が良い

身近に自然を感じられる

・緑や自然があり、田園風景も身近
・野鳥(キジ)も見られる。
・太田小では、学校田で農業体験

公共交通が充実

・まちなかや駅まで距離が短い



立山連峰の眺望

・街なかからでも立山連峰を眺望できる

生活利便性が高い

・医療・高齢者施設が充実
・生活利便施設が徒歩圏内にある
・特に、商業施設が集積していて、生活用品の入手が容易

豊かな水の恵み

・常願寺川には、多目的広場などがある
・小水力発電は地域に安心を与えている

歴史的資源が点在

・世界かんがい遺産に登録されている常西合口用水や県保有・活用の金岡邸
・浮田家住宅や周辺小学校の児童が参加する西番奉納相撲

<地域のイチオシの魅力>

歴史文化・観光・自然資源

・新庄赤門レンガなどの歴史遺産
・売薬で有名な金岡邸
・田園景観(農業)、立山への眺望
・常願寺川、常西用水等の水資源
・地震、水害・治水の歴史

教育施設集積、活力のある街

・栄町周辺
・城東ふれあい公園
・外から新しい人が入ってきて、知性・活力がある

交通利便性が高い

・生活に必要な施設が充実
・幹線道路沿いの店舗集積
・駐車場が豊富にある

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

歴史を学ぶ場、地域資源の活用

・災害の歴史の見える化
・学校の地域学習の機会を活用
・地域学習として歴史資源の見学
・地域内外の広い視点でまちづくり
良好な維持管理
・農業の担い手確保、大規模化、営農化の促進、農業施設の維持

既存施設を活用した生涯学習

・施設の統廃合に合わせた取組
・城東公園を周年利用によるスポーツの拠点(全天候型施設)
地区センターの活用
・子育て世代にもやさしい環境
・地区センターの活用、連携
高齢者向けスマホ講習会の開催
・情報スキル向上

地域で移動できる公共交通の充実

・交通ハブを拠点とした巡回交通、交通手段等の検討
広大な駐車場を防災面で活用
・防災倉庫や一時避難所利用
・業種を超えた商業施設同士の連携
情報発信
・立山三十景のような写真集作成

節度があり質の高い開発誘導

・小規模な個別開発は住環境上、防災上よくない。(敷地規模が小さく、不連続な道路)
・仮に開発するのあれば、計画的にある程度の規模で取り組む。

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

若い人たちを地域にひきつける世代間交流の場づくり
⇒各町内で中学生参加(防災学習、緑の維持管理、清掃活動)、公民館の活動の活発化
・若者参加のための活動の手引き⇒市より情報提供
市や会社が連携して情報発信(SNS活用)
・合同イベント開催や防災面の情報発信

定期的に地域のみんで考える場
・必要な防災設備や設備の維持管理など
スマホ会社や学生と連携したスマホ教室開催
・スマホを利用した防災情報の共有
電子回覧板の活用、確実な情報収集

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

地域資源から始まる
まちのコミュニケーション

歴史文化・教育・自然を活かした
『次世代 交流・共存・共生のまち』

9. 大沢野地域

<地域の魅力>

豊かな田園地帯の農の恵み

- ・いちご農園や産地直売所「あおばの里みのり館」、農業体験の場

公共交通網、交通ネットワークの充実

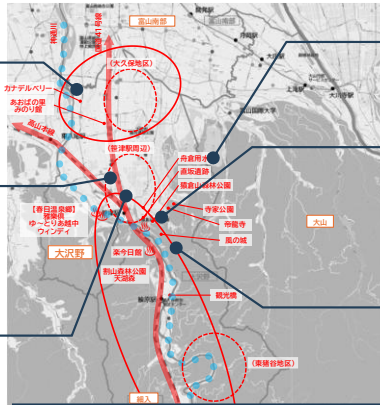
- ・国道41号線の路線バスやJR高山本線は富山南部、八尾、細入方面へ人やモノの流れを生み出す重要な交通網。

暮らしの利便性が高い

- ・医療・高齢者施設が充実し、生活利便施設が徒歩圏内にある。

地域でつながり交流できる環境

- ・地域イベントや地域内の河川や神社の清掃を実施し、参加者が多い



豊富な文化資源

- ・直坂遺跡(縄文土器等)
- ・舟倉用水では歴史の体験学習ができる。

豊かな自然景観

- ・猿倉山森林公園から富山平野を一望できる。寺家公園の桜や紅葉。

豊かな自然による観光・レクリエーション資源の充実

- ・神通川沿いの自然を活かしたレジャー施設(神通狭、春日温泉郷、風の城)

地域の伝統文化

- ・県内2地区のみで現存する高砂山願念坊祭りの開催(大久保地区)。
- ・20年に一度の加賀藩の「百万石行列」
- ・2人で踊る金蔵獅子(東猪谷地区)

・高齢者がいきいきと過ごせる環境

- ・温浴施設等があり元気な高齢者が多い、高齢者の買い物見守りを実施

<地域のイチオシの魅力>

伝統文化

- ・伝統文化や伝統芸能がある
- ・1580年から続く高砂山願念坊祭り
- ・170年前から続く加賀藩のいい山車

地域への愛着

- ・集落イベントとして5年ぶりにBBQを開催し、70人が参加
- ・地域や集落の開拓の歴史がある
- ・17の集落の生い立ちを知れると良い

自然資源

- ・自然豊かな台地
- ・熊野川がある
- ・眺望、景観、夜景が綺麗
- ・河岸段丘で地震の安全性高い
- ・寺家公園の紅葉や秋桜

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

- ・高山本線にSLを走らせて観光の魅力を発信

- ・観光の魅力を向上させる(交通面共通)
- 東西のアクセス向上

若い人にも魅力を知ってもらう

- ・活性化協議会のイベント、催しがあり、協議会同士のタイアップや若い人への周知
- ・町内だけでなく町外の人も参加
- ・100人参加するあゆのつかみ取り
- ・小学校の体験学習(15km歩く遠足)

農業の維持

- ・農家を守りながら開発とのバランスが重要(新たな居住の受け皿)
- ・田んぼ活用の選択肢を増やす
- ・若い人が田んぼを活用し営農維持
- ・少子高齢化で地域運営が難しくなるので担い手を確保
- ・公共交通沿線以外の集落の生活をどうするか。

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

笹津駅周辺の交流の場づくり

- ・観光列車やSLを走らせる
- ・高山本線をまちづくりに活かす
- ・既存施設の活用

集落の開拓の生い立ちを冊子化

- ・地域の開拓の歴史や教訓を若い人にも共有

地域を盛り上げるイベントや祭りなどの催し

- 後継者の育成
- 交通の利便性向上
- 情報発信(チラシで周知、発信)

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

自然豊かで先祖を大切にすうん米まち

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

10. 大山地域

<地域の魅力>

公共交通網の充実

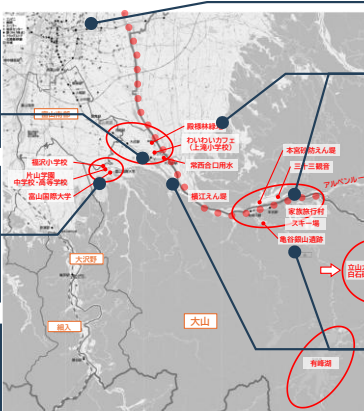
・オンデマンド交通で駅やバス停へのアクセスが良い。

豊かな子育て環境

・自然の中で子育てができ、保育園、幼稚園、小学校～大学まで地域に揃っているため、地域と教育機関の連携しやすい。

地域でつながり交流できる環境

・コミュニティによる地域内の河川や神社の掃除の実施。
・学校が集積し、地域住民と学生の交流
・上滝小の空き教室を活用した「わいわいカフェ」は高齢者の憩いの場。



豊かな自然景観、観光・レクリエーション資源の充実

・常願寺川、熊野川では川遊びができる。
・殿様林緑地は県外からも利用客がくる。
・観光と自然体験が一緒に楽しめるスキー場、キャンプ・リゾート施設
・有峰湖周辺は登山道の玄関口
・地域内の標高が0～3000mで上滝エリアは星がきれい

豊富な文化資源

・県内初の世界かんがい施設遺産「常西合口水」、小水力発電所も多数あり、水と電気のまち
・国土保全施設が豊富にある。(本宮砂防えん堤、立山カルデラ、白石えん堤、本宮えん堤、横江えん堤)
・金太郎伝説のある亀谷銀山遺跡

災害の少なさ

・大災害級の災害がほとんどない

<地域のイチオシの魅力>

<立山から始まる自然資源>

・常願寺川が作り出す水資源や砂防施設
・澄んだ空気が生み出す星空
・身近にあるスキー場

<“ない”から創る!!言い換えれば…“ない”ことが魅力?>

例えば、福沢地区には…
・鉄軌道がない
・農業中心でも兼業
・高等教育機関はあるが交流なし

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・山村留学の推進

・上滝保育園で実施するシステムを拡充
・地域の多様な資源と連携・活用し、様々な体験

〔大庄・福沢〕⇒水田・酪農・中央農業高
〔上滝〕⇒市営住宅を活用して生活の場を提供

〔小見〕⇒小見小学校を拠点にスキー、スキージャンプ、砂防堰堤学習、水遊び

・持続可能な集落再構築モデル～コンパクト集落の実現

・まずは「スマート&コンパクト限界集落」に向けたモデル事業(社会実験)を実施、地域の意識を高める
・スマートICT交通の社会実験
・国際大学生と連携し住民の就労機会創出(cafeや物販)
・安全な小学校跡地に住まいと地域の交流機能を集約(公営住宅)
・wi-fi完備で学習スペース確保や地域塾で子ども達の学習支援

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

・地域の魅力を情報発信

・地域内の合意形成

〔行政の協力〕

・上滝の市営住宅のリニューアル
・リモートワークの拠点整備

・地域の合意形成

→20～40代の世代との交流を増やす

〔行政の協力〕

・行政・大学・地域が同じテーブルについて、地域の将来像について話し合える場づくりの支援

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

大山学を始めよう!! 日本一幸せな限界集落

※令和6年度市民ワークショップでの意見をまとめたものです。

11. 八尾地域

<地域の魅力>

富山八尾中核工業団地

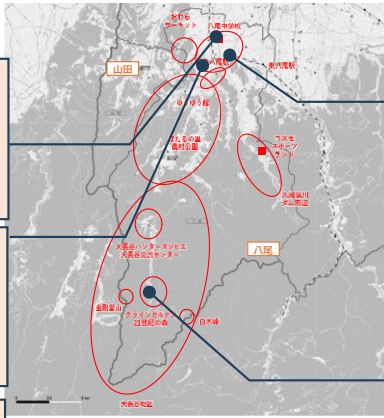
- ・地域の生活基盤で
- ・雇用を創出。市の産業を支えている。
- ・地域のイベントに協賛、職場体験など、地域と連携。

おわら風の盆、越中八尾曳山祭り

- ・伝統を感じることができる祭り
- ・全国的に有名で、各地から観光客来訪
- ・祭りをきっかけとした人々のつながり
- ・八尾高校には郷土芸能部もある。

八尾の街並み景観(坂、町屋、石垣・石畳のある景観)、八尾おわら資料館

- ・美しい街並みが残っており、文化的
- ・人々の暮らしの豊かさがある。



自然を活かしたスポーツ・レジャー施設

- ・おわらサーキット、コスモスポーツランド、八尾ゆめの森ゆうゆう館など

良好な生活環境

- ・市街地でも適度な密度で、ごみごみしてない。(越中八尾駅周辺)
- ・八尾小学校は、最新の設備が充実。
- ・自然が豊かで、癒しになっている。
- ・自然とのふれあいの場、原風景ある。
- ・お米がおいしい。水もおいしい。

豊かな自然・農村環境(大長谷地区ほか)

- ・大長谷温泉、21世紀の森、ほたるの里農村公園、白木峰、金剛常山、ブルーベリー農園、地場食材を使ったピザ屋
- ・季節の山菜・果物が豊富
- ・7月の2週間はニッコウキスゲが開花し、観光客も多い。交流人口は約800人。
- ・平地でアユ、イワナの渓流釣りができる。
- ・住民の半分が移住者で移住支援も実施
- ・クラインガルテン(6棟)があり、移住のお試し利用や別荘として利用

<地域のイチオシの魅力>

<街>

伝統・文化
人情
観光資源(食、加工品)

<自然>

食・特産物
農業(米、山菜など)

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

交流人口を増やす(地域に来てくれる人)

- ・マルシェの開催→通年で人が訪れる工夫、賑わいを創出
- ・農体験、自然体験→外の人の参加のもとで農を維持
- ・道の駅のような販売・発信の場の設置→特産品を活用したもてなし、顔が見える魅力の発信

関係人口を増やす(地域を支え、応援してくれる人)

- ・祭りなどの伝統・文化の担い手の育成・確保
- ・農業の担い手の育成・確保

移住者を取り込む

- ・空き家の活用
- ・移住プランの提供(受け入れ側の体制、仕組み、移住側への情報提供)

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

地域内消費・内需の拡大

- ・農産物の付加価値を高める

街と農村エリアの連携

- ・地域運営の人材のシェア
- ・地域全体を皆で支える

情報発信・PR

- ・地域、個人それぞれが地域資源の魅力を発信

地域全体で地域づくりを話す場を持つ

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

自然・文化・食を活かせる 共存 自然 共栄
しつづける八尾 まち

12. 婦中地域

<地域の魅力>

工場の集積

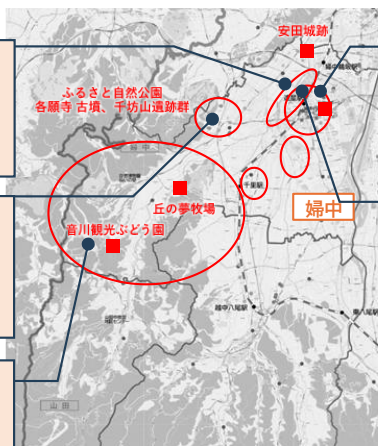
- ・雇用を創出。市の産業を支えている。
- ・地域のイベントに協賛、職場体験など、地域と連携がある。

歴史・文化資源の宝庫

- ・ふるさと自然公園の王塚古墳、安田城跡・安田城跡資料館、各願寺(ふちゅう曲水の宴)、千坊山遺跡群、獅子舞 など

豊かな田園・農村環境

- ・音川観光ぶどう園やワイナリー、丘の夢牧場、県営牧場、自然博物館ねいの里
- ・地域の特産品(ぶどう、朝日スイカなど)
- ・水や米がおいしい。



交通インフラ

- ・コミュニティバスがある

ファボーレ周辺のにぎわい

- ・近隣からの集客があり、にぎわいがある。
- ・雇用も創出している。
- ・若者向けアミューズメントが充実
- ・災害時の協定を締結していて、水害発生時の避難場所として機能。

速星駅周辺

- ・公共交通や公共施設が集積していて生活利便性が高い

良好な生活環境、コミュニティ

- ・居住や仕事場が充実し、生活に便利。
- ・多世代が居住していてバランスがよい。
- ・世代を超えたイベントがあることで、地域の見守りや、団結力を強めることにつながる。地域に一体感がある

<地域のイチオシの魅力>

<速星周辺の住みやすさ>

- ・熊野周辺は多世代が居住
- ・ファボーレ周辺はバスが多い
- ・商業施設が充実している

<自然・みどり・農>

- ・丘の夢牧場からの眺望が良い
- ・丘の夢牧場では散策もできる
- ・夜景が綺麗
- ・白鳥が飛来する

<歴史文化資源が豊富>

- ・秋季例大祭で稚児舞が行われる
- ・各地に獅子舞がある
- ・売比河鶉飼祭
- ・安田城では月見の宴が開催
- ・平成元年から婦中曲水の宴が開催

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

コミュニティの集約

- ・地域内の商業施設がない隙間に商業施設を展開する
- ・速星以外の住みやすさを向上させる工夫が必要
- ・地元の店に買い物行きやすくなる
- ・地域の力を高めるマナー教育

- ・高山本線のライトレール化
- ・バス専用化

・丘の夢牧場の開放・活用

- ・イベントを開催して眺望や夜景をアピール
- ・祭りを維持したい
- ・駐車場や公共交通を確保する
- ・地域の高齢者が参加しやすいアクセスを確保する

・お祭りの活用や展開

- ・子どもや地域の高齢者が参加しやすい工夫をする
- ・300年の歴史がある熊野神社を維持したい
- ・遺跡群の整備
- ・アクセスの向上

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

- ・ファボーレ周辺でイベントを充実
- ・空き家を活用する
- ・千里駅に「おかえりゲート」を設置

- ・美味しい食をアピール
- ・SNSを活用
- ・学校の魅力PRで移住促進

- ・地域外の人でも参加しやすい工夫
- ・楽しく学べる機会づくり、文化継承、イベント周知

- ・多世代と関われる地域食堂

- ・地域行政と協議の場づくり(コミュニティバスの運行、学生との連携)

20年後の地域の将来イメージ (キャッチコピー)

地域の誇りと自信に満ちあふれるまち

14. 細入地域

<地域の魅力>

高齢者がいきいきと過ごせる環境

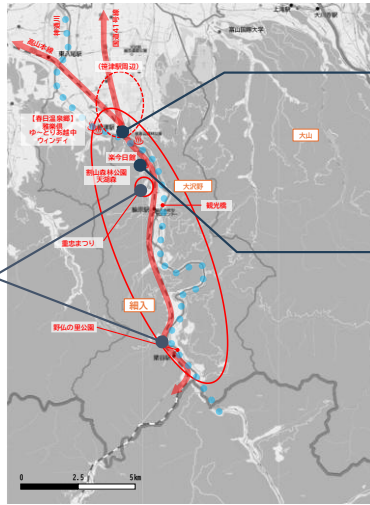
・元気な高齢者が多い。パターゴルフや温浴施設があり、様々な活動ができる。

地域の伝統文化・豊富な文化資源

・獅子舞やお祭りなどの行事
・大河ドラマにも出てくる畠山重忠ゆかりの重忠祭りの開催。
・江戸時代後期から牛を祀っている野仏の里公園

豊かな自然景観

・桜並木や新緑、田植えや稲刈りの生産活動など四季を感じられる。



公共交通網の充実

・国道41号線沿線やJR高山本線は大沢野方面へ人やモノの流れを生み出す重要な交通網。
・JR高山本線には撮り鉄が来訪。

豊かな自然による観光・レクリエーション資源の充実

・神通川沿いの自然を活かしたレジャー施設(割山森林公園天湖森)
・自然の中に温浴施設が集積(楽今日館)
・天湖森でグランピングやBBQもできる
・山菜がとれる。

良好な生活環境

・自然豊かで住みやすい

<地域のイチオシの魅力>

神通川と鉄道・国道が観光地につながっている

・神通川、国道、鉄道が並走
・国道41号は富山と飛騨高山を結ぶ
・細入にはウォーキングコースが多数

緑・文化・歴史の魅力が点在

・各集落に獅子舞

気ままな暮らし

・鉄道沿いの店舗が便利
・国道41号の適切な維持管理
・地域の店は魅力的なものが多い
・自然豊かで静かなコミュニティ
・富山の中心部に行きやすい

<イチオシの魅力を活かすまちづくりのアイデア>

・高山本線の活用
→SLを走らせる
→猪谷駅周辺で観光客向けの民泊や飲食などの実施
・観光資源の活用
→天湖森(グランピング)や古民家の活用
→高山観光との連携

・文化、歴史の伝承
→子供から学べる機会の創出
→福祉施設との連携

・地域の魅力の差別化
→静かさ、緑が豊富、コミュニティの良さだけでなく、さらに魅力が必要
→広々した住宅を活かして、子育て世代に居住

・仕事が必要
・テレワークしやすい環境づくり
・小学校の維持
・集落ごとのコンビニ立地

・便利なところに行きやすくする
・街なかの仕事場へ通いやすくする

<上記のアイデアに対して、個人や地域ができること>

・ウォーキング体験実施
・観光ガイド、飛騨街道
・体験型の取り組み(煎茶体験など)
・国際大学との連携
→観光客への英語対応を協力

・獅子舞の継承
・お祭りの時に振舞うごちそう継承
・地域を知って伝えていきたい

・若い人が来てくれるように、仕事をつくる

20年後の地域の将来イメージ
(キャッチコピー)

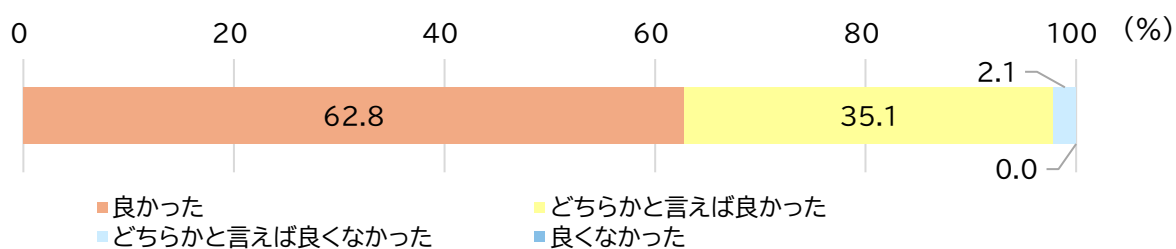
若者が集うまち

(3)出席者アンケート調査

第2回ワークショップの参加者(97名)を対象に、ワークショップの内容やコンパクトなまちづくりの評価、これからのまちづくりについて、アンケート調査を実施しました。

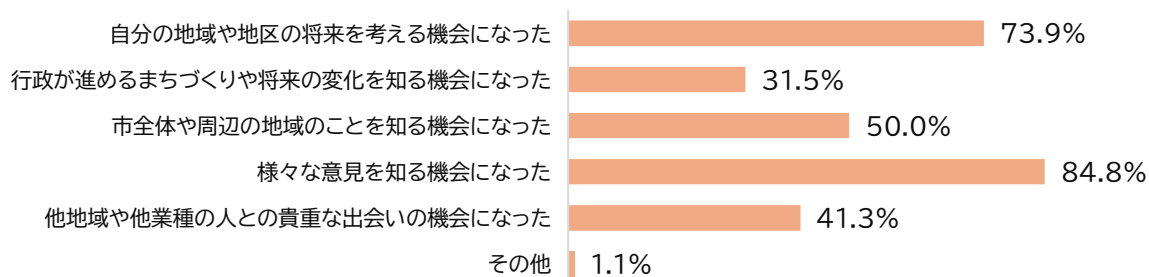
【問1 市民ワークショップへの参加に対する参加者の評価】

・「良かった」と「どちらかと言えば良かった」をあわせ、9割以上良い評価となっています。



【問1で「良かった」、「どちらかと言えば良かった」と回答した参加者の回答理由】

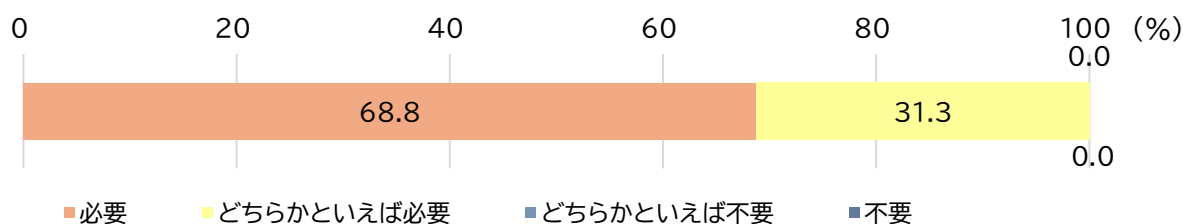
・7割以上の方が「自分の地域や地区の将来を考える機会になった」と回答しています。



【問2 今後のワークショップ等(まちづくりの情報を得て、様々な市民で議論する場)に対する参加者の意識】

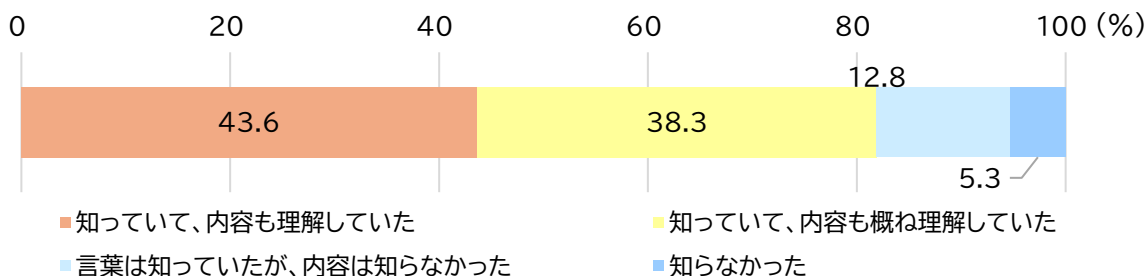
・今後のワークショップ等のまちづくりを様々な市民で議論する場に対しては、参加者全員が「必要」と回答しており、「継続的に機会を設けるべき」との意見もありました。

・社会情勢の変化や課題が複雑化する中、市民ワークショップを通じ、様々な市民が多様な視点から意見交換し、魅力を活かすアイデアを共有できたことで、地域主体でのまちづくりのきっかけになったものと考えています。

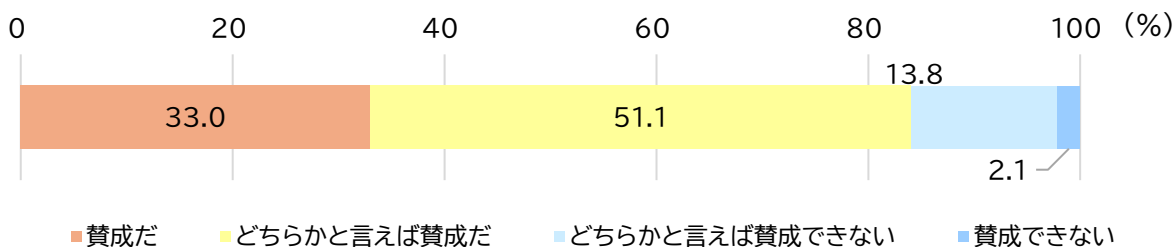


【問3 コンパクトなまちづくりに対する参加者の認知度】

・参加者の8割以上がコンパクトなまちづくりを認知し、賛成の評価となっています。

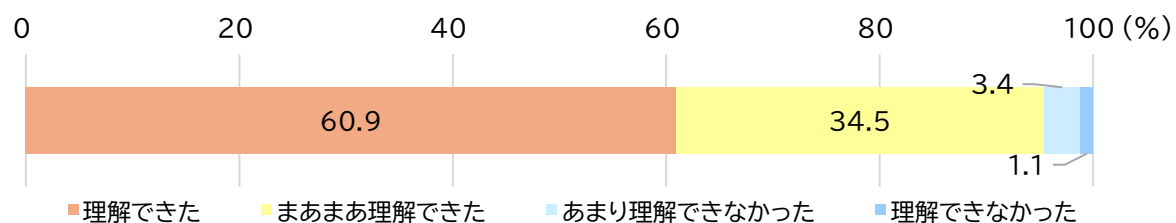


【問4 コンパクトなまちづくりに対する参加者の評価】



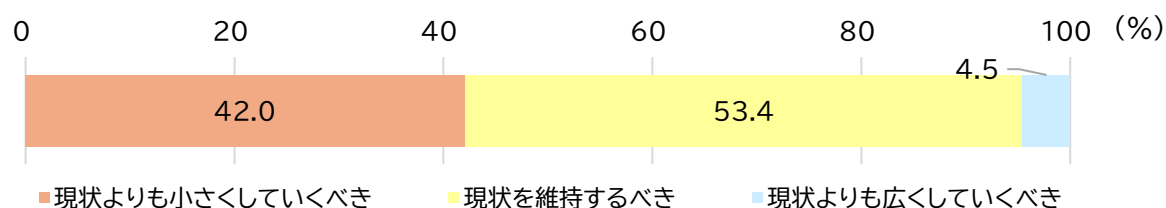
【問5 「本格的な人口減少等によるこれからの変化や課題」に対する参加者の理解】

・9割以上の方が、これからのまちづくりに関する変化や課題について理解しています。



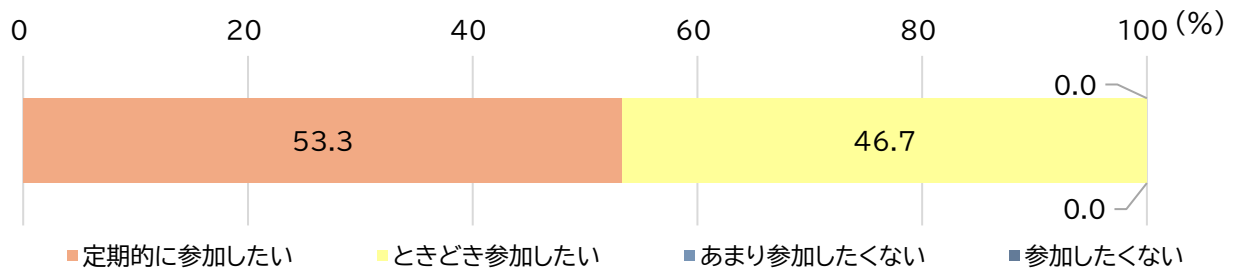
【問6 (人口減少が本格的に進む中での市全体のまちづくりとして)現状の広がった市街地(住宅地や商業地)に対する参加者の意見】

・今後の市街地の広がりについて、「小さくしていくべき」「現状維持」を合わせて9割に上っています。



【問7 本格的な人口減少で、市民参加のまちづくりの必要性が高まる際の参加者意識】

- ・今度の地域などでのまちづくり活動について、9割以上の方が参加の意向を示しています。
- ・多くの市民がまちづくりの必要性を感じており、また、地域コミュニティの維持・活性化に向けた組織をつくり、取組を始めようとする地域もあり、支援が必要と考えられます。



第3編

地域別データ

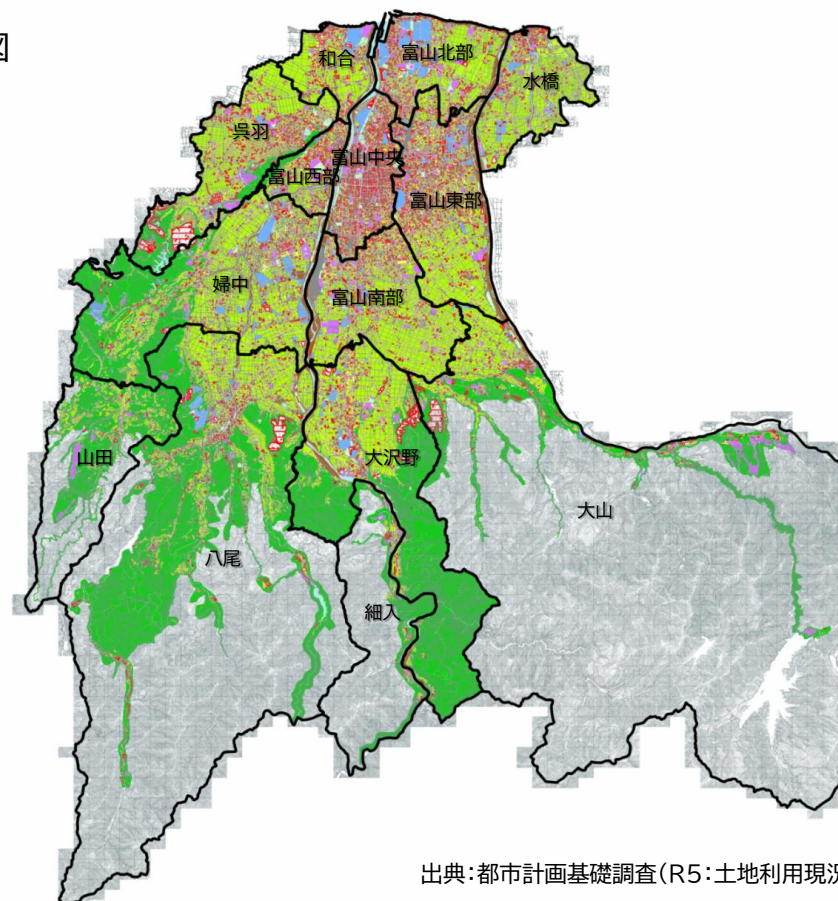
I 概要

都市マスタープランにおいては、コンパクトなまちづくりの単位として、歴史的なつながりや一体性、まとまりから14の地域生活圏を設定しており、各地域の土地利用状況や人口動態、施設状況などを整理しました。

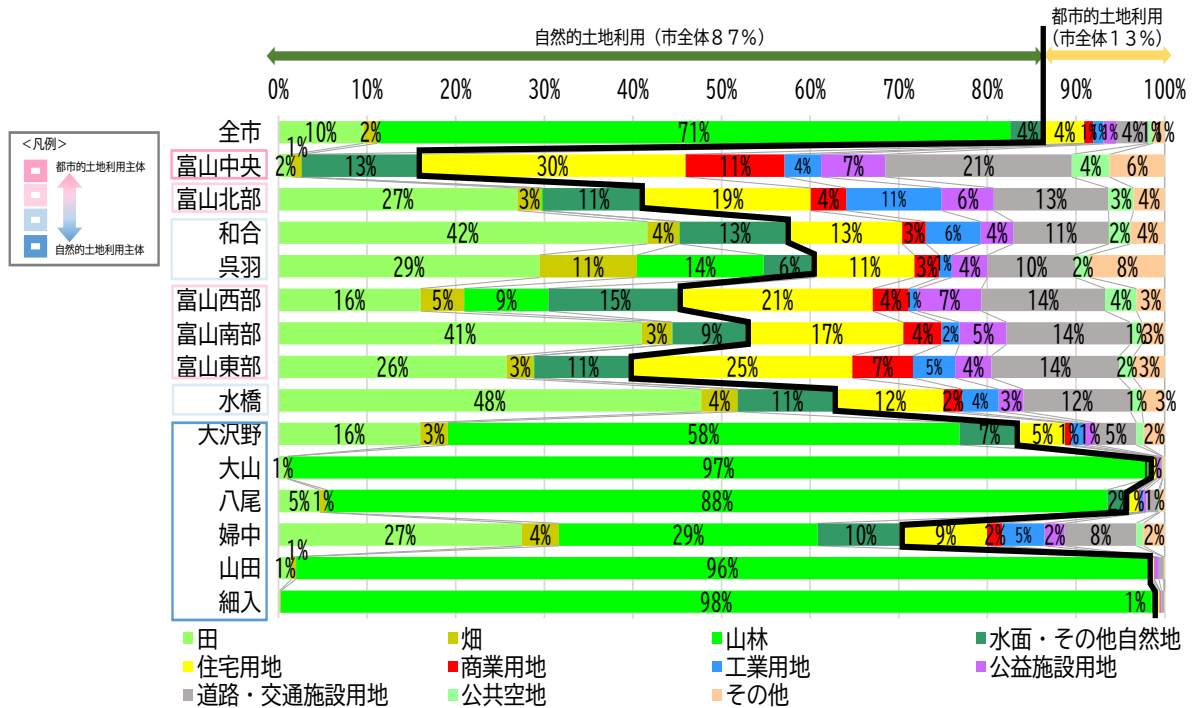
<各地域の土地利用現況>

- ・富山中央地域は都市的土地利用が最も進んでいるエリアであり、住宅用地や商業用地の割合が最も高くなっています。
- ・次いで都市的土地利用が進んでいるエリアは、富山北部、富山西部及び富山東部地域であり、住宅用地や商業用地の割合が富山中央地域に次いで高く、特に富山北部は工業用地の割合が最も高くなっています。
- ・大沢野、大山、八尾、婦中、山田及び細入地域は中山間地域を有しており、山林や田畑などの自然的土地利用が7割以上と全市平均より高く、緑豊かなエリアであり、その中において大沢野や婦中地域は、都市的土地利用が2～3割程度となっています。
- ・和合、呉羽、富山南部及び水橋地域は、自然的土地利用が5～6割を占める一方で、住宅用地が1割以上、商業用地も一定程度あるエリアとなっています。
- ・低未利用地及び平面駐車場の面積は、全体としてほぼ横ばい傾向ですが、都市的土地利用に占める割合は富山中央や呉羽地域などでは全市と比べ高い割合の傾向となっています。

■土地利用現況図

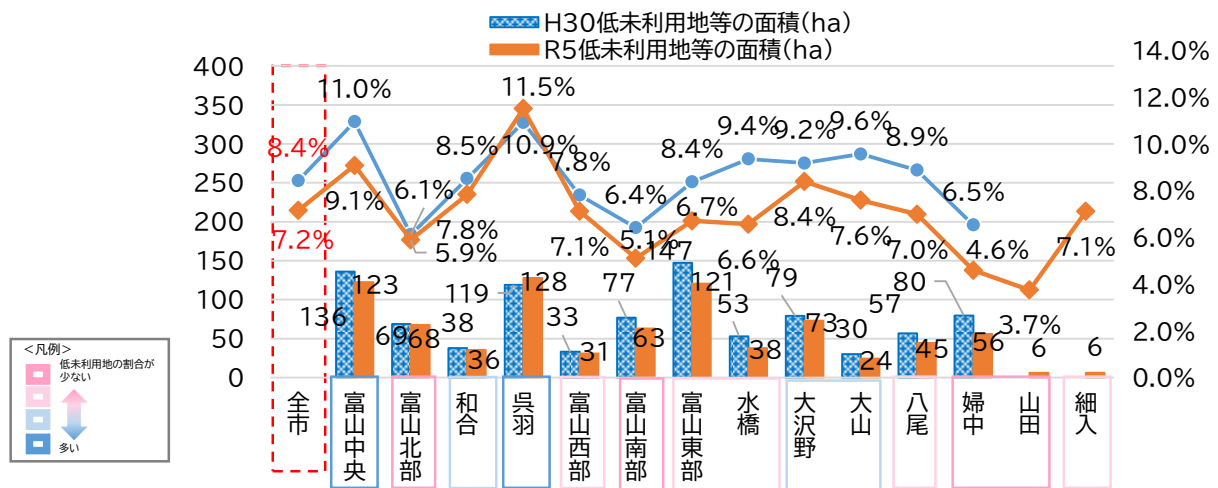


■土地利用面積別構成比



出典：都市計画基礎調査（R5：土地利用現況）※基礎調査範囲外は山林に反映

■低未利用地(平面駐車場含む)面積と都市的土地利用に占める割合の変化



出典：都市計画基礎調査（各年：土地利用現況）

<各地域の人口動態>

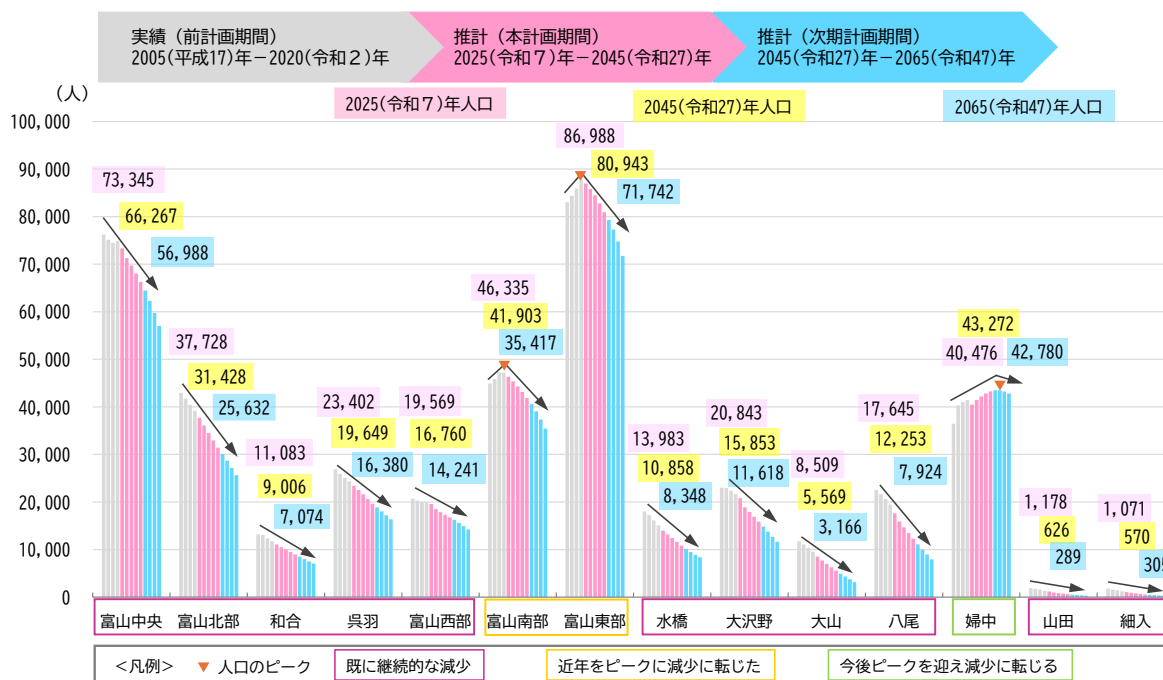
(人口と世帯数の変化)

- ・人口減少は、今後 20 年から 40 年の間に予測される急激に進む見込みであり、中山間地域などの郊外部だけでなく、これまで増加傾向にあった「富山東部地域」「富山南部地域」「婦中地域」を含めた全ての地域において進行する見込みです。
- ・全市的には今後 10 年程度に世帯数のピークを迎えると見込まれますが、山田や細入地域はすでに継続的に減少し、富山北部、和合、呉羽、水橋、大沢野及び八尾地域は、現在が世帯数のピークであり、後は減少する見込みであります。また、富山中央や富山西部、富山南部、富山東部及び婦中地域は、計画期間後半にピークを迎える見込みです。

(高齢化率の推移と見通し)

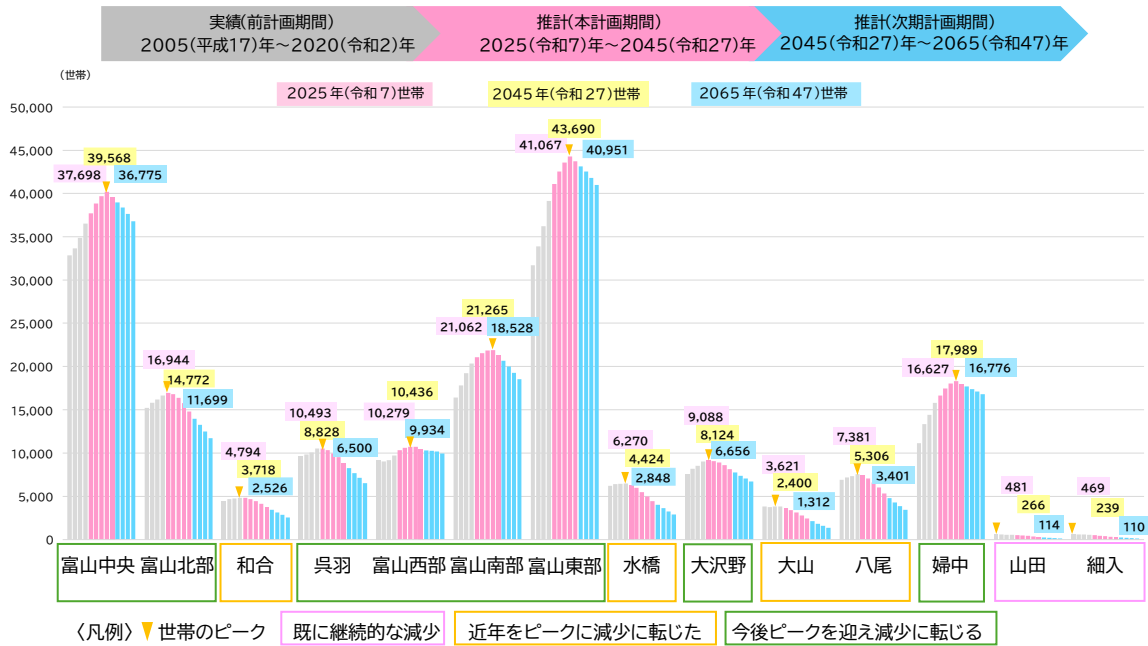
- ・全体として高齢化が進む傾向の中、婦中、富山西部、富山東部及び富山南部地域は、高齢化率が 30% 以下であり、今後も緩やかに上昇する見込みです。
- ・和合、大山及び八尾地域は現時点で 35~40% ありますが、後はさらに高齢化が進行し、2045 年には 40% 以上となる見込みで、特に大山地域は顕著に増加し、50% 近くとなる見込みです。
- ・水橋、山田及び細入地域は、既に 40% 以上で高い高齢化率がありますが、特に山田地域は顕著に増加し、2045 年には 50% 以上となる見込みです。

■地域別の人口変化の見通し



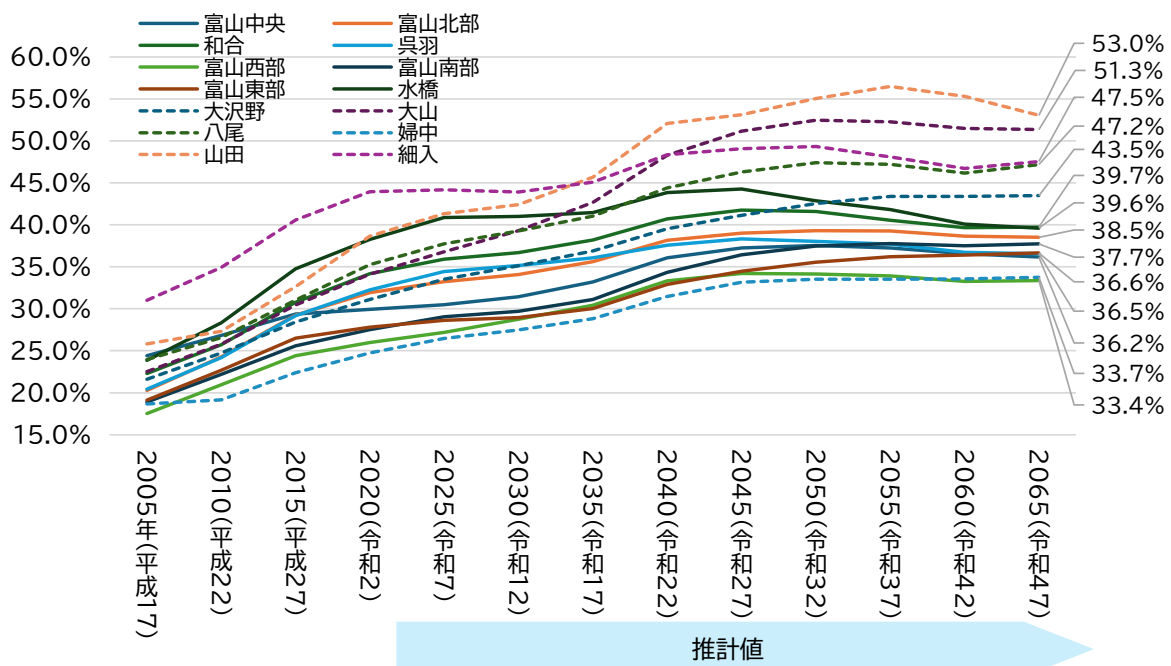
補注) 実績値は住民基本台帳による

■地域別の世帯変化の見通し



補注) 実績値は住民基本台帳による

■高齢化率の推移と見通し

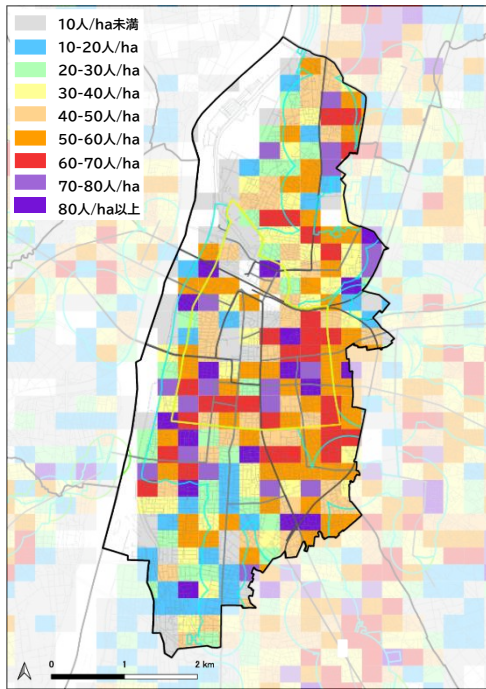


補注) 実績値は住民基本台帳による

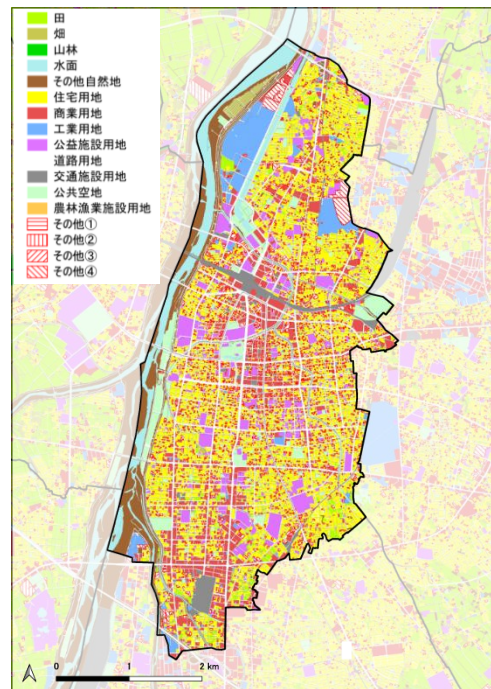
II 地域別データ

1 富山中央地域

■人口分布 2023（令和5）年

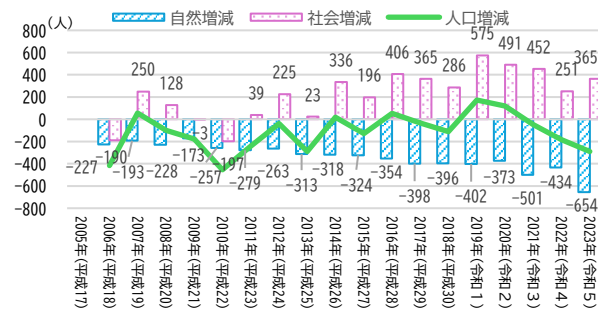


■土地利用現況 2023（令和5）年

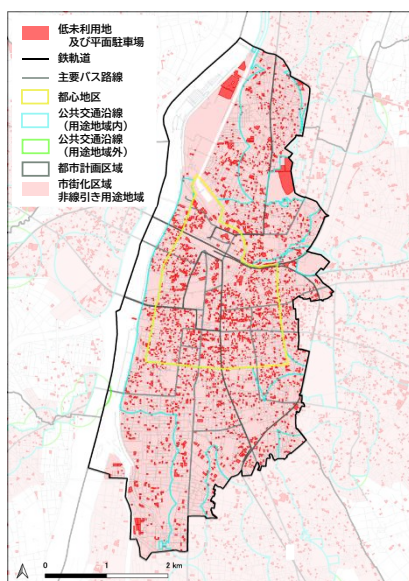


その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③:平面駐車場等 その他④:上記以外

■自然増減・社会増減・人口増減

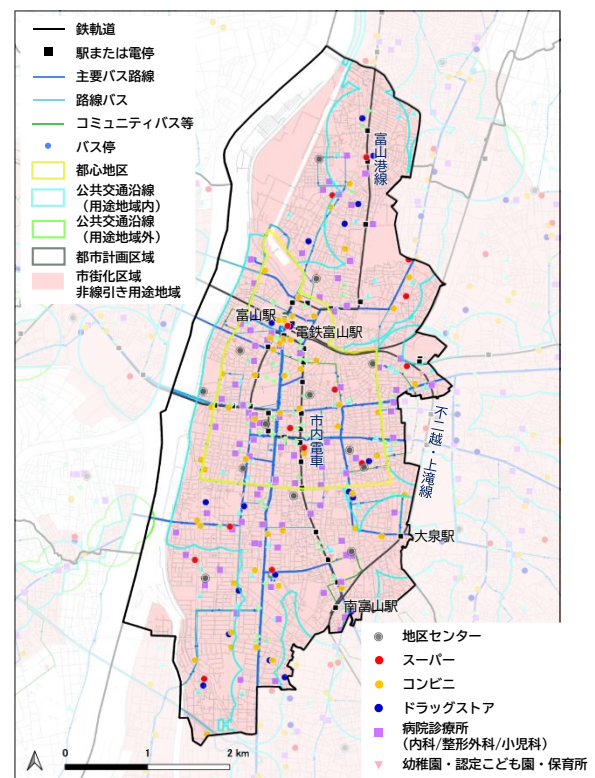


■低未利用地及び平面駐車場の分布



出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

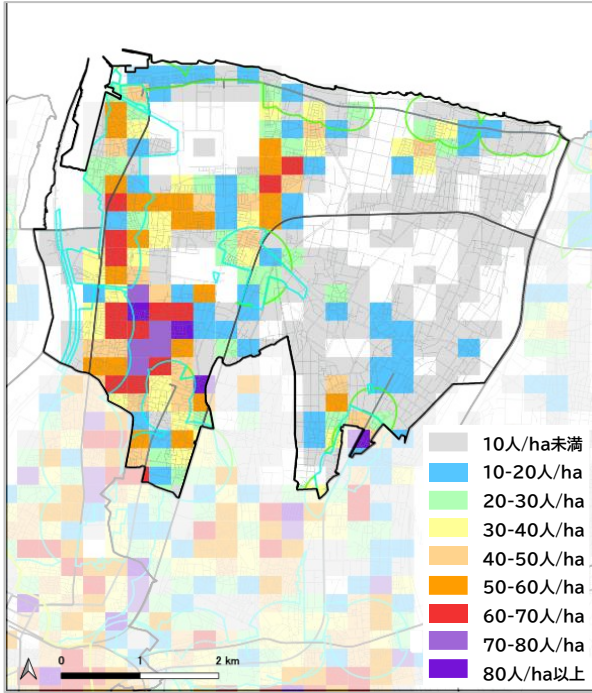
■公共交通網と生活利便施設の分布



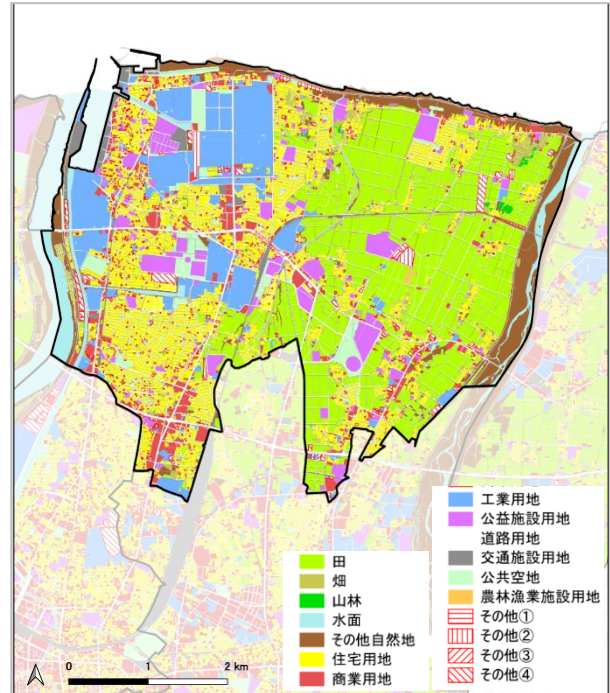
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

2 富山北部地域

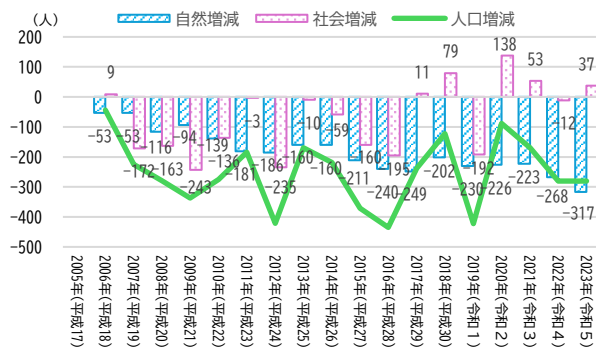
■人口分布 2023（令和5）年



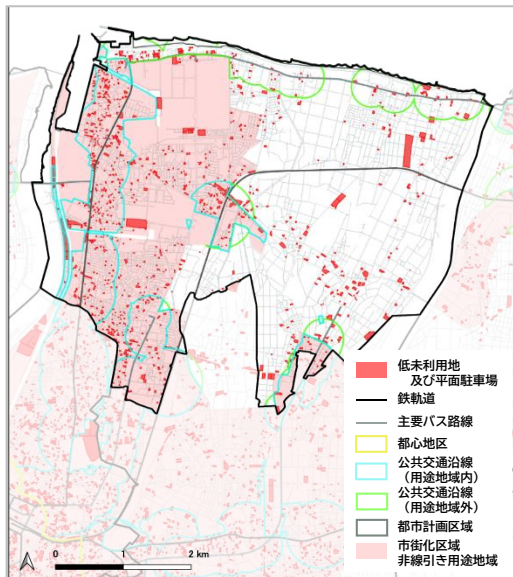
■土地利用現況 2023（令和5）年



■自然増減・社会増減・人口増減



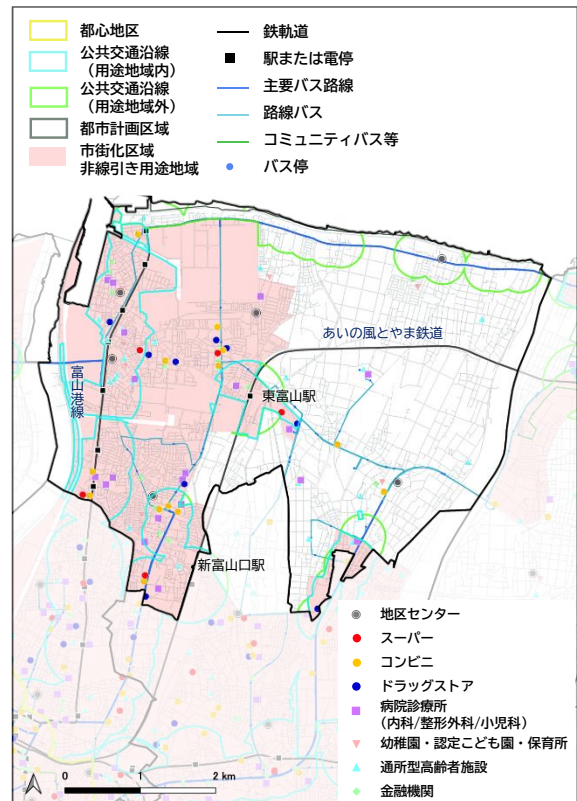
■低未利用地及び平面駐車場の分布



その他①:ゴルフ場
その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
その他③平面駐車場等
その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

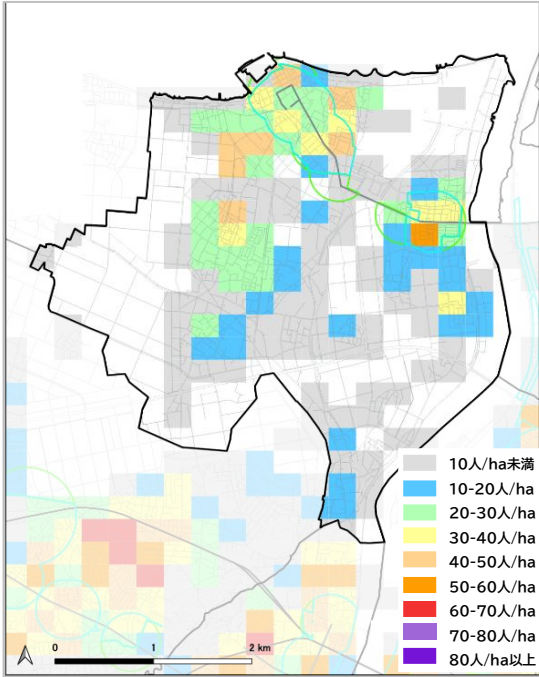
■公共交通網と生活利便施設の分布



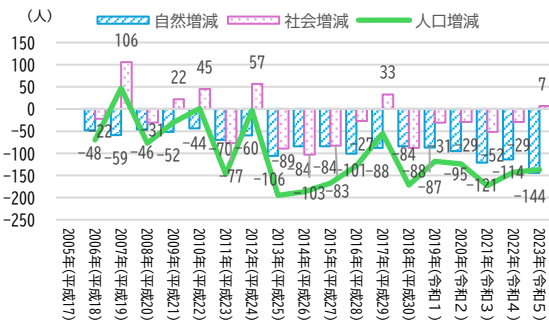
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

3 和合地域

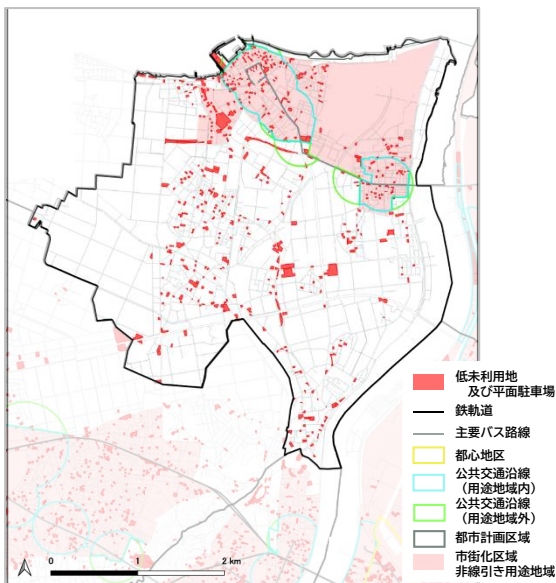
■人口分布 2023（令和5）年



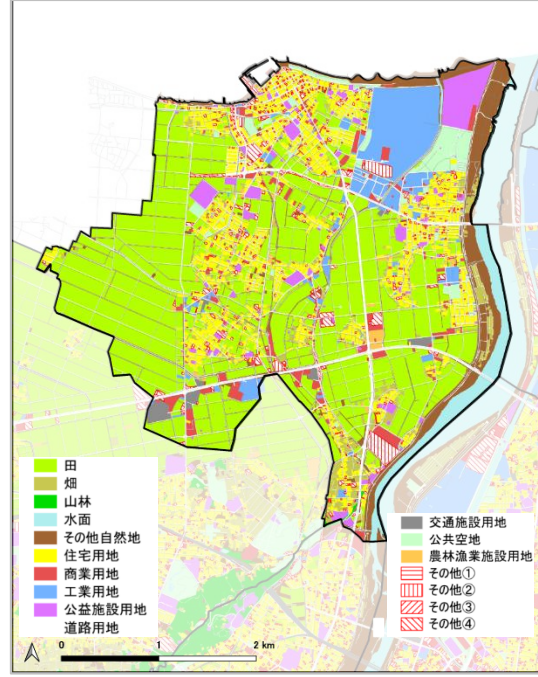
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



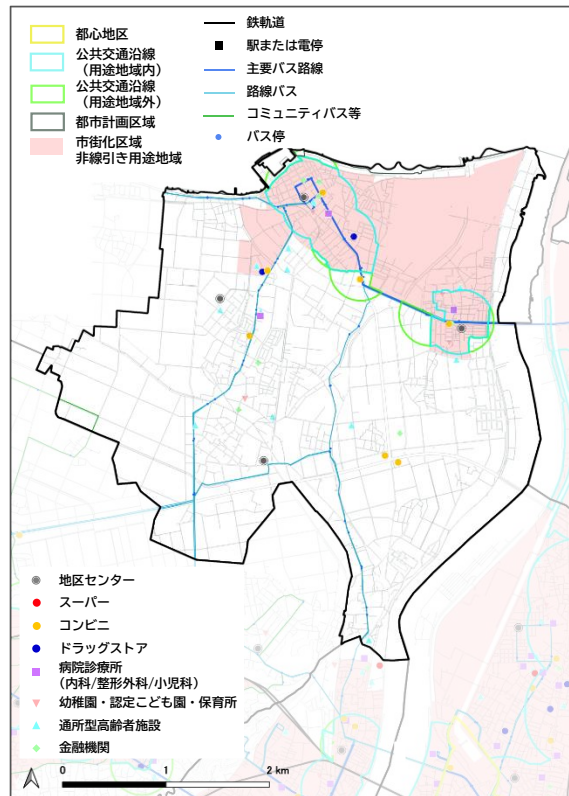
■土地利用現況 2023（令和5）年



その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③平面駐車場等 その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

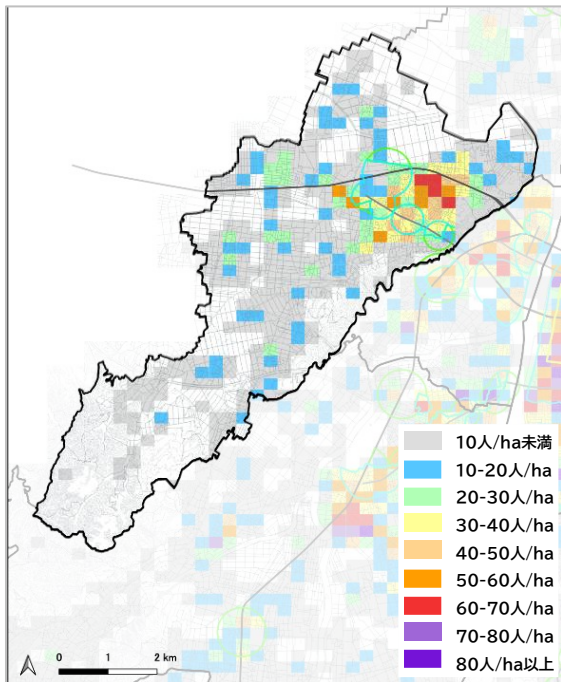
■公共交通網と生活利便施設の分布



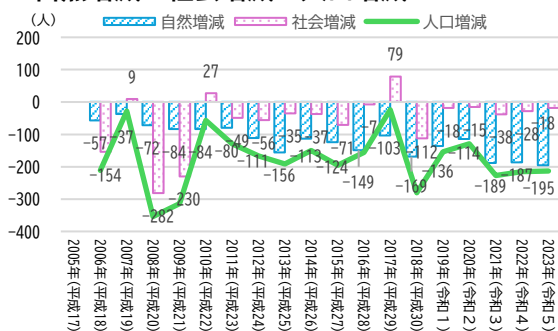
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

4 呉羽地域

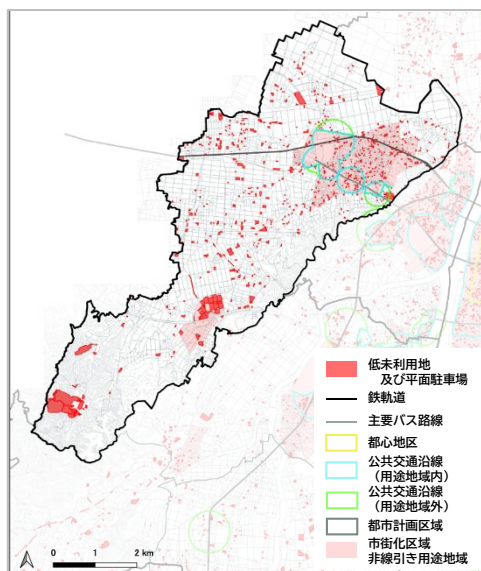
■人口分布 2023（令和5）年



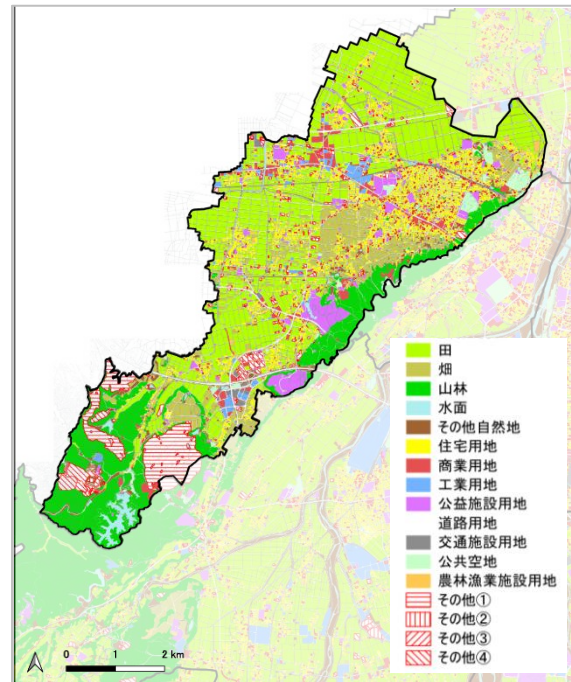
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



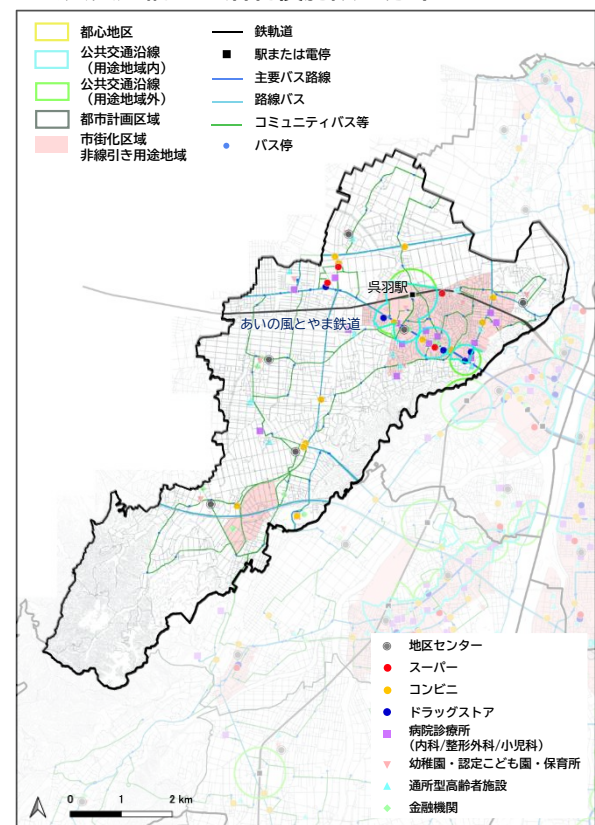
■土地利用現況 2023（令和5）年



その他①:ゴルフ場
 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③:平面駐車場等
 その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

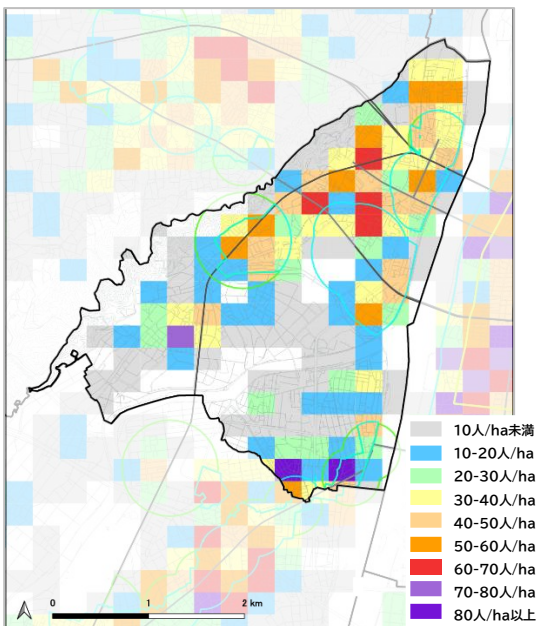
■公共交通網と生活利便施設の分布



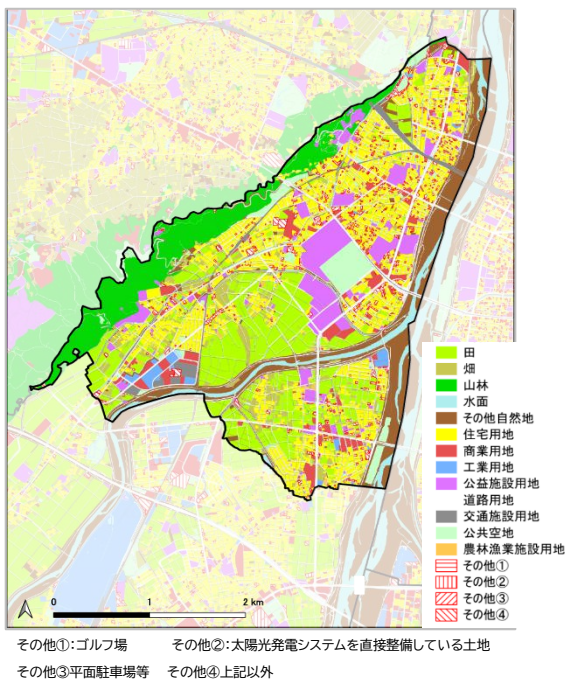
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

5 富山西部地域

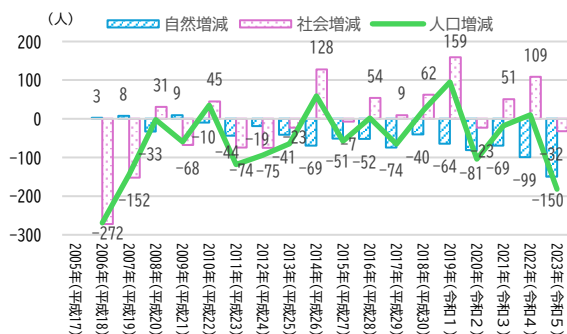
■人口分布 2023（令和5）年



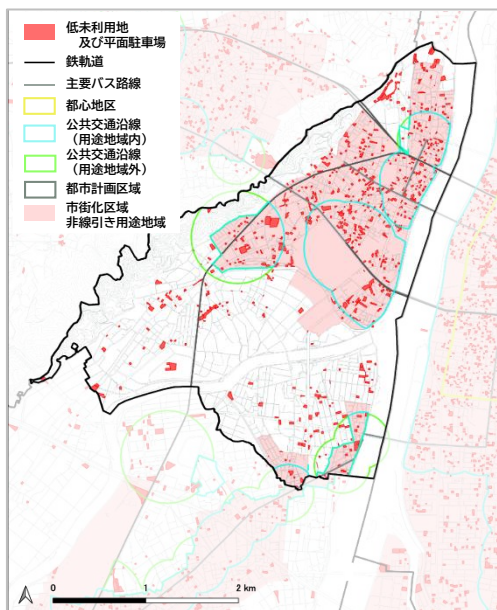
■土地利用現況 2023（令和5）年



■自然増減・社会増減・人口増減

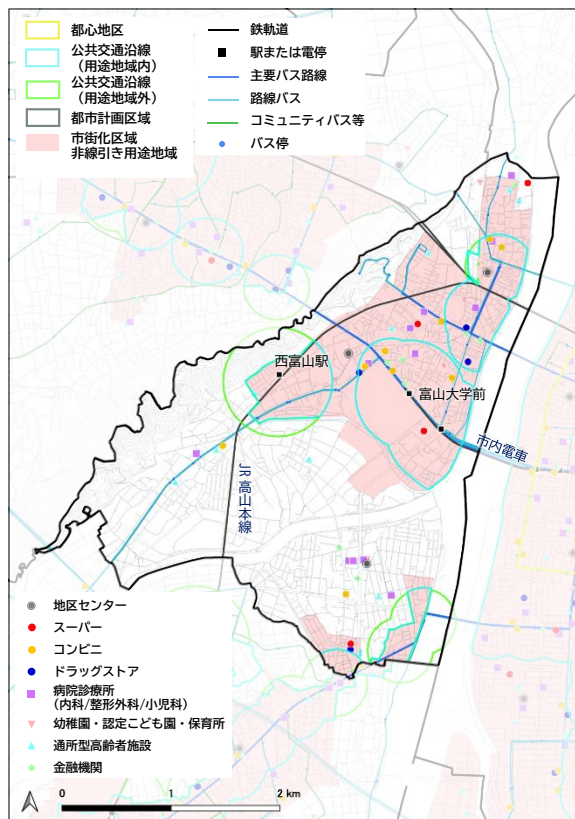


■低未利用地及び平面駐車場の分布



出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

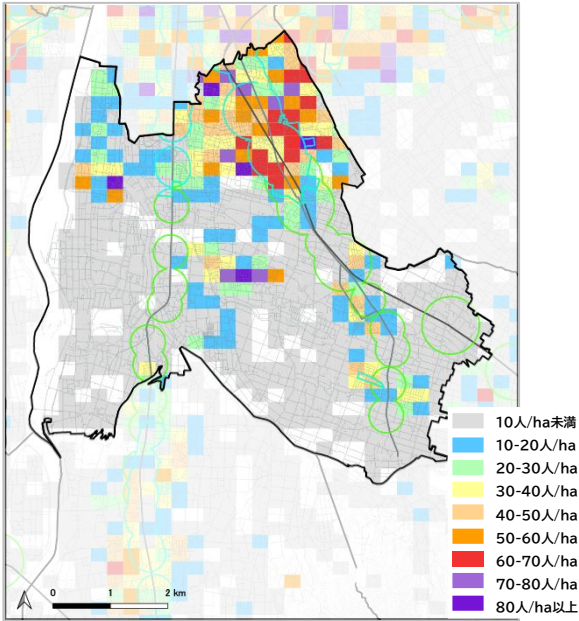
■公共交通網と生活利便施設の分布



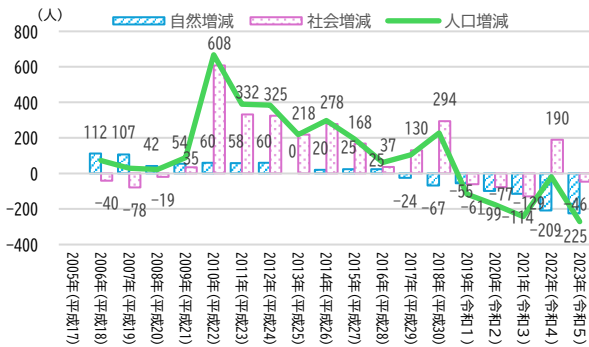
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

6 富山南部地域

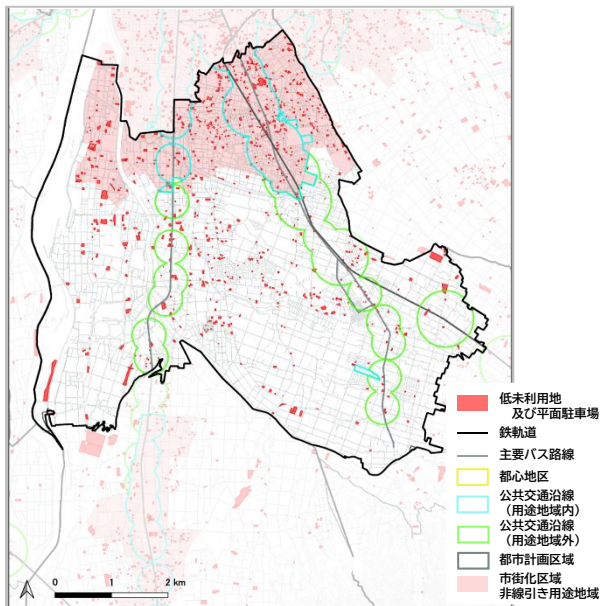
■人口分布 2023（令和5）年



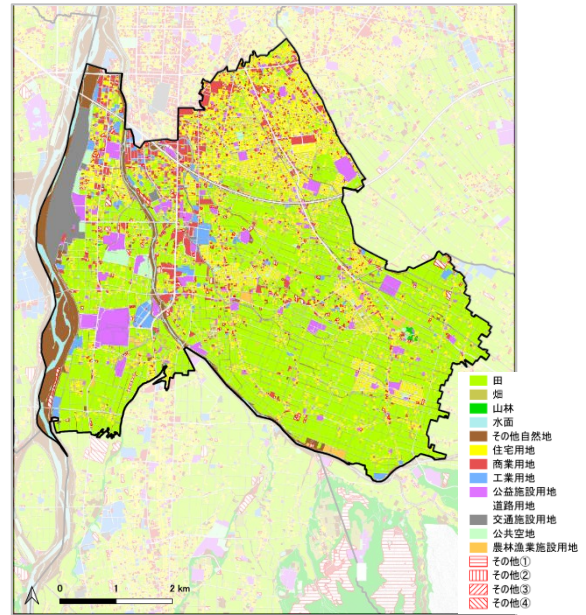
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



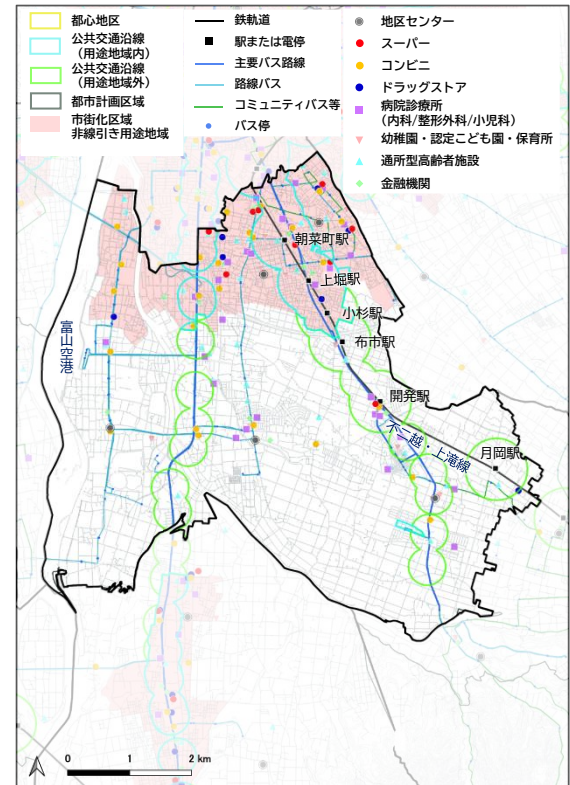
■土地利用現況 2023（令和5）年



その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③:平面駐車場等 その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

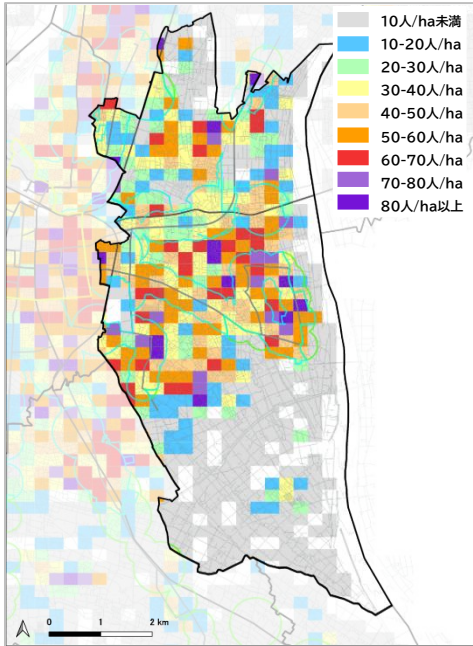
■公共交通網と生活利便施設の分布



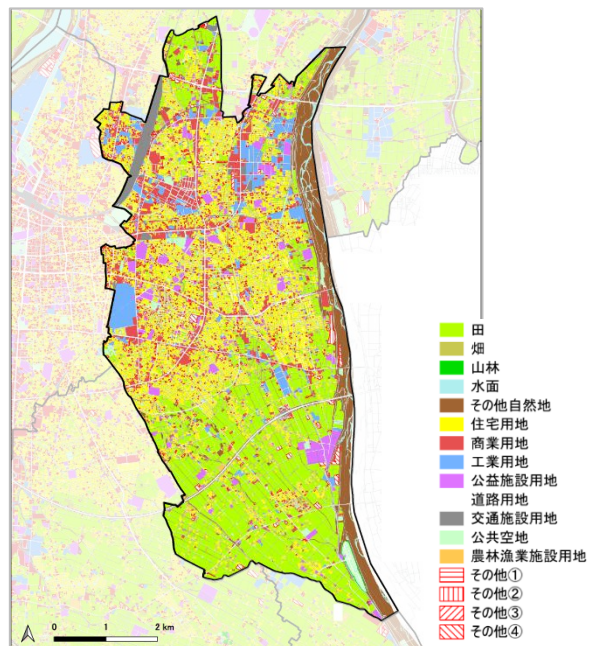
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

7 富山東部地域

■人口分布 2023（令和5）年



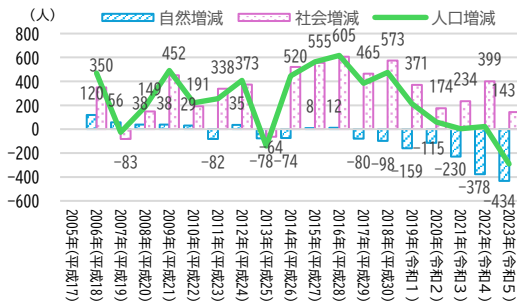
■土地利用現況 2023（令和5）年



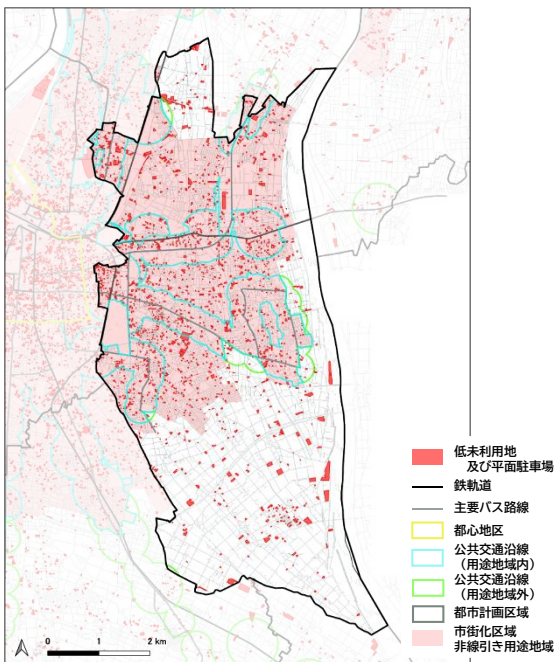
その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③平面駐車場等 その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

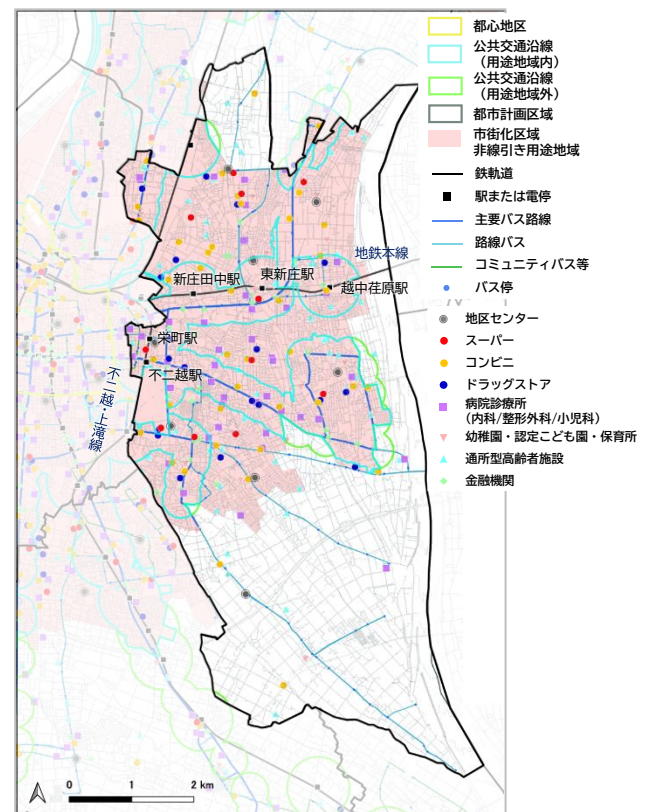
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



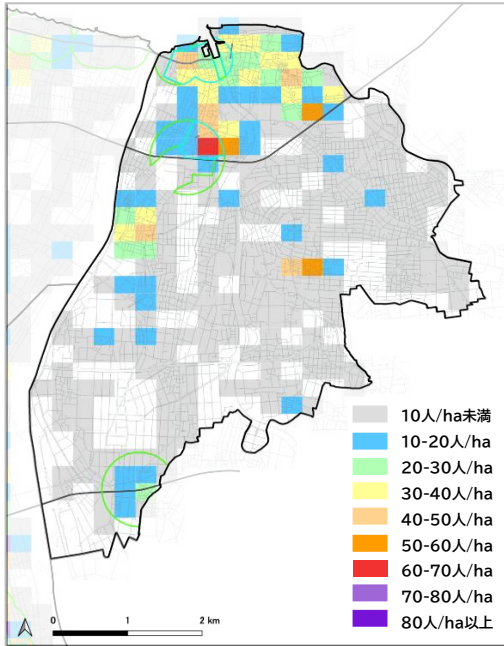
■公共交通網と生活利便施設の分布



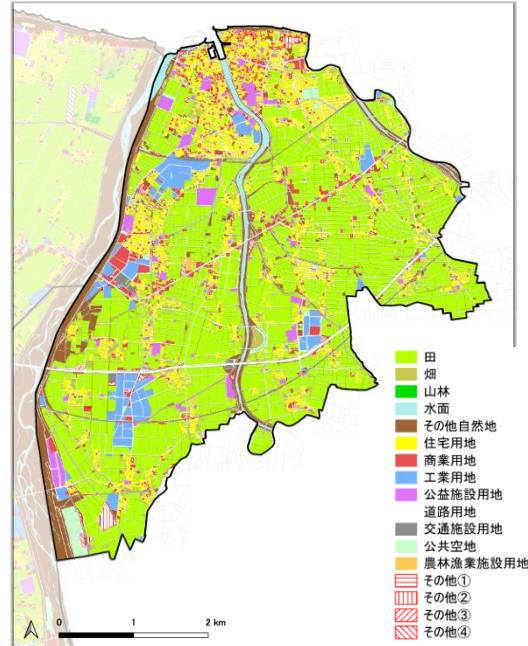
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

8 水橋地域

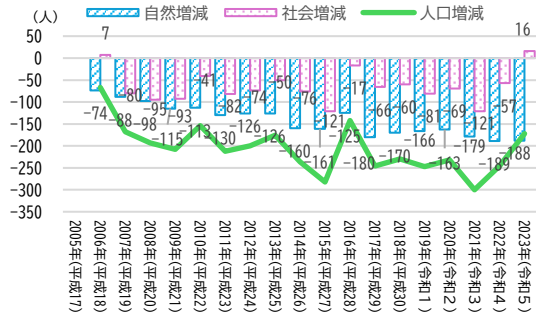
■人口分布 2023（令和5）年



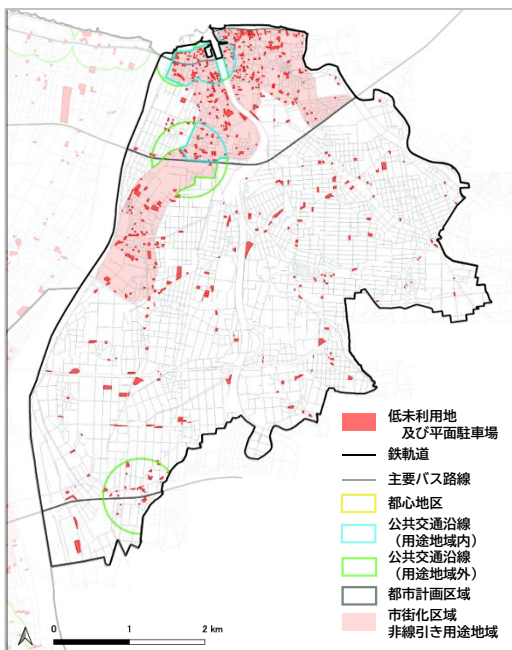
■土地利用現況 2023（令和5）年



■自然増減・社会増減・人口増減



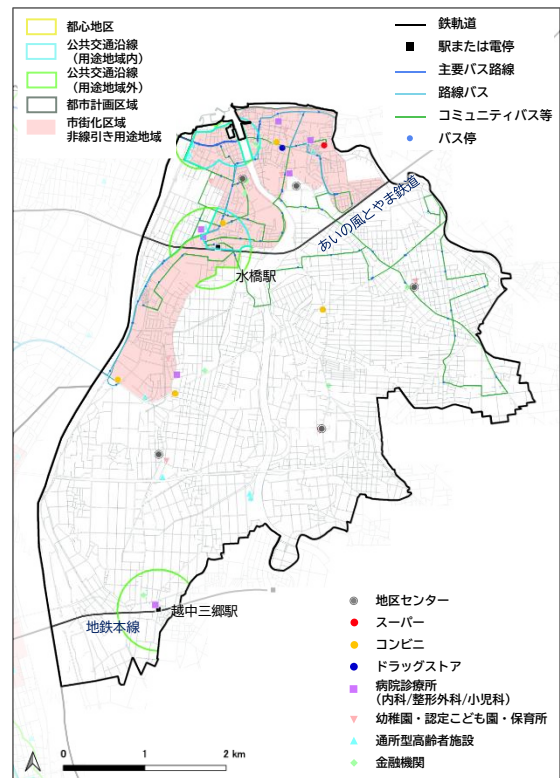
■低未利用地及び平面駐車場の分布



その他①:ゴルフ場
 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③平面駐車場等
 その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

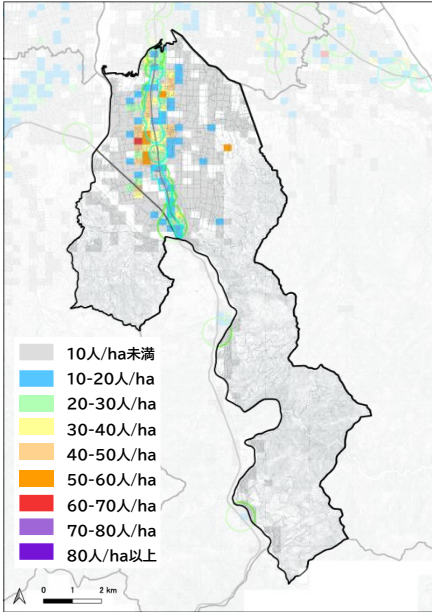
■公共交通網と生活利便施設の分布



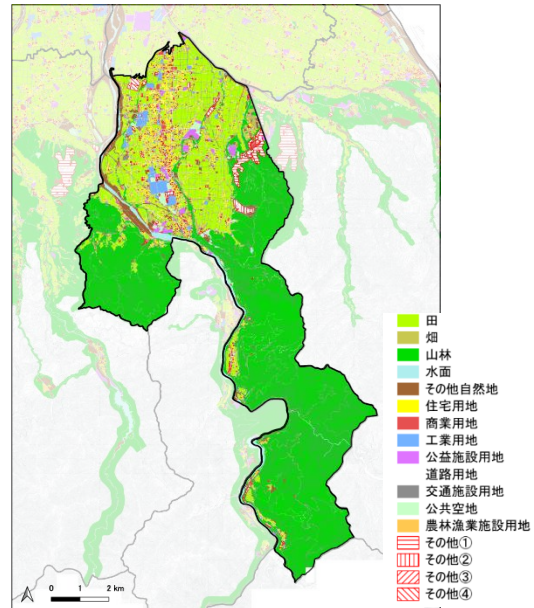
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

9 大沢野地域

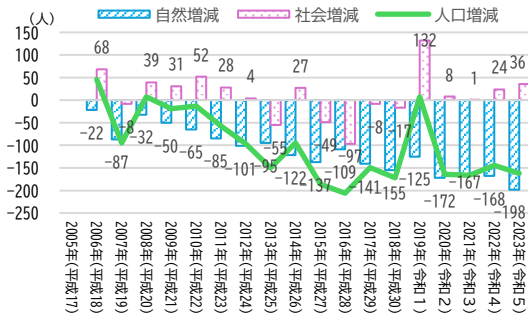
■人口分布 2023（令和5）年



■土地利用現況 2023（令和5）年



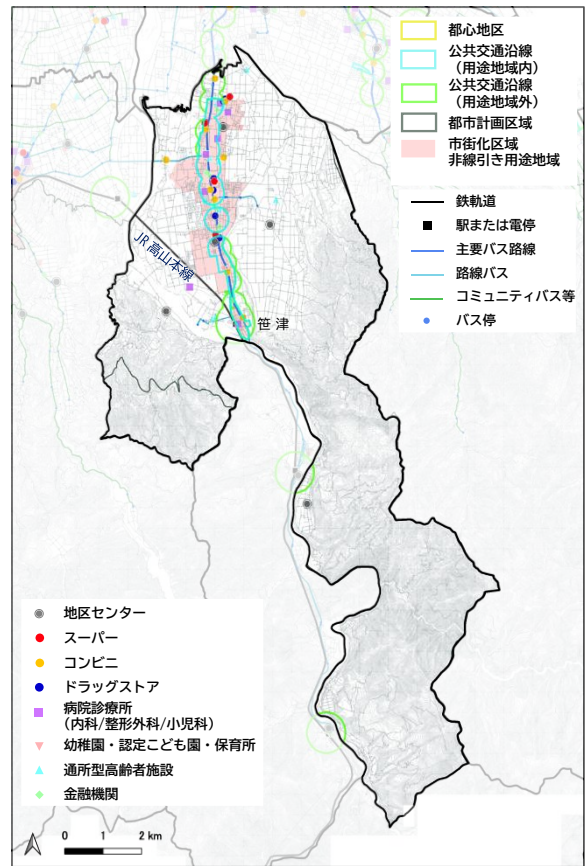
■自然増減・社会増減・人口増減



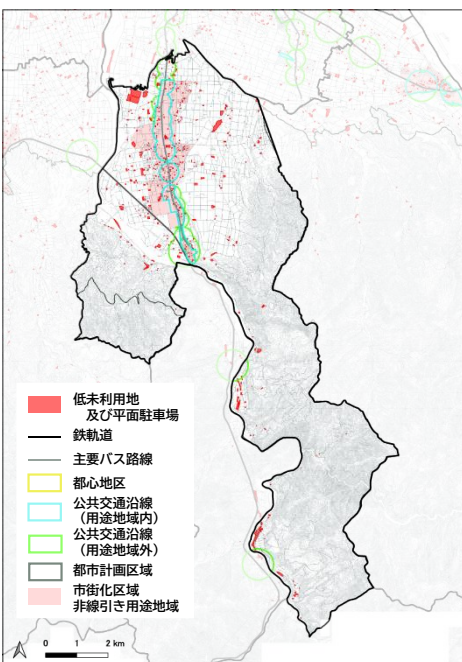
その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③平面駐車場等 その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

■公共交通網と生活利便施設の分布



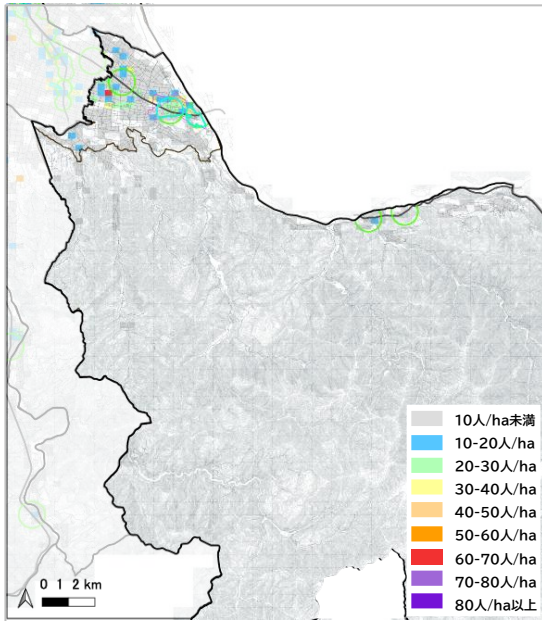
■低未利用地及び平面駐車場の分布



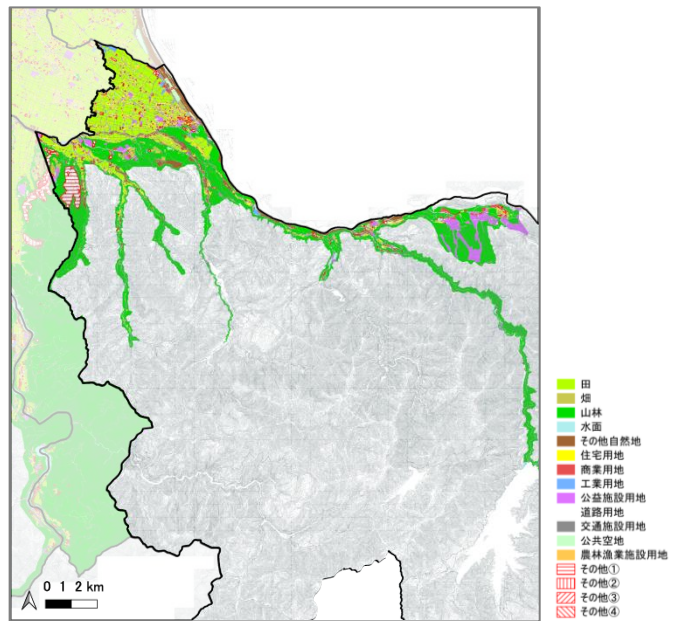
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

10 大山地域

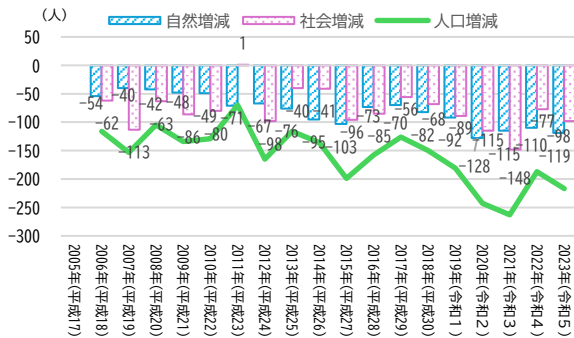
■人口分布 2023（令和5）年



■土地利用現況 2023（令和5）年



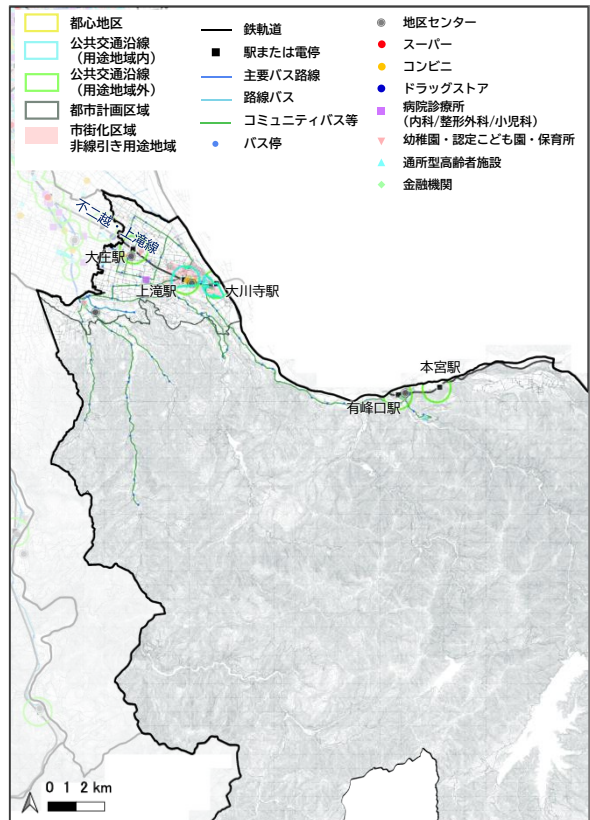
■自然増減・社会増減・人口増減



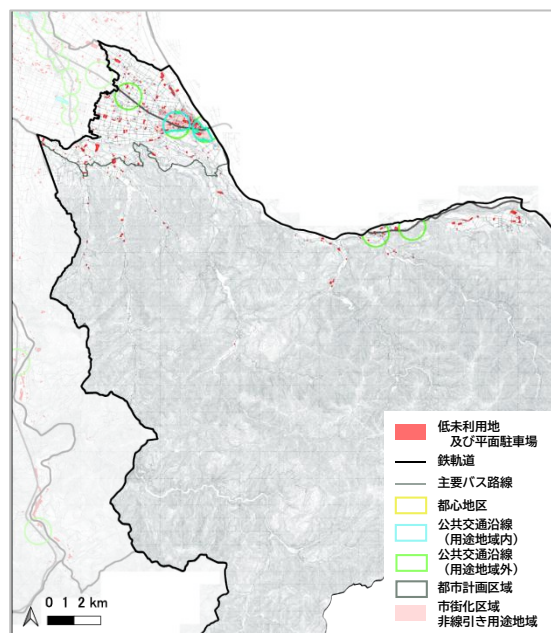
その他①:ゴルフ場
その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
その他③:平面駐車場等
その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

■公共交通網と生活利便施設の分布



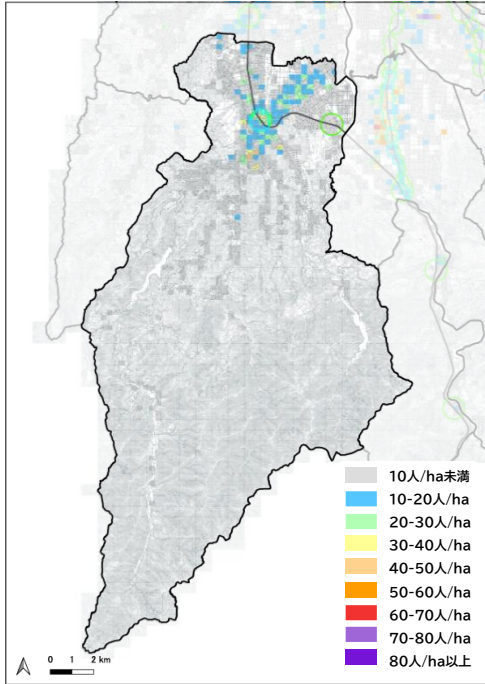
■低未利用地及び平面駐車場の分布



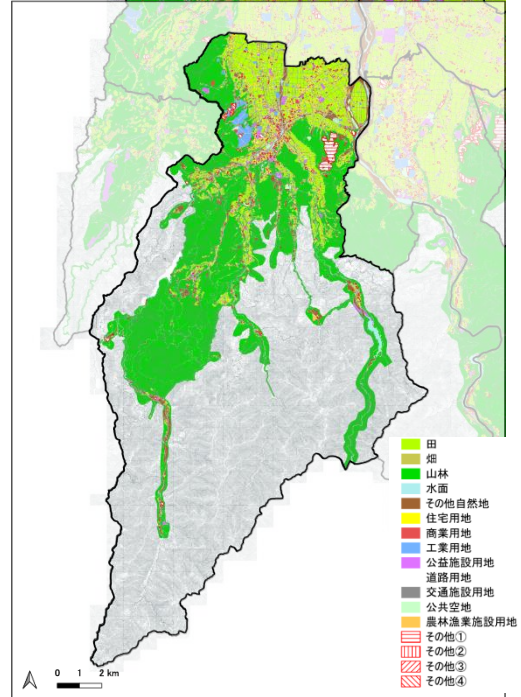
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

11 八尾地域

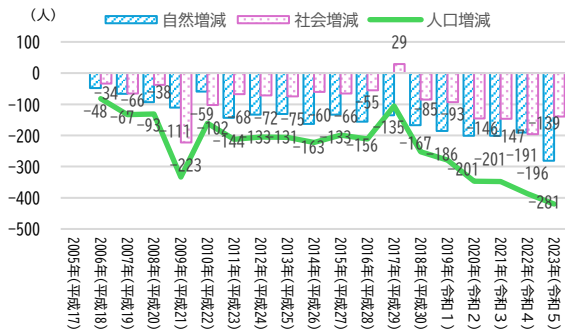
■人口分布 2023（令和5）年



■土地利用現況 2023（令和5）年



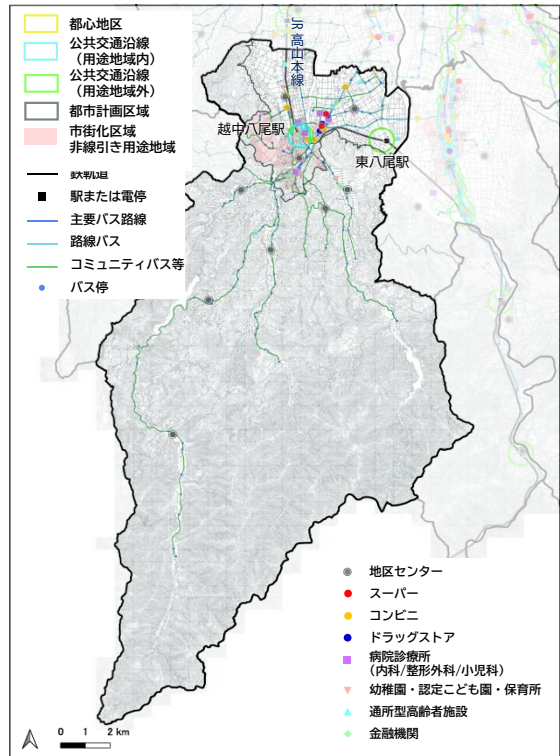
■自然増減・社会増減・人口増減



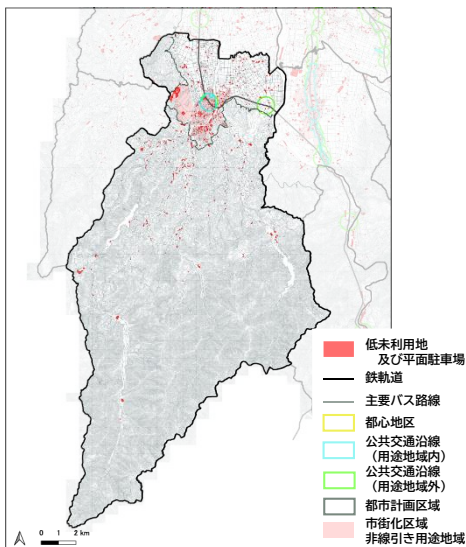
その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③:平面駐車場等 その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

■公共交通網と生活便利施設の分布



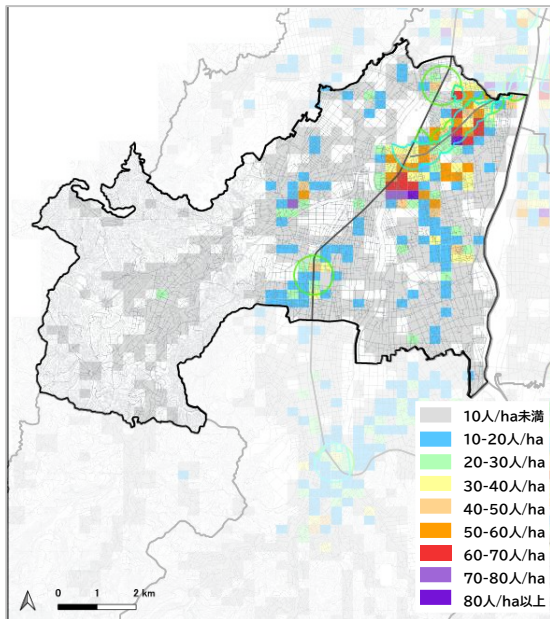
■低未利用地及び平面駐車場の分布



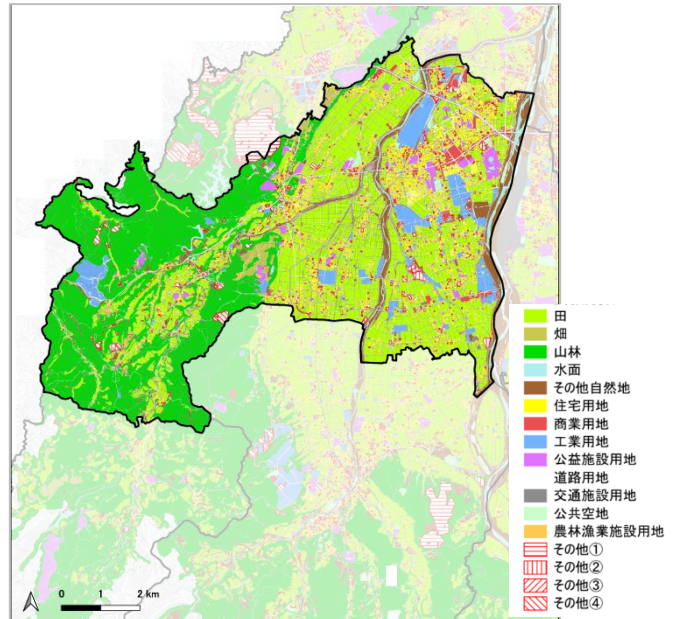
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

12 婦中地域

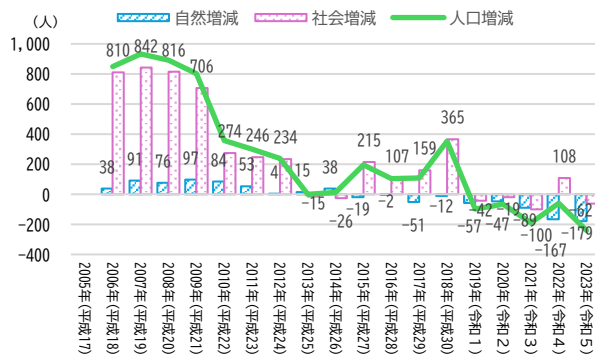
■人口分布 2023（令和5）年



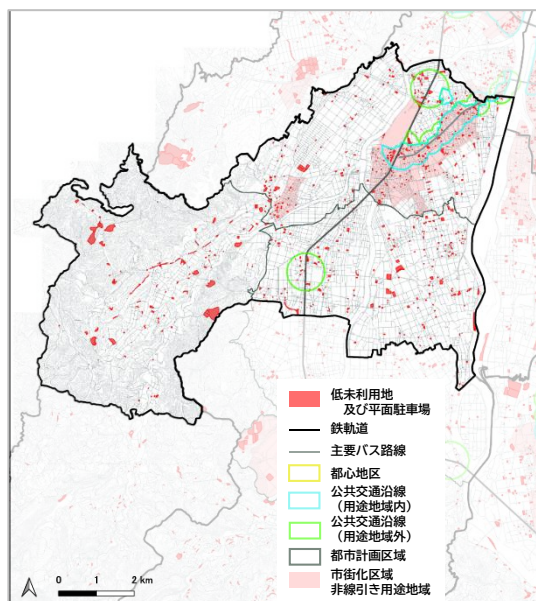
■土地利用現況 2023（令和5）年



■自然増減・社会増減・人口増減



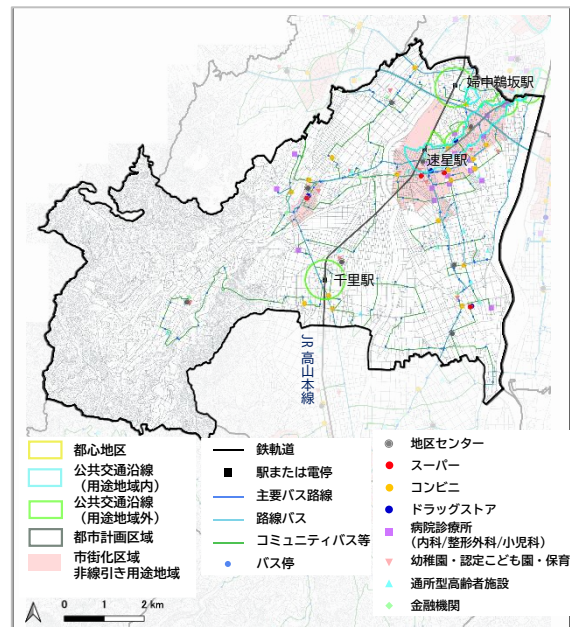
■低未利用地及び平面駐車場の分布



その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③:平面駐車場等 その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

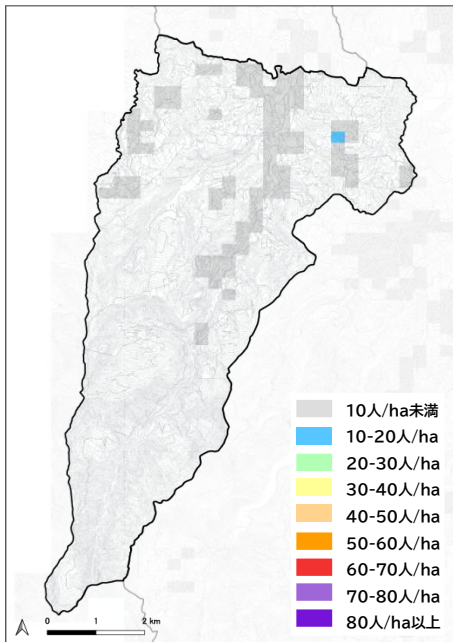
■公共交通網と生活利便施設の分布



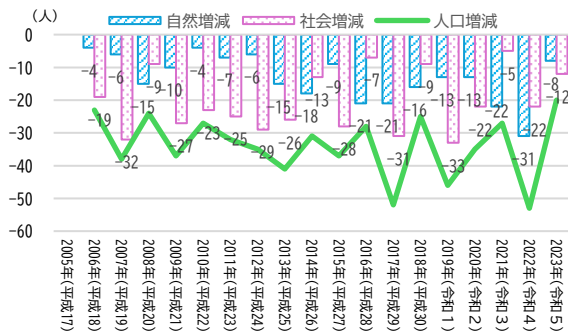
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

13 山田地域

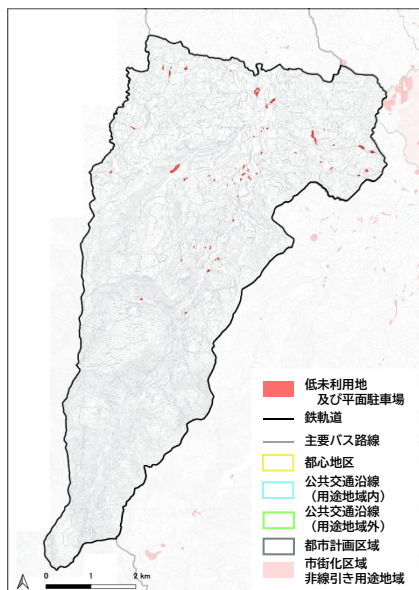
■人口分布 2023（令和5）年



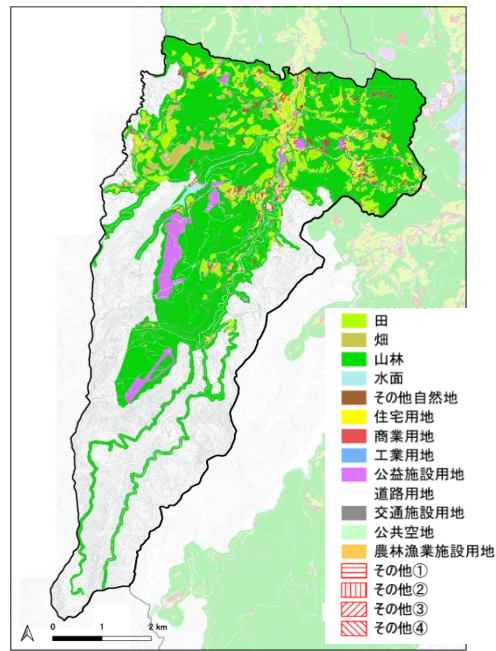
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



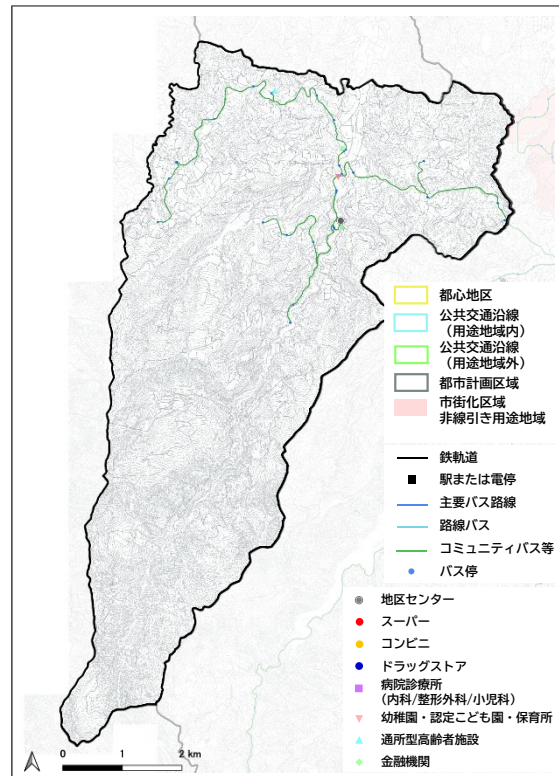
■土地利用現況 2023（令和5）年



その他①:ゴルフ場
その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
その他③:平面駐車場等
その他④:上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

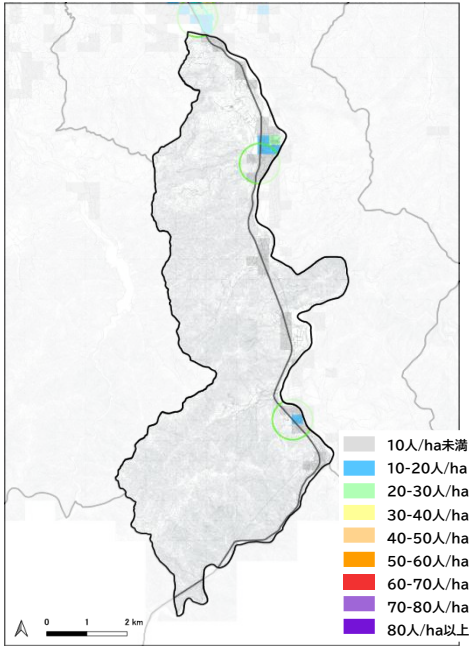
■公共交通網と生活利便施設の分布



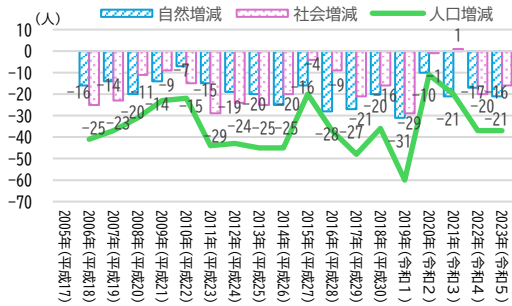
出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

14 細入地域

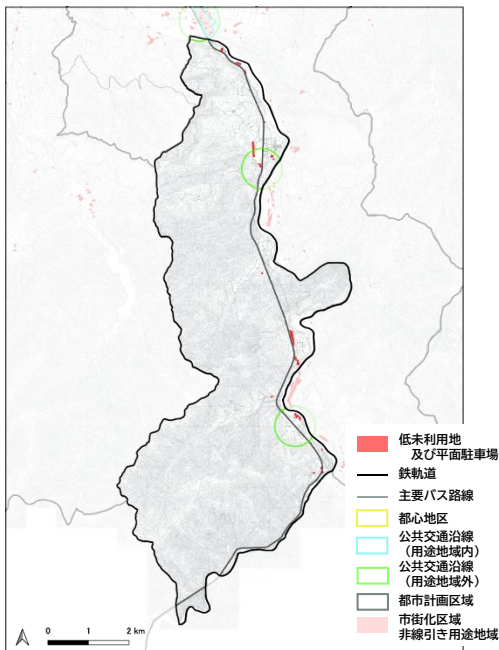
■人口分布 2023（令和5）年



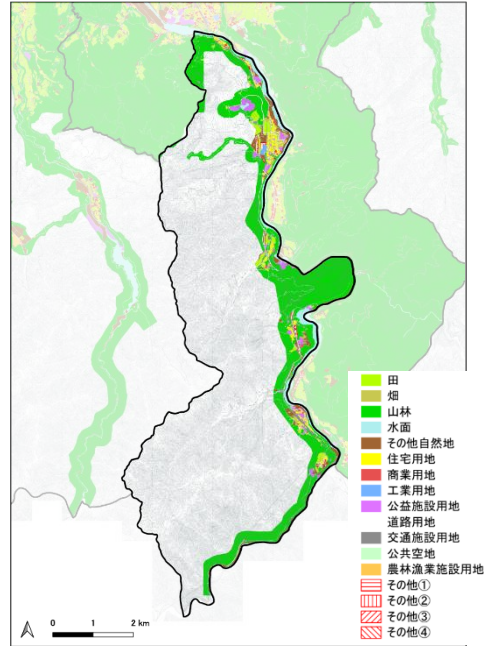
■自然増減・社会増減・人口増減



■低未利用地及び平面駐車場の分布



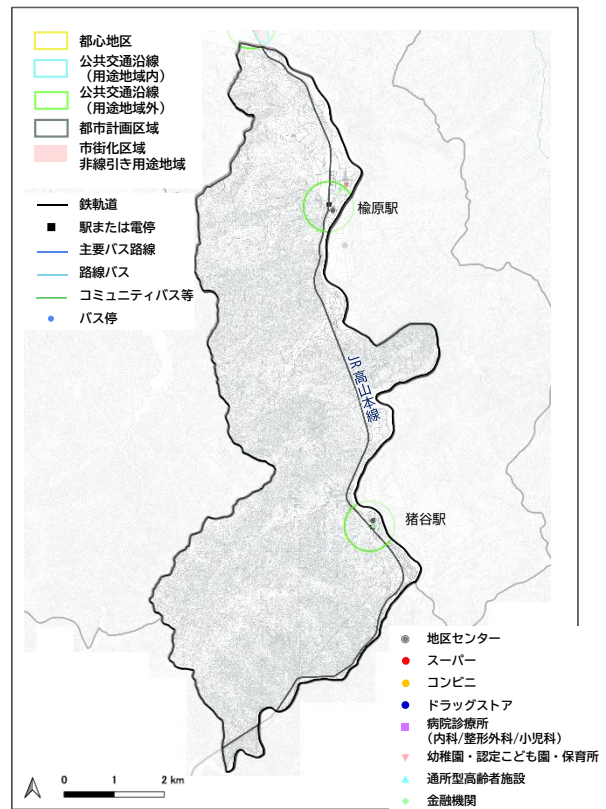
■土地利用現況 2023（令和5）年



その他①:ゴルフ場 その他②:太陽光発電システムを直接整備している土地
 その他③平面駐車場等 その他④上記以外

出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

■公共交通網と生活利便施設の分布



出典：都市計画基礎調査（令和5年：土地利用現況）

資料

- I 富山市のまちづくりに関する
アンケート調査票
- II 高校生WEBアンケート調査票

I 富山市のまちづくりに関するアンケート調査票

『富山市のまちづくりに関するアンケート調査』ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃より本市の都市計画行政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この調査は、18歳以上の市民の皆様の中から、無作為に6,000人を選ばせていただき、本市が進めるコンパクトなまちづくりの評価や次の時代に向けたまちづくりに対するご意見をお伺いし、本市のまちづくりの方針を示す『富山市都市マスタープラン』に反映させていくことを目的に実施するものです。

お手数とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年1月
富山市長 藤井裕久

【調査票の回答にあたって】

- 1 この調査は、宛名のご本人様にご回答ください。(代筆でもかまいません。)
- 2 この調査は無記名でご回答いただき、調査結果は、統計的に処理いたします。個人が特定されることはありません。
- 3 質問番号にそって、すべての質問にご回答をお願いします。
※質問ごとに選択方法を指定していますので、ご注意ください。
- 4 この調査は、
郵送回答(この調査票に直接記入し、同封の返信用封筒(切手不要)にて送付)のみとなります。

1月31日(水)までに、ご回答と投函をお願いいたします。

お問い合わせ先

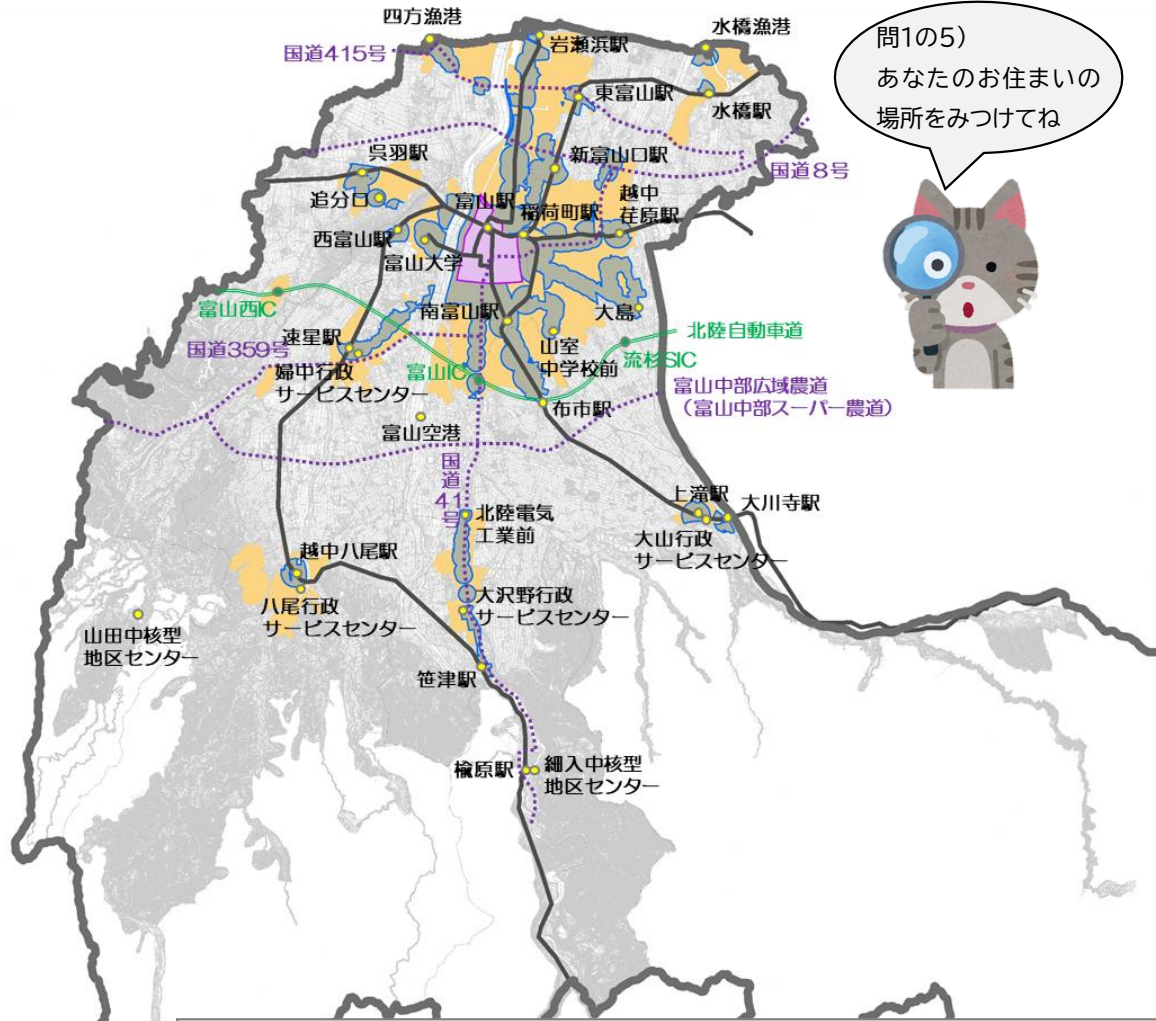
富山市 活力都市創造部 都市計画課 都市計画係

電話 076-443-2105

◆ 富山市のまちづくりに関するアンケート調査票 ◆

問1. あなたご自身のことについてお聞きします。

1) 性別 (1つだけ○)	1. 男性	2. 女性	3. その他
2) 年齢 (1つだけ○)	1. 18～19 歳	2. 20～29 歳	3. 30～39 歳
	4. 40～49 歳	5. 50～59 歳	6. 60～69 歳
	7. 70 歳以上		
3) 職業 (1つだけ○)	1. 農林漁業	2. 自営業 (農林漁業以外)	
	3. 会社・団体役員	4. 公務員・団体職員	
	5. 会社員などの正規の職員・従業員	6. パートタイム・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託	
	7. 学生	8. 家事専業	
	9. 無職	10. その他 ()	
4) 居住地域 (記入)	郵便番号 () 町丁目名 () ※番地の記載は不要		
5) P3のエリア図を参照して 居住エリア(1つだけ○)	1. まちなか (富山駅前や中心商店街)	2. 市内 (公共交通の沿線)	
	3. 1～2以外の市街地	4. 郊外や中山間地域	
6) 富山市 (合併前の市町村 を含む) での居住総年数 (1つだけ○)	1. 3年未満	2. 3年以上10年未満	
	3. 10年以上20年未満	4. 20年以上	
7) 居住意向 (1つだけ○)	1. 今後数年間で住み替えの予定がある 2. 予定はないがいずれは住み替えたい ※P3のエリア図を参照して、住み替え予定地や希望地を1つだけ○		
	1. 市内 (まちなか)	2. 市内 (公共交通の沿線)	
	3. 市内 (1～2以外の市街地)	4. 市内 (郊外や中山間地域)	
	5. 県内の他市町村	6. 県外	
	3. 住み替えの予定・意志はない		
8) 住居形態(1つだけ○) ※持ち家は同居人の所有を含む	1. 持ち家(戸建)	2. 持ち家(集合住宅)	3. 賃貸(戸建)
	4. 賃貸(集合住宅)	5. 社宅、独身寮、寄宿舍	6. その他 ()
9) 世帯の状況 (1つだけ○)	1. ひとり暮らし	2. 夫婦のみ	
	3. 親と子など (二世帯の世帯)	4. 親と子と孫など (三世帯の世帯)	
	5. その他 ()		
10) あなたの 子育ての状況 (1つだけ○)	1. 18歳未満の子供と同居し、養っている		
	2. 上記以外		
11) 運転免許証の状況 (1つだけ○)	1. 持っている (免許の返納予定はない)		
	2. 持っているが、今後5年間程度で返納する予定である		
	3. 昔は持っていたが、免許証を返納したため、今はない		
	4. 免許証をもともと持っていない 5. その他 ()		
12) 自家用車の状況 (該当するもの全てに○)	1. 自分専用の自家用車がある		
	2. 自分も運転できる家族所有の自家用車がある		
	3. 家族が運転する自家用車がある (自分は運転しない)		
	4. 所有していない		
	5. その他 ()		



【凡例】

1 まちなか(都心地区)

・次の道路等を境界として囲まれた区域内:(東側)しのみめ通り(西側)けやき通り(南側)あざみ通り、(北側)富岩運河環水公園、プールパール、いたち川、北陸新幹線

2 公共交通の沿線(公共交通沿線地区)

・用途地域が定められている区域のうち、以下の公共交通圏域
 (1)すべての鉄軌道にある駅や停車場から半径500m以内
 (2)60本/日(片道2本/時間)以上のバス路線のバス停から半径300m以内
 <方面>呉羽方面、婦中方面、大沢野方面、上堀方面、山室方面、藤の木方面
 針原方面、豊田方面、畑中方面、フィーダーバス(四方、水橋方面)

3 上記(1~2)以外の市街地(用途地域が定められている区域)

4 郊外や中山間地域(1~3以外のエリア)

もしは

問2～4の質問にお答えいただく前に、ご一読をお願いします。

トピックス① 富山市のこれまでのまちづくりについて

本市では、約20年にわたり、

公共交通を軸とした拠点集中型の「コンパクトなまちづくり」を進めてきました。

本市では、平成 20(2008)年に策定した「富山市都市マスタープラン」において、目指すべき都市構造を「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」と位置づけ、コンパクトシティの形成に向けた都市構造の転換の必要性を打ち出しました。

「コンパクトなまちづくり」の概要

コンパクトなまちづくりをはじめの時
(約 20 年前)の富山市の課題認識

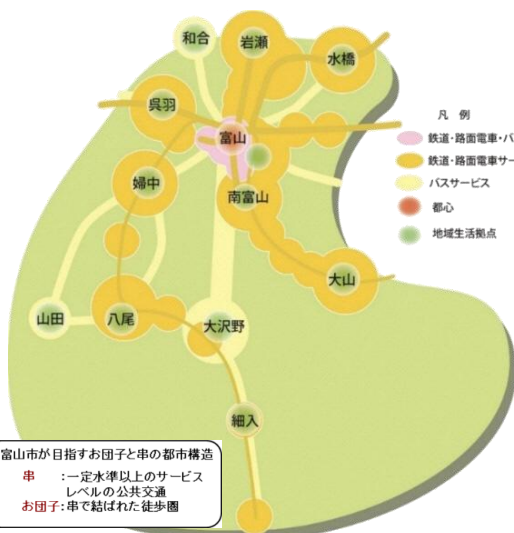
人口減少・少子高齢化
市街地の拡大 の進行によって

- 車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらい街
- 割高な都市管理の行政コスト
- 都市部の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失 を懸念

コンパクトなまちづくりの実現に向けた目標

- 目標① 車を自由に使えない人も安心・快適に暮らすことができるまちづくり
⇒鉄軌道やバス路線の整備・改善や利用促進など
- 目標② 郊外での居住やまちなかでの居住など多様な住まい方を選択できるまちづくり
⇒まちなか居住支援、子育て環境の充実など
- 目標③ 地域ごとの拠点育成による拠点集中型のまちづくり
⇒にぎわい拠点となる施設整備、回遊性の向上等
- 目標④ 川上から川下までの豊かな自然を守り、育てるまちづくり
⇒市街地の無秩序な拡大の抑止

富山市の目指すお団子と串の都市構造



「コンパクトなまちづくり」の推進によって、市内の公共交通が便利な地域に居住する人口の割合は増加しています。



このトピックスを踏まえ、問2にお進みください。

問2. 富山市の進めるコンパクトなまちづくりについてお聞きします。

問2-1 トピックス①で説明した富山市が進めるコンパクトなまちづくりを知っていましたか？
(該当するもの1つだけ○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 知っていて内容も理解していた | 2. 知っていて内容もおおむね理解していた |
| 3. 言葉は知っているが内容は知らなかった | 4. 全く知らなかった |

問2-2 トピックス①で説明したコンパクトなまちづくりの目標について、富山市全体を見渡し、10年～20年前と比べて、どのように変化したと感じますか(目標ごとに該当するもの1つだけ○)

目標1 車を自由に使えない人も安心・快適に暮らすことができるまちづくり

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 良くなった | 2. まあまあ良くなった |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり良くはなっていない |
| 5. 良くなっていない | 6. わからない |
| 7. その他 () | |

目標2 郊外での居住やまちなかでの居住など多様な住まい方を選択できるまちづくり

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 良くなった | 2. まあまあ良くなった |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり良くはなっていない |
| 5. 良くなっていない | 6. わからない |
| 7. その他 () | |

目標3 地域ごとの拠点育成による拠点集中型のまちづくり

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 良くなった | 2. まあまあ良くなった |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり良くはなっていない |
| 5. 良くなっていない | 6. わからない |
| 7. その他 () | |

目標4 川上から川下までの豊かな自然を守り、育てるまちづくり

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 良くなった | 2. まあまあ良くなった |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり良くはなっていない |
| 5. 良くなっていない | 6. わからない |
| 7. その他 () | |

問2-3 富山市がコンパクトなまちづくりに取り組んできたことをどのように評価しますか？
(該当するもの1つだけ○)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 良かったと思う | 2. おおむね良かったと思う |
| 3. あまり良くなかったと思う | 4. 良くなかったと思う |

ウ. 主な移動手段 (該当する数字1つだけ記入)
 …居住地から主な行き先までの移動手段のうち、利用時間が最も長いもの

1. 自家用車や自家用二輪	2. 鉄道や路面電車
3. 路線バス	4. タクシー
5. 徒歩や自転車	6. コミュニティバスやデマンド交通(相乗)
6. 施設の送迎バス	7. その他

エ. 移動時間 (該当する数字1つだけ記入)
 …居住地から目的地までの移動にかかるおおむねの時間

1. 5分以内
2. 5分～15分未満
3. 15分～30分未満
4. 30分～1時間未満
5. 1時間以上

当 し は ま せ の シ ヨ	回答者2 (同居のご家族・18歳以上)				回答者3 (同居のご家族・18歳以上)			
	年齢 (18～19歳・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上)				年齢 (18～19歳・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上)			
	職業 (学生・会社員・パート等・その他)				職業 (学生・会社員・パート等・その他)			
	ア 主 な 行 き 先	イ 外 出 頻 度	ウ 主 な 移 動 手 段	エ 移 動 時 間	ア 主 な 行 き 先	イ 外 出 頻 度	ウ 主 な 移 動 手 段	エ 移 動 時 間
回答例	3 (射水市) 例2:行き先が「射水市の会社」の場合	2	8	2	1 () 例3:行き先が「近所」の場合	1	9	3
(1)	左記が1以外の場合に記入 ()				左記が1以外の場合に記入 ()			
(2)	左記が1以外の場合に記入 ()				左記が1以外の場合に記入 ()			
(3)	左記が1以外の場合に記入 ()				左記が1以外の場合に記入 ()			
(4)	左記が1以外の場合に記入 ()				左記が1以外の場合に記入 ()			
(5)	左記が1以外の場合に記入 ()				左記が1以外の場合に記入 ()			

問3-2 普段の食料品や日用品などの買い物、衣類や本・雑貨などの買い物で、実店舗以外のサービスをどの程度の頻度で利用していますか？(それぞれ1つだけ○)

買物の種類／実店舗以外のサービス		利用している					利用していない
		週に5回以上	週に2~3回程度	週に1回程度	月に1~2回程度	年に数回程度	
普段の食料品や日用品の買い物	①自宅で受け取る宅配サービス	1	2	3	4	5	6
	②近くに来てくれる移動スーパー	1	2	3	4	5	6
衣類や本、雑貨などの買い物	③ネットショッピングなど	1	2	3	4	5	6

問3-3 【問3-2の①もしくは②で「利用している」と回答した方のみ】食料品、日用品の買い物で、実店舗以外のサービスを利用する理由を教えてください。(該当するものすべてに○)

1. 近くに利用できる店舗がないから	2. 実店舗に行く時間がないから
3. 実店舗に行く交通手段がないから	4. 重いものでも手軽に購入できるから
5. より安い価格で購入できるから	6. 品揃えがよいから
7. 特に理由はない	8. その他 ()

問3-4 【問3-2の③で「利用している」と回答した方のみ】衣類や本雑貨などの買い物で、実店舗以外のサービスを利用する理由を教えてください。(該当するものすべてに○)

1. 近くに利用できる店舗がないから	2. 実店舗に行く時間がないから
3. 実店舗に行く交通手段がないから	4. 重いものでも手軽に購入できるから
5. より安い価格で購入できるから	6. 品揃えがよいから
7. 特に理由はない	8. その他 ()

問3-5 職場や学校以外の近所や外出先などで、友人や知人と直接会って挨拶や会話をする機会はありますか？(該当するもの1つだけ○)

1. 頻繁にある(毎日や毎週など)	2. たまにある(月1~2回程度など)
3. あまりない(年に数回程度)	4. ほぼない
5. その他 ()	

問3-6 現在、地域をより良くするためのコミュニティ活動(地域の清掃活動や花壇整備、児童の見守り、世代間交流の機会創出、地域活性化、買い物支援、防犯活動など)に参加していますか？(該当するもの1つだけ○)

1. 定期的に参加している	2. ときどき参加している
3. あまり参加していない	4. 参加していない
5. その他 ()	

問4. 生活に必要な施設や機能についてお聞きます。

問4-1 日常生活でお住まいから歩いて行ける場所に“特にあってほしいもの”は何ですか？
(該当するものすべてに○)

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. 食料品や日用品の買い物場所 (スーパー等) | 2. 衣類や本、雑貨等の買い物場所 |
| 3. 飲食店 (レストラン、カフェ、居酒屋等) | 4. 銀行や郵便局、JA などの金融施設 |
| 5. 診療所や病院などの医療施設 | 6. こども園や児童館、子育て支援センターなどの子育て施設 |
| 7. 小学校や中学校などの義務教育施設 | 8. 塾や各種教室などの習い事施設 |
| 9. 通所介護施設 (デイサービス) や通所リハビリ施設 (デイケア) 等の社会福祉施設 | 10. 地区センターなどの行政窓口 |
| 11. 図書館分館などの身近な文化施設 | 12. 公園や広場 |
| 13. 家庭菜園などができる農地や農園 | 14. コミュニティ活動ができる公民館 |
| 15. 自宅や会社ではない働く場所 (コワーキングスペースなど) | |
| 16. その他 (|) |

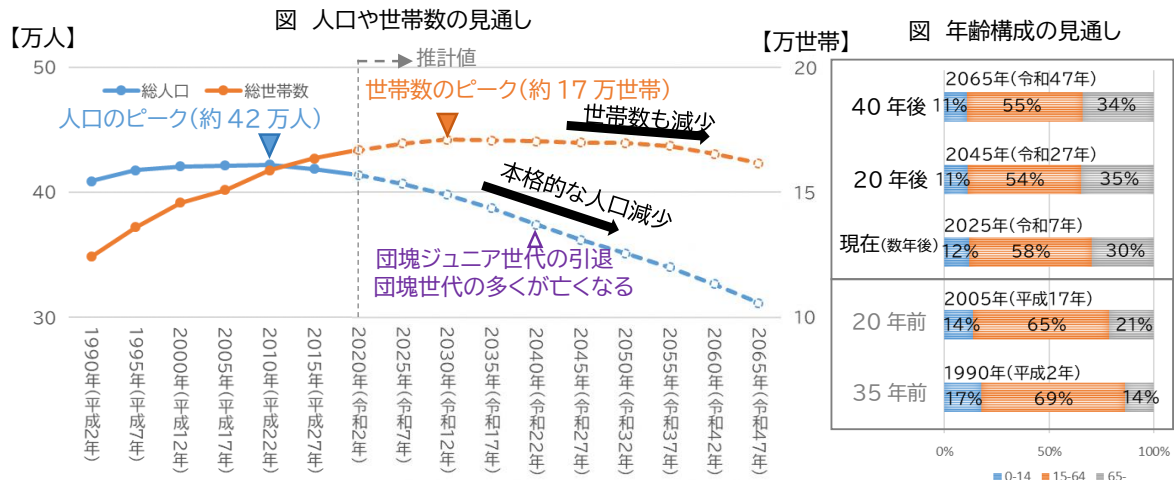
問4-2 まちなか(富山駅前や中心商店街)や旧町村の中心部など、各地域の市民が広く利用する場所について、都市や地域の玄関口としての鉄道駅やバス停のほかに、“特にあってほしいもの”は何ですか？(該当するものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 食料品や日用品の買い物場所 (スーパー等) | 2. 衣類や本、雑貨などの買い物場所 |
| 3. 飲食店 (レストラン、カフェ、居酒屋等) | 4. 銀行や郵便局、JA などの金融施設 |
| 5. 総合病院などの医療施設 | 6. こども園や児童館、子育て支援センターなどの子育て施設 |
| 7. 塾や各種教室などの習い事施設 | 8. 通所介護施設 (デイサービス) や通所リハビリ施設 (デイケア) などの社会福祉施設 |
| 9. 行政センターなどの主要な行政窓口 | 10. 図書館や美術館、映画館などの文化施設 |
| 11. 演奏や演劇などの練習ができるスタジオや稽古場 | 12. イベントなどが行われる大きな公園や広場 |
| 13. スポーツ大会などが開かれる体育施設 | 14. 工場や事務所などの就業施設 |
| 15. 自宅や会社ではない働く場所 (コワーキングスペースなど) | |
| 16. その他 (|) |

問5の質問にお答えいただく前に、ご一読をお願いします。

トピックス② これから(20年~40年)の見通しと未来予想

人口や世帯数の見通し(令和2年1月 富山市人口推計報告書より)



現在と比した人口減少下の未来予想

人手 不足?

- ・人口減少が進む中で、高齢者は3割以上となり、働く世代は6割を切る時代。
- ・就業だけでなく、農作業や地域活動などでも担い手が不足?
- ・消費者の減少により市場は縮小?

市場 変化?

- ・実店舗だけでなくインターネットショッピングや移動販売などが台頭?
- ・高齢の独居世帯の増加し、その後、放置された空き家が増加?

土地や建物 余る?

- ・世帯数も減少し、土地需要が停滞?
- ・担い手不足もあり耕作放棄地は増加?

行財政規模 減少?

- ・人口減少に伴い市民税などの税収が減少?
- ・社会福祉やインフラの維持管理に必要な予算が増加し、財政的な余裕はなくなる? 足らなくなる?

行政サービス 不十分?

- ・市全体で同じ水準のサービスを提供できない?
- ・行政だけでなく、市民や民間企業が協力して市民の生活を守ることが必要?

災害 激甚化?

- ・降雨の傾向などが変化していくと考えられ、災害が頻発、激甚化する?
- ・災害対応として共助が重要になる?

本格的な人口減少下においても暮らしに必要な生活サービスや行政サービスを維持し、豊かな暮らしを持続させるためには、都市の効率化等を目指す「コンパクトなまちづくり」を継続するとともに、市民の皆様が主体となった地域をより良くするコミュニティ活動が重要になると考えています。

このトピックスを踏まえ、問5にお進みください。

問5. 富山市のこれからのまちづくりについてお聞きします。

問5-1 トピックス②の見通しと未来予想を踏まえ、これからのまちづくりで特に取り組むべきこととは何だと思いますか？(該当するものすべてに○)

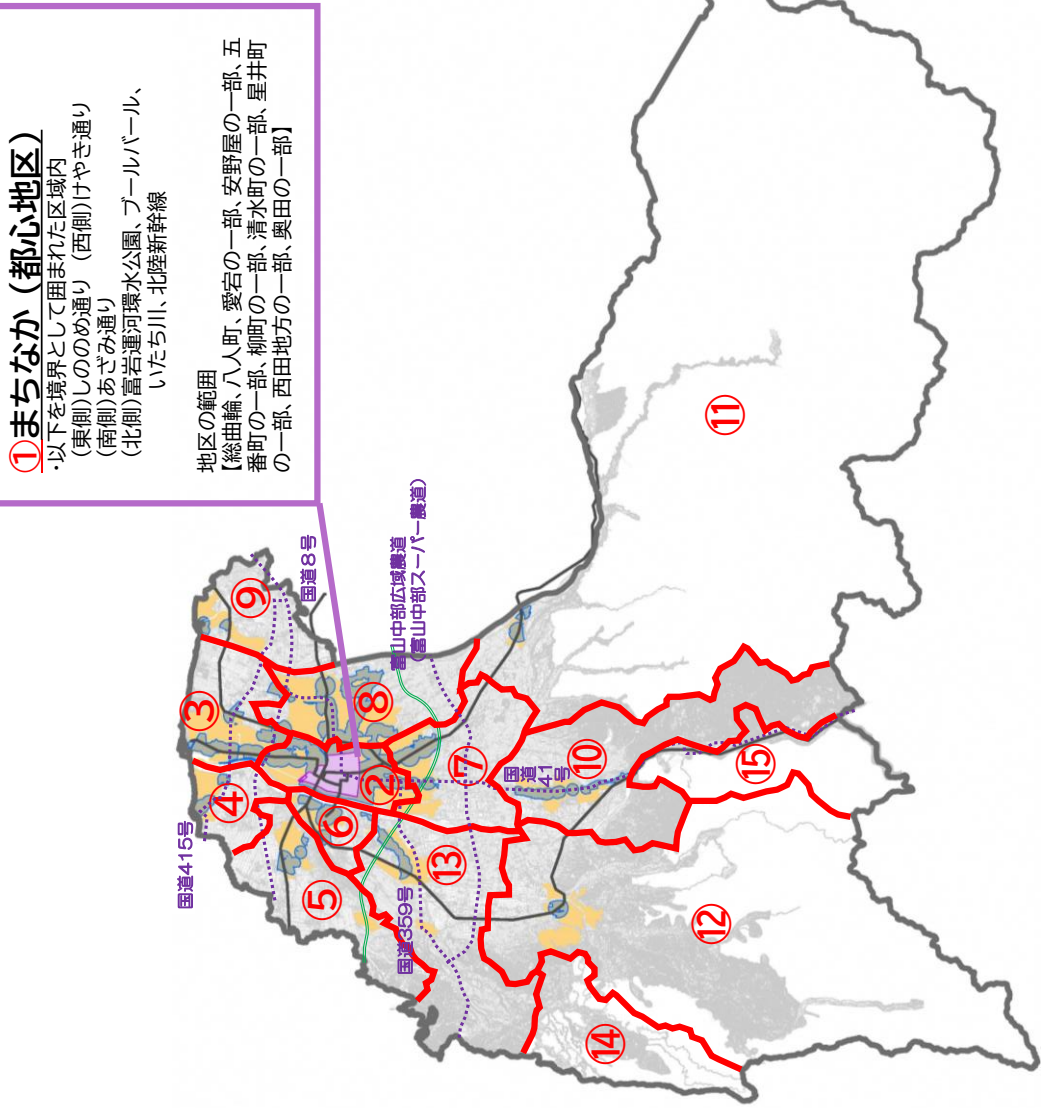
1. スーパーなど身近にある日常生活に必要な商業サービスの維持や充実
2. 市民の健康や子育てを支える福祉機能の維持や充実
3. 公共交通の充実や活性化
4. 都市の骨格を成す道路の整備
5. 既存の道路や橋などのインフラ、公共施設の効率的な維持管理
6. 自動運転技術を使った公共交通など新たな交通サービスの創出
7. 中心市街地や中心商店街の活性化・にぎわいの創出
8. 郊外の大規模集客施設の維持や活性化
9. 工場や就業場所などの産業集積の維持や活性化
10. 新たな産業・ビジネスの創出
11. 空き家や空き地の利活用や適正な保全
12. 無秩序な宅地開発の抑制
13. 農地や山林、身近な公園などのみどりの維持や利活用
14. 公園や水辺空間などのレクリエーション空間の整備
15. 魅力ある景観の保全
16. 地域コミュニティの活性化
17. 災害対策事業（治山、治水など）の推進
18. その他（)

問5-2 これからのまちづくりに向けて、地域をより良くするためのコミュニティ活動(地域の清掃活動や花壇整備、児童の見守り、世代間交流の機会創出、地域活性化、買い物支援、防犯活動など)に参加したいと思いますか？(該当するもの1つだけ○)

1. 定期的に参加したい
2. ときどき参加したい
3. あまり参加したくない
4. 参加したくない
5. その他（)

その他、まちづくりについてご意見等がございましたらご記入ください。(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



地域名	地区の範囲
② 富山中央地域 (まちなかを除く)	愛宕の一部、安野屋の一部、五番町の一部、柳町の一部、清水町の一部、星井町の一部、西田地方の一部、堀川、奥田の一部、奥田北、光陽、広田(上赤江町一丁目、上赤江町二丁目、下赤江町一丁目、下赤江町二丁目のみ)
③ 富山北部地域	浜黒崎、岩瀬、萩浦、大広田、針原、豊田
④ 和合地域	四方、八幡、草島、倉垣
⑤ 呉羽地域	呉羽、長岡、寒江、古沢、老田、池多
⑥ 富山西部地域	桜谷、五福、神明
⑦ 富山南部地域	堀川南、蛭川、新保、熊野、月岡
⑧ 富山東部地域	東部、山室、山室中部、太田、新庄、新庄北、藤ノ木、広田(上赤江町一丁目、上赤江町二丁目、下赤江町一丁目、下赤江町二丁目以外)
⑨ 水橋地域	水橋中部、水橋西部、水橋東部、三郷、上条
⑩ 大沢野地域	大沢野、大久保、船峠、下夕、小羽
⑪ 大山地域	上滝、大山、大庄、福沢
⑫ 八尾地域	八尾、保内、杉原、卯花、室牧、黒瀬谷、野積、仁歩、大長谷
⑬ 婦中地域	速星、鶴坂、朝日、宮川、婦中熊野、古里、音川、神保
⑭ 山田地域	山田南部、山田中部、山田西部、山田東部
⑮ 細入地域	細入北部、細入南部

Ⅱ 高校生WEBアンケート調査票

富山市にある
高校の3年生
対象

富山市都市マスタープラン市民ワークショップ

富山市の魅力！地域の魅力！WEBアンケート調査

(回答時間5分程度) 回答にご協力をお願いします。

今後20年のまちづくりを考えています。
みんなの毎日をもっと豊かにするためのまちの資源

**富山市全体の“魅力”
住んでいる地域の“魅力”**

教えてください。

【WEBアンケートの回答の前に一読をお願いします】

①富山市が進めるコンパクトなまちづくり

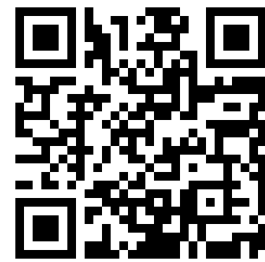
富山市ではこれまで約20年にわたりコンパクトなまちづくりを進めてきました。その結果、公共交通が便利な地域に居住する人口の割合が増加しています。

■コンパクトなまちづくりをはじめるとき(約20年前)の課題認識

『人口減少・少子高齢化』『市街地の拡大』の進行により以下を懸念

- 車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらい街
- 割高な都市管理の行政コスト
- 都市部の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失

WEBアンケートはこちらから



期限 令和6年9月20日(金)

お団子と串の都市構造を目指す、『公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり』を推進



市内の公共交通が便利な地域に居住する人口の割合は増加しています。

計画策定時 2005年 約28%	約12%UP	現在 2023年 約40%
------------------------	--------	---------------------

➡ ②これからの変化『富山市の未来予想』(裏面に続く)

調査実施主体・問い合わせ ; 富山市 活力都市創造部 都市計画課 TEL 076-443-2105

②これからの変化『富山市の未来予想』

本格的に人口減少が進むだけでなく世帯も減少に転じます。

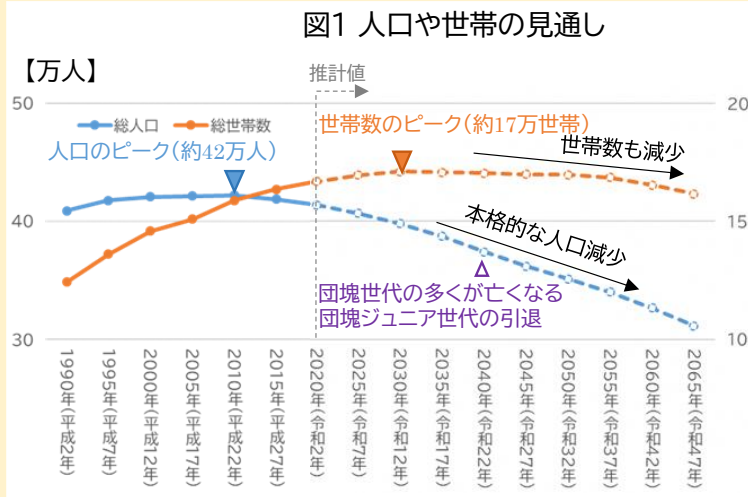
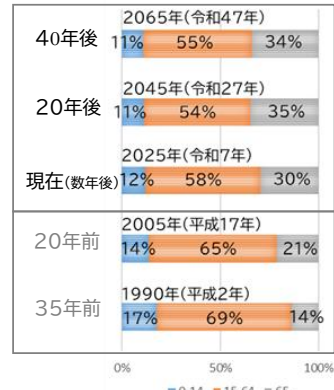
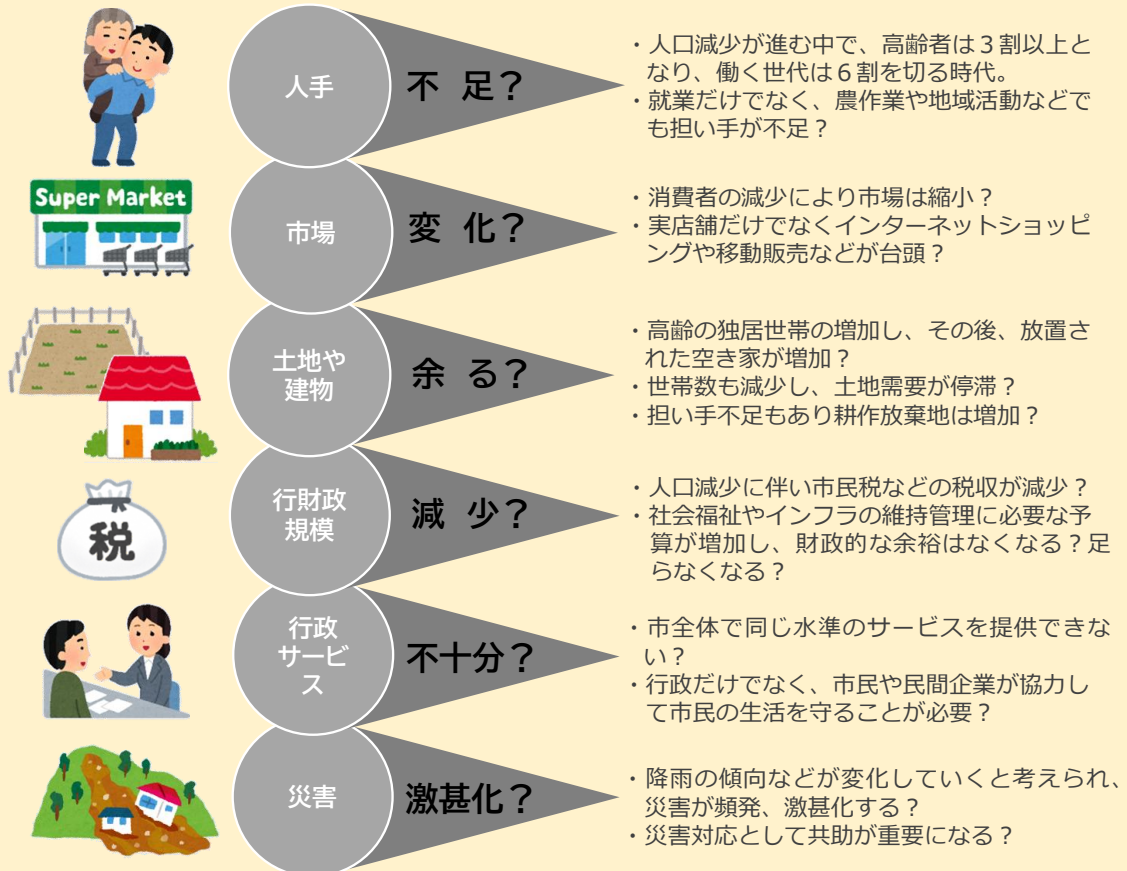


図2 年齢構成の見通し



令和2年1月 富山市人口推計報告書より

現状と比べ様々な変化が生まれそうです。



本格的な人口減少下においても暮らしに必要な生活サービスや行政サービスを維持し、豊かな暮らしを持続させるためには、都市の効率化等を目指す「コンパクトなまちづくり」を継続するとともに、市民の皆様が主体となった地域をより良くする活動が重要になると考えています。

WEBアンケートに進んでください(表面に戻る)

「富山市都市マスタープランの策定に向けたWEBアンケート調査」 (高校3年生対象)

1 概要

次期都市マスタープランの策定に向けて、市内に通学する高校3年生にWEBアンケート調査を実施し、高校生の生活実態や求める都市機能、地域の魅力(資源)を確認するとともに、コンパクトなまちづくりに対する評価などを把握し、マスタープランへの反映や市民ワークショップでの参考とするもの。

対 象:市内の高校(公立、私立)に通う3年生(約3,800名)を対象

期 間:令和6年9月5日(木)~20日(金)

方 法:WEBアンケート方式 案内チラシより2次元コードを読み込み、回答

結 果:市ホームページでの公表、市民ワークショップでの紹介

2 設問内容 (全部で20問)

■あなたについてお尋ねします。

Q1 あなたの高校を選択してください。(必須)

- ①中央農業 ②八尾 ③富山西 ④富山 ⑤富山中部 ⑥富山北部 ⑦富山工業
⑧富山商業 ⑨富山いずみ ⑩富山東 ⑪富山南 ⑫呉羽 ⑬雄峰 ⑭富山第一
⑮不二越工業 ⑯龍谷富山 ⑰高朋 ⑱国際大付属 ⑲片山学園

Q2 富山市内にお住まいですか?(必須)

- ①富山市内に住んでいる ②富山市外に住んでいる

Q3-1(Q2で①と回答した方)あなたが現在住んでいる地域(中学校区)を選択してください。
(必須)

- ①芝園 ②堀川 ③東部 ④西部 ⑤南部 ⑥北部 ⑦新庄 ⑧岩瀬 ⑨山室
⑩奥田 ⑪大泉 ⑫月岡 ⑬呉羽 ⑭水橋 ⑮三成 ⑯和合 ⑰興南 ⑱藤ノ木
⑲大沢野 ⑳上滝 ㉑八尾 ㉒速星 ㉓城山 ㉔山田 ㉕榆原

Q3-2(Q2で②と回答した方)あなたが現在住んでいる地域(富山市以外の市町村)を選択してください。(必須)

- ①高岡市 ②射水市 ③魚津市 ④氷見市 ⑤滑川市 ⑥黒部市 ⑦砺波市
⑧小矢部市 ⑨南砺市 ⑩上市町 ⑪立山町 ⑫入善町 ⑬朝日町 ⑭舟橋村
⑮県外

Q4 通学での主な移動手段を選択してください。(複数ある場合は複数回答可、必須)

- ①鉄道(あいの風とやま鉄道) ②鉄道(JR高山本線) ③鉄道(富山地铁 本線)
④鉄道(富山地铁 不二越・上滝線) ⑤鉄道(富山地铁 立山線)
⑥市内電車(富山駅~岩瀬浜) ⑦市内電車(富山駅~富山大学前)
⑧市内電車(富山駅~南富山) ⑨市内電車(環状線)
⑩路線バス ⑪自転車のみ ⑫徒歩のみ ⑬自家用車により送迎
⑭スクールバス ⑮その他()

■まちの現状についてお尋ねします。

1)公共交通

Q5 現在の公共交通に満足していますか？(必須)

- ①満足している ②まあまあ満足している ③どちらかといえば不満 ④不満

Q6 現在の公共交通の問題点は何だと思えますか？(複数回答可、必須)

- ①特にない ②料金が安い ③時間がかかる ④雨などですぐ止まる
⑤乗客が多くて疲れる ⑥揺れなどで乗り心地が悪い
⑦運行本数が少ない ⑧他の公共交通との乗り継ぎが不便
⑨車両が古い ⑩家や学校から駅やバス停が遠い ⑪駅やバス停が古い、狭い
⑫その他()

2)中心市街地(富山駅の周辺や総曲輪などの商店街のあるエリア)

Q7 中心市街地は昔に比べ良くなったと思えますか？(必須)

- ①良くなった ②まあまあ良くなった ③どちらかといえば悪くなった ④悪くなった

Q8 中心市街地の現状について満足していますか？(必須)

- ①満足している ②まあまあ満足している ③どちらかといえば不満 ④不満

Q9 中心市街地にあったら良いと思う施設や空間、活動の機会は何ですか？

(例:学校の友達以外と交流できる場所があつたらいい)(自由記載、必須)

3)あなたが現在住んでいる地域(Q3で選択した範囲)の環境や魅力

Q10 地域の中で徒歩や自転車を利用して『道路』の環境に満足していますか？(必須)

- ①満足している ②まあまあ満足している ③どちらかといえば不満 ④不満

Q11 地域にある『緑地』や『公園』の環境に満足していますか？(必須)

- ①満足している ②まあまあ満足している ③どちらかといえば不満 ④不満

Q12 現在住んでいる地域にはどのような魅力がありますか？当てはまるものを選択してください。(複数回答可、必須)

- ①山や田園などの自然環境が豊か ②気候や風土が良い ③水や食べ物がおいしい
④治安や風紀が良い ⑤地域の住民のつながりがある
⑥独自の伝統や慣習などの文化歴史があること ⑦雇用がある
⑧まち並みや景色が美しい ⑨公園や広場が整っている
⑩学校や文化施設が整っている ⑪道路が便利で移動しやすい
⑫買物や医療など日常生活が便利 ⑬鉄道やバスなどの公共交通機関が便利
⑭家が広い ⑮遊ぶ場所がある ⑯その他()

Q13 Q12 の回答を参考に、あなたがこれからもずっと大切にしたい『あなたが住んでいる地域の魅力』を具体的に教えてください。(施設名などがある場合にはその名称等)(自由記載、必須)

■将来の住まいに求めるものについてお尋ねします。

Q14 将来、富山市に住みたい(住み続けたい)と思えますか？(必須)

- ①思う ②思わない ③わからない

Q15 将来、富山市に住む場合にはどのような場所に住みたいですか？(必須)

- ① 中心市街地 ② 公共交通の沿線
③ ①や②以外の市街地 ④ 郊外(田園地域)や中山間地域

Q16 (Q14で②や③と答えた方にお尋ねします)富山市に住みたいと思えない理由は何ですか？(自由記載)

■富山市のこれからについてお尋ねします。

これから全国的に人口減少が進むことは確実であり、富山市も同様の状況が予想されます。また、人が減れば、まちでは様々な問題の発生や、税収入の減少なども懸念されます。(詳細は案内チラシ裏面の『富山市の未来予想』を参照)

Q17 これまで富山市は、人口の増加に伴い、中心部から郊外部へまち(住宅地や商業地)が徐々に拡大してきました。今後はどのようになるべきだと思いますか？(必須)

- ① まちは小さくしていくべき(縮小の方向)
② まちは今以上に大きくするべきではない(現状維持)
③ まちは大きくしていくべき(拡大の方向)

Q18 富山市では公共交通の沿線に居住や都市機能の集約を図る『公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり(以下、コンパクトなまちづくり)』を進めています。知っていましたか？(詳細は案内チラシ表面を参照)(必須)

- ① 知っていて内容も理解していた ② 知っていて内容も概ね理解していた
③ 言葉は知っているが内容は知らなかった ④ 知らなかった

Q19 富山市の『コンパクトなまちづくり』の取組についてどのように思いますか？(必須)

- ① 賛成だ ② どちらかと言えば賛成だ ③ どちらかといえば賛成できない
④ まったく賛成できない

Q20 より良い富山市にしていくために、これから活かしていくべき『富山市全体の魅力』は何だと思いますか？当てはまるものを選択してください。(複数回答可、必須)

- ① 山や田園などの自然環境の豊かさ ② 気候や風土が良さ ③ 水や食べ物のおいしさ
④ 治安や風紀の良さ ⑤ 地域の住民のつながり ⑥ 独自の伝統や慣習などの文化歴史
⑦ 十分な雇用機会 ⑧ 美しいまち並みや景色 ⑨ 広々とした公園や広場
⑩ 市内にある学校や文化施設 ⑪ 移動しやすい道路
⑫ 市内にある買物や医療の施設 ⑬ 市内を結ぶ鉄道やバスなどの公共交通機関
⑭ 家の広さ ⑮ 市内にある遊ぶ場所 ⑯ その他()

Q21 Q20の回答を参考に、より良い将来のために活かしていけば良いと思う『富山市全体の魅力』を具体的に教えてください。(施設名などがある場合にはその名称等)(自由記載、必須)

富山市都市マスタープラン

2026(令和8)年3月

発行:富山市活力都市創造部都市計画課
〒930-8510 富山市新桜町7番38号
TEL 076-431-6111(代表)



富山市都市マスタープラン